
平成23年度
県民アンケート調査
報告書

平成23年11月

奈良県

— 目 次 —

第1章 調査の実施概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 調査票の配付・回収の状況	1
4 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項	1
5 回答者の状況	4
6 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて	10
第2章 調査結果の分析	11
1 県民の生活全般について	11
1-1 現在の暮らし向きの実感	11
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	16
1-3 1年前と比較して暮らし向きが苦しくなった理由	21
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	24
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	29
1-6 奈良県の住みやすさの評価	32
1-7 将来の奈良県での定住意向	37
1-8 将来的に奈良県に定住したくない理由	42
2 県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について	47
2-1 県全体の重要度・満足度・ニーズ得点の順位	47
2-2 県全体の重要度と満足度の関係	50
2-3 地域別の重要度と満足度の経年比較	55
2-4 県全体と属性別の重要度・満足度の傾向の比較	61
3 県民の仕事に関する意識やニーズについて	79
3-1 職業	79
3-2 働いている人	84
3-3 働いていない人	96
3-4 行政が取り組むべき雇用・就労支援対策	116
4 県民のまちづくりに関する意識やニーズについて	123
4-1 地域のまちづくりの評価	123
4-2 地域で充実してほしい施設	146
4-3 不安に感じる犯罪	149
4-4 地域で重要だと思う防犯対策	152
4-5 警察による充実・強化が必要だと思う防犯対策	155
4-6 日頃から行っている災害等への備え	158
4-7 地域の生活環境の変化に対する評価	160
4-8 日頃から心がけている環境への配慮	162
4-9 地域で景観を損なう要因となっていると思うもの	164
4-10 行政が取り組むべき景観保全対策	167
資 料 使用した調査票	171

第 1 章 調査の実施概要

1 調査の目的

県民にとって身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「仕事」や「まちづくり」に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2 調査の設計

- 調査地域 奈良県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女・個人
- 調査標本数 5,000人
- 標本抽出法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 郵送配付・郵送回収。調査期間内に、はがきによるお礼状兼督促状の配付1回
- 調査時期 平成23年5月20日～6月8日

3 調査票の配付・回収の状況

- 調査票配付件数 5,000件 →

回収数(率)	2,948件 (59.0%)
有効回答数(率)*1	2,767件 (55.3%)

4 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項

(1) 標本抽出計画と集計母数（集計対象数）

今回の調査では、標本数（アンケート送付数）を県下39市町村の母集団構成比（人口比率）に応じて配分しました。ただし、人口が少ない町村については「目標精度15%、信頼度85%」を確保するための最低必要数を考慮して標本抽出数を決定しました。このような標本抽出方法を行ったため、各地域（地域の区分は次項「(2) 地域別、ライフステージ別、職業別の集計区分について」参照）における母集団構成比と標本抽出率の乖離は小さくなっています。そのため、平成21年度の集計方法とは異なり、有効回答数の補正は行わずに結果を集計しています。

	標本抽出計画				有効回答	
	母集団 ^{※2}	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比
地域1(北部)	567,402	49.3%	2,294	45.9%	1,302	47.1%
地域2(西部)	120,189	10.4%	487	9.7%	262	9.5%
地域3(中部)	308,764	26.8%	1,253	25.1%	679	24.5%
地域4(東部)	83,315	7.2%	394	7.9%	220	8.0%
地域5(南東部)	38,368	3.3%	376	7.5%	204	7.4%
地域6(南西部)	33,838	2.9%	196	3.9%	100	3.6%
合計	1,151,876	100.0%	5,000	100.0%	2,767	100.0%

*1「有効回答数」は、「回収数」から白票、調査期間中に県外へ転居された方の回答票、居住市町村不明・無回答の回答票など無効票181件を除いた集計母数対象件数。「有効回答率」は、調査票配付件数に対する「有効回答数」の比率。

*2平成22年3月31日現在の住民基本台帳登録人口（20歳以上）

(2) 地域別、ライフステージ別、職業別の集計区分について

調査結果の集計・分析は、県民にとって身近な生活に関する事柄の重要度と満足度のほか、「仕事」や「まちづくり」について、「地域別」での傾向、回答者の年代や家族構成等の要素に基づく「ライフステージ別」での傾向、県民の働き方に基づく「職業別」での傾向を明らかにすることを特に重視しています。

地域別の集計については、39市町村個々の結果を39市町村間で比較することは困難なため、標本抽出計画で設定した6地域ごとに比較を行っています。また、ライフステージ別や職業別の集計についても、以下のように集計区分を整理・集約して行っています。

地域の区分

地域1(北部)……奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町
地域2(西部)……平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町
地域3(中部)……大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町
地域4(東部)……桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村
地域5(南東部)……吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
地域6(南西部)……五條市・野迫川村・十津川村

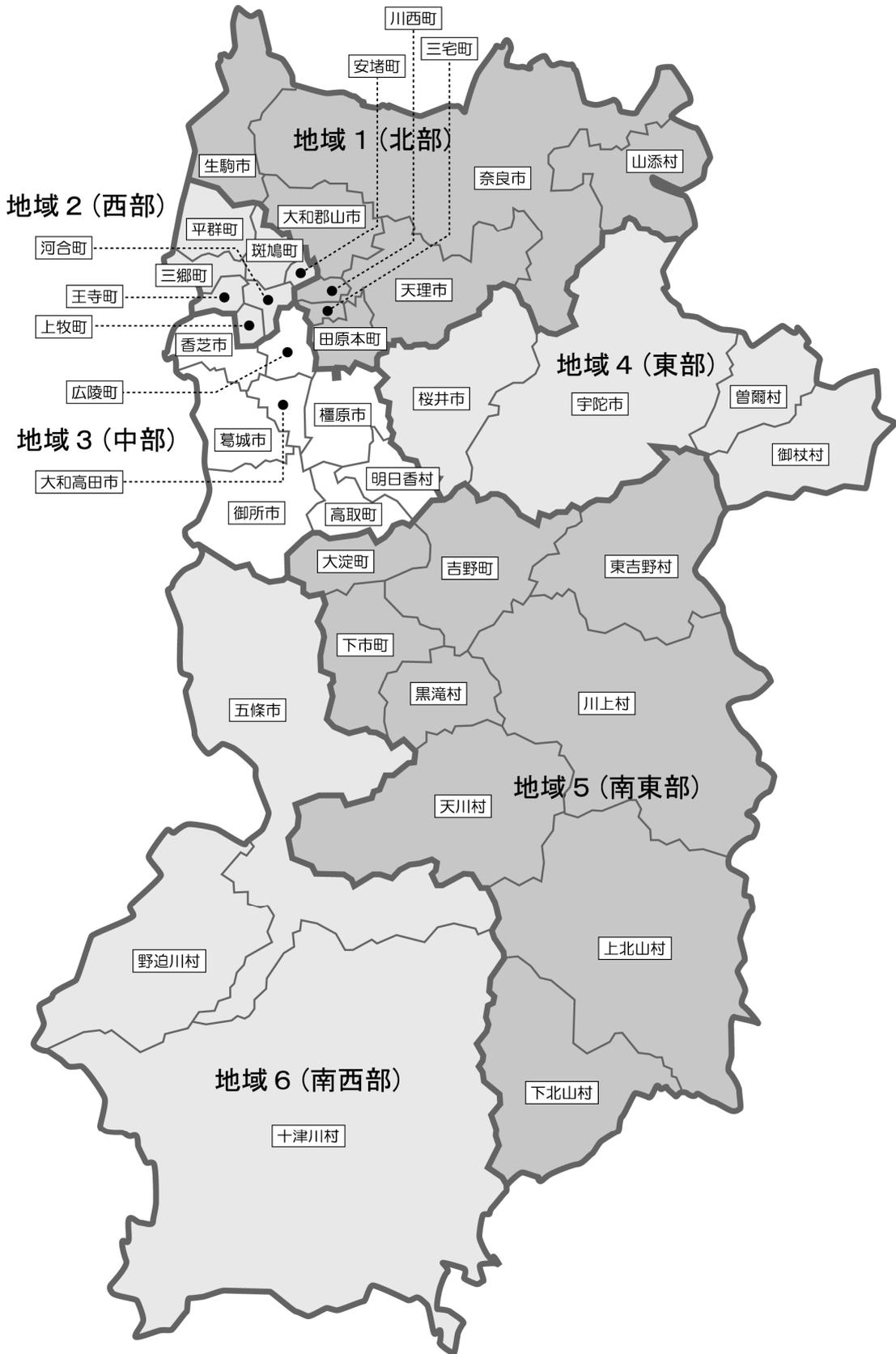
ライフステージの区分と区分の設定条件

若者…20～29歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者
夫婦…20～64歳で、夫婦のみの世帯の回答者
育児期…小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者
教育期前期…小・中学生、高校生の子どもがいる世帯の回答者
教育期後期…専門学校生・短大生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者
単身高齢者…65歳以上の単身世帯の回答者
高齢者夫婦…65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者

職業の区分と区分の設定条件

農林漁業…「農林漁業の自営業・家族従業員」の回答者
自営業…「商工・サービス業の自営業・家族従業員」と「その他自営業」の回答者
正規社員等…「正規の職員・従業員」の回答者
非正規社員等…「契約社員・嘱託」「派遣社員」「パート・アルバイト」の回答者
企業などの役員…「企業などの役員」の回答者
家事専業・無職…「家事専業・家事手伝い」と「無職」の回答者
学生・その他…「学生」「その他」の回答者
ただし、「学生・その他」については、経年比較を行う設問の集計では「企業などの役員」を含めている。

【県内地域区分図】



(3) 調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、調査結果（標本測定値）から母集団の意識や課題、要望を推定することができます。ただ、標本（調査対象）抽出の際に生じる標本誤差を考慮したうえで調査結果を分析し、また母集団の意識や課題、要望を推定する必要があります。

世論調査では、信頼度95%（同じ調査を標本（調査対象）を変えて行った場合、100回中95回までは同様の結果が得られる（5回程度は異なる結果が出ることは許容される）と考えてもよい）の水準を求めるのが一般的とされています。

これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差は以下の数式で求められます。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差
 ± 1.96 : 信頼度95%の時の信頼係数
 N : 母集団数（本調査では1,151,876人）
 n : 標本数（回収数。本調査では有効回答2,767件）
 P : 標本測定値（50%のときに最大）

上記の式に必要な数値をあてはめて計算すると、「 ε （標本誤差）=1.86」（小数第3位四捨五入）という数値が得られます。このことから、今回と同じ調査を調査対象を変えて行った場合、ある設問のある選択肢の回答比率が50%であった場合、その回答比率の誤差は $\pm 1.86\%$ （48.1%～51.9%）の範囲内であると考えても間違いはないといえます。

5 回答者の状況

属性ごとの有効回答者数と構成比は以下の通りです。

5-1 県全体

(1) 地域

地域名	該当市町村	H23		H22	
		有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
地域1 (北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,302	47.1%	1,345	47.2%
地域2 (西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	262	9.5%	287	10.1%
地域3 (中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	679	24.5%	709	24.9%
地域4 (東部)	桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村	220	8.0%	216	7.6%
地域5 (南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	204	7.4%	202	7.1%
地域6 (南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	100	3.6%	89	3.1%
合計		2,767	100.0%	2,848	100.0%

(2) 性

	H23		H22	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
男性	1,271	45.9%	1,282	45.0%
女性	1,487	53.7%	1,561	54.8%
無回答	9	0.3%	5	0.2%
合計	2,767	100.0%	2,848	100.0%

(3) 年齢

1) 10歳間隔

	H23					H22	
	有効回答数				構成比	有効回答数	構成比
	男性	女性	無回答				
20歳代	237	94	141	2	8.6%	224	7.9%
30歳代	383	160	223	0	13.8%	365	12.8%
40歳代	477	208	269	0	17.2%	420	14.7%
50歳代	557	274	282	1	20.1%	493	17.3%
60歳代	641	321	320	0	23.2%	649	22.8%
70歳以上	466	214	248	4	16.8%	694	24.4%
無回答	6	0	4	2	0.2%	3	0.1%
合計	2,767	1,271	1,487	9	100.0%	2,848	100.0%

2) 平成23年度 5歳間隔

	有効回答数				構成比
	男性	女性	無回答		
20～24歳	107	43	64	0	3.9%
25～29歳	130	51	77	2	4.7%
30～34歳	176	77	99	0	6.4%
35～39歳	207	83	124	0	7.5%
40～44歳	243	105	138	0	8.8%
45～49歳	234	103	131	0	8.5%
50～54歳	250	130	119	1	9.0%
55～59歳	307	144	163	0	11.1%
60～64歳	404	195	209	0	14.6%
65～69歳	237	126	111	0	8.6%
70歳以上	466	214	248	4	16.8%
無回答	6	0	4	2	0.2%
合計	2,767	1,271	1,487	9	100.0%

(4) 婚姻状況

	H23					H22	
	有効回答数				構成比	有効回答数	構成比
	男性	女性	無回答				
未婚	425	209	215	1	15.4%	390	13.7%
既婚	2,023	974	1,046	3	73.1%	2,094	73.5%
離婚・死別	296	80	214	2	10.7%	342	12.0%
無回答	23	8	12	3	0.8%	22	0.8%
合計	2,767	1,271	1,487	9	100.0%	2,848	100.0%

(5) 世帯構成

	H23		H22	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
単身(あなた1人)	184	6.6%	219	7.7%
夫婦のみ	626	22.6%	709	24.9%
2世代家族(親子家庭)	1,417	51.2%	1,387	48.7%
3世代家族(親子孫家庭)	412	14.9%	470	16.5%
その他	58	2.1%	43	1.5%
無回答	70	2.5%	20	0.7%
合計	2,767	100.0%	2,848	100.0%

(6) 職業

	H23		H22	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
正規の職員・従業員	761	27.5%	611	21.5%
契約社員・嘱託	118	4.3%	103	3.6%
派遣社員	25	0.9%	27	0.9%
パート・アルバイト(学生を除く)	374	13.5%	270	9.5%
企業などの役員	45	1.6%	45	1.6%
農林漁業の自営業・家族従業員	92	3.3%	97	3.4%
商工・サービス業の自営業・家族従業員 (卸売業・飲食業・製造加工業・建設業など)	184	6.6%	244	8.6%
その他自営業 (開業医・弁護士・宗教家・芸術家・茶華道師匠など)	74	2.7%	96	3.4%
家事専業・家事手伝い	494	17.9%	475	16.7%
無職	477	17.2%	746	26.2%
学生	37	1.3%	51	1.8%
その他	22	0.8%	20	0.7%
無回答	64	2.3%	63	2.2%
合計	2,767	100.0%	2,848	100.0%

(7) 勤め先の所在地

	H23		H22	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
現在お住まいの市町村	707	42.3%	637	42.7%
県内の他の市町村	472	28.2%	378	25.3%
県外	461	27.6%	432	28.9%
無回答	33	2.0%	46	3.1%
対象者数	1,673	100.0%	1,493	100.0%

(8) 子どもの成長段階（複数回答）*1

	H23		H22	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
3歳以下	171	6.2%	167	5.9%
4歳以上で小学校入学前	114	4.1%	118	4.1%
小学生	288	10.4%	244	8.6%
中学生	199	7.2%	184	6.5%
高校生	210	7.6%	177	6.2%
専門学校生・短大生・大学生(院生)	251	9.1%	209	7.3%
その他	55	2.0%	31	1.1%
対象者数	2,767	100.0%	2,848	100.0%

(9) ライフステージ（複数回答）*2

	H23		H22	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
若者	227	8.2%	221	7.8%
夫婦	305	11.0%	280	9.8%
育児期	134	4.8%	163	5.7%
教育期前期	379	13.7%	361	12.7%
教育期後期	300	10.8%	208	7.3%
単身高齢者	83	3.0%	110	3.9%
高齢者夫婦	321	11.6%	418	14.7%
対象者数	2,767	100.0%	2,848	100.0%

(10) 居住地域の状況*3

	H23		H22	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
商業地域 (商業施設や公共施設等がある街の中心部)	147	5.3%	191	6.7%
住宅地域 (街の中心部や駅に近いところ)	950	34.3%	1,717	60.3%
郊外の住宅地域 (街の中心部や駅へは、自動車・バス等を利用して行くところ)	773	27.9%	-	-
農村地域	421	15.2%	505	17.7%
山間地域	437	15.8%	369	13.0%
その他	19	0.7%	34	1.2%
無回答	20	0.7%	32	1.1%
合計	2,767	100.0%	2,848	100.0%

*1就学前・就学中の子どもの有無を確認する設問構成としなかったため、「その他」の回答には、「成人した」など、選択肢に該当する年齢の子どもがいないことを示す回答となっている。

*2「単身高齢者」、「高齢者夫婦」でいう「高齢者」とは、65歳以上の回答者を指す。65歳以上の実有効回答者数は703人、構成比は25.4%である。

*3「郊外の住宅地域」は、平成23年度調査で追加された選択肢である。そのため、平成22年度調査での該当者は、0人である。

5-2 就業者と現在「家事専業・家事手伝い」または「無職」の回答者*

(1) 県全体

	H23	
	有効回答数	構成比
就業者(「家事専業・家事手伝い」、「無職」、「学生」、「その他」、「無回答」以外)	1,673	60.5%
「家事専業・家事手伝い」または「無職」	971	35.1%
その他(「学生」、「その他」、「無回答」)	123	4.4%
合計	2,767	100.0%

(2) 属性別

1) 性・年齢別

①10歳区分

	就業者					「家事専業・家事手伝い」または「無職」				
	有効回答数				構成比	有効回答数				構成比
	男性	女性	無回答			男性	女性	無回答		
20歳代	159	70	88	1	9.5%	39	8	30	1	4.0%
30歳代	292	149	143	0	17.5%	84	10	74	0	8.7%
40歳代	381	197	184	0	22.8%	89	8	81	0	9.2%
50歳代	432	250	181	1	25.8%	116	21	95	0	11.9%
60歳代	305	199	106	0	18.2%	320	117	203	0	33.0%
70歳以上	100	72	28	0	6.0%	322	127	194	1	33.2%
無回答	4	0	3	1	0.2%	1	0	0	1	0.1%
対象者数	1,673	937	733	3	100.0%	971	291	677	3	100.0%

②5歳区分

	就業者					「家事専業・家事手伝い」または「無職」				
	有効回答数				構成比	有効回答数				構成比
	男性	女性	無回答			男性	女性	無回答		
20～24歳	63	28	35	0	3.8%	10	2	8	0	1.0%
25～29歳	96	42	53	1	5.7%	29	6	22	1	3.0%
30～34歳	134	71	63	0	8.0%	38	6	32	0	3.9%
35～39歳	158	78	80	0	9.4%	46	4	42	0	4.7%
40～44歳	196	99	97	0	11.7%	43	4	39	0	4.4%
45～49歳	185	98	87	0	11.1%	46	4	42	0	4.7%
50～54歳	206	123	82	1	12.3%	41	6	35	0	4.2%
55～59歳	226	127	99	0	13.5%	75	15	60	0	7.7%
60～64歳	223	143	80	0	13.3%	170	47	123	0	17.5%
65～69歳	82	56	26	0	4.9%	150	70	80	0	15.4%
70歳以上	100	72	28	0	6.0%	322	127	194	1	33.2%
無回答	4	0	3	1	0.2%	1	0	0	1	0.1%
対象者数	1,673	937	733	3	100.0%	971	291	677	3	100.0%

*79～121ページの「3 県民の仕事に関する意識やニーズについて」では、79～83ページと116～121ページは「県全体」、84～91ページ、94～95ページは就業者(「家事専業・家事手伝い」、「無職」、「学生」、「その他」以外)の1,673人、96～98ページは現在、「家事専業・家事手伝い」または「無職」の971人を母数として集計している。それ以外の図表の母数については、別途、集計表を記載している。

2) 職業別

	就業者	
	有効回答数	構成比
農林漁業	92	5.5%
自営業	258	15.4%
正規社員等	761	45.5%
非正規社員等	517	30.9%
企業などの役員	45	2.7%
対象者数	1,673	100.0%

3) 婚姻状況別

	就業者		「家事専業・家事手伝い」 または「無職」	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
未婚	325	19.4%	58	6.0%
既婚	1,200	71.7%	768	79.1%
離婚・死別	139	8.3%	138	14.2%
無回答	9	0.5%	7	0.7%
対象者数	1,673	100.0%	971	100.0%

4) ライフステージ別

	就業者		「家事専業・家事手伝い」 または「無職」	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
若者	152	9.1%	37	3.8%
夫婦	184	11.0%	114	11.7%
育児期	82	4.9%	49	5.0%
教育期前期	288	17.2%	86	8.9%
教育期後期	241	14.4%	55	5.7%
単身高齢者	12	0.7%	61	6.3%
高齢者夫婦	83	5.0%	222	22.9%
対象者数	1,673	100.0%	971	100.0%

5) 地域別

	就業者		「家事専業・家事手伝い」 または「無職」	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
地域1(北部)	820	49.0%	436	44.9%
地域2(西部)	142	8.5%	105	10.8%
地域3(中部)	410	24.5%	243	25.0%
地域4(東部)	141	8.4%	70	7.2%
地域5(南東部)	90	5.4%	92	9.5%
地域6(南西部)	70	4.2%	25	2.6%
対象者数	1,673	100.0%	971	100.0%

6 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて

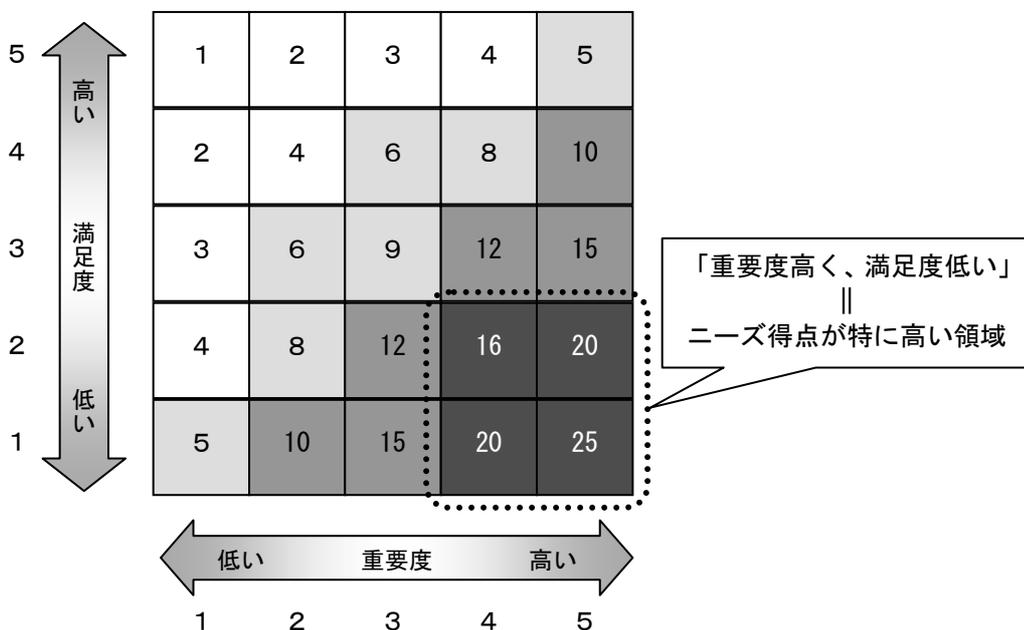
- 経年比較、前年度比較を行った図表にて、四捨五入等の関係上、本報告書に記載した数値と昨年度以前の報告書に記載した数値が一致しない場合があります。
- 問1～問8、問10～問20、問23～問27、問29～問38（設問番号は、巻末「参考資料 使用した調査票」参照）は百分率（%）による集計で、小数第2位を四捨五入しています。単数回答設問の回答比率の合計は、四捨五入の関係で100.0%にならない場合があります。また、複数回答設問は当該設問に回答すべき人数を集計母数としており、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 問9、問21、問22、問28は加重平均（点）による集計で、小数第3位を四捨五入しています。加重平均は、「（〈選択肢の回答者数〉×〈選択肢ごとの配点（5点～1点）〉）÷〈無回答者を除く当該設問の回答者数〉」により求められます。

図表 加重平均の集計結果の見方

選択肢の配点		1点	2点	3点	4点	5点
設問番号・ 選択肢	問9-① 重要度	まったく重要 ではない	さほど重要 ではない	どちらとも いえない	かなり重要	きわめて重要
	問9-② 満足度	ほとんど 満たされていない	あまり 満たされていない	どちらとも いえない	かなり 満たされている	十分 満たされている
	問21 重要度	まったく重要 ではない	さほど重要 ではない	どちらとも いえない	かなり重要	きわめて重要
	問22 評価	思わない	あまり思わない	どちらとも いえない	ややそう思う	そう思う
	問28 評価	悪くなった	どちらかといえば 悪くなった	どちらとも いえない	どちらかといえば よくなった	よくなった

- 問9の重要度と満足度の関係を指標化し分析するため、「ニーズ得点」を算出しています。ニーズ得点は、「〈重要度〉×〈6-満足度〉」により求められます。ニーズ得点は重要度が高く、満足度の低い項目ほど高くなります（色の濃いエリア）。

図表 重要度と満足度からみたニーズ得点の配点



第2章 調査結果の分析

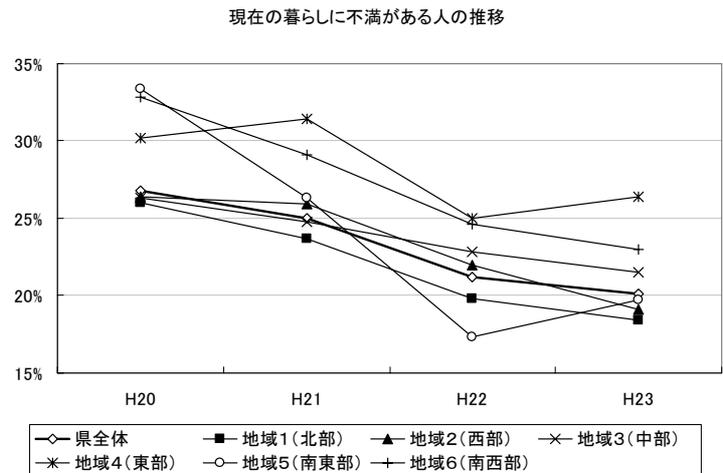
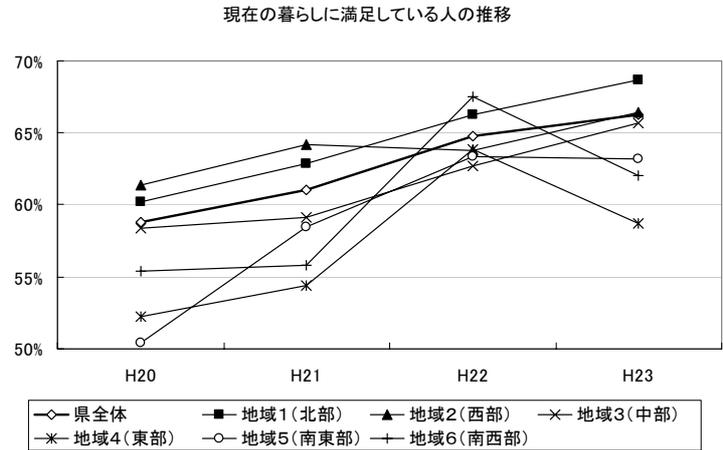
1 県民の生活全般について

1-1 現在の暮らし向きの実感

(1) 経年比較

図表 現在の暮らし向きの実感（経年比較／県全体、地域別）

		満足している	不満である
県全体	H20	58.8%	26.8%
	H21	61.0%	25.0%
	H22	64.8%	21.2%
	H23	66.3%	20.1%
地域1(北部)	H20	60.2%	26.0%
	H21	62.9%	23.7%
	H22	66.3%	19.8%
	H23	68.7%	18.4%
地域2(西部)	H20	61.4%	26.4%
	H21	64.2%	25.9%
	H22	63.8%	22.0%
	H23	66.4%	19.1%
地域3(中部)	H20	58.4%	26.3%
	H21	59.1%	24.8%
	H22	62.7%	22.8%
	H23	65.7%	21.5%
地域4(東部)	H20	52.2%	30.2%
	H21	54.4%	31.5%
	H22	63.9%	25.0%
	H23	58.7%	26.4%
地域5(南東部)	H20	50.4%	33.4%
	H21	58.5%	26.3%
	H22	63.4%	17.3%
	H23	63.2%	19.7%
地域6(南西部)	H20	55.4%	32.8%
	H21	55.8%	29.1%
	H22	67.5%	24.8%
	H23	62.0%	23.0%



(注) 上記図表は、問1を「満足している」（「満足している」＋「十分とはいえないが一応満足している」と「不満である」（「やや不満である」＋「不満である」）に再集計した結果である。
母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 県全体

現在の暮らし向きの実感について4ヶ年の調査結果を比較すると、「満足」している人は毎年増加しており、「不満」を抱えている人も減少しています。

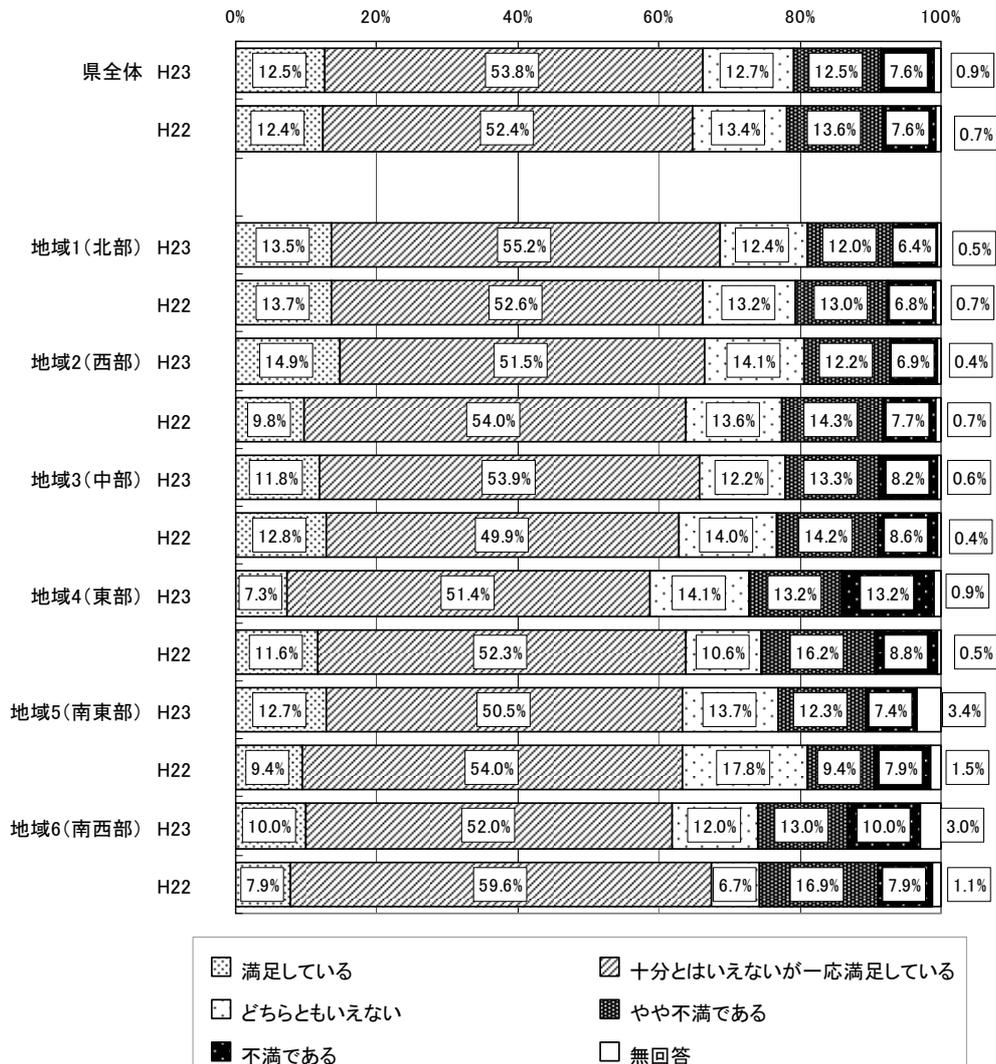
■ 地域別

「満足」している人は、平成20年度以降全ての地域で概ね増加傾向にあります。平成23年度は「地域4(東部)」(5.2ポイント)と「地域6(南西部)」(5.5ポイント)で5ポイント以上減少しています。

「不満」を抱えている人も、平成20年度以降全ての地域で減少傾向にあります。平成23年度は「地域4(東部)」(1.4ポイント)と「地域5(南東部)」(2.4ポイント)で増加しています。

(2) 今年度調査結果

図表 現在の暮らし向きの実感（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

現在の暮らし向きについて、66.3%の人が「満足」（「満足している」＋「十分とはいえないが一応満足している」）しています。その一方で、20.1%の人が「不満」（「不満である」＋「やや不満である」）を抱えています。

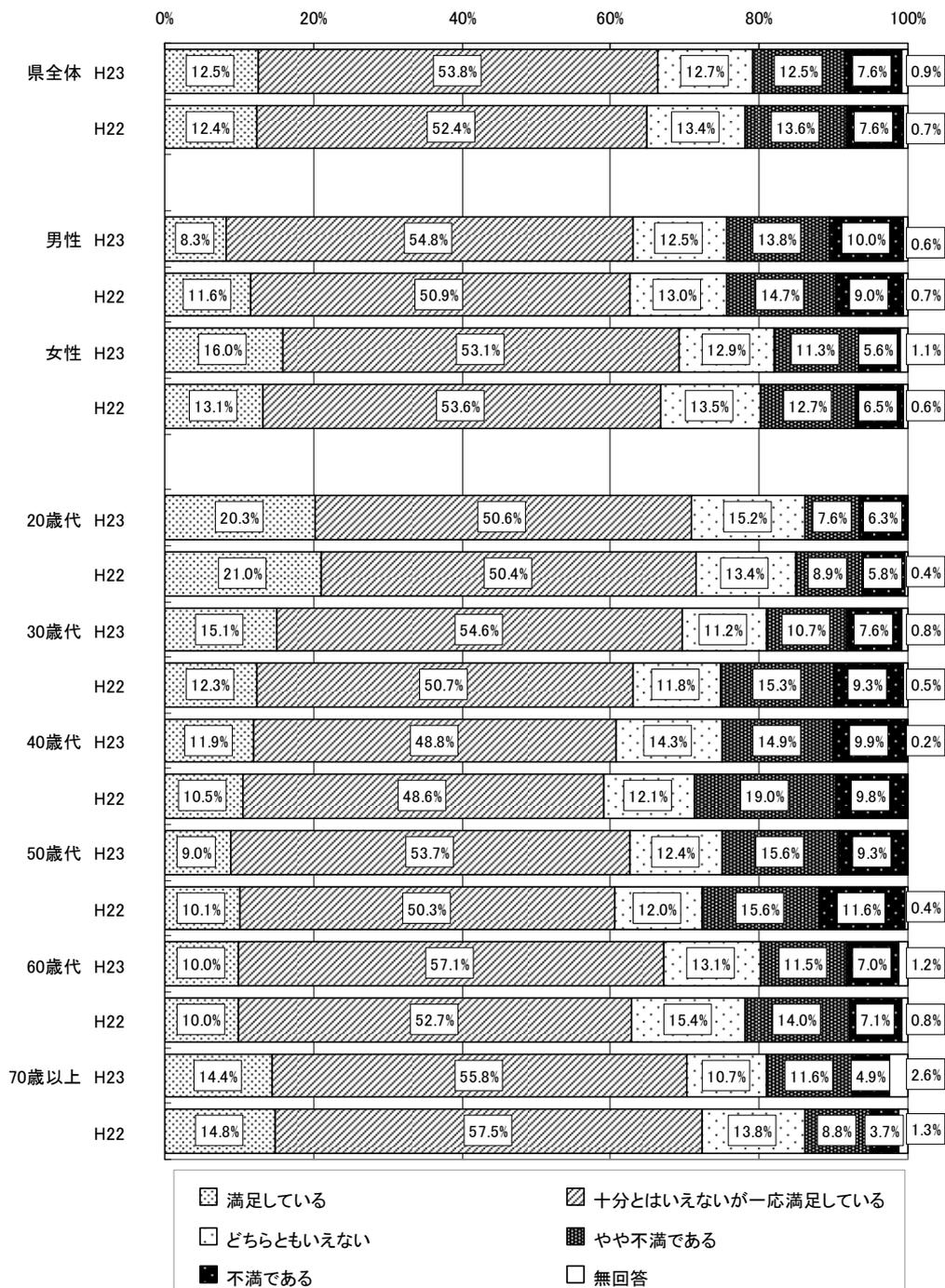
平成22年度と比較すると、「満足」している人が1.5ポイント増加し、「不満」を抱えている人が1.1ポイント減少しています。

■地域別

「満足」している人が最も多いのは「地域1(北部)」（68.7%）で、逆に「不満」を抱えている人が最も多いのは「地域4(東部)」（26.4%）となっています。

平成22年度と比較すると、「地域5(南東部)」（2.4ポイント増）以外、全ての地域で「不満」を抱えている人が減少しています。

図表 現在の暮らし向きの実感（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

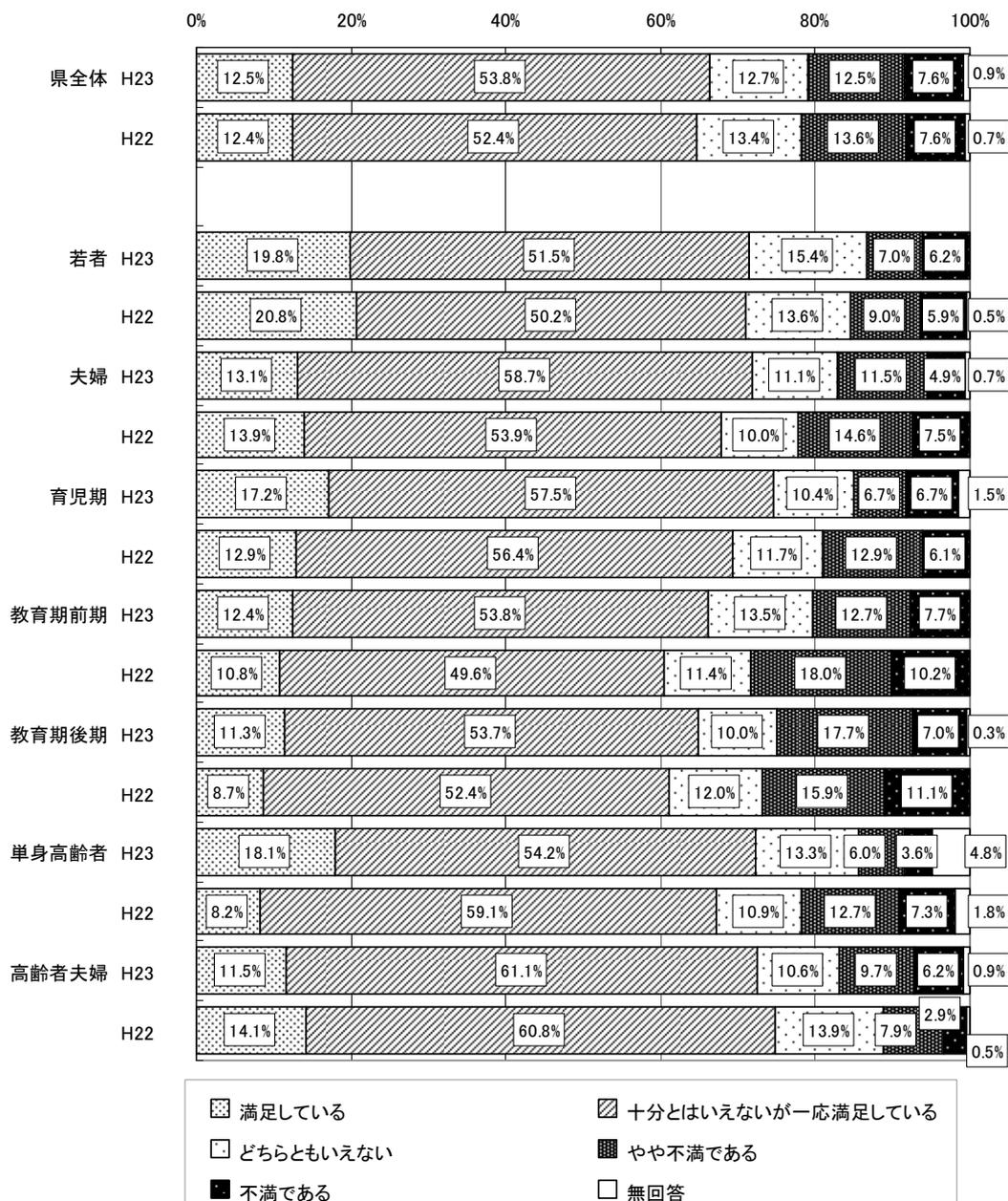
「満足」している人は、「女性」(69.1%)が「男性」(63.1%)に比べ多くなっています。平成22年度と比較すると、男女ともに「満足」している人が増加しています。

■年齢別

「不満」を抱いている人は「40歳代」(24.8%)と「50歳代」(24.9%)で、他の年齢層よりも多くなっています。

平成22年度と比較すると、「20歳代」(0.5ポイント減)と「70歳以上」(2.1ポイント減)を除く年齢層で「満足」している人が増加しています。

図表 現在の暮らし向きの実感（単数回答／県全体、ライフステージ別）



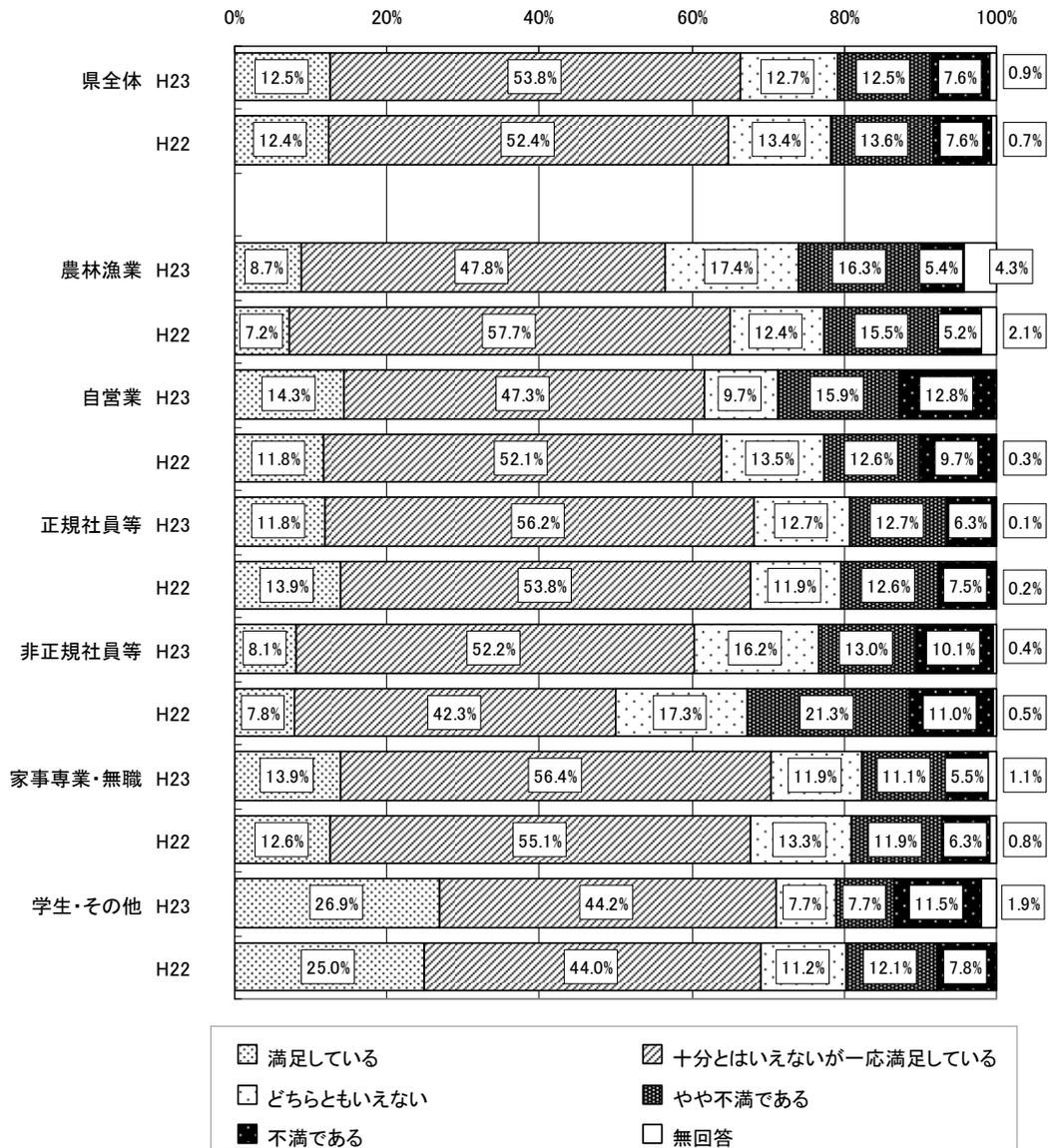
(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ライフステージ別

他のライフステージに比べ、「教育期前期」(20.4%)と「教育期後期」(24.7%)で現在の暮らし向きに対し「不満」を抱いている人が多くなっています。

平成22年度と比較すると、「高齢者夫婦」(2.3ポイント減)を除く全てのライフステージで「満足」している人が増加しています。

図表 現在の暮らし向きの実感（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

全ての職業で50%以上の方が現在の暮らし向きに「満足」しています。一方、「不満」を抱いている人は「自営業」(28.7%)で最も多くなっています。

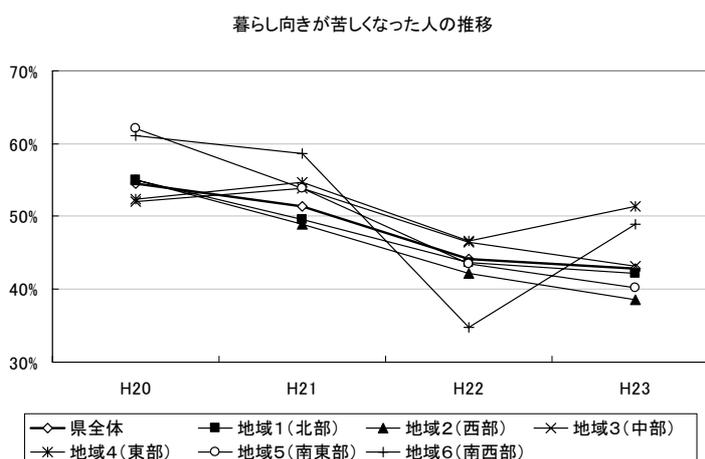
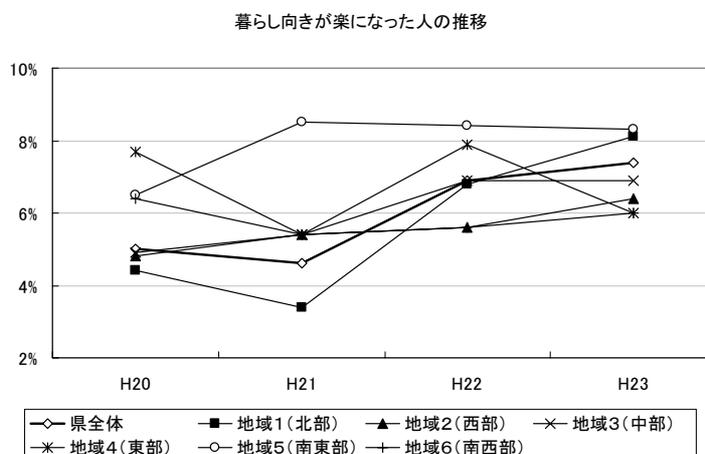
平成22年度と比較すると、「満足」している人は「農林漁業」(8.4ポイント減)と「自営業」(2.3ポイント減)を除いて増加しており、「非正規社員等」では10.2ポイント増加しています。

1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感

(1) 経年比較

図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（経年比較／県全体、地域別）

		楽になった	苦しくなった
県全体	H20	5.0%	54.5%
	H21	4.6%	51.4%
	H22	6.9%	44.2%
	H23	7.4%	42.9%
地域1(北部)	H20	4.4%	55.1%
	H21	3.4%	49.6%
	H22	6.8%	43.7%
	H23	8.1%	42.1%
地域2(西部)	H20	4.8%	55.1%
	H21	5.4%	49.0%
	H22	5.6%	42.1%
	H23	6.4%	38.5%
地域3(中部)	H20	4.9%	52.1%
	H21	5.4%	53.8%
	H22	6.9%	46.4%
	H23	6.9%	43.1%
地域4(東部)	H20	7.7%	52.4%
	H21	5.4%	54.7%
	H22	7.9%	46.7%
	H23	6.0%	51.4%
地域5(南東部)	H20	6.5%	62.1%
	H21	8.5%	53.9%
	H22	8.4%	43.5%
	H23	8.3%	40.2%
地域6(南西部)	H20	6.4%	61.1%
	H21	5.4%	58.6%
	H22	5.6%	34.8%
	H23	6.0%	49.0%



(注) 上記図表は、問2を「楽になった」（「とても楽になった」＋「少し楽になった」）と「苦しくなった」（「少し苦しくなった」＋「とても苦しくなった」）に再集計した結果である。
母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 県全体

「楽になった」と感じている人は、平成20年度から平成21年度にかけて0.4ポイント減少しましたが、平成21年度から平成23年度にかけては増加しています。一方で、「苦しくなった」と感じている人は減少し続けています。

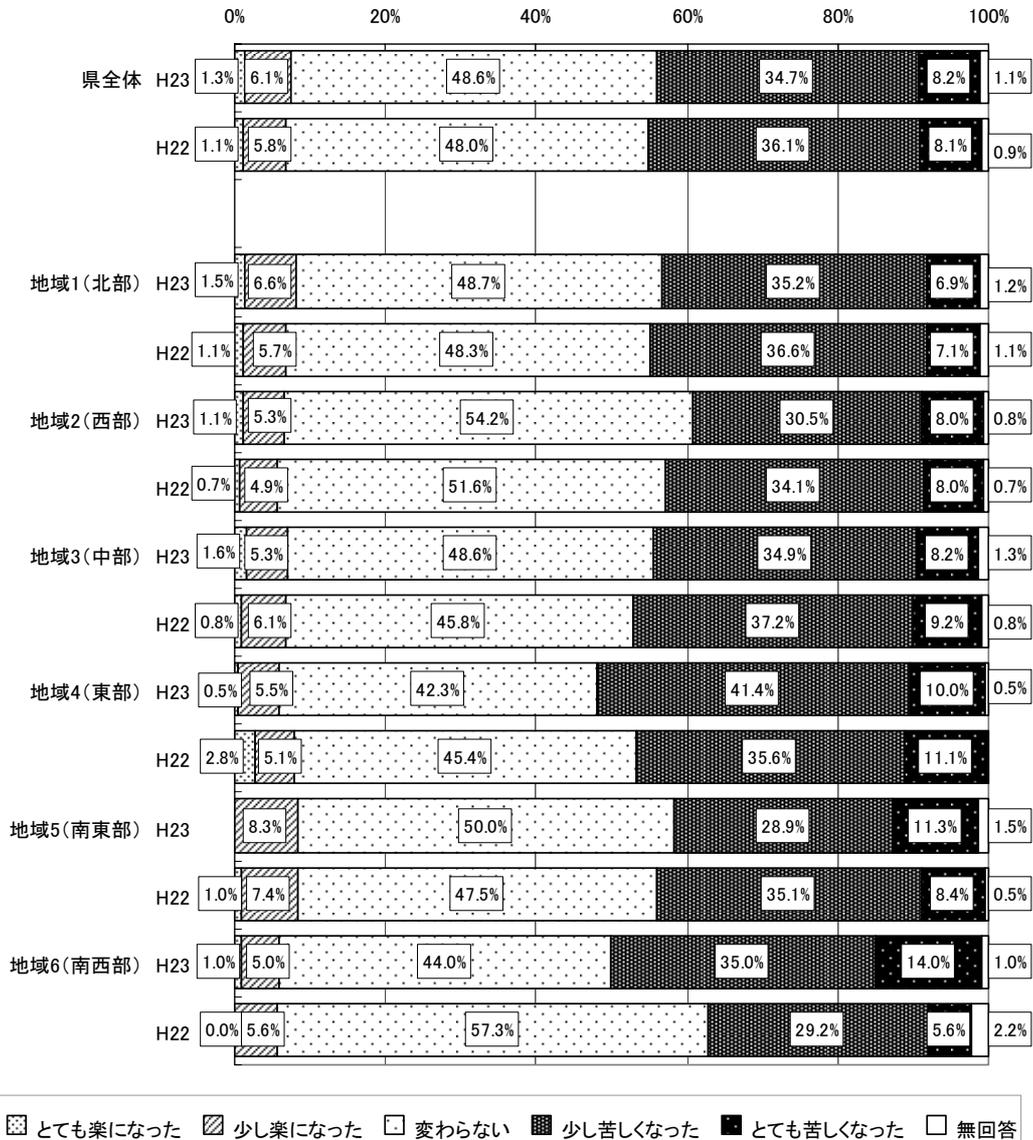
■ 地域別

「地域2(西部)」と「地域3(中部)」では、平成20年度以降「楽になった」と感じている人が増加し続けています。

「地域1(北部)」、「地域2(西部)」及び「地域5(南東部)」では、「苦しくなった」と感じている人が減少し続けています。

(2) 今年度調査結果

図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

1年前と比較した暮らし向きの実感については、42.9%の人が「苦しくなった」（「とても苦しくなった」＋「少し苦しくなった」）と感じています。

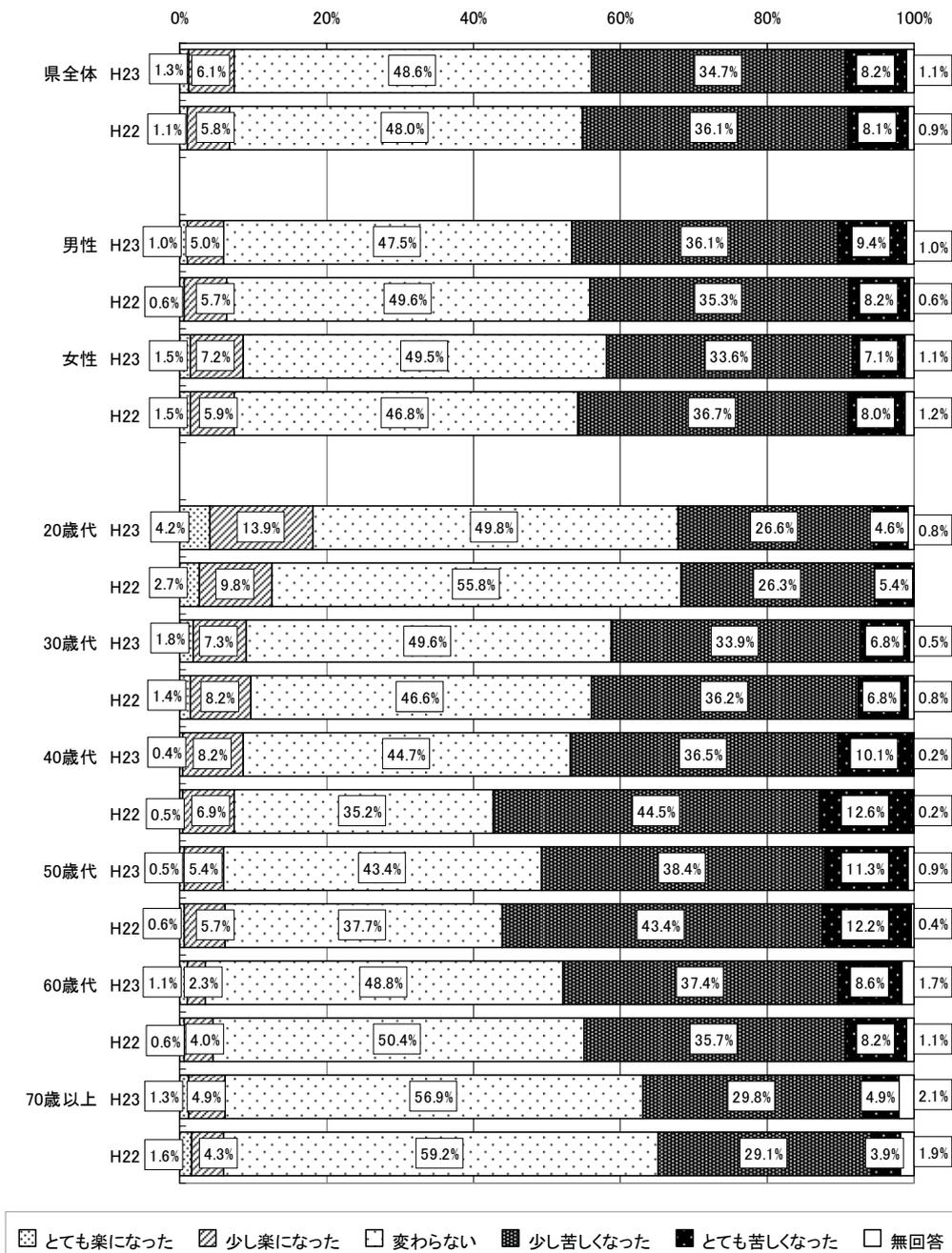
平成22年度と比較すると、「苦しくなった」と感じている人は、44.2%から1.3ポイント減少しています。

■地域別

「苦しくなった」と感じている人は、「地域4（東部）」（51.4%）と「地域6（南西部）」（49.0%）で他の地域に比べて多くなっています。

平成22年度と比較すると、「地域4（東部）」（4.7ポイント）と「地域6（南西部）」（14.2ポイント）で「苦しくなった」と感じている人が増加しています。

図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「苦しくなった」と感じている人は、「男性」(45.5%)が「女性」(40.7%)よりも多くなっています。

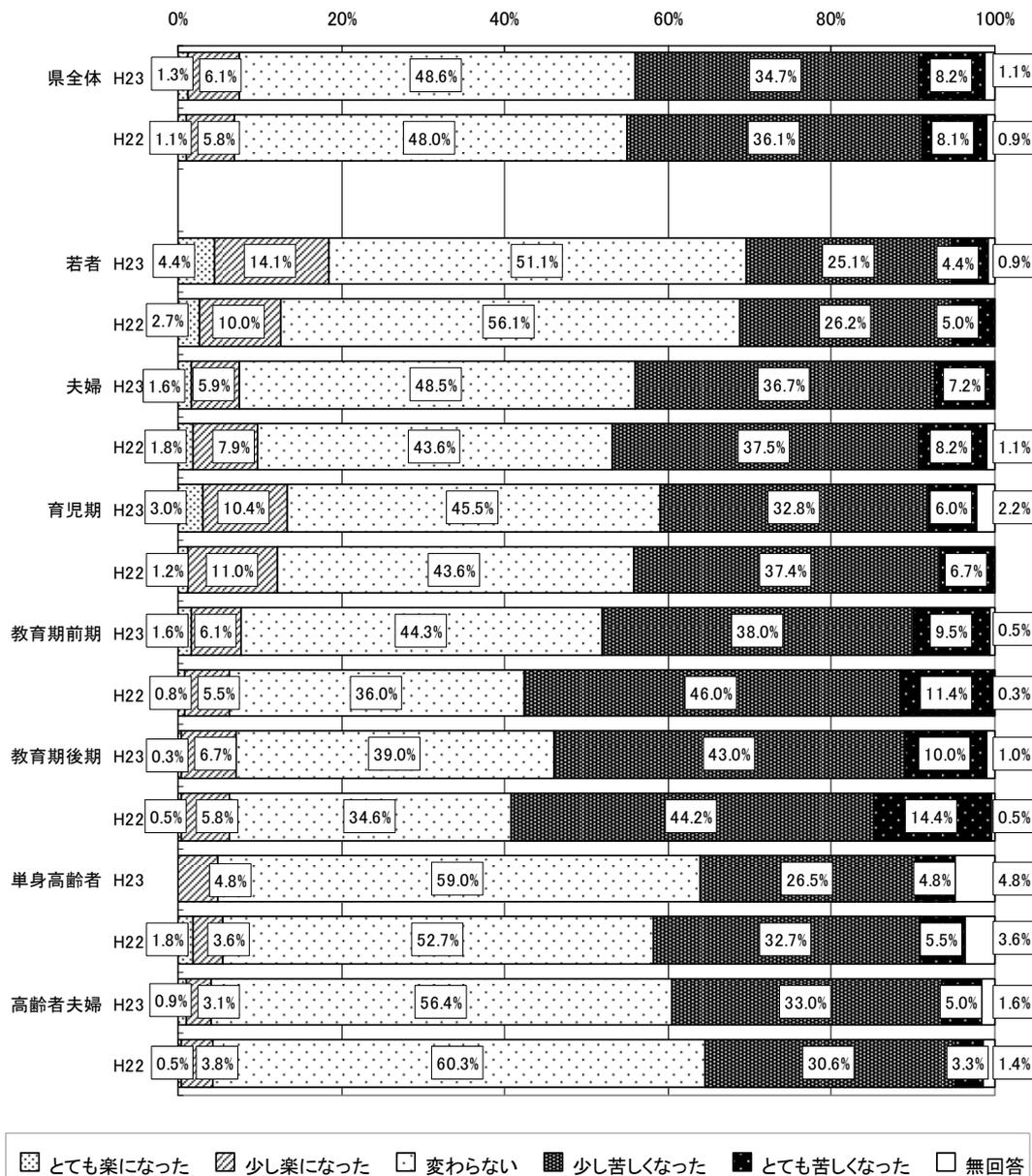
平成22年度と比較すると、「苦しくなった」と感じている人は、「男性」(2.0ポイント)は増加し、「女性」(4.0ポイント)は減少しています。

■年齢別

「苦しくなった」と感じている人は、「40歳代」(46.6%)、「50歳代」(49.7%)及び「60歳代」(46.0%)で他の年齢層に比べて多くなっています。

平成22年度と比較すると、「苦しくなった」と感じている人は、「60歳代」(2.1ポイント)、「70歳以上」(1.7ポイント)で増加しています。

図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（単数回答／県全体、ライフステージ別）



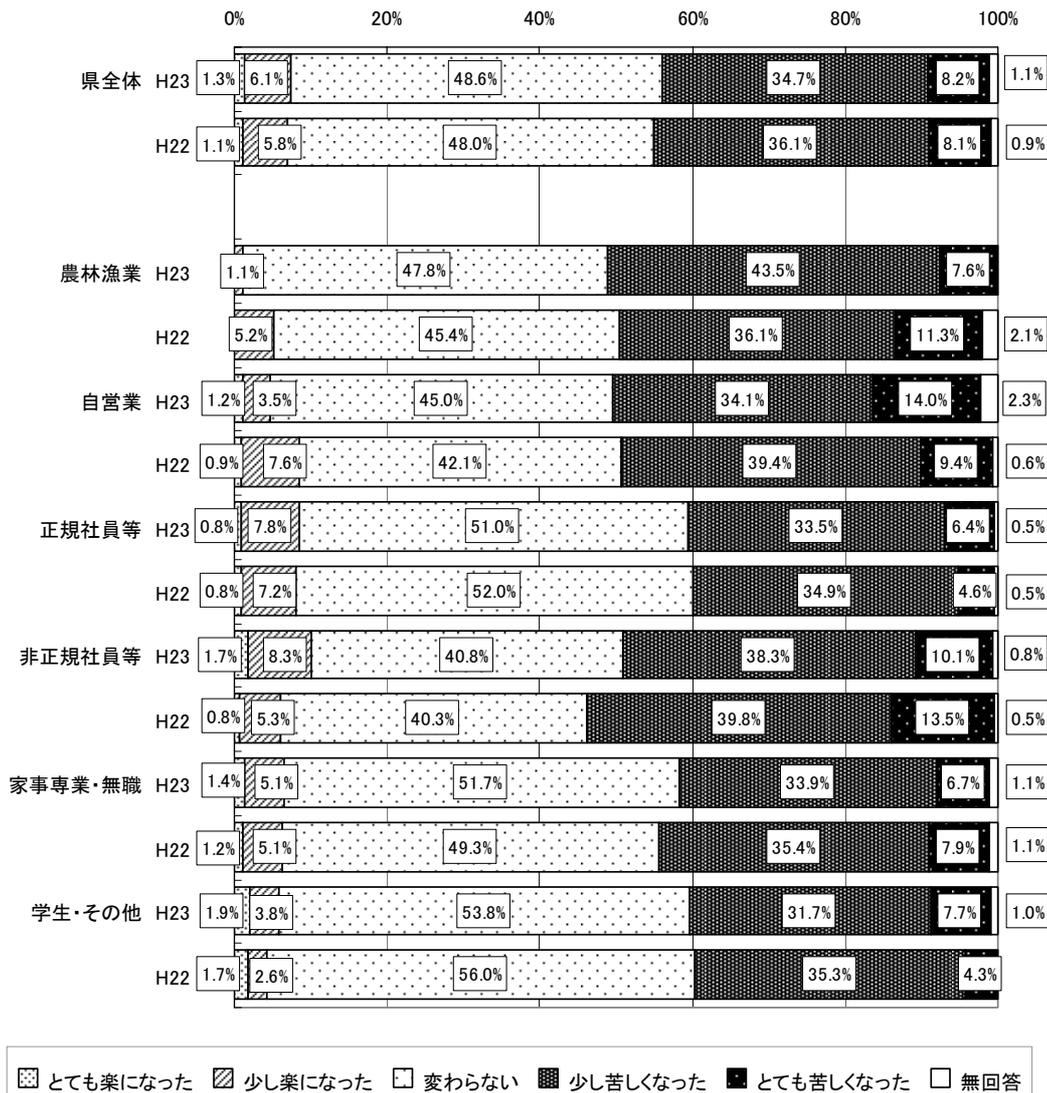
(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ライフステージ別

「苦しくなった」と感じている人は、「教育期前期」（47.5％）と「教育期後期」（53.0％）で他のライフステージに比べて多くなっています。

平成22年度と比較すると、「高齢者夫婦」（4.1ポイント増）を除く全てのライフステージで「苦しくなった」と感じている人が減少しています。

図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

「苦しくなった」と感じている人は、「農林漁業」(51.1%)、「自営業」(48.1%)及び「非正規社員等」(48.4%)で他の職業に比べて多くなっています。

平成22年度と比較すると、「苦しくなった」と感じている人は、「農林漁業」(3.7ポイント)と「正規社員等」(0.4ポイント)で増加しています。

1-3 1年前と比較して暮らし向きが苦しくなった理由

(1) 今年度調査結果

図表 暮らし向きが苦しくなった理由（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別、職業別）

（上段：平成23年度結果、下段：前年度からの増減値）

	少給 料や 収入 が 減 ら な い 、 ま た は 減 少 し た か ら	税 金 や 保 険 料 の 支 払 い が 増 え た か ら	家 や 自 動 車 、 家 電 な ど に か か る 支 出 が 増 え た か ら	日 常 の 生 活 費 が 増 え た か ら	家 族 の 増 加 や 物 価 の 上 昇 な ど で 毎 日 の 生 活 費 が 増 え た か ら	教 育 に か か る 費 用 が 増 え た か ら	減 利 率 の 低 下 な ど に よ り 預 貯 金 が 目 減 り し た か ら	失 業 、 退 職 、 病 気 な ど で 働 き 手 が 減 っ た か ら	結 婚 、 出 産 、 病 気 な ど 特 別 な 出 費 が あ っ た か ら	家 業 や 商 売 な ど に か か る 営 業 経 費 が 増 え た か ら	そ の 他
県全体	69.0% ▲1.8%	35.8% ▲1.4%	29.3% ▲3.1%	27.5% ▲3.1%	23.1% ▲2.1%	22.7% ▲0.8%	18.8% ▲0.3%	15.3% ▲1.7%	7.6% ▲0.2%	8.8% ▲1.5%	
地域別	地域1(北部)	71.7% ▲3.9%	39.1% ▲0.4%	27.7% ▲2.1%	25.9% ▲1.1%	24.3% ▲4.9%	25.4% ▲1.7%	19.7% ▲2.0%	14.6% ▲2.4%	7.1% ▲1.2%	7.7% ▲0.7%
	地域2(西部)	68.3% ▲0.5%	39.6% ▲1.6%	37.7% ▲2.8%	37.7% ▲8.5%	20.8% ▲1.5%	23.8% ▲0.2%	10.9% ▲5.6%	13.9% ▲3.5%	6.9% ▲3.6%	7.9% ▲1.2%
	地域3(中部)	67.6% ▲0.2%	31.7% ▲5.6%	30.7% ▲3.4%	29.0% ▲1.7%	25.3% ▲0.9%	17.4% ▲1.1%	21.2% ▲0.4%	16.0% ▲1.0%	7.2% ▲0.4%	7.2% ▲3.5%
	地域4(東部)	69.0% ▲0.7%	35.4% ▲0.7%	26.5% ▲5.1%	24.8% ▲3.0%	18.6% ▲5.2%	26.5% ▲5.8%	15.9% ▲0.1%	17.7% ▲1.1%	8.0% ▲1.9%	12.4% ▲1.5%
	地域5(南東部)	57.3% ▲2.9%	28.0% ▲1.9%	34.1% ▲18.2%	24.4% ▲6.2%	17.1% ▲5.7%	17.1% ▲4.5%	15.9% ▲2.3%	14.6% ▲2.1%	7.3% ▲9.7%	17.1% ▲2.3%
	地域6(南西部)	67.3% ▲6.1%	30.6% ▲1.6%	32.7% ▲6.8%	38.8% ▲22.6%	22.4% ▲12.8%	22.4% ▲3.1%	22.4% ▲3.1%	16.3% ▲3.0%	16.3% ▲3.4%	10.2% ▲0.5%
性別	男性	72.1% ▲1.6%	41.0% ▲3.8%	31.3% ▲5.3%	27.7% ▲7.8%	22.0% ▲2.4%	23.0% ▲2.9%	16.8% ▲0.1%	12.8% ▲2.1%	9.5% ▲0.5%	8.0% ▲1.0%
	女性	66.3% ▲1.7%	30.9% ▲6.5%	27.6% ▲1.2%	27.4% ▲0.5%	24.3% ▲2.2%	22.5% ▲0.9%	20.8% ▲0.9%	17.7% ▲0.8%	5.8% ▲0.4%	9.3% ▲1.8%
年齢別	20歳代	66.2% ▲7.0%	39.2% ▲4.0%	31.1% ▲11.2%	28.4% ▲5.8%	12.2% ▲10.4%	10.8% ▲1.0%	18.9% ▲2.2%	16.2% ▲9.1%	1.4% ▲0.1%	9.5% ▲3.8%
	30歳代	74.4% ▲0.5%	37.8% ▲1.5%	37.8% ▲12.3%	36.5% ▲1.7%	32.7% ▲2.8%	7.7% ▲3.8%	15.4% ▲0.7%	18.6% ▲2.7%	3.2% ▲2.5%	6.4% ▲4.5%
	40歳代	77.0% ▲5.9%	34.2% ▲2.6%	32.4% ▲6.6%	37.4% ▲8.9%	64.4% ▲9.0%	13.5% ▲3.5%	9.0% ▲3.1%	9.5% ▲1.0%	6.8% ▲0.3%	4.1% ▲0.1%
	50歳代	83.0% ▲3.5%	31.4% ▲0.7%	27.8% ▲0.4%	23.1% ▲1.9%	23.5% ▲2.3%	25.6% ▲3.2%	21.3% ▲0.2%	14.4% ▲4.2%	9.4% ▲0.1%	6.9% ▲1.4%
	60歳代	64.4% ▲2.7%	37.3% ▲4.8%	26.8% ▲0.8%	22.7% ▲3.1%	1.7% ▲0.1%	29.8% ▲5.3%	27.5% ▲2.5%	16.9% ▲1.6%	12.5% ▲3.4%	9.8% ▲0.7%
	70歳以上	38.3% ▲2.0%	39.5% ▲4.6%	23.5% ▲2.5%	21.0% ▲0.0%	0.6% ▲1.6%	37.0% ▲3.4%	15.4% ▲0.1%	17.9% ▲0.0%	3.7% ▲2.0%	18.5% ▲4.1%
	ライフステージ別	若者	68.7% ▲5.3%	37.3% ▲2.5%	29.9% ▲12.2%	28.4% ▲5.2%	13.4% ▲9.8%	9.0% ▲1.2%	19.4% ▲2.3%	11.9% ▲12.7%	1.5% ▲0.0%
夫婦		76.1% ▲1.2%	32.1% ▲6.2%	25.4% ▲0.4%	23.1% ▲0.3%	2.2% ▲0.7%	27.6% ▲1.3%	24.6% ▲9.8%	25.4% ▲5.8%	5.2% ▲6.5%	6.7% ▲0.5%
育児期		53.8% ▲19.8%	28.8% ▲14.2%	32.7% ▲2.0%	59.6% ▲8.4%	23.1% ▲8.9%	3.8% ▲3.1%	19.2% ▲8.1%	40.4% ▲2.7%	5.8% ▲4.0%	7.7% ▲6.3%
教育期前期		78.3% ▲2.3%	35.0% ▲7.0%	32.2% ▲2.8%	37.2% ▲3.9%	71.1% ▲3.0%	12.8% ▲1.7%	7.8% ▲1.5%	7.2% ▲1.0%	5.6% ▲2.2%	4.4% ▲1.1%
教育期後期		80.5% ▲3.9%	29.6% ▲6.6%	28.9% ▲0.2%	27.7% ▲7.2%	75.5% ▲9.9%	16.4% ▲1.6%	10.1% ▲8.0%	10.1% ▲4.3%	10.7% ▲4.1%	4.4% ▲2.8%
単身高齢者		30.8% ▲4.9%	11.5% ▲19.4%	11.5% ▲7.5%	11.5% ▲14.7%	0.0% ▲0.0%	23.1% ▲7.9%	3.8% ▲12.8%	15.4% ▲1.3%	0.0% ▲4.8%	26.9% ▲3.1%
高齢者夫婦		45.9% ▲4.4%	44.3% ▲6.4%	28.7% ▲4.0%	18.0% ▲1.1%	0.0% ▲1.4%	38.5% ▲7.5%	18.0% ▲7.5%	15.6% ▲5.6%	6.6% ▲2.3%	15.6% ▲0.8%
職業別	農林漁業	57.4% ▲3.4%	23.4% ▲11.4%	10.6% ▲13.3%	17.0% ▲4.7%	6.4% ▲4.5%	17.0% ▲15.6%	10.6% ▲8.9%	23.4% ▲3.8%	38.3% ▲7.9%	19.1% ▲12.6%
	自営業	80.6% ▲0.1%	33.7% ▲4.1%	33.7% ▲15.0%	19.4% ▲1.3%	17.7% ▲6.9%	21.8% ▲3.7%	12.1% ▲4.9%	11.3% ▲0.2%	33.9% ▲0.1%	4.8% ▲0.0%
	正規社員等	83.6% ▲4.0%	39.1% ▲3.0%	33.6% ▲2.4%	35.2% ▲12.4%	40.8% ▲5.1%	19.4% ▲0.5%	9.5% ▲1.7%	14.8% ▲3.9%	0.3% ▲0.1%	5.3% ▲2.4%
	非正規社員等	82.0% ▲3.0%	36.4% ▲1.6%	30.8% ▲0.8%	27.2% ▲1.4%	26.0% ▲5.0%	19.2% ▲4.2%	19.6% ▲0.8%	14.4% ▲4.1%	4.4% ▲3.5%	6.4% ▲0.3%
	家事専業・無職	51.0% ▲3.3%	35.8% ▲4.6%	28.7% ▲2.9%	27.4% ▲0.5%	12.9% ▲0.5%	29.9% ▲4.0%	29.4% ▲1.6%	17.0% ▲3.6%	1.8% ▲0.9%	11.7% ▲1.8%
	学生・その他	61.0% ▲8.6%	24.4% ▲8.2%	17.1% ▲11.2%	12.2% ▲11.7%	17.1% ▲15.5%	7.3% ▲7.9%	14.6% ▲8.1%	7.3% ▲10.1%	26.8% ▲18.1%	17.1% ▲6.2%

(注) 集計結果は「県全体」の平成23年度の結果が多い項目順（「その他」を除く）に並べている。
 太字は「その他」を除いた平成23年度の結果の各属性区分の上位3項目（斜体は同率）を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成22年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。
 母数は「苦しくなった」と回答した人数であり、4～9ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

■県全体

1年前と比較して暮らし向きが「苦しくなった」と感じている人に対して、その理由をたずねたところ、「給料や収益の減少」(69.0%)が最も多く、次いで、「税金等の支払いの増加」(35.8%)、「家や自動車等の支出の増加」(29.3%)が多く挙げられています。

平成22年度と比較すると、「税金等の支払いの増加」と「結婚、病気などの特別な出費」以外の項目を暮らし向きが苦しくなった理由に挙げた回答者が増加しています。

■地域別

全ての地域で第1位に「給料や収益の減少」が挙げられています。第2位には、「地域1(北部)」から「地域4(東部)」では「税金等の支払いの増加」が挙げられている一方で、「地域5(南東部)」では「家や自動車等の支出の増加」、「地域6(南西部)」では「毎日の生活費の増加」が挙げられています。

平成22年度と比較すると、「地域6(南西部)」で「毎日の生活費の増加」が22.6ポイントと増加の幅が最も大きくなっています。それ以外に、5ポイント以上増加した項目は「地域2(西部)」の「毎日の生活費の増加」、「地域4(東部)」の「預貯金の目減り」、「地域5(南東部)」の「家や自動車等の支出の増加」・「毎日の生活費の増加」・「教育にかかる費用の増加」、「地域6(南西部)」の「給料や収益の減少」・「家や自動車等の支出の増加」・「毎日の生活費の増加」・「教育にかかる費用の増加」となっています。

■性別

男女ともに「給料や収益の減少」を理由に挙げている人が最も多く60%を越えています。

平成22年度と比較すると、特に「男性」で増加傾向にあり、「結婚、病気などの特別な出費」を除く全ての項目で増加しています。

■年齢別

「40歳代」では、「教育にかかる費用の増加」を理由に暮らし向きが「苦しくなった」と感じている人が他の年齢層に比べて多くなっています。

平成22年度と比較すると、「30歳代」で「家や自動車等の支出の増加」が12.3ポイントと増加の幅が最も大きくなっています。それ以外に、5ポイント以上増加した項目は「20歳代」の「毎日の生活費の増加」、「40歳代」の「家や自動車等の支出の増加」・「毎日の生活費の増加」・「教育にかかる費用の増加」、「60歳代」の「預貯金の目減り」となっています。

■ライフステージ別

「育児期」以外では「給料や収益の減少」が最も多くなっており、「育児期」は「毎日の生活費の増加」が最も多くなっています。また、「教育期前期」と「教育期後期」では「教育にかかる費用の増加」、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「預貯金の目減り」を理由に挙げた人が多く、ライフステージ毎に特徴が見られます。

平成22年度と比較すると、「教育期後期」で「教育にかかる費用の増加」が9.9ポイントと増加の幅が最も大きくなっています。それ以外に、5ポイント以上増加した項目は「若者」の「毎日の生活費の増加」、「夫婦」の「働き手の減少」・「結婚、病気などの特別な出費」、「育児期」の「働き手の減少」、「教育期前期」の「税金等の支払いの増加」、「教育期後期」の「税金等の支払いの増加」・「毎日の生活費の増加」・「教育にかかる費用の増加」、「高齢者夫婦」の「預貯金の目減り」・「働き手の減少」となっています。

■職業別

全ての職業で「給料や収益の減少」を理由に挙げた人が最も多くなっています。特に、「自営業」、「正規社員等」及び「非正規社員等」の80%以上の人々が「給料や収益の減少」を理由に挙げています。

平成22年度と比較すると、「学生・その他」で「営業経費の増加」が18.1ポイントと増加の幅が最も大きくなっています。それ以外に、5ポイント以上増加した項目は、「農林漁業」の「営業経費の増加」、「自営業」の「家や自動車等の支出の増加」・「教育にかかる費用の増加」、「正規社員等」の「毎日の生活費の増加」・「教育にかかる費用の増加」、「学生・その他」の「働き手の減少」となっています。

(2) 暮らし向きが悪化する理由

図表 暮らし向きが悪化する理由（設問間クロス／県全体）

			問2 暮らし向きの変化		
順位	項目番号	問3 暮らし向き悪化する理由	計	少し苦しくなった	とても苦しくなった
1	1	給料や収益が増えない、または減少したから	818 69.0%	660 68.8%	158 69.9%
2	8	税金や保険料の支払いが増えたから	425 35.8%	343 35.7%	82 36.3%
3	7	家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから	348 29.3%	276 28.8%	72 31.9%
4	4	家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから	326 27.5%	266 27.7%	60 26.5%
5	6	教育にかかる費用が増えたから	274 23.1%	218 22.7%	56 24.8%
6	3	利率の低下などにより預貯金が目減りしたから	269 22.7%	227 23.6%	42 18.6%
7	2	失業、退職、病気などで働き手が減ったから	223 18.8%	165 17.2%	58 25.7%
8	5	結婚、出産、病気など特別な出費があったから	181 15.3%	151 15.7%	30 13.3%
9	9	家業や商売などにかかる営業経費が増えたから	90 7.6%	61 6.4%	29 12.8%
10	10	その他	104 8.8%	68 7.1%	36 15.9%
対象者数			1,186 100.0%	960 100.0%	226 100.0%

(注) 上記図表は暮らし向きが「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と感じている回答者がどのような理由で暮らし向きが悪化したのかを把握するため、問2と問3のクロス集計を行った結果である。

なお、対象者数は、問2で現在の暮らし向きが「少し苦しくなった」、「とても苦しくなった」と回答した人数である。

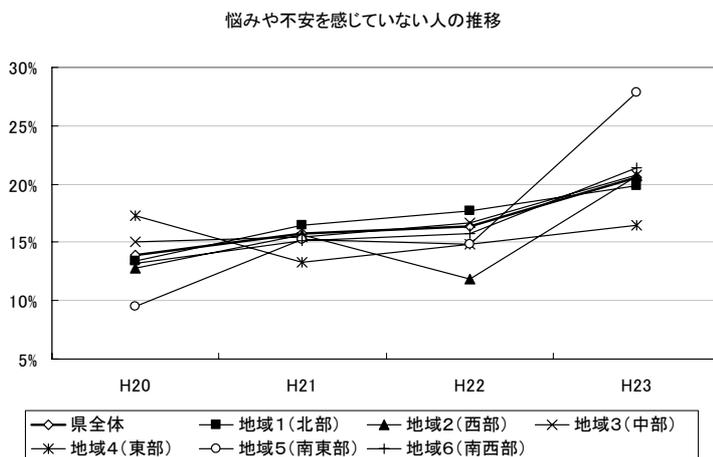
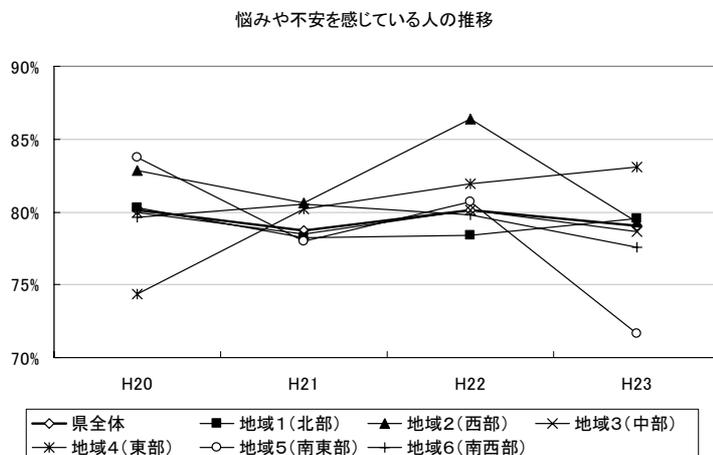
暮らし向きが「とても苦しくなった」と答えた人は、「少し苦しくなった」と答えた人に比べて、「失業、退職、病気などで働き手が減ったから」(8.5ポイント)、「家業や商売などにかかる営業経費が増えたから」(6.4ポイント)を理由に挙げた人が5ポイント以上多くなっています。

1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無

(1) 経年比較

図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（経年比較／県全体、地域別）

		悩みや不安を感じている	悩みや不安を感じていない
県全体	H20	80.1%	13.9%
	H21	78.7%	15.8%
	H22	80.1%	16.4%
	H23	79.1%	20.4%
地域1(北部)	H20	80.3%	13.4%
	H21	78.2%	16.4%
	H22	78.4%	17.7%
	H23	79.6%	19.8%
地域2(西部)	H20	82.9%	12.8%
	H21	80.6%	15.7%
	H22	86.4%	11.8%
	H23	80.2%	19.8%
地域3(中部)	H20	79.9%	15.0%
	H21	78.5%	15.4%
	H22	80.1%	16.6%
	H23	78.6%	20.8%
地域4(東部)	H20	74.4%	17.3%
	H21	80.2%	13.3%
	H22	81.9%	14.8%
	H23	83.6%	15.9%
地域5(南東部)	H20	83.7%	9.5%
	H21	78.0%	15.2%
	H22	80.7%	14.9%
	H23	71.6%	27.9%
地域6(南西部)	H20	79.6%	13.2%
	H21	80.6%	15.1%
	H22	79.8%	15.7%
	H23	77.0%	22.0%



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 県全体

平成20年度以降、約80%の人が日頃の生活に対して「悩みや不安を感じている」一方で、「悩みや不安を感じていない」人は4年連続で増加しています。

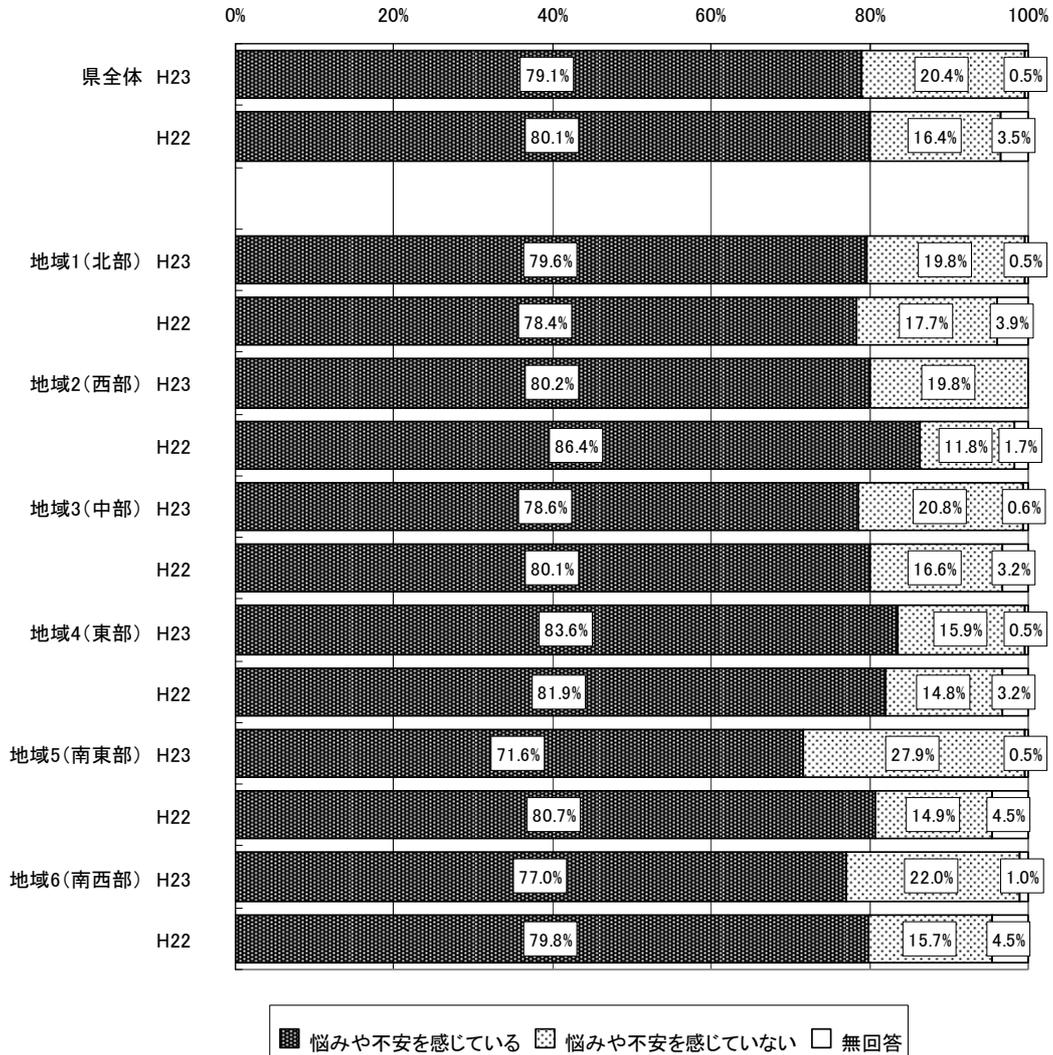
■ 地域別

「地域4(東部)」では、「悩みや不安を感じている」人が毎年増加し続けています。

一方で、「地域1(北部)」、「地域3(中部)」、「地域6(南西部)」では、「悩みや不安を感じていない」人が毎年増加し続けています。

(2) 今年度調査結果

図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

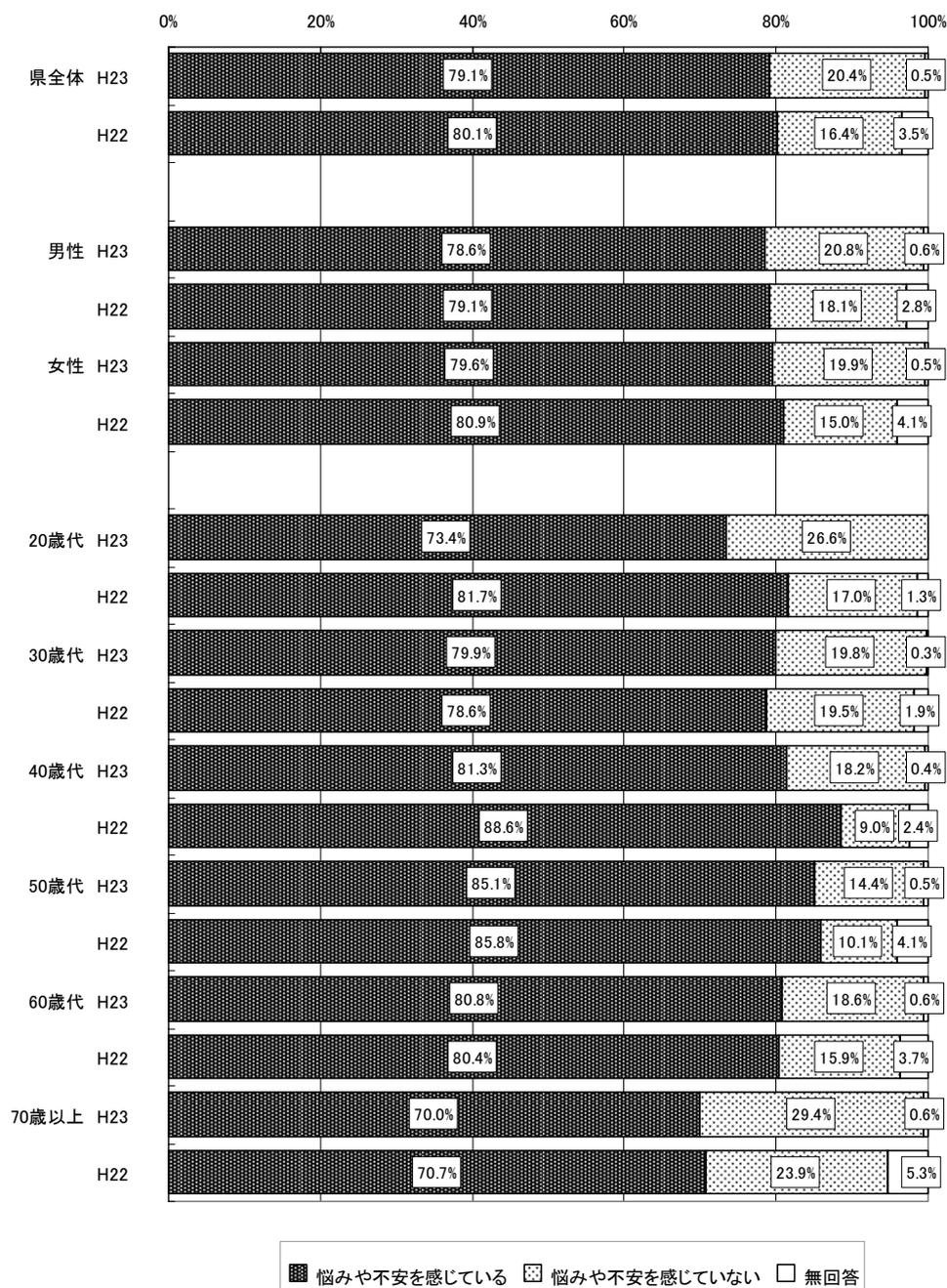
日頃の生活での悩みや不安の有無については、79.1%が「悩みや不安を感じている」と回答しており、平成22年度より1.0ポイント減少しています。

■地域別

「悩みや不安を感じている」人は、「地域2(西部)」(80.2%)と「地域4(東部)」(83.6%)で80%を上回っており、他の地域に比べてやや多くなっています。

平成22年度と比較すると、「悩みや不安を感じている」人は「地域1(北部)」(1.2ポイント)、「地域4(東部)」(1.7ポイント)で増加していますが、その他の地域では減少しています。

図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「悩みや不安を感じている」人は、「女性」(79.6%)が「男性」(78.6%)より僅かに多くなっています。

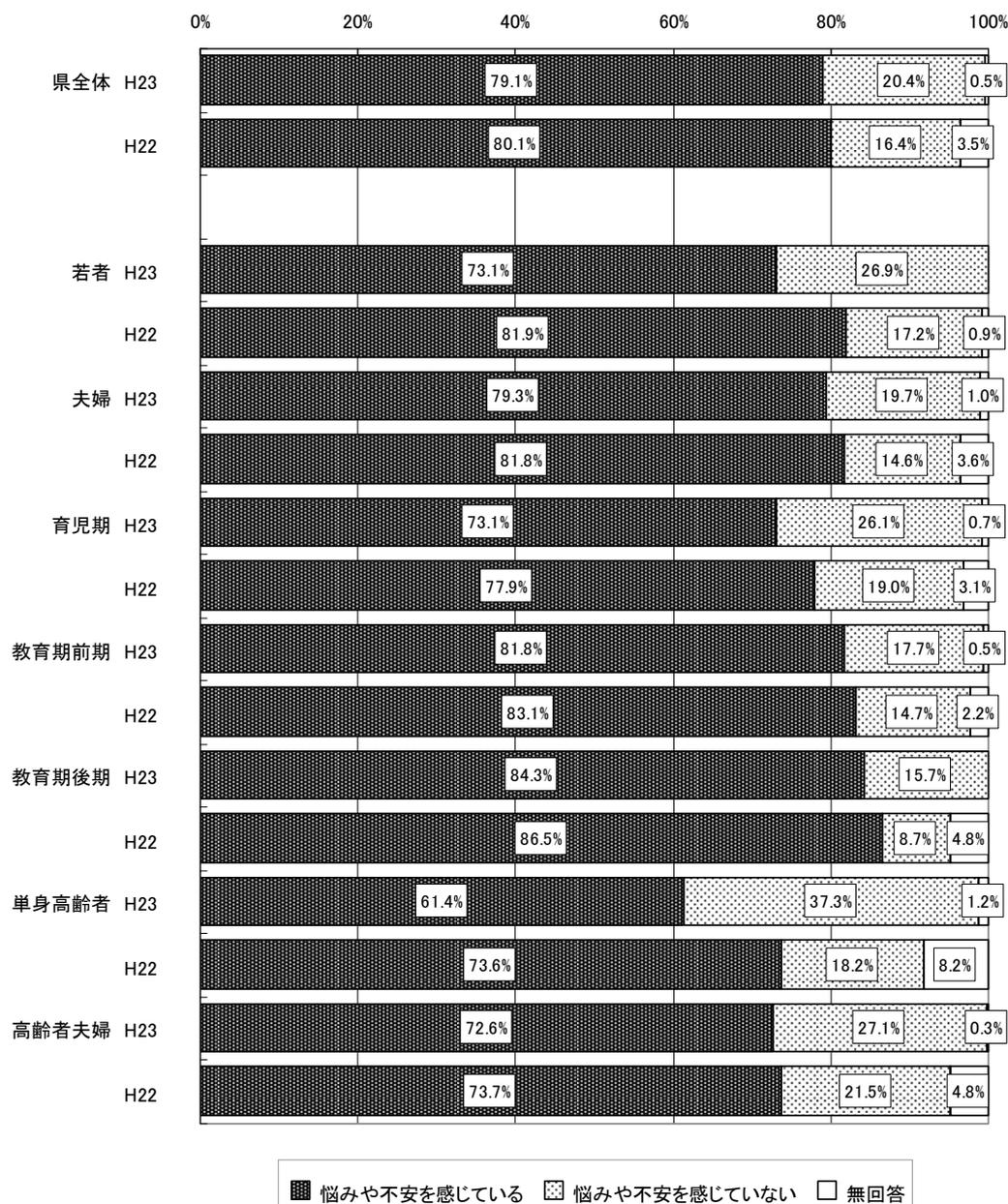
平成22年度と比較すると、男女ともに「悩みや不安を感じている」人が減少しています。

■年齢別

「40歳代」(81.3%)、「50歳代」(85.1%)及び「60歳代」(80.8%)では、「悩みや不安を感じている」人が80%以上を占めています。

平成22年度と比較すると、「30歳代」(1.3ポイント)、「60歳代」(0.4ポイント)で「悩みや不安を感じている」人が増加していますが、他の年代では減少しています。

図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（単数回答／県全体、ライフステージ別）



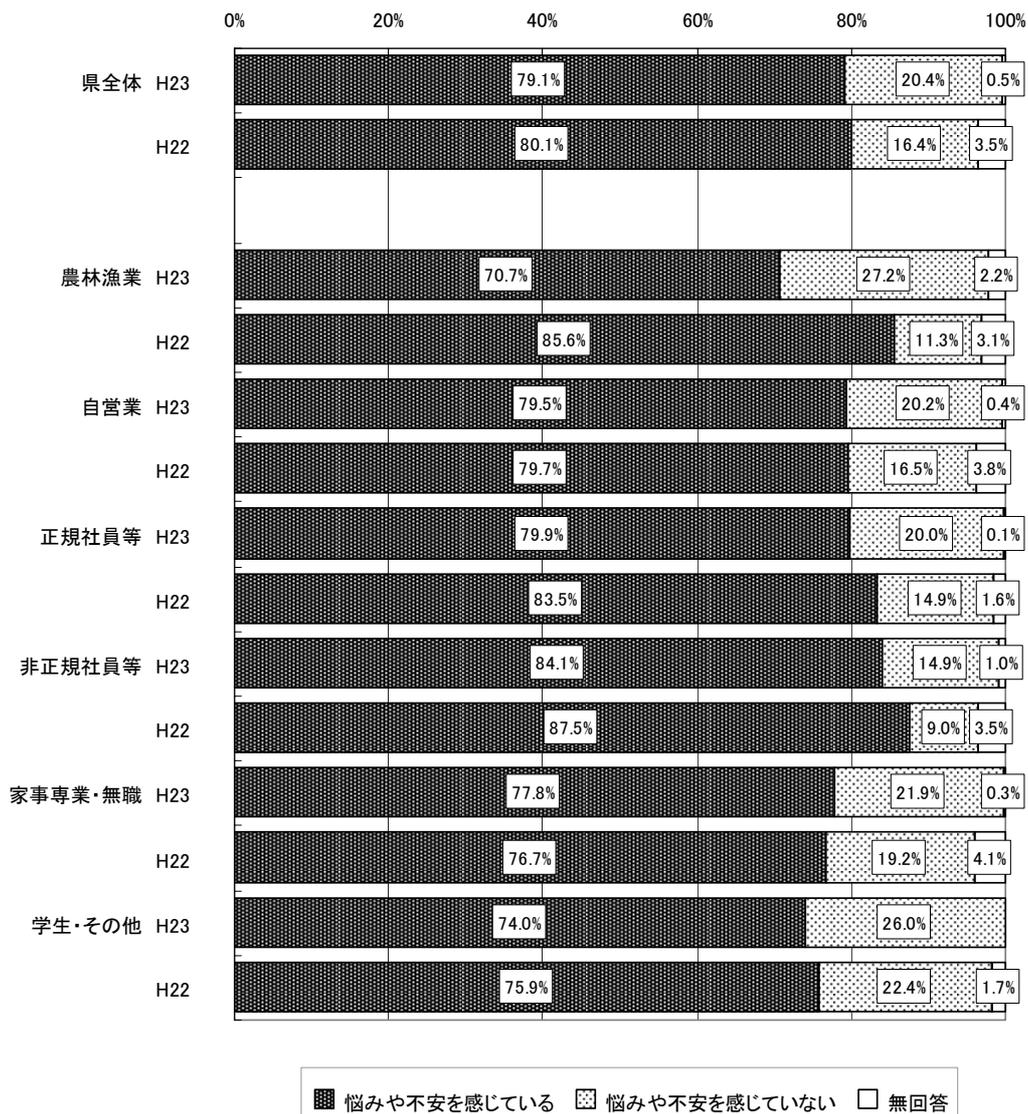
(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ライフステージ別

「教育期前期」(81.8%)と「教育期後期」(84.3%)では、「悩みや不安を感じている」人が80%以上を占めており、他のライフステージに比べてやや多くなっています。

平成22年度と比較すると、全てのライフステージで「悩みや不安を感じている」人が減少しており、特に「単身高齢者」(12.2ポイント)では減少幅が大きくなっています。

図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

「悩みや不安を感じている」人は、「非正規社員等」（84.1%）で最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、「悩みや不安を感じている」人が増加したのは「家事専業・無職」（1.1ポイント増）のみで、他の職業では減少しています。特に「農林漁業」（14.9ポイント）では減少幅が大きくなっています。

1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容

図表 日頃の生活での悩みや不安の内容（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別、職業別）

（上段：平成23年度結果、下段：前年度からの増減値）

	老後の生活設計について	自分の健康について	今後の収入や資産の見通しについて	家族の健康について	現在の収入や資産について	家族の生活上（進学、就職、結婚など）の問題について	自分の生活上（進学、就職、結婚など）の問題について	勤務先での仕事や人間関係について	家族・親族間の人間関係について	事業や家業の経営上の問題について	近隣・地域との関係について	その他
県全体	58.5%	57.0%	54.3%	52.1%	35.1%	30.2%	14.7%	12.6%	12.2%	10.0%	8.8%	3.4%
地域別												
地域1(北部)	60.8%	56.8%	56.9%	51.8%	34.7%	31.0%	14.5%	13.0%	11.8%	10.2%	8.3%	3.6%
地域2(西部)	56.2%	59.0%	56.7%	55.2%	34.3%	29.0%	17.6%	12.9%	16.2%	9.5%	10.0%	2.4%
地域3(中部)	55.1%	54.9%	52.8%	53.2%	37.6%	30.0%	16.5%	12.2%	11.6%	9.2%	8.8%	2.2%
地域4(東部)	58.2%	55.4%	54.9%	51.1%	37.0%	29.9%	12.5%	12.5%	12.0%	9.2%	8.7%	4.3%
地域5(南東部)	57.5%	66.4%	40.4%	43.2%	30.1%	27.4%	8.9%	8.9%	10.3%	8.9%	10.3%	8.2%
地域6(南西部)	63.6%	55.8%	49.4%	58.4%	31.2%	29.9%	13.0%	16.9%	14.3%	18.2%	10.4%	1.3%
性別												
男性	58.2%	56.6%	56.5%	48.7%	38.7%	26.7%	15.0%	14.8%	9.7%	12.1%	9.8%	3.3%
女性	58.8%	57.3%	52.6%	55.0%	32.2%	33.2%	14.4%	10.8%	14.3%	8.2%	7.9%	3.5%
年齢別												
20歳代	23.6%	23.6%	55.7%	30.5%	43.1%	17.2%	63.8%	24.7%	11.5%	2.3%	5.2%	2.9%
30歳代	40.8%	41.8%	65.4%	43.8%	48.4%	24.2%	32.7%	25.2%	12.4%	7.2%	8.5%	2.0%
40歳代	58.0%	48.7%	64.7%	47.2%	35.8%	47.9%	14.4%	18.0%	13.7%	12.1%	8.5%	2.6%
50歳代	69.8%	59.7%	62.7%	57.0%	35.4%	42.0%	8.2%	14.3%	11.6%	11.0%	7.4%	3.8%
60歳代	70.3%	68.5%	49.8%	59.1%	31.1%	24.1%	1.5%	3.5%	10.2%	14.1%	8.7%	3.7%
70歳以上	59.2%	77.0%	26.1%	58.9%	23.9%	13.8%	2.1%	0.0%	14.4%	6.4%	13.5%	5.2%
ライフステージ別												
若者	24.1%	24.7%	56.0%	31.3%	43.4%	17.5%	65.1%	23.5%	11.4%	2.4%	4.8%	3.0%
夫婦	74.0%	64.5%	55.8%	60.7%	37.6%	16.5%	4.5%	7.9%	12.0%	9.1%	7.0%	4.1%
育児期	38.8%	31.6%	64.3%	48.0%	57.1%	24.5%	11.2%	19.4%	24.5%	12.2%	11.2%	3.1%
教育期前期	50.0%	41.6%	67.4%	43.2%	41.9%	52.6%	11.0%	17.1%	13.2%	13.9%	11.0%	2.3%
教育期後期	65.6%	51.0%	66.8%	49.8%	32.4%	63.6%	6.7%	15.8%	8.7%	9.9%	7.5%	2.0%
単身高齢者	58.8%	78.4%	25.5%	7.8%	19.6%	5.9%	3.9%	2.0%	13.7%	2.0%	15.7%	9.8%
高齢者夫婦	60.1%	78.1%	30.5%	69.1%	24.5%	8.2%	0.4%	0.9%	9.9%	7.3%	12.9%	4.7%
職業別												
農林漁業	61.5%	55.4%	52.3%	50.8%	52.3%	27.7%	3.1%	0.0%	9.2%	40.0%	15.4%	3.1%
自営業	63.4%	57.1%	60.0%	45.9%	41.0%	25.4%	6.3%	3.4%	10.7%	50.7%	6.3%	3.9%
正規社員等	55.8%	46.9%	61.2%	46.5%	34.9%	34.7%	22.4%	31.7%	10.2%	3.5%	7.6%	2.0%
非正規社員等	63.2%	52.2%	62.1%	53.3%	41.4%	37.5%	18.2%	14.5%	12.6%	3.7%	7.6%	3.2%
家事専業・無職	58.4%	69.9%	44.9%	59.5%	29.9%	26.8%	8.1%	0.5%	14.3%	4.1%	10.9%	4.6%
学生・その他	39.0%	42.9%	50.6%	36.4%	29.9%	13.0%	36.4%	10.4%	13.0%	22.1%	5.2%	3.9%

（注）集計結果は「県全体」の平成23年度の結果が多い項目順（「その他」を除く）に並べている。
 太字は「その他」を除いた平成23年度の結果の各属性区分の上位3項目（斜体は同率）を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成22年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。
 母数は「悩みや不安を感じている」と回答した人数であり、4～9ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

■県全体

日頃の生活で「悩みや不安を感じている」人に対して、その内容をたずねたところ、「老後の生活設計について」(58.5%)が最も多く、次いで「自分の健康について」(57.0%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(54.3%)と続いています。上位2項目は前回と同じ項目となっており、その他の項目についても大きな順位変動はありません。

平成22年度と比較すると、12項目中8項目で増加しており、特に「今後の収入や資産の見通しについて」は3.4ポイント増加しています。

■地域別

「地域2(西部)」と「地域5(南東部)」を除く地域で「老後の生活設計について」が最も多くなっています。「地域2(西部)」と「地域5(南東部)」では「自分の健康について」が最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、「地域6(南西部)」の「現在の収入や資産について」の増加の幅が11.5ポイントと最も大きくなっており、増加した項目数も多くなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は、「地域1(北部)」の「今後の収入や資産の見通しについて」、「地域4(東部)」の「今後の収入や資産の見通しについて」・「家族の健康について」・「家族の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「地域5(南東部)」の「自分の健康について」・「家族の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「地域6(南西部)」の「老後の生活設計について」・「今後の収入や資産の見通しについて」・「家族の健康について」・「勤務先での仕事や人間関係について」・「事業や家業の経営上の問題について」・「家族・親族間の人間関係について」となっています。

■性別

上位3項目については、「県全体」の傾向と大差はありませんが、「女性」では「家族の健康について」が第3位となっています。

平成22年度と比較すると、「男性」の「現在の収入や資産について」(6.2ポイント)、「今後の収入や資産の見通しについて」(5.0ポイント)で5ポイント以上増加しています。

■年齢別

「20歳代」では「自分の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「30歳代」と「40歳代」では「今後の収入や資産の見通しについて」、「50歳代」と「60歳代」では「老後の生活設計について」、「70歳以上」では「自分の健康について」がそれぞれ最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、「30歳代」の「自分の健康について」が8.4ポイントと最も増加しています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は、「40歳代」の「家族の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「50歳代」の「勤務先での仕事や人間関係について」、「60歳代」の「今後の収入や資産の見通しについて」となっています。

■ライフステージ別

「若者」では「自分の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「夫婦」では「老後の生活設計について」、「育児期」、「教育期前期」及び「教育期後期」では「今後の収入や資産の見通しについて」、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「自分の健康について」がそれぞれ最も多くなっており、ライフステージによって悩みや不安の違いが見られます。

平成22年度と比較すると、「育児期」の「家族・親族間の人間関係について」の増加の幅が11.9ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は、「若者」の「現在の収入や資産について」、「夫婦」の「自分の健康について」・「現在の収入や資産について」、「育児期」の「現在の収入や資産について」、「教育期後期」の「家族の生活上(進学、就職、結婚など)

の問題について」、「高齢者夫婦」の「自分の健康について」となっています。

■職業別

「農林漁業」、「自営業」及び「非正規社員等」では「老後の生活設計について」、「正規社員等」と「学生・その他」では「今後の収入や資産の見通しについて」、「家事専業・無職」では「自分の健康について」がそれぞれ最も多くなっています。

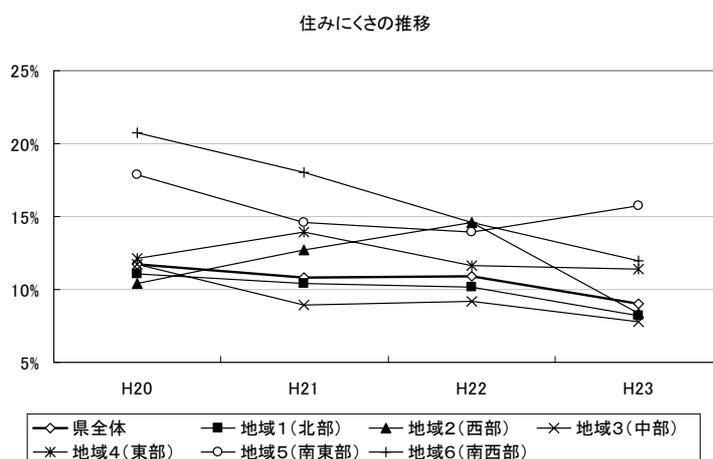
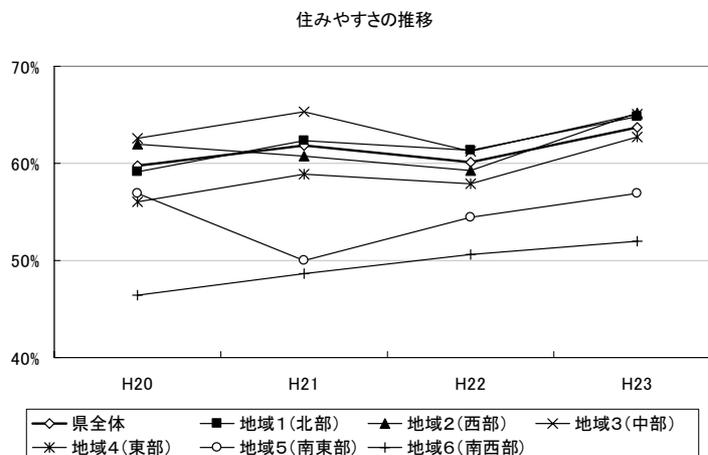
平成22年度と比較すると、「農林漁業」の「現在の収入や資産について」の増加の幅が17.4ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「農林漁業」の「今後の収入や資産の見通しについて」・「家族の生活上（進学、就職、結婚など）の問題について」・「事業や家業の経営上の問題について」、「自営業」の「自分の健康について」・「今後の収入や資産の見通しについて」、「正規社員等」の「老後の生活設計について」、「非正規社員等」の「自分の健康について」・「家族の健康について」、「学生・その他」の「事業や家業の経営上の問題について」となっています。

1-6 奈良県の住みやすさの評価

(1) 経年比較

図表 奈良県の住みやすさの評価（経年比較／県全体、地域別）

		住みやすい	住みにくい
県全体	H20	59.7%	11.7%
	H21	61.9%	10.8%
	H22	60.1%	10.9%
	H23	63.7%	9.0%
地域1(北部)	H20	59.1%	11.1%
	H21	62.4%	10.4%
	H22	61.4%	10.2%
	H23	64.8%	8.2%
地域2(西部)	H20	62.0%	10.4%
	H21	60.7%	12.7%
	H22	59.3%	14.6%
	H23	65.2%	8.4%
地域3(中部)	H20	62.6%	11.7%
	H21	65.3%	8.9%
	H22	61.2%	9.1%
	H23	65.1%	7.8%
地域4(東部)	H20	56.1%	12.1%
	H21	58.9%	13.9%
	H22	57.9%	11.6%
	H23	62.7%	11.3%
地域5(南東部)	H20	56.9%	17.9%
	H21	50.0%	14.6%
	H22	54.4%	13.9%
	H23	56.9%	15.7%
地域6(南西部)	H20	46.4%	20.7%
	H21	48.6%	18.0%
	H22	50.6%	14.6%
	H23	52.0%	12.0%



(注) 上記図表は、問6を「住みやすい」（「とても住みやすい」＋「どちらかといえば住みやすい」）と「住みにくい」（「どちらかといえば住みにくい」＋「とても住みにくい」）に再集計した結果である。
母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

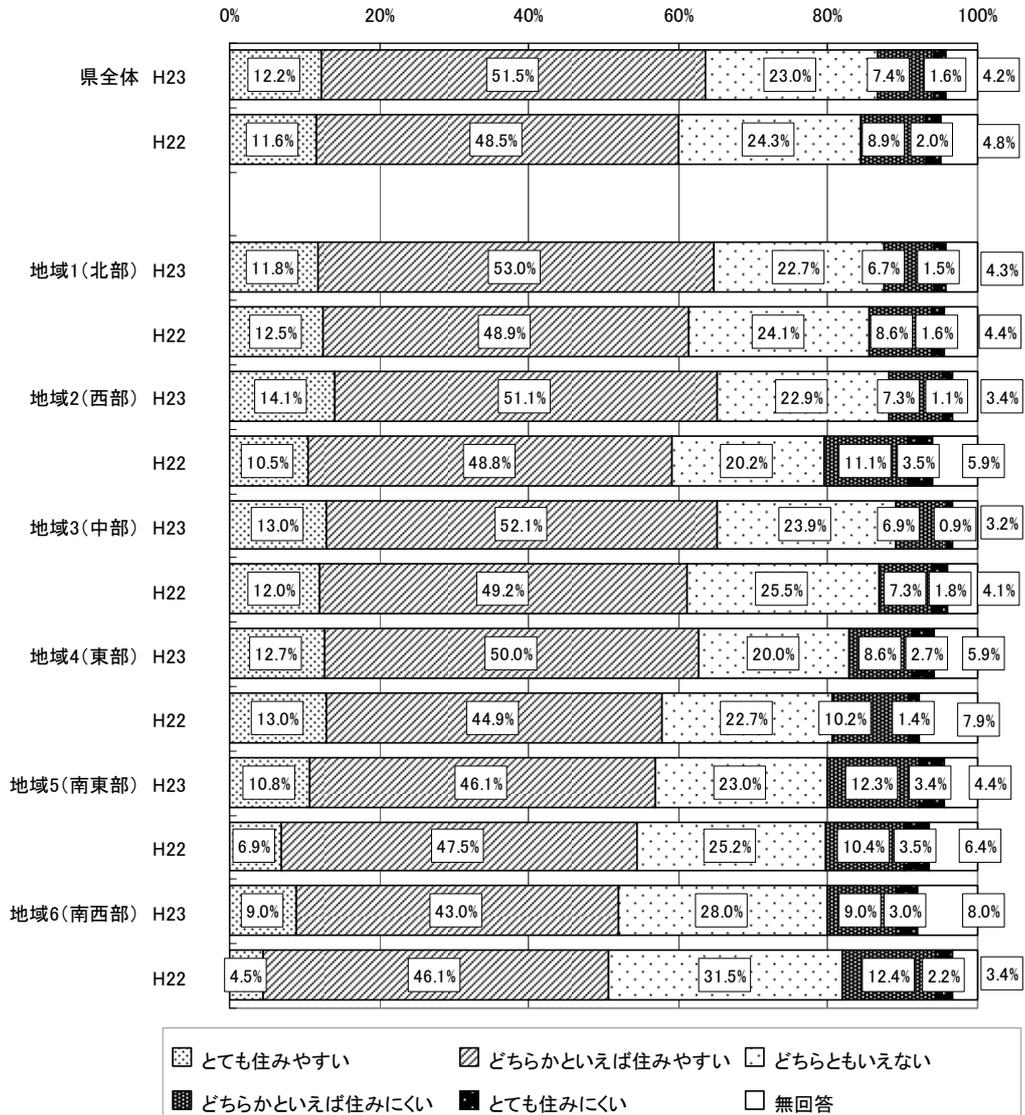
平成20年度から平成23年度にかけて奈良県が「住みやすい」と感じている人は60%前後で推移しています。また「住みにくい」と感じている人は、平成22年度以前は10%を超えていましたが、平成22年度から平成23年度にかけて1.9ポイント減少し9.0%となりました。

■地域別

「地域6（南西部）」では、奈良県が「住みやすい」と感じている人が毎年増加し続けています。また、「地域1（北部）」と「地域6（南西部）」では、「住みにくい」と感じている人が毎年減少し続けています。

(2) 今年度調査結果

図表 奈良県の住みやすさの評価（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 県全体

奈良県の住みやすさの評価については、63.7%の人が「住みやすい」（「とても住みやすい」＋「どちらかといえば住みやすい」）と感じており、「住みにくい」（「とても住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」）と感じている人は9.0%となっています。

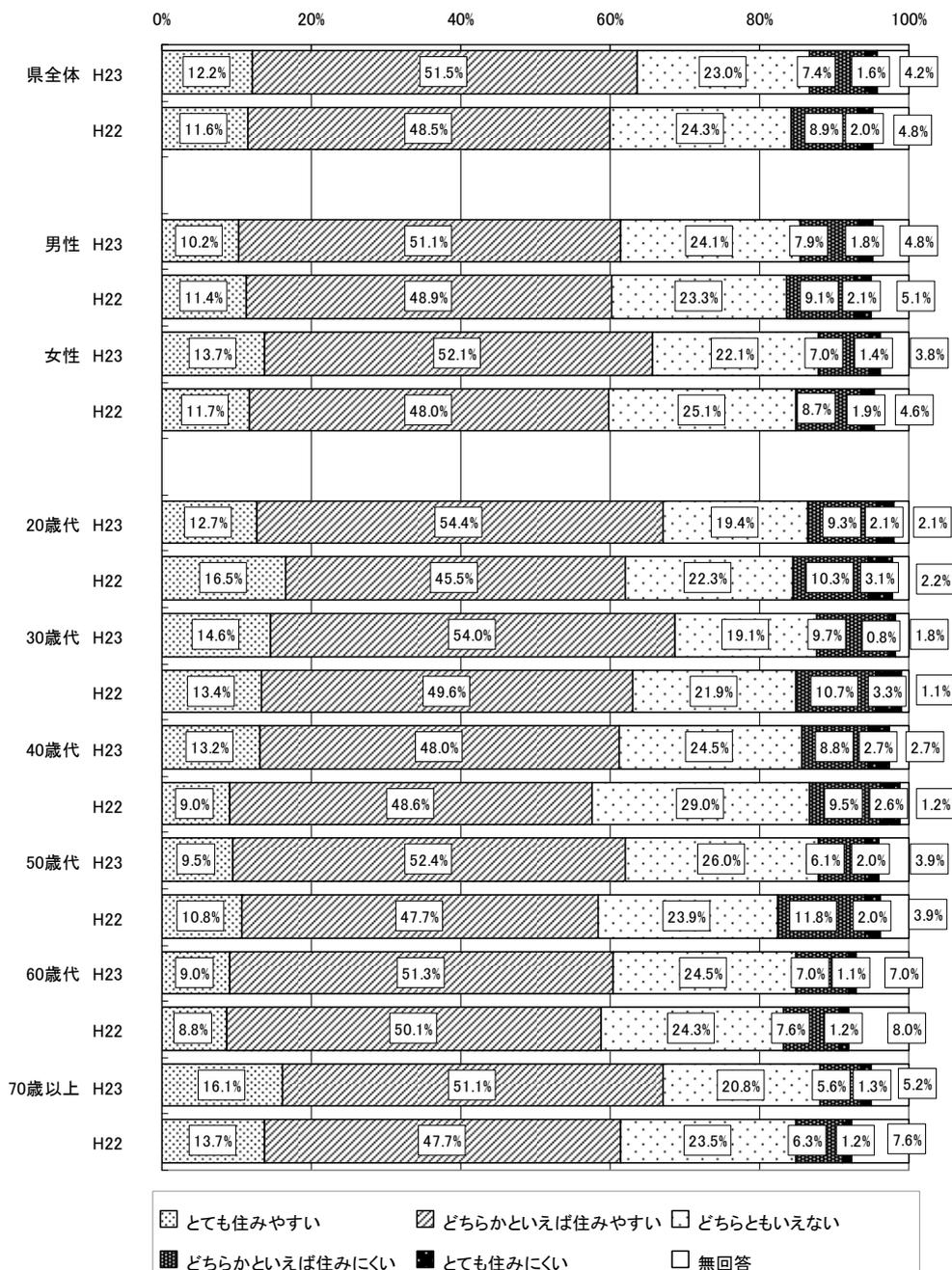
平成22年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は60.1%から3.6ポイント増加し、「住みにくい」と感じている人は10.9%から1.9ポイント減少しています。

■ 地域別

「住みやすい」と感じている人は、「地域1(北部)」（64.8%）、「地域2(西部)」（65.2%）及び「地域3(中部)」（65.1%）で「県全体」よりも多くなっています。一方、「住みにくい」と感じている人は、「地域5(南東部)」（15.7%）で最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は全ての地域で増加しており、特に「地域2(西部)」（5.9ポイント）で最も増加しています。

図表 奈良県の住みやすさの評価（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「住みやすい」と感じている人は、「女性」(65.8%)が「男性」(61.3%)に比べて多くなっています。

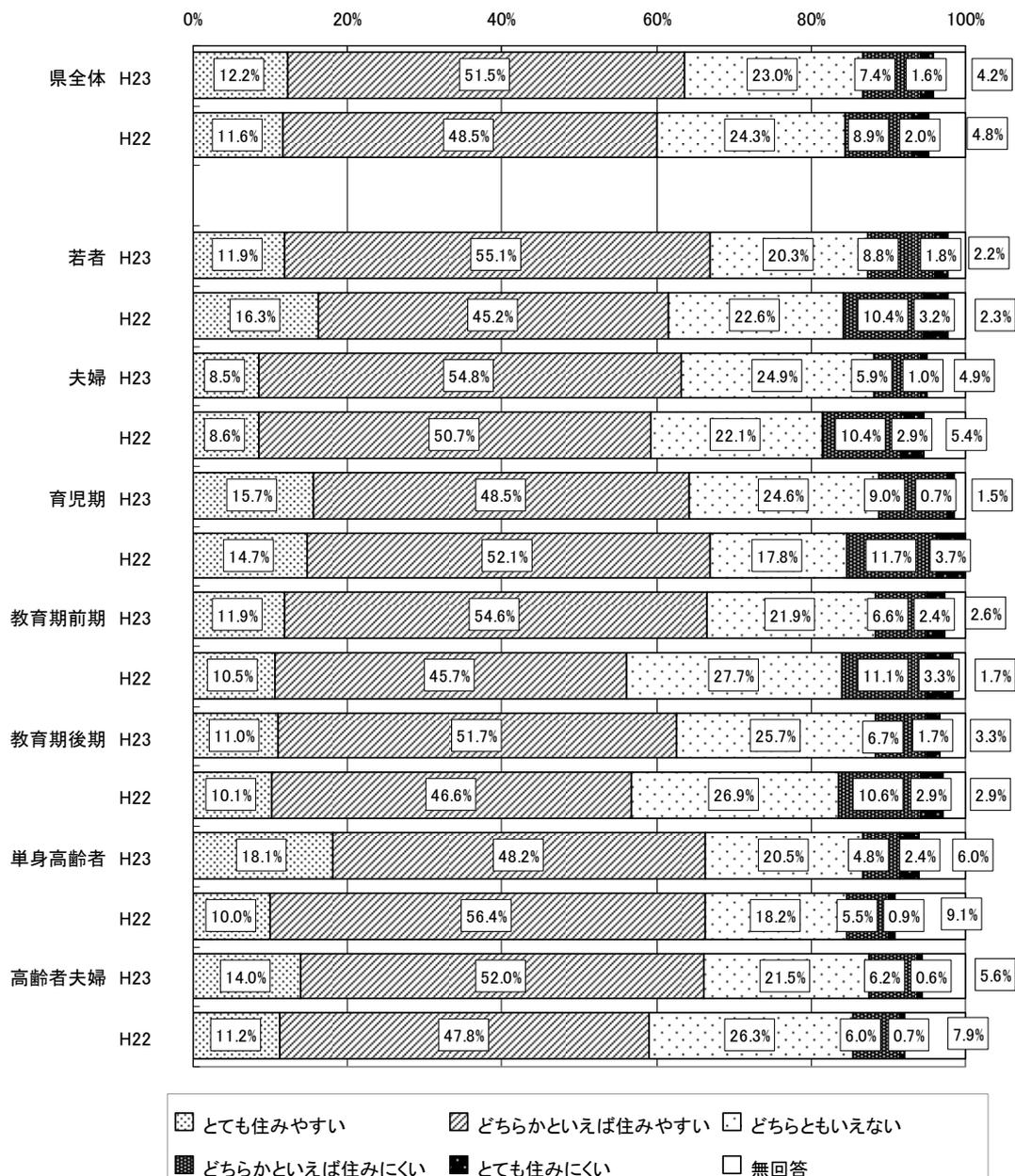
平成22年度と比較すると、男女ともに「住みやすい」と感じている人が増加しています。

■年齢別

「住みやすい」と感じている人は「40歳代」(61.2%)、「50歳代」(61.9%)及び「60歳代」(60.3%)で「県全体」よりも少なくなっています。一方、「住みにくい」と感じている人は、「50歳代」以上(50歳代：8.1%、60歳代：8.1%、70歳以上：6.9%)で少なく、「40歳代」以下(20歳代：11.4%、30歳代：10.5%、40歳代：11.5%)で多くなっています。

平成22年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は全ての年齢層で増加しています。

図表 奈良県の住みやすさの評価（単数回答／県全体、ライフステージ別）



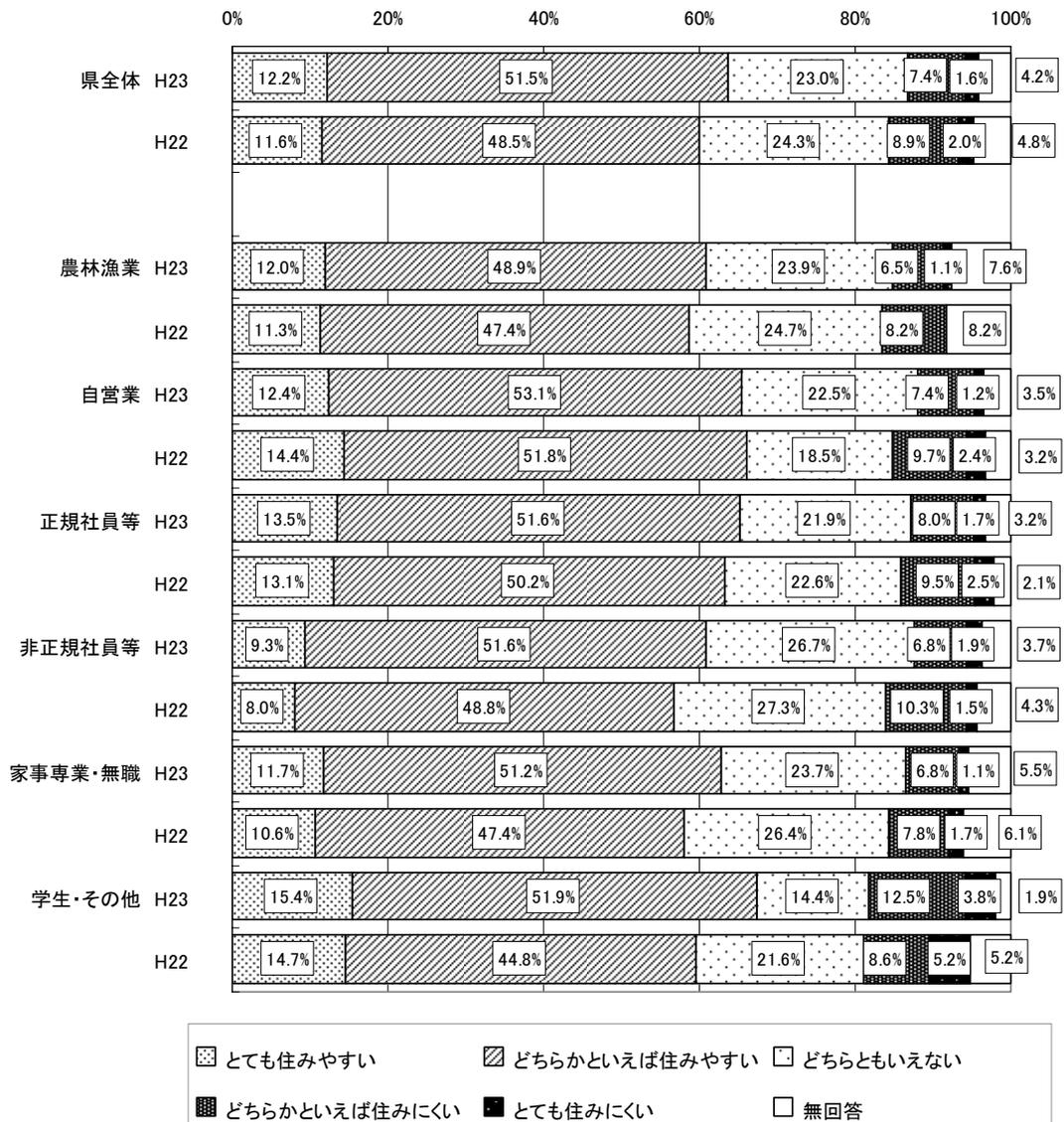
(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ライフステージ別

「住みやすい」と感じている人は、「若者」(67.0%)で最も多くなっています。その一方で「住みにくい」と感じている人は、「若者」(10.6%)で最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、「育児期」(2.6ポイント減)と「単身高齢者」(0.1ポイント減)を除く全てのライフステージで「住みやすい」と感じている人が増加しています。

図表 奈良県の住みやすさの評価（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

「住みやすい」と感じている人は「学生・その他」(67.3%)で最も多く、次いで「自営業」(65.5%)、「正規社員等」(65.1%)となっていますが、その他の職業では「県全体」よりも少なくなっています。

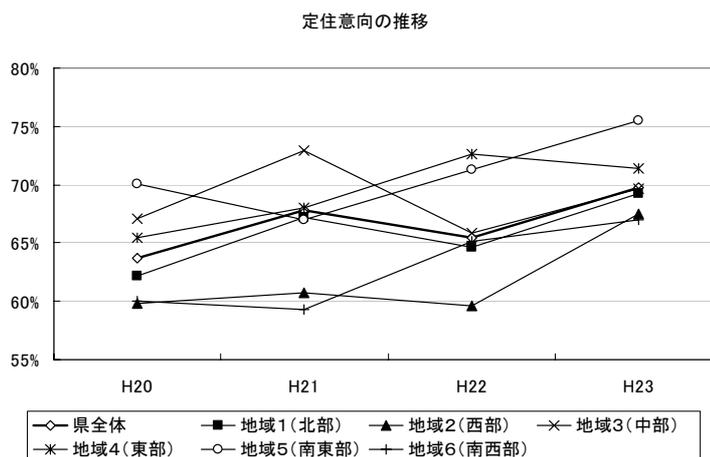
平成22年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は、「自営業」(0.7ポイント減)を除く全ての職業で増加しており、特に「学生・その他」(7.8ポイント)で増加幅が大きくなっています。

1-7 将来の奈良県での定住意向

(1) 経年比較

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、地域別）

		住 み た い
県全体	H20	63.7%
	H21	67.9%
	H22	65.5%
	H23	69.8%
地域1(北部)	H20	62.2%
	H21	67.2%
	H22	64.6%
	H23	69.3%
地域2(西部)	H20	59.8%
	H21	60.7%
	H22	59.6%
	H23	67.5%
地域3(中部)	H20	67.1%
	H21	72.9%
	H22	65.9%
	H23	69.7%
地域4(東部)	H20	65.4%
	H21	68.0%
	H22	72.6%
	H23	71.4%
地域5(南東部)	H20	70.1%
	H21	67.0%
	H22	71.3%
	H23	75.5%
地域6(南西部)	H20	60.0%
	H21	59.3%
	H22	65.2%
	H23	67.0%



(注) 上記図表は、問7を「住みたい」（「ずっと住みたい」＋「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」）に再集計した結果である。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

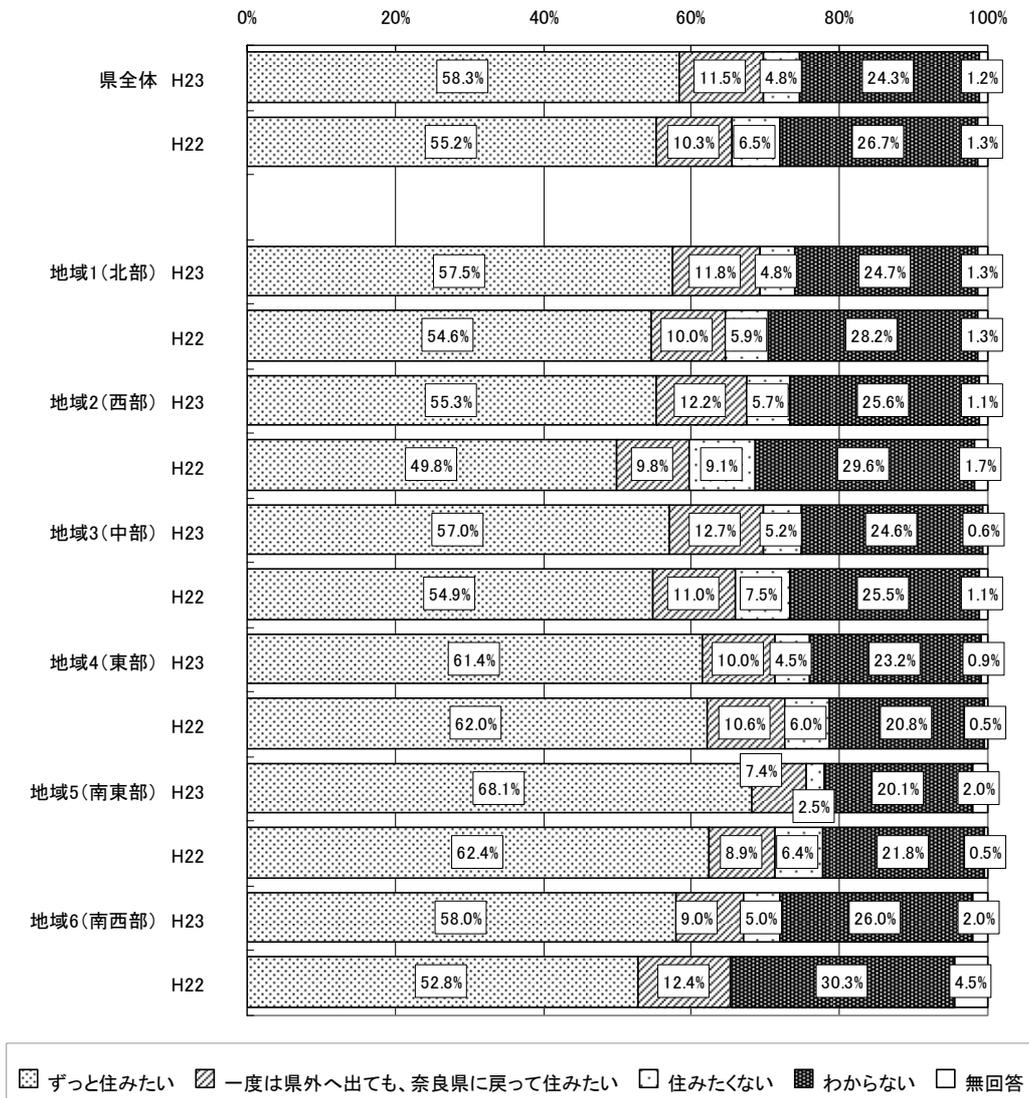
奈良県に「住みたい」と考えている人は平成22年度まで65%前後で推移してきましたが、平成23年度には70%近くまで増加しています。

■地域別

平成22年度までは、「地域2(西部)」（平成20年度：59.8%、平成22年度：59.6%）と「地域6(南西部)」（平成21年度：59.3%）で定住意向が60%を下回っていましたが、平成23年度では全ての地域で定住意向が65%を超えています。

(2) 今年度調査結果

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

将来の奈良県での定住意向については、58.3%の人が「ずっと住みたい」と考えています。「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人を合わせると、69.8%の人が奈良県に「住みたい」（「ずっと住みたい」＋「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えています。

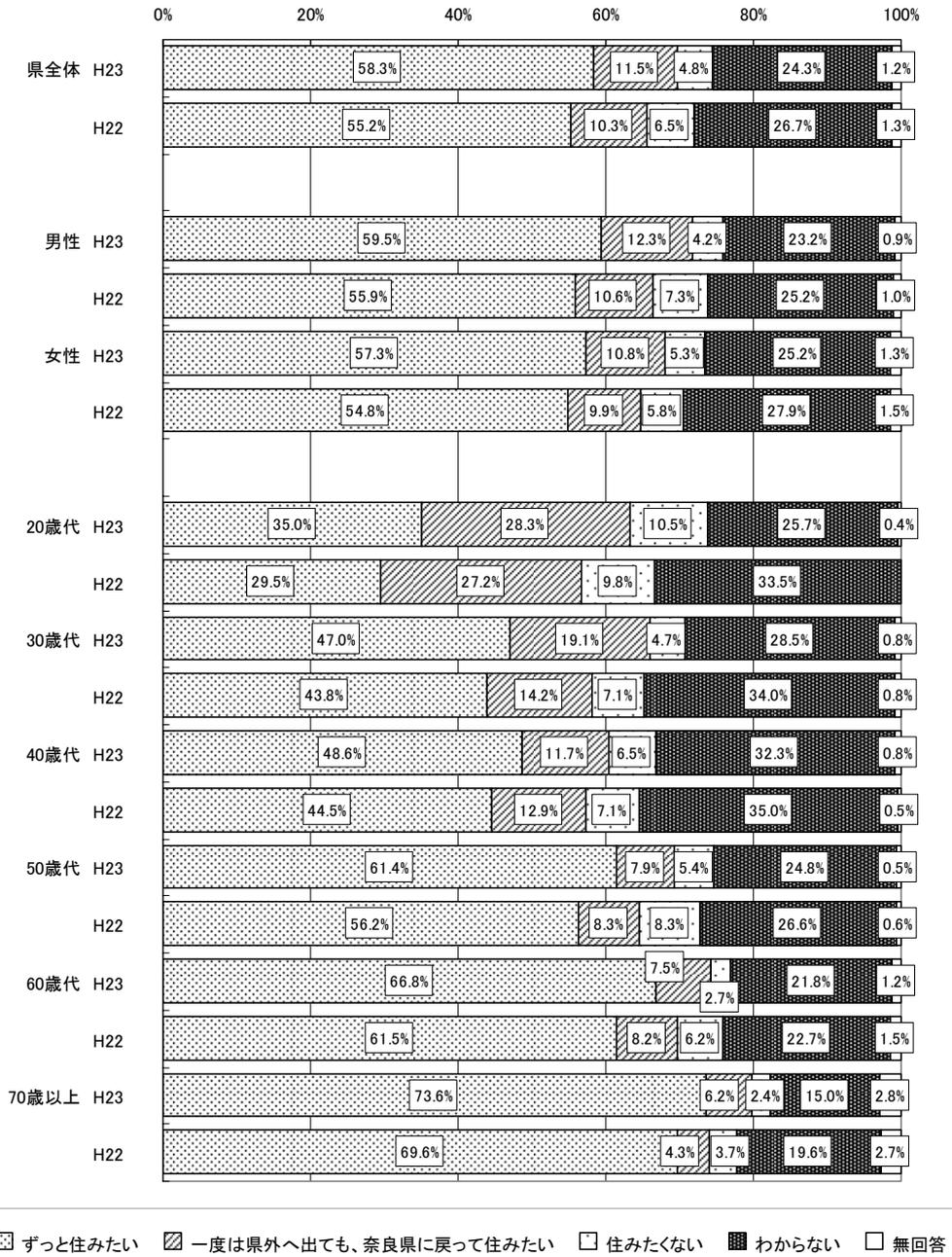
平成22年度と比較すると、「ずっと住みたい」が3.1ポイント、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」が1.2ポイント増加しており、「住みたい」は4.3ポイント増加しています。

■地域別

「ずっと住みたい」と考えている人は「地域5(南東部)」(68.1%)で最も多くなっています。また、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」を含めて「住みたい」と考えている人も「地域5(南東部)」(75.5%)で最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、「住みたい」と考えている人は、「地域4(東部)」で1.2ポイント減少した以外は、全ての地域で増加しています。

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

奈良県に「住みたい」と考えている人は、「男性」(71.8%)が「女性」(68.1%)に比べて多くなっています。

平成22年度と比較すると、男女ともに「住みたい」と考えている人が増加しています。

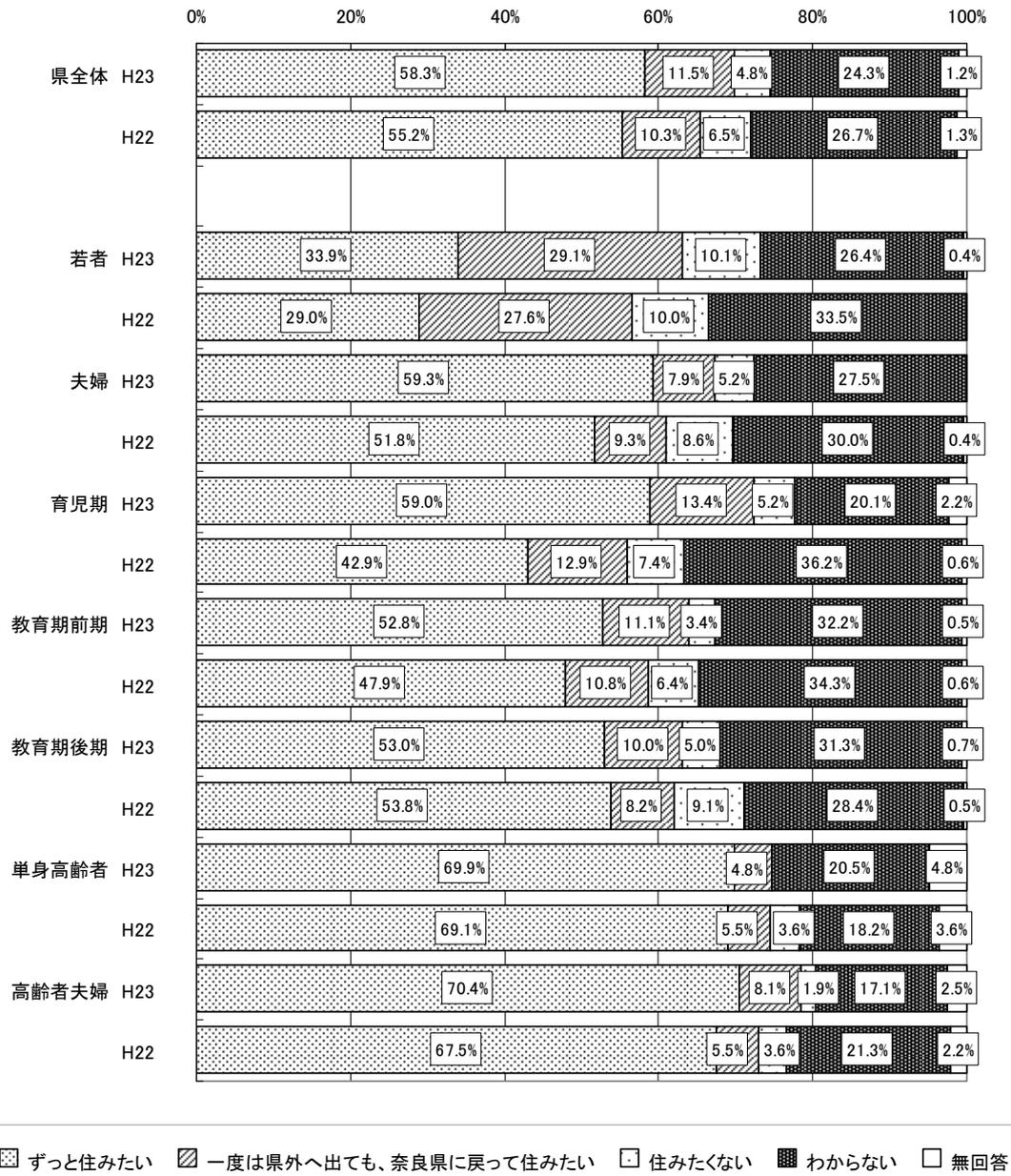
■年齢別

「ずっと住みたい」と考えている人は年齢層が高いほど多く、「50歳代」以上では50%以上を占めています。

「ずっと住みたい」と考えている人は「20歳代」(35.0%)で最も少なくなっています。一方で、「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は「20歳代」(28.3%)で最も多く、将来的に奈良県で「住みたい」と考えている「20歳代」は63.3%となっています。

平成22年度と比較すると、全ての年齢層で「住みたい」と考えている人が増加しています。

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、ライフステージ別）



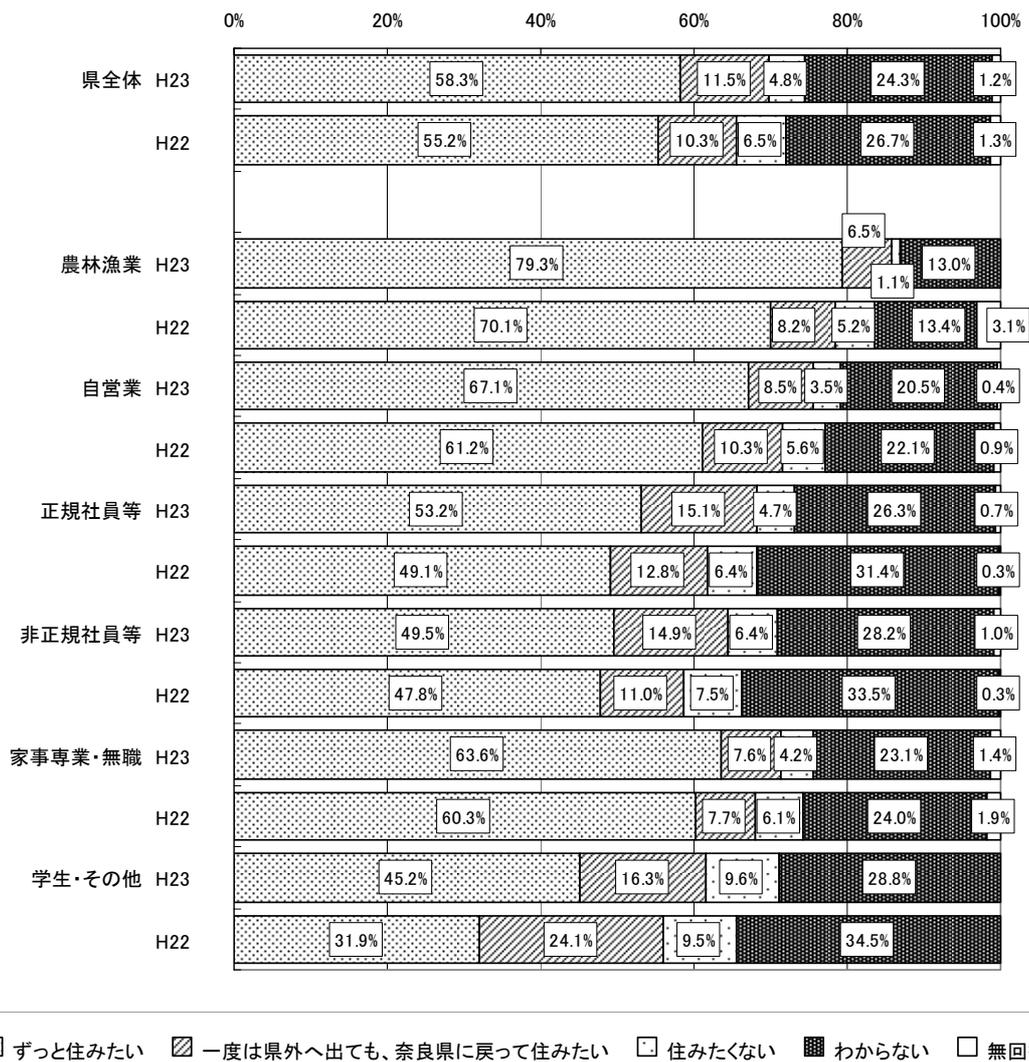
(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ライフステージ別

「若者」では「ずっと住みたい」（33.9%）と考えている人が最も少ない一方で、「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」（29.1%）と考える人は最も多く、将来的に奈良県で「住みたい」と考えている人は63.0%となっています。

平成22年度と比較すると、全てのライフステージで「住みたい」と考えている人は増加しています。

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

「住みたい」と考えている人は、「農林漁業」（85.8％）で最も多くなっています。その一方で、「正規社員等」（68.3％）、「非正規社員等」（64.4％）及び「学生・その他」（61.5％）では、「県全体」に比べ少なくなっています。

平成22年度と比較すると、全ての職業で「住みたい」と考えている人は増加しています。

1-8 将来的に奈良県に定住したくない理由

(1) 今年度調査結果

図表 将来的に奈良県に定住したくない理由

(複数回答/県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別、職業別)

(上段：平成23年度結果、下段：前年度からの増減値)

	医療が充実していないから	買い物など日常生活環境が整っていないから	福祉サービスが充実していないから	通勤・通学に不便だから	身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから	奈良県や身近な地域に愛着を感じないから	災害を防ぐための対策が不十分だから	教育環境が充実していないから	治安を守るための対策が不十分だから	家賃など住居費が高いから	騒音・振動・大気汚染など周辺環境がよくないから	緑などの自然環境がよくないから	その他	
県全体	47.1% ▲1.6	37.4% ▲1.8	30.9% ▲1.2	30.6% ▲0.2	21.0% ▲2.2	18.9% ▲1.8	17.8% ▲5.4	13.7% ▲0.1	11.3% ▲0.8	8.2% ▲0.1	4.7% ▲2.5	2.4% ▲1.1	24.6% ▲2.2	
地域別	地域1(北部)	46.5% ▲4.4	32.9% ▲2.2	31.1% ▲1.7	28.2% ▲4.9	22.2% ▲1.8	18.3% ▲5.0	16.2% ▲4.4	12.8% ▲1.0	7.0% ▲2.0	6.3% ▲2.9	1.8% ▲3.0	27.9% ▲4.4	
	地域2(西部)	50.0% ▲2.3	43.9% ▲2.5	36.6% ▲3.3	29.3% ▲0.5	14.6% ▲7.0	25.6% ▲7.6	19.5% ▲5.1	9.8% ▲5.6	6.1% ▲1.0	7.3% ▲2.6	0.0% ▲4.5	15.9% ▲10.3	
	地域3(中部)	36.8% ▲8.2	28.2% ▲7.3	28.2% ▲9.6	23.8% ▲9.6	19.8% ▲3.3	24.8% ▲3.4	14.9% ▲6.3	17.3% ▲3.7	11.4% ▲0.7	10.4% ▲1.4	4.0% ▲1.2	5.0% ▲2.4	25.2% ▲0.9
	地域4(東部)	60.7% ▲21.0	52.5% ▲2.5	34.4% ▲10.3	45.9% ▲0.7	26.2% ▲0.4	13.1% ▲4.1	21.3% ▲7.5	13.1% ▲7.6	13.1% ▲6.2	6.6% ▲5.5	1.6% ▲5.3	1.6% ▲1.6	24.6% ▲10.8
	地域5(南東部)	60.9% ▲1.2	69.6% ▲8.2	30.4% ▲2.9	45.7% ▲7.1	13.0% ▲2.7	4.3% ▲7.9	28.3% ▲1.9	10.9% ▲3.2	6.5% ▲3.0	13.0% ▲7.8	4.3% ▲2.6	2.2% ▲2.2	13.0% ▲0.8
	地域6(南西部)	67.7% ▲13.7	58.1% ▲4.9	25.8% ▲11.2	54.8% ▲19.2	32.3% ▲6.3	3.2% ▲4.2	29.0% ▲14.2	16.1% ▲2.4	0.0% ▲3.7	6.5% ▲12.1	0.0% ▲7.4	0.0% ▲0.0	19.4% ▲8.2
性別	男性	47.7% ▲1.4	33.6% ▲4.5	31.3% ▲3.2	32.8% ▲4.7	22.7% ▲0.4	20.1% ▲3.1	22.7% ▲10.5	12.9% ▲2.9	12.9% ▲0.9	8.3% ▲0.2	3.7% ▲5.4	1.1% ▲2.9	25.0% ▲0.5
	女性	46.7% ▲1.7	40.3% ▲0.1	30.8% ▲0.7	29.1% ▲3.0	19.8% ▲4.1	18.1% ▲0.7	14.1% ▲1.8	14.3% ▲2.0	10.1% ▲0.8	7.9% ▲0.2	5.5% ▲0.2	3.1% ▲0.0	24.4% ▲3.6
年齢別	20歳代	38.4% ▲0.2	33.7% ▲11.6	16.3% ▲6.4	43.0% ▲2.3	18.6% ▲5.1	14.0% ▲1.5	11.6% ▲5.4	17.4% ▲2.1	12.8% ▲6.6	8.1% ▲0.9	2.3% ▲0.8	23.3% ▲1.3	
	30歳代	48.0% ▲3.4	37.0% ▲4.3	21.3% ▲0.7	40.9% ▲4.9	29.1% ▲1.1	15.7% ▲4.9	10.2% ▲1.1	24.4% ▲0.4	11.0% ▲1.0	7.9% ▲0.8	1.6% ▲3.8	23.6% ▲2.4	
	40歳代	43.8% ▲3.1	30.3% ▲0.3	26.5% ▲0.6	32.4% ▲2.6	20.0% ▲0.2	26.5% ▲6.1	14.1% ▲5.6	18.9% ▲0.3	8.1% ▲0.8	9.2% ▲1.3	2.2% ▲4.1	28.6% ▲0.5	
	50歳代	47.6% ▲4.1	41.1% ▲4.4	35.7% ▲0.9	40.9% ▲5.7	20.8% ▲2.4	23.2% ▲0.5	17.9% ▲5.1	8.3% ▲0.8	8.9% ▲2.7	10.7% ▲0.8	3.0% ▲7.5	2.4% ▲2.3	25.6% ▲3.5
	60歳代	48.4% ▲3.5	35.7% ▲8.7	37.6% ▲3.1	21.0% ▲4.6	20.4% ▲2.1	16.6% ▲8.6	25.5% ▲11.6	5.7% ▲5.5	14.6% ▲6.1	7.0% ▲0.1	8.9% ▲0.7	3.8% ▲0.6	24.8% ▲1.4
	70歳以上	58.0% ▲14.8	53.1% ▲4.3	49.4% ▲11.1	19.8% ▲7.4	14.8% ▲8.0	7.4% ▲9.9	29.6% ▲11.1	7.4% ▲3.7	16.0% ▲0.0	3.7% ▲4.3	4.9% ▲3.1	1.2% ▲4.3	16.0% ▲4.3
ライフステージ別	若者	38.6% ▲1.1	33.7% ▲12.1	16.9% ▲5.0	42.2% ▲3.7	19.3% ▲4.7	13.3% ▲2.4	12.0% ▲5.8	18.1% ▲1.7	13.3% ▲7.0	8.4% ▲1.1	2.4% ▲0.7	2.4% ▲1.4	22.9% ▲2.1
	夫婦	44.0% ▲6.9	35.0% ▲0.7	22.0% ▲16.0	23.0% ▲2.0	17.0% ▲4.3	29.0% ▲6.8	19.0% ▲7.0	4.0% ▲3.4	10.0% ▲2.6	13.0% ▲4.7	6.0% ▲1.4	4.0% ▲1.2	37.0% ▲8.3
	育児期	41.2% ▲2.5	35.3% ▲1.5	32.4% ▲9.8	35.3% ▲2.9	17.6% ▲7.7	11.8% ▲12.2	5.9% ▲4.0	32.4% ▲0.0	2.9% ▲4.1	5.9% ▲0.2	2.9% ▲2.7	5.9% ▲1.2	32.4% ▲12.6
	教育期前期	54.1% ▲5.1	30.4% ▲1.1	23.0% ▲5.6	29.6% ▲3.0	24.4% ▲1.3	22.2% ▲1.1	10.4% ▲0.5	24.4% ▲4.8	13.3% ▲3.8	8.9% ▲1.4	4.4% ▲1.7	1.5% ▲0.6	23.7% ▲0.1
	教育期後期	46.8% ▲4.5	33.0% ▲1.0	27.5% ▲9.7	35.8% ▲1.2	19.3% ▲3.9	17.4% ▲9.5	15.6% ▲6.6	20.2% ▲7.4	4.6% ▲0.7	10.1% ▲3.7	1.8% ▲5.9	0.9% ▲0.4	26.6% ▲0.3
	単身高齢者	47.1% ▲22.1	64.7% ▲31.4	23.5% ▲9.8	23.5% ▲19.4	17.6% ▲7.4	17.6% ▲9.3	29.4% ▲8.6	0.0% ▲8.3	11.8% ▲3.4	11.8% ▲7.6	0.0% ▲4.2	5.9% ▲1.7	17.6% ▲11.5
高齢者夫婦	65.6% ▲16.5	45.9% ▲1.2	57.4% ▲12.2	19.7% ▲11.0	19.7% ▲4.4	8.2% ▲21.6	37.7% ▲17.5	6.6% ▲1.7	19.7% ▲1.5	3.3% ▲7.3	8.2% ▲0.5	0.0% ▲5.8	21.3% ▲8.8	
職業別	農林漁業	61.5% ▲22.6	38.5% ▲29.5	46.2% ▲29.5	53.8% ▲3.8	38.5% ▲16.2	7.7% ▲25.6	23.1% ▲12.0	30.8% ▲14.1	15.4% ▲4.3	0.0% ▲5.6	7.7% ▲3.4	0.0% ▲11.1	7.7% ▲3.4
	自営業	51.6% ▲9.1	45.2% ▲7.9	27.4% ▲7.7	27.4% ▲6.1	27.4% ▲10.4	29.0% ▲2.4	21.0% ▲10.3	11.3% ▲2.5	14.5% ▲1.4	9.7% ▲2.2	0.0% ▲7.4	3.2% ▲1.1	29.0% ▲2.4
	正規社員等	46.2% ▲1.4	30.1% ▲1.5	26.3% ▲4.0	35.6% ▲1.0	18.2% ▲5.6	18.2% ▲1.3	18.2% ▲10.9	18.2% ▲2.2	16.1% ▲0.6	9.7% ▲3.3	1.7% ▲6.1	1.7% ▲0.5	28.4% ▲3.7
	非正規社員等	41.3% ▲5.0	38.0% ▲2.3	28.5% ▲0.2	36.3% ▲0.9	21.8% ▲1.7	19.6% ▲4.8	13.4% ▲1.8	14.5% ▲0.1	9.5% ▲2.2	9.5% ▲3.9	6.7% ▲2.4	2.2% ▲0.2	22.3% ▲0.2
	家事専業・無職	52.1% ▲5.3	41.1% ▲1.8	37.7% ▲3.0	20.4% ▲5.2	17.7% ▲5.9	17.4% ▲2.5	19.2% ▲2.9	10.6% ▲2.2	12.8% ▲3.0	6.4% ▲0.4	7.2% ▲1.0	3.0% ▲1.9	23.4% ▲3.8
	学生・その他	37.5% ▲6.2	35.0% ▲1.6	27.5% ▲3.8	45.0% ▲1.6	37.5% ▲1.8	20.0% ▲6.1	15.0% ▲7.2	17.5% ▲2.7	12.5% ▲2.2	7.5% ▲3.9	2.5% ▲1.4	0.0% ▲0.0	25.0% ▲6.4

(注) 集計結果は「県全体」の平成23年度の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた平成23年度の結果の各属性区分の上位3項目(斜体は同率)を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成22年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

母数は「住みたくない」もしくは「わからない」と回答した人数であり、4~9ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

■県全体

将来的に奈良県に「住みたくない」人と「わからない」人に対して、その理由をたずねたところ、「医療が充実していないから」(47.1%)が最も多く、以下、「買物など日常の生活環境が整っていないから」(37.4%)、「福祉サービスが充実していないから」(30.9%)と続いています。

平成22年度と比較すると、上位6項目までが同じであり、その他の項目についても大きな順位変動はありません。

「その他」の意見では、「住みたくない」理由に「道路整備の遅れなどの道路問題」、「公共交通の便が悪い、料金が高い」などが、「わからない」理由に「出身地や親元、子供のところに引っ越すかもしれない」、「情報や住んだことがなく他県と比較できない」などが多く挙げられています。

■地域別

「地域1(北部)」、「地域2(西部)」、「地域3(中部)」、「地域4(東部)」及び「地域6(南西部)」では「医療が充実していないから」が、「地域5(南東部)」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」がそれぞれ最も多い理由となっています。

平成22年度と比較すると、「地域4(東部)」の「医療が充実していないから」の増加の幅が21.0ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「地域2(西部)」の「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」、「地域3(中部)」の「災害を防ぐための対策が不十分だから」、「地域4(東部)」の「福祉サービスが充実していないから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」・「治安を守るための対策が不十分だから」、「地域5(南東部)」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」・「通勤・通学に不便だから」・「家賃など住居費が高いから」、「地域6(南西部)」の「身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」となっています。

■性別

男女ともに「医療が充実していないから」が最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、「男性」で「災害を防ぐための対策が不十分だから」が10.5ポイント増加しています。

■年齢別

「20歳代」では「通勤・通学に不便だから」が、その他の年齢層では「医療が充実していないから」が最も多くなっています。また、「福祉サービスが充実していないから」や「災害を防ぐための対策が不十分だから」は年齢層が高いほど多い傾向となっています。

平成22年度と比較すると、「70歳以上」の「医療が充実していないから」の増加の幅が14.8ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「20歳代」の「災害を防ぐための対策が不十分だから」・「治安を守るための対策が不十分だから」、「40歳代」の「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」、「50歳代」の「災害を防ぐための対策が不十分だから」、「60歳代」の「災害を防ぐための対策が不十分だから」・「治安を守るための対策が不十分だから」、「70歳以上」の「福祉サービスが充実していないから」・「通勤・通学に不便だから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」となっています。

■ライフステージ別

「若者」では「通勤・通学に不便だから」、「単身高齢者」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」、その他のライフステージでは「医療が充実していないから」が最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、「単身高齢者」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」の増加の幅が31.4ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「若者」の「災害を防ぐための対策が不十分だから」・「治安を守るための対策が不十分だから」、「夫婦」の「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」、「育児期」の「福祉サービスが充実していないから」、「教育期前期」の「医療が充実していないから」、「教育期後期」の「災害を防ぐための対策が不十分だから」・「教育環境が充実していないから」、「単身高齢者」の「医療が充実していないから」・「通勤・通学に不便だから」・「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」・「家賃など住居費が高いから」、「高齢者夫婦」の「医療が充実していないから」・「福祉サービスが充実していないから」・「通勤・通学に不便だから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」となっています。

■職業別

「学生・その他」では「通勤・通学に不便だから」、その他の職業では「医療が充実していないから」が最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、「農林漁業」の「福祉サービスが充実していないから」の増加の幅が29.5ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「農林漁業」の「医療が充実していないから」・「身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」・「教育環境が充実していないから」、「自営業」の「医療が充実していないから」・「買物など日常の生活環境が整っていないから」・「通勤・通学に不便だから」・「身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」、「正規社員等」の「災害を防ぐための対策が不十分だから」、「家事専業・無職」の「医療が充実していないから」、「学生・その他」の「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」・「災害を防ぐための対策が不十分だから」となっています。

(2) 住みにくく移住したいと考えている人の理由

図表 住みにくく移住したいと考えている人の理由（設問間クロス／県全体）

順位	設問番号	問8 定住しない理由	件数
1	9	医療が充実していないから	48 59.3%
2	1	買物など日常の生活環境が整っていないから	46 56.8%
3	3	通勤・通学に不便だから	33 40.7%
4	10	福祉サービスが充実していないから	29 35.8%
5	2	奈良県や身近な地域に愛着を感じないから	24 29.6%
6	5	教育環境が充実していないから	20 24.7%
7	7	災害を防ぐための対策が不十分だから	17 21.0%
8	6	身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから	14 17.3%
9	8	治安を守るための対策が不十分だから	10 12.3%
10	11	騒音・振動・大気汚染など周辺環境がよくないから	8 9.9%
11	4	家賃など住居費が高いから	6 7.4%
12	12	緑などの自然環境がよくないから	0 0.0%
13	13	その他	29 35.8%
対象者数			81 100.0%

(注) 上記図表は奈良県が「住みにくい」ため「移住したい」と考えている回答者がどのような理由で移住したいのかを把握するため、問6、問7、問8のクロス集計を行った結果である。

なお、順位は少数第2位以下も考慮し決定している。

対象者数は、問6「住みにくい」（「どちらかといえば住みにくい」＋「とても住みにくい」）と回答し、なおかつ、問7で「住みたくない」と回答した人の人数である。

奈良県から移住したい理由として、「医療が充実していないから」（59.3%）と「買物など日常の生活環境が整っていないから」（56.8%）が50%以上となっています。その他には「通勤・通学に不便だから」（40.7%）、「福祉サービスが充実していないから」（35.8%）などが多くなっています。

また、「奈良県や身近な地域に愛着を感じない」ということも29.6%と5番目に多い理由として挙げられています。

2 県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について

2-1 県全体の重要度・満足度・ニーズ得点の順位

(1) 重要度の順位

図表 県全体の重要度の順位（平成23年度調査の重要度の高い順）

順位	項目番号	項目	重要度			
			H23	H22	H21	H20
1	19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.61	4.61	4.66	4.66
2	14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.53	4.51	4.56	4.65
3	11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.46	4.36	4.39	4.55
4	7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.43	4.41	4.45	4.60
5	20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.38	4.40	4.46	4.58
6	22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.35	4.39	4.43	4.35
7	29	失業の不安がなく働けること	4.34	4.36	4.41	4.40
8	12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.30	4.33	4.34	4.46
9	13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていること	4.23	4.13	4.14	4.31
10	24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.20	4.23	4.25	4.29
11	23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.18	4.22	4.23	4.25
12	21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.13	4.18	4.19	4.17
13	31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.10	4.05	4.09	3.90
14	18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.08	4.07	4.13	4.18
15	2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.06	4.12	4.08	4.09
16	25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.02	4.01	4.00	4.18
17	8	文化遺産や史跡が大事にされること	3.98	4.01	3.99	3.97
18	5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.96	3.97	3.97	4.22
19	26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.95	3.94	3.96	3.98
20	28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.93	3.93	4.01	4.28
21	1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.88	3.91	3.85	3.73
22	15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.87	3.85	3.84	3.69
23	30	県内で買いたいものが販売されていること	3.84	3.79	3.82	3.80
24	6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.83	3.81	3.82	3.94
25	27	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.82	3.80	3.93	4.15
26	9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.82	3.84	3.86	3.97
27	17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.69	3.68	3.73	4.02
28	10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.53	3.51	3.55	3.64
29	4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.35	3.34	3.33	3.38
30	3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.34	3.34	3.35	3.35
31	16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.09	3.10	3.10	3.22
項目全体の平均			4.01	4.01	4.03	4.10

(注) 集計結果は「県全体」の平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

下線は前年度より重要度が上昇したこと、網かけは3年間連続で重要度が上昇したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、前年度と点数が同じ場合にも下線を付していることがある。

「県民の身近な項目」は、平成21年度以降は31項目であるのに対し、平成20年度は82項目設定されていた。平成21年度報告書では82項目の平均が記載されていたが31項目で再集計したため、平成21年度報告書とは平均値が異なる。

医療・介護、暮らしの安全にかかわる項目の重要度が高くなっています。

平成22年度に比べて半数以上にあたる18項目で重要度が増加し、その他13項目では低下しています。

(2) 満足度の順位

図表 県全体の満足度の順位（平成23年度調査の満足度の高い順）

順位	項目番号	項目	満足度			
			H23	H22	H21	H20
1	8	文化遺産や史跡が大事にされること	3.55	3.51	3.49	3.40
2	12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	3.25	3.25	3.18	2.76
3	26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	<u>3.13</u>	3.16	<u>3.14</u>	3.25
4	28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	<u>3.08</u>	3.11	<u>3.05</u>	3.08
5	4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	<u>3.07</u>	3.09	3.08	2.95
6	14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	3.05	3.03	3.02	2.62
7	1	品揃えの豊富な店が近くにあること	<u>3.00</u>	3.10	3.01	3.01
8	9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.00	2.99	<u>2.98</u>	2.99
9	30	県内で買いたいものが販売されていること	2.98	2.98	2.95	2.95
10	7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	2.94	2.90	2.89	2.64
11	3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	<u>2.93</u>	<u>2.94</u>	2.95	2.87
12	2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	<u>2.92</u>	3.09	3.03	2.95
13	24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	2.92	<u>2.92</u>	2.93	2.90
14	5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	2.90	2.89	2.88	2.83
15	6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	2.89	<u>2.87</u>	2.87	2.80
16	25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	<u>2.89</u>	2.94	2.87	2.70
17	22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	2.84	2.82	2.78	2.73
18	10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	<u>2.84</u>	2.88	2.85	2.84
19	16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	<u>2.78</u>	2.85	2.83	2.75
20	27	一人ひとりが普通の生活においてCO2削減に取り組むこと	<u>2.78</u>	2.80	2.74	2.64
21	17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	<u>2.77</u>	2.78	<u>2.76</u>	2.84
22	21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	2.77	2.75	2.74	2.69
23	19	急病時に診てもらえる医療機関があること	<u>2.67</u>	2.70	2.68	2.62
24	23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	<u>2.67</u>	2.71	2.67	2.60
25	11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	<u>2.65</u>	2.79	2.76	2.52
26	13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	<u>2.65</u>	2.76	2.72	2.52
27	15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	<u>2.62</u>	<u>2.65</u>	2.66	2.63
28	20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	2.54	2.51	2.43	2.35
29	29	失業の不安がなく働けること	2.53	2.51	<u>2.47</u>	2.62
30	31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	<u>2.47</u>	2.48	<u>2.47</u>	2.47
31	18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	<u>2.45</u>	2.52	2.45	2.39
項目全体の平均			2.86	2.88	2.85	2.77

(注) 集計結果は「県全体」の平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

下線は前年度より満足度が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、前年度と点数が同じ場合にも下線を付していることがある。

「県民の身近な項目」は、平成21年度以降は31項目であるのに対し、平成20年度は82項目設定されていた。平成21年度報告書では82項目の平均が記載されていたが31項目で再集計したため、平成21年度報告書とは平均値が異なる。

職業や医療、政治への住民意向の反映、地域の活気や魅力などに関する満足度が低くなっています。

平成22年度に比べて満足度が減少したのは18項目で、その他13項目では満足度は増加しています。

(3) ニーズ得点の順位

図表 県全体のニーズ得点の順位（平成23年度調査のニーズ得点の高い順）

順位	項目番号	項目	ニーズ得点			
			H23	H22	H21	H20
1	19	急病時に診てもらえる医療機関があること	<u>15.34</u>	15.22	15.47	15.77
2	20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	15.13	15.38	15.93	16.75
3	29	失業の不安がなく働けること	15.05	15.25	<u>15.56</u>	14.87
4	11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	<u>14.93</u>	14.02	14.22	15.81
5	31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	<u>14.49</u>	14.23	<u>14.45</u>	13.76
6	18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	<u>14.48</u>	14.16	14.66	15.08
7	13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	<u>14.17</u>	13.40	13.59	15.00
8	23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	<u>13.89</u>	13.90	14.09	14.45
9	22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	13.74	13.95	<u>14.26</u>	14.24
10	7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	13.56	13.69	13.85	15.43
11	21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	13.34	13.57	13.65	13.83
12	14	住民が犯罪に遭うことなく、その不安も感じることなく暮らせること	13.34	13.39	13.60	15.74
13	15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	<u>13.08</u>	<u>12.89</u>	<u>12.85</u>	12.45
14	24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	12.95	13.03	13.05	13.28
15	25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	<u>12.52</u>	12.26	12.49	13.79
16	2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	<u>12.51</u>	12.00	12.13	12.46
17	27	一人ひとりが普通の生活においてCO2削減に取り組むこと	<u>12.29</u>	12.18	12.81	13.93
18	5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	12.27	12.34	12.38	13.37
19	17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	<u>11.90</u>	11.85	12.09	12.69
20	6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	11.89	11.94	11.96	12.62
21	12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	11.82	11.90	12.24	14.43
22	1	品揃えの豊富な店が近くにあること	<u>11.62</u>	11.37	<u>11.52</u>	11.18
23	30	県内で買いたいものが販売されていること	<u>11.58</u>	11.44	<u>11.64</u>	11.61
24	28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	<u>11.49</u>	11.36	11.82	12.50
25	9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	11.48	11.58	11.64	11.95
26	26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	<u>11.35</u>	11.18	<u>11.34</u>	10.94
27	10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	<u>11.16</u>	10.96	11.16	11.52
28	3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	<u>10.25</u>	<u>10.22</u>	10.22	10.48
29	16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	<u>9.95</u>	9.76	9.81	10.46
30	4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	<u>9.83</u>	<u>9.72</u>	9.72	10.32
31	8	文化遺産や史跡が大事にされること	9.73	10.00	10.02	10.31

(注) 集計結果は「県全体」の平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

下線は前年度よりニーズ得点が増加したこと、網かけは3年間連続でニーズ得点が増加したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、前年度と点数が同じ場合にも下線を付していることがある。

職業や医療、政治への住民意向の反映などに関するニーズ得点が高くなっています。

平成22年度に比べて半数を超える18項目でニーズ得点が増加し、その他13項目ではニーズ得点は低下しています。

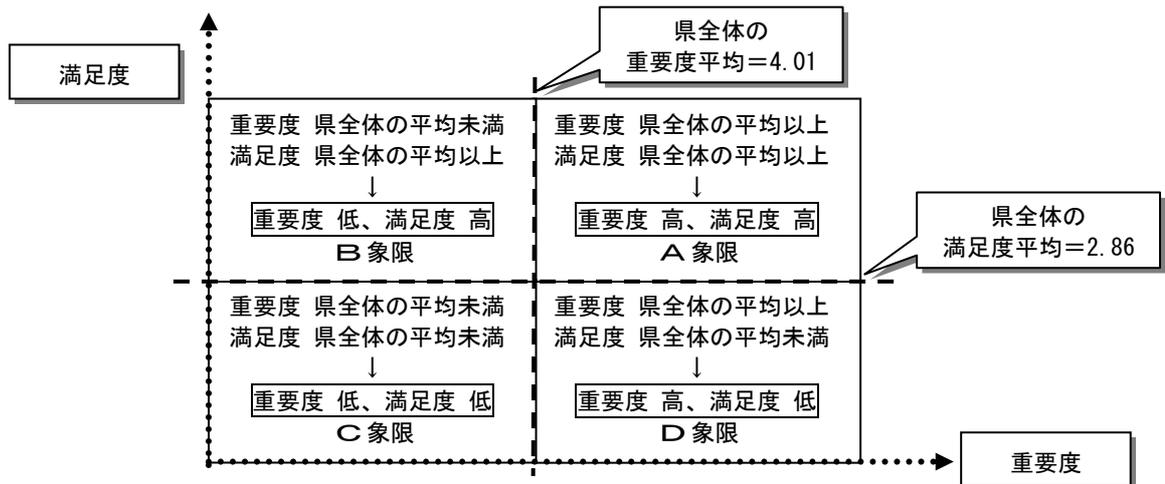
2-2 県全体の重要度と満足度の関係

(1) 重要度と満足度の関係についての考え方

「県民の身近な生活に関する項目」31項目全体での重要度と満足度の平均点を県全体で求め、各平均点と31項目それぞれの重要度・満足度の対応を分析します。

31項目それぞれの重要度・満足度の評価は、「重要度が高く、満足度が高い（A象限）」「重要度が低く、満足度が高い（B象限）」「重要度が低く、満足度が低い（C象限）」「重要度が高く、満足度が低い（D象限）」という4つの象限でその関係を整理することができます。

図表 県全体の重要度と満足度の平均点及び31項目の重要度と満足度の関係図



31項目それぞれがどの象限に位置し、県全体の重要度と満足度の平均点に対して重要度あるいは満足度が高いのか、低いのかを検討する際には、以下の点に留意する必要があります。

今回の調査の重要度・満足度それぞれの評価の中間は「どちらともいえない=3.00」ですが、県全体の31項目全体での重要度の平均点は4.01、満足度の平均点は2.86です。重要度は「かなり重要」、満足度は「あまり満たされていない」という評価だといえます。

このことから、重要度については、県全体の重要度の平均点（4.01）が「どちらともいえない」よりも高いことから、県全体の重要度の平均点と「どちらともいえない」の間に属する項目は、県全体の重要度に比べて低い評価になりますが、今回の調査では31項目すべてが3.01以上であり、すべての項目が「重要である」という評価だということになります。

また、満足度については、県全体の満足度の平均点（2.86）が「どちらともいえない」よりも低いことから、県全体の満足度の平均点と2.99（「どちらともいえない」未満）の間に属する項目は、県全体の満足度に比べて高い評価になりますが、厳密には、「あまり満たされていないが、県全体の満足度の平均点からみると満足度は高いほうだ」という解釈ができることとなります。

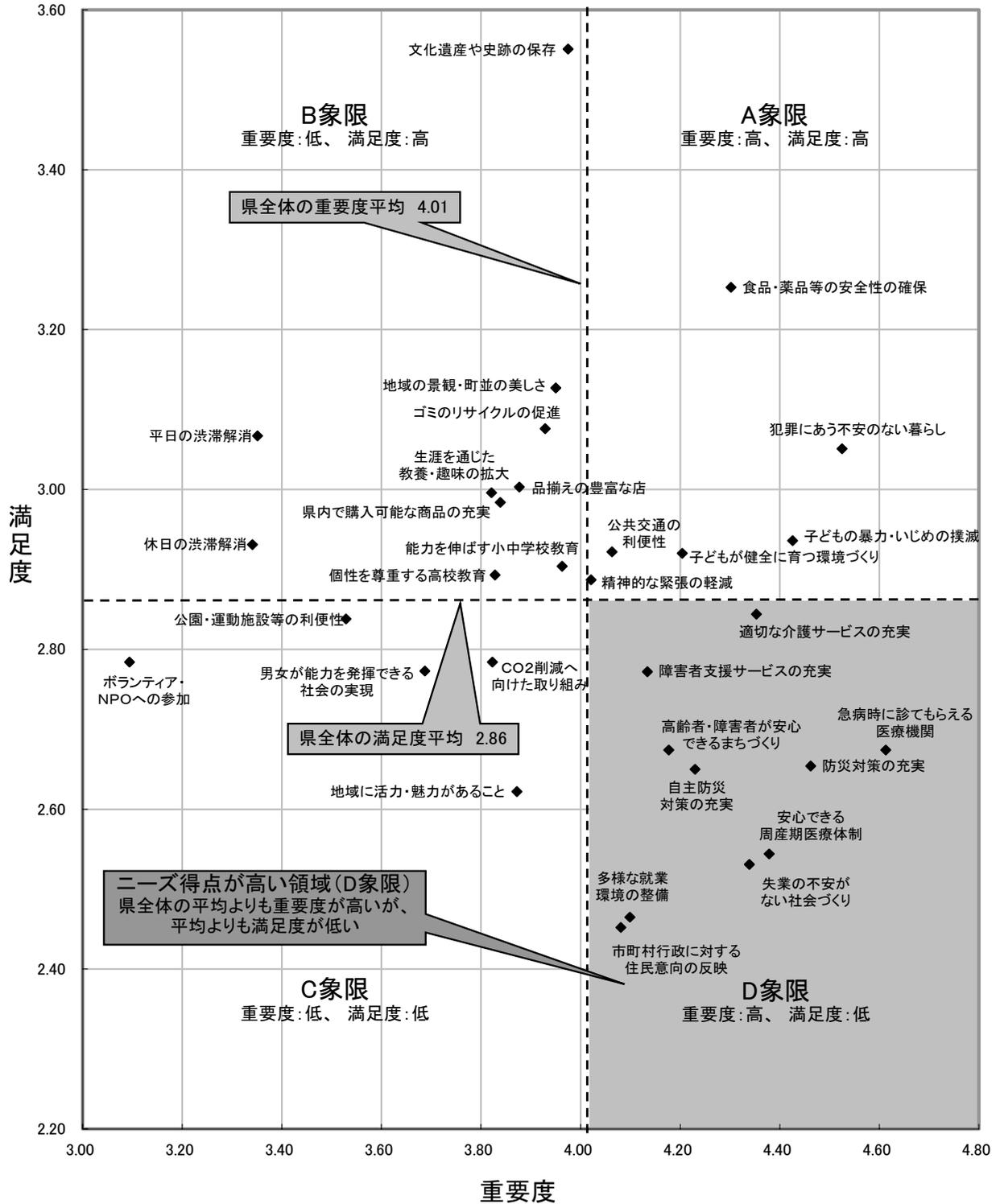
(2) 県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の関係

項目と項目の略称との対応及び重要度・満足度・ニーズ得点の一覧（ニーズ得点の高い順）

順位	項目番号	項目	項目の略称	重要度	満足度	ニーズ得点
1	19	急病時に診てもらえる医療機関があること	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	2.67	15.34
2	20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	安心できる周産期医療体制	4.38	2.54	15.13
3	29	失業の不安がなく働けること	失業の不安がない社会づくり	4.34	2.53	15.05
4	11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	防災対策の充実	4.46	2.65	14.93
5	31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	多様な就業環境の整備	4.10	2.47	14.49
6	18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	市町村行政に対する住民意向の反映	4.08	2.45	14.48
7	13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	自主防災対策の充実	4.23	2.65	14.17
8	23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.18	2.67	13.89
9	22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	適切な介護サービスの充実	4.35	2.84	13.74
10	7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.43	2.94	13.56
11	21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	障害者支援サービスの充実	4.13	2.77	13.34
12	14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	犯罪にあう不安のない暮らし	4.53	3.05	13.34
13	15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	地域に活力・魅力があること	3.87	2.62	13.08
14	24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	子どもが健全に育つ環境づくり	4.20	2.92	12.95
15	25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	精神的な緊張の軽減	4.02	2.89	12.52
16	2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	公共交通の利便性	4.06	2.92	12.51
17	27	一人ひとりが普通の生活においてCO2削減に取り組むこと	CO2削減へ向けた取り組み	3.82	2.78	12.29
18	5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	能力を伸ばす小中学校教育	3.96	2.90	12.27
19	17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.69	2.77	11.90
20	6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	個性を尊重する高校教育	3.83	2.89	11.89
21	12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	食品・薬品等の安全性の確保	4.30	3.25	11.82
22	1	品揃えの豊富な店が近くにあること	品揃えの豊富な店	3.88	3.00	11.62
23	30	県内で買いたいものが販売されていること	県内で購入可能な商品の充実	3.84	2.98	11.58
24	28	ゴミのリサイクルのしゅみぎが整っていること	ゴミのリサイクルの促進	3.93	3.08	11.49
25	9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.82	3.00	11.48
26	26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	地域の景観・町並の美しさ	3.95	3.13	11.35
27	10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	公園・運動施設等の利便性	3.53	2.84	11.16
28	3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	休日の渋滞解消	3.34	2.93	10.25
29	16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	ボランティア・NPOへの参加	3.09	2.78	9.95
30	4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	平日の渋滞解消	3.35	3.07	9.83
31	8	文化遺産や史跡が大事にされること	文化遺産や史跡の保存	3.98	3.55	9.73

(注) 点数表記は小数第2位までだが、順位決定には小数第3位以下も考慮している。

今回調査の重要度と満足度の関係図



「急病時に診てもらえる医療機関」、「安心できる周産期医療体制」、「失業の不安がない社会づくり」、「防災対策の充実」などのニーズ得点が高いことが図から読み取れます。

(3) 県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の前回調査との比較

重要度と満足度の関係の前回調査との比較

項目番号	項目	重要度				満足度				ニーズ得点				重要度と満足度の関係			
		H23	H22	H21	H20	H23	H22	H21	H20	H23	H22	H21	H20	H23	H22	H21	H20
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.88	3.91	3.85	3.73	3.00	3.10	3.01	3.01	11.62	11.37	11.52	11.18	B	B	B	B
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.06	4.12	4.08	4.09	2.92	3.09	3.03	2.95	12.51	12.00	12.13	12.46	A	A	A	B
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.34	3.34	3.35	3.35	2.93	2.94	2.95	2.87	10.25	10.22	10.22	10.48	B	B	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.35	3.34	3.33	3.38	3.07	3.09	3.08	2.95	9.83	9.72	9.72	10.32	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.96	3.97	3.97	4.22	2.90	2.89	2.88	2.83	12.27	12.34	12.38	13.37	B	B	B	A
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.83	3.81	3.82	3.94	2.89	2.87	2.87	2.80	11.89	11.94	11.96	12.62	B	C	B	B
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.43	4.41	4.45	4.60	2.94	2.90	2.89	2.64	13.56	13.69	13.85	15.43	A	A	A	D
8	文化遺産や史跡が大事にされること	3.98	4.01	3.99	3.97	3.55	3.51	3.49	3.40	9.73	10.00	10.02	10.31	B	A	B	B
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.82	3.84	3.86	3.97	3.00	2.99	2.98	2.99	11.48	11.58	11.64	11.95	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.53	3.51	3.55	3.64	2.84	2.88	2.85	2.84	11.16	10.96	11.16	11.52	C	B	B	B
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.46	4.36	4.39	4.55	2.65	2.79	2.76	2.52	14.93	14.02	14.22	15.81	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.30	4.33	4.34	4.46	3.25	3.25	3.18	2.76	11.82	11.90	12.24	14.43	A	A	A	D
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	4.23	4.13	4.14	4.31	2.65	2.76	2.72	2.52	14.17	13.40	13.59	15.00	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.53	4.51	4.56	4.65	3.05	3.03	3.02	2.62	13.34	13.39	13.60	15.74	A	A	A	D
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.87	3.85	3.84	3.69	2.62	2.65	2.66	2.63	13.08	12.89	12.85	12.45	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.09	3.10	3.10	3.22	2.78	2.85	2.83	2.75	9.95	9.76	9.81	10.46	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.69	3.68	3.73	4.02	2.77	2.78	2.76	2.84	11.90	11.85	12.09	12.69	C	C	C	B
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.08	4.07	4.13	4.18	2.45	2.52	2.45	2.39	14.48	14.16	14.66	15.08	D	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.61	4.61	4.66	4.66	2.67	2.70	2.68	2.62	15.34	15.22	15.47	15.77	D	D	D	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.38	4.40	4.46	4.58	2.54	2.51	2.43	2.35	15.13	15.38	15.93	16.75	D	D	D	D
21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.13	4.18	4.19	4.17	2.77	2.75	2.74	2.69	13.34	13.57	13.65	13.83	D	D	D	D
22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.35	4.39	4.43	4.35	2.84	2.82	2.78	2.73	13.74	13.95	14.26	14.24	D	D	D	D
23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.18	4.22	4.23	4.25	2.67	2.71	2.67	2.60	13.89	13.90	14.09	14.45	D	D	D	D
24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.20	4.23	4.25	4.29	2.92	2.92	2.93	2.90	12.95	13.03	13.05	13.28	A	A	A	A
25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.02	4.01	4.00	4.18	2.89	2.94	2.87	2.70	12.52	12.26	12.49	13.79	A	A	B	D
26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.95	3.94	3.96	3.98	3.13	3.16	3.14	3.25	11.35	11.18	11.34	10.94	B	B	B	B
27	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.82	3.80	3.93	4.15	2.78	2.80	2.74	2.64	12.29	12.18	12.81	13.93	C	C	C	D
28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.93	3.93	4.01	4.28	3.08	3.11	3.05	3.08	11.49	11.36	11.82	12.50	B	B	B	A
29	失業の不安がなく働けること	4.34	4.36	4.41	4.40	2.53	2.51	2.47	2.62	15.05	15.25	15.56	14.87	D	D	D	D
30	県内で買いたいものが販売されていること	3.84	3.79	3.82	3.80	2.98	2.98	2.95	2.95	11.58	11.44	11.64	11.61	B	B	B	B
31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.10	4.05	4.09	3.90	2.47	2.48	2.47	2.47	14.49	14.23	14.45	13.76	D	D	D	C

(注)「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、50ページ「図表 県全体の重要度と満足度の平均点及び31項目の重要度と満足度の関係図」のA～Dの象限に対応している。

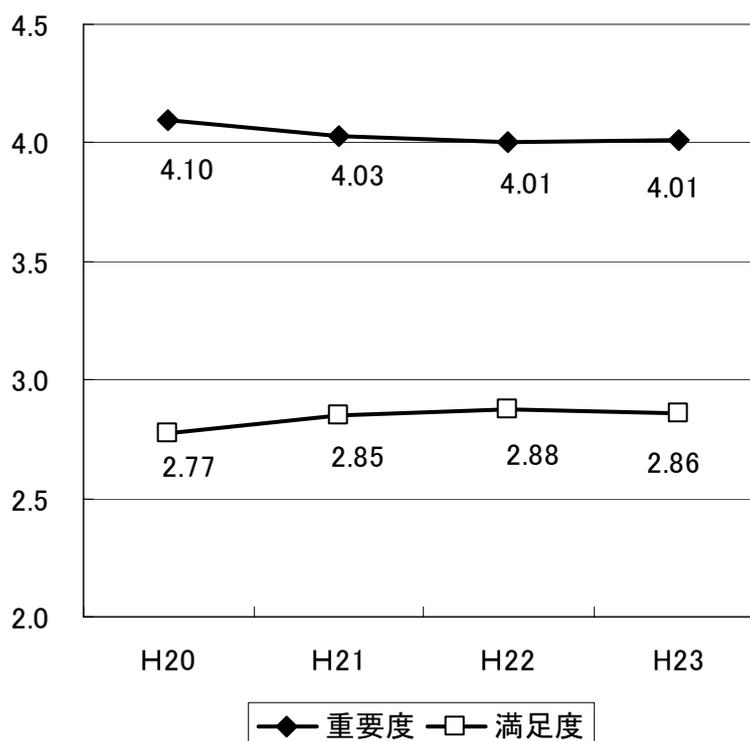
網かけをした項目は満足度が31項目の平均値を下回るものであり、濃い網かけはそのうち重要度が平均値を上回るもの、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。

県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の関係を平成20年度から平成23年度の4年間について見ると、4年間を通じて、重要度が平均値以上であるにもかかわらず、満足度が平均値を下まわった（D象限にある）ものが9項目ありました。

項目番号	内容
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていること
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること
19	急病時に診てもらえる医療機関があること
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること
21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること
22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること
23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること
29	失業の不安がなく働けること

（４）県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の県平均値の推移

図表 重要度と満足度の県平均値の推移



県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の県平均値の推移を見ると、平成22年度までの3年間は、重要度の平均値は年々低下し、満足度の平均値は年々増加してきましたが、平成23年度では、重要度は一定、満足度は減少しています。

しかしながら、平成20年度と平成23年度を比較すると、重要度が低下し満足度が増加していることから、県民の身近な生活にかかわる状況は改善傾向にあると考えられます。

2-3 地域別の重要度と満足度の経年比較

(1) 地域1(北部)

図表 「地域1(北部)」における重要度と満足度の経年比較(平成23年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H23	H22	H23-H22	H23	H22	H23-H22
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	4.62	▲ 0.01	2.71	2.73	▲ 0.02
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.54	4.57	▲ 0.03	3.04	3.04	0.00
3	11	防災対策の充実	4.47	4.37	0.10	2.68	2.82	▲ 0.14
4	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.42	4.43	▲ 0.01	2.93	2.88	0.04
5	22	適切な介護サービスの充実	4.35	4.39	▲ 0.04	2.84	2.82	0.02
6	20	安心できる周産期医療体制	4.35	4.40	▲ 0.06	2.66	2.60	0.06
7	29	失業の不安がない社会づくり	4.34	4.37	▲ 0.03	2.56	2.53	0.03
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.31	4.37	▲ 0.06	3.25	3.29	▲ 0.03
9	13	自主防災対策の充実	4.22	4.12	0.11	2.67	2.76	▲ 0.09
10	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.21	4.25	▲ 0.04	2.71	2.75	▲ 0.04
11	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.20	4.25	▲ 0.06	2.91	2.94	▲ 0.03
12	2	公共交通の利便性	4.15	4.20	▲ 0.05	3.12	3.33	▲ 0.21
13	21	障害者支援サービスの充実	4.12	4.18	▲ 0.07	2.79	2.80	▲ 0.00
14	31	多様な就業環境の整備	4.10	4.04	0.06	2.50	2.56	▲ 0.06
15	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.08	4.08	0.00	2.48	2.57	▲ 0.09
16	8	文化遺産や史跡の保存	4.05	4.06	▲ 0.01	3.60	3.54	0.06
17	25	精神的な緊張の軽減	4.04	4.04	0.00	2.87	2.95	▲ 0.08
18	26	地域の景観・町並の美しさ	3.98	4.01	▲ 0.03	3.15	3.21	▲ 0.05
19	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.97	4.00	▲ 0.03	2.93	2.95	▲ 0.02
20	28	ゴミのリサイクルの促進	3.93	3.92	0.01	3.03	3.06	▲ 0.03
21	1	品揃えの豊富な店	3.92	3.96	▲ 0.05	3.10	3.16	▲ 0.06
22	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.87	3.86	0.00	3.04	3.04	▲ 0.00
23	30	県内で購入可能な商品の充実	3.85	3.79	0.06	2.96	3.00	▲ 0.04
24	15	地域に活力・魅力があること	3.85	3.86	▲ 0.01	2.72	2.73	▲ 0.01
25	6	個性を尊重する高校教育	3.85	3.83	0.01	2.91	2.90	0.01
26	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.81	3.82	▲ 0.01	2.79	2.80	▲ 0.01
27	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.70	3.69	0.01	2.81	2.80	0.00
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.53	3.54	▲ 0.01	2.83	2.86	▲ 0.04
29	4	平日の渋滞解消	3.39	3.37	0.01	3.05	3.05	▲ 0.00
30	3	休日の渋滞解消	3.38	3.39	▲ 0.01	2.86	2.87	▲ 0.01
31	16	ボランティア・NPOへの参加	3.06	3.07	▲ 0.01	2.82	2.85	▲ 0.04
項目全体の平均			4.02	4.03		2.88	2.91	

(注) 網かけは、重要度では平成23年度の点数が22年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成23年度の点数が平成22年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「防災対策の充実」、「自主防災対策の充実」、「多様な就業環境の整備」、「市町村行政に対する住民意向の反映」、「精神的な緊張の軽減」、「ゴミのリサイクルの促進」、「生涯を通じた教養・趣味の拡大」、「県内で購入可能な商品の充実」、「平日の渋滞解消」の9項目となっています。

(2) 地域2(西部)

図表 「地域2(西部)」における重要度と満足度の経年比較(平成23年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H23	H22	H23-H22	H23	H22	H23-H22
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.56	4.66	▲ 0.10	2.82	2.78	0.04
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.52	4.57	▲ 0.05	2.96	3.00	▲ 0.04
3	11	防災対策の充実	4.45	4.37	0.08	2.62	2.84	▲ 0.22
4	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.40	4.35	0.05	2.83	2.89	▲ 0.06
5	20	安心できる周産期医療体制	4.38	4.40	▲ 0.01	2.57	2.54	0.03
6	22	適切な介護サービスの充実	4.33	4.49	▲ 0.16	2.90	2.86	0.04
7	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.27	4.35	▲ 0.08	3.29	3.27	0.02
8	29	失業の不安がない社会づくり	4.27	4.35	▲ 0.09	2.60	2.59	0.01
9	13	自主防災対策の充実	4.20	4.23	▲ 0.02	2.62	2.82	▲ 0.20
10	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.20	4.22	▲ 0.02	2.95	2.94	0.01
11	2	公共交通の利便性	4.19	4.24	▲ 0.05	3.01	3.00	0.00
12	21	障害者支援サービスの充実	4.14	4.26	▲ 0.13	2.90	2.78	0.12
13	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.11	4.34	▲ 0.23	2.74	2.78	▲ 0.04
14	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.07	4.09	▲ 0.02	2.42	2.48	▲ 0.06
15	25	精神的な緊張の軽減	4.06	4.08	▲ 0.02	2.93	2.99	▲ 0.07
16	8	文化遺産や史跡の保存	4.03	4.00	0.02	3.49	3.58	▲ 0.09
17	31	多様な就業環境の整備	4.01	3.96	0.05	2.52	2.50	0.02
18	1	品揃えの豊富な店	3.95	3.86	0.09	3.10	3.06	0.04
19	26	地域の景観・町並の美しさ	3.94	3.97	▲ 0.03	3.08	3.18	▲ 0.10
20	28	ゴミのリサイクルの促進	3.90	3.93	▲ 0.04	3.04	3.13	▲ 0.08
21	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.89	3.90	▲ 0.00	3.00	3.02	▲ 0.02
22	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.89	3.89	▲ 0.01	2.88	2.86	0.02
23	15	地域に活力・魅力があること	3.87	3.77	0.11	2.68	2.68	0.01
24	30	県内で購入可能な商品の充実	3.83	3.72	0.11	2.97	2.92	0.05
25	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.81	3.76	0.05	2.82	2.82	0.00
26	6	個性を尊重する高校教育	3.73	3.75	▲ 0.01	2.82	2.83	▲ 0.01
27	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.72	3.74	▲ 0.02	2.75	2.80	▲ 0.05
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.50	3.56	▲ 0.06	2.92	3.06	▲ 0.14
29	4	平日の渋滞解消	3.35	3.34	0.01	3.02	3.12	▲ 0.10
30	3	休日の渋滞解消	3.25	3.27	▲ 0.02	2.98	2.98	0.00
31	16	ボランティア・NPOへの参加	3.15	3.10	0.05	2.83	2.95	▲ 0.13
項目全体の平均			4.00	4.02		2.87	2.90	

(注) 網かけは、重要度では平成23年度の点数が22年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成23年度の点数が平成22年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「防災対策の充実」、「子どもの暴力・いじめの撲滅」、「文化遺産や史跡の保存」、「平日の渋滞解消」、「ボランティア・NPOへの参加」の5項目となっています。

(3) 地域3 (中部)

図表 「地域3 (中部)」における重要度と満足度の経年比較 (平成23年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H23	H22	H23-H22	H23	H22	H23-H22
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.64	4.63	0.01	2.75	2.77	▲ 0.03
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.56	4.49	0.07	3.03	3.00	0.03
3	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.48	4.46	0.02	2.95	2.89	0.06
4	11	防災対策の充実	4.47	4.36	0.11	2.68	2.83	▲ 0.15
5	20	安心できる周産期医療体制	4.42	4.44	▲ 0.02	2.61	2.58	0.02
6	22	適切な介護サービスの充実	4.35	4.38	▲ 0.03	2.88	2.81	0.07
7	29	失業の不安がない社会づくり	4.34	4.38	▲ 0.04	2.58	2.50	0.08
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.34	4.33	0.01	3.38	3.27	0.11
9	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.23	4.24	▲ 0.01	2.92	2.88	0.04
10	13	自主防災対策の充実	4.23	4.11	0.12	2.66	2.78	▲ 0.12
11	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.21	4.23	▲ 0.02	2.70	2.70	▲ 0.01
12	21	障害者支援サービスの充実	4.14	4.17	▲ 0.03	2.81	2.75	0.06
13	31	多様な就業環境の整備	4.09	4.07	0.02	2.54	2.46	0.08
14	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.05	4.06	▲ 0.01	2.47	2.49	▲ 0.03
15	25	精神的な緊張の軽減	4.04	3.97	0.07	2.90	2.94	▲ 0.04
16	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.98	3.98	0.00	2.92	2.87	0.05
17	2	公共交通の利便性	3.97	4.04	▲ 0.07	3.08	3.13	▲ 0.05
18	26	地域の景観・町並の美しさ	3.96	3.87	0.09	3.05	3.09	▲ 0.05
19	28	ゴミのリサイクルの促進	3.92	3.90	0.02	3.12	3.12	0.00
20	1	品揃えの豊富な店	3.89	3.92	▲ 0.03	3.27	3.34	▲ 0.07
21	8	文化遺産や史跡の保存	3.87	3.96	▲ 0.10	3.56	3.45	0.12
22	15	地域に活力・魅力があること	3.86	3.82	0.03	2.65	2.70	▲ 0.05
22	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.86	3.78	0.08	2.76	2.80	▲ 0.04
24	30	県内で購入可能な商品の充実	3.85	3.78	0.07	3.11	3.06	0.04
25	6	個性を尊重する高校教育	3.83	3.80	0.02	2.92	2.87	0.06
26	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.78	3.83	▲ 0.05	3.00	2.97	0.02
27	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.64	3.65	▲ 0.01	2.83	2.77	0.06
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.59	3.52	0.06	2.84	2.87	▲ 0.02
29	3	休日の渋滞解消	3.40	3.42	▲ 0.02	2.96	2.98	▲ 0.01
30	4	平日の渋滞解消	3.36	3.39	▲ 0.03	3.07	3.11	▲ 0.04
31	16	ボランティア・NPOへの参加	3.08	3.08	0.00	2.77	2.84	▲ 0.07
項目全体の平均			4.01	4.00		2.89	2.89	

(注) 網かけは、重要度では平成23年度の点数が22年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成23年度の点数が平成22年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「急病時に診てもらえる医療機関」、「防災対策の充実」、「自主防災対策の充実」、「精神的な緊張の軽減」、「地域の景観・町並の美しさ」、「地域に活力・魅力があること」、「CO2削減へ向けた取り組み」、「公園・運動施設等の利便性」、「ボランティア・NPOへの参加」の9項目となっています。

(4) 地域4(東部)

図表 「地域4(東部)」における重要度と満足度の経年比較(平成23年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H23	H22	H23-H22	H23	H22	H23-H22
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.63	4.54	0.09	2.48	2.55	▲0.06
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.50	4.37	0.13	3.08	3.05	0.03
3	11	防災対策の充実	4.47	4.36	0.11	2.59	2.63	▲0.05
4	22	適切な介護サービスの充実	4.46	4.36	0.10	2.77	2.87	▲0.10
5	20	安心できる周産期医療体制	4.45	4.36	0.09	2.46	2.43	0.03
6	29	失業の不安がない社会づくり	4.44	4.43	0.01	2.37	2.33	0.04
7	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.41	4.40	0.01	2.94	2.82	0.11
8	13	自主防災対策の充実	4.34	4.10	0.24	2.64	2.61	0.03
9	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.30	4.23	0.07	2.91	2.90	0.02
10	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.29	4.21	0.09	3.15	3.19	▲0.04
11	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.23	4.05	0.18	2.21	2.45	▲0.23
12	21	障害者支援サービスの充実	4.23	4.10	0.14	2.70	2.71	▲0.01
13	31	多様な就業環境の整備	4.23	4.16	0.07	2.27	2.35	▲0.08
14	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.21	4.12	0.09	2.56	2.53	0.03
15	28	ゴミのリサイクルの促進	4.03	3.94	0.09	3.10	3.16	▲0.07
16	25	精神的な緊張の軽減	4.01	4.00	0.01	2.89	2.82	0.06
17	2	公共交通の利便性	3.98	3.97	0.01	2.28	2.65	▲0.38
18	8	文化遺産や史跡の保存	3.95	3.98	▲0.03	3.43	3.46	▲0.03
19	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.94	3.94	0.00	2.83	2.81	0.02
20	15	地域に活力・魅力があること	3.92	3.95	▲0.02	2.36	2.49	▲0.14
21	26	地域の景観・町並の美しさ	3.91	3.89	0.02	3.23	3.12	0.11
22	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.91	3.82	0.09	2.67	2.72	▲0.05
23	30	県内で購入可能な商品の充実	3.87	3.87	▲0.01	2.86	2.93	▲0.07
24	6	個性を尊重する高校教育	3.84	3.86	▲0.02	2.85	2.75	0.11
25	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.80	3.71	0.09	2.52	2.78	▲0.25
26	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.76	3.80	▲0.04	2.87	2.84	0.03
27	1	品揃えの豊富な店	3.71	3.84	▲0.13	2.58	2.87	▲0.29
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.48	3.45	0.03	2.78	2.86	▲0.09
29	4	平日の渋滞解消	3.33	3.32	0.01	3.20	3.21	▲0.01
30	3	休日の渋滞解消	3.26	3.18	0.07	3.05	3.04	0.01
31	16	ボランティア・NPOへの参加	3.22	3.22	0.00	2.69	2.79	▲0.09
項目全体の平均			4.03	3.98		2.75	2.80	

(注) 網かけは、重要度では平成23年度の点数が22年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成23年度の点数が平成22年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「急病時に診てもらえる医療機関」、「防災対策の充実」、「適切な介護サービスの充実」、「食品・薬品等の安全性の確保」、「市町村行政に対する住民意向の反映」、「障害者支援サービスの充実」、「多様な就業環境の整備」、「ゴミのリサイクルの促進」、「公共交通の利便性」、「CO2削減へ向けた取り組み」、「男女が能力を発揮できる社会の実現」、「公園・運動施設等の利便性」、「平日の渋滞解消」、「ボランティア・NPOへの参加」の14項目となっています。

(5) 地域5(南東部)

図表 「地域5(南東部)」における重要度と満足度の経年比較(平成23年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H23	H22	H23-H22	H23	H22	H23-H22
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.55	4.51	0.04	2.34	2.40	▲ 0.06
2	11	防災対策の充実	4.40	4.31	0.09	2.67	2.67	▲ 0.01
3	20	安心できる周産期医療体制	4.34	4.31	0.02	1.95	1.90	0.05
4	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.32	4.35	▲ 0.03	3.31	3.18	0.13
5	29	失業の不安がない社会づくり	4.30	4.24	0.05	2.38	2.49	▲ 0.12
6	22	適切な介護サービスの充実	4.29	4.40	▲ 0.11	2.79	2.91	▲ 0.12
7	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.27	4.24	0.03	3.10	3.08	0.02
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.17	4.18	▲ 0.01	3.01	3.07	▲ 0.06
9	13	自主防災対策の充実	4.17	4.21	▲ 0.04	2.63	2.80	▲ 0.17
10	21	障害者支援サービスの充実	4.11	4.18	▲ 0.08	2.49	2.56	▲ 0.06
11	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.09	4.06	0.03	2.97	3.04	▲ 0.06
12	31	多様な就業環境の整備	4.08	3.98	0.10	2.25	2.24	0.01
13	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.04	4.00	0.04	2.58	2.58	▲ 0.00
14	5	能力を伸ばす小中学校教育	4.00	3.93	0.07	2.84	2.82	0.02
15	15	地域に活力・魅力があること	3.98	3.85	0.13	2.23	2.24	▲ 0.02
16	28	ゴミのリサイクルの促進	3.96	4.01	▲ 0.05	3.28	3.34	▲ 0.05
17	25	精神的な緊張の軽減	3.88	3.82	0.06	2.96	2.99	▲ 0.04
18	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	3.87	4.03	▲ 0.16	2.46	2.62	▲ 0.17
19	2	公共交通の利便性	3.86	3.84	0.02	2.05	2.31	▲ 0.26
20	8	文化遺産や史跡の保存	3.84	3.92	▲ 0.07	3.39	3.49	▲ 0.10
21	26	地域の景観・町並の美しさ	3.81	3.76	0.05	3.22	3.23	▲ 0.01
22	6	個性を尊重する高校教育	3.80	3.76	0.04	2.78	2.83	▲ 0.06
23	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.76	3.78	▲ 0.02	2.88	2.92	▲ 0.04
24	30	県内で購入可能な商品の充実	3.71	3.80	▲ 0.08	2.96	2.83	0.13
25	1	品揃えの豊富な店	3.71	3.76	▲ 0.06	2.11	2.36	▲ 0.25
26	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.68	3.75	▲ 0.07	2.90	2.91	▲ 0.01
27	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.64	3.62	0.02	2.61	2.73	▲ 0.12
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.45	3.35	0.10	2.88	2.87	0.01
29	4	平日の渋滞解消	3.13	3.14	▲ 0.01	3.10	3.13	▲ 0.03
30	16	ボランティア・NPOへの参加	3.11	3.12	▲ 0.02	2.78	2.80	▲ 0.01
31	3	休日の渋滞解消	3.08	3.09	▲ 0.01	3.04	3.10	▲ 0.06
項目全体の平均			3.91	3.91		2.74	2.79	

(注) 網かけは、重要度では平成23年度の点数が22年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成23年度の点数が平成22年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「急病時に診てもらえる医療機関」、「防災対策の充実」、「失業の不安がない社会づくり」、「子どもが健全に育つ環境づくり」、「市町村行政に対する住民意向の反映」、「地域に活力・魅力があること」、「精神的な緊張の軽減」、「公共交通の利便性」、「地域の景観・町並の美しさ」、「個性を尊重する高校教育」、「男女が能力を発揮できる社会の実現」の11項目となっています。

(6) 地域6(南西部)

図表 「地域6(南西部)」における重要度と満足度の経年比較(平成23年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H23	H22	H23-H22	H23	H22	H23-H22
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.66	4.56	0.10	2.29	2.29	▲ 0.00
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.53	4.29	0.23	3.07	2.99	0.08
3	11	防災対策の充実	4.48	4.36	0.12	2.42	2.40	0.02
4	20	安心できる周産期医療体制	4.47	4.44	0.03	1.83	1.82	0.01
5	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.46	4.27	0.19	2.93	2.93	0.00
6	22	適切な介護サービスの充実	4.37	4.30	0.07	2.74	2.57	0.17
7	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.34	4.19	0.15	2.99	2.91	0.08
8	29	失業の不安がない社会づくり	4.32	4.25	0.07	2.31	2.34	▲ 0.03
9	13	自主防災対策の充実	4.27	4.11	0.17	2.50	2.53	▲ 0.03
10	31	多様な就業環境の整備	4.18	4.13	0.05	2.17	2.21	▲ 0.04
11	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.18	4.08	0.10	2.37	2.09	0.28
12	21	障害者支援サービスの充実	4.17	4.12	0.05	2.53	2.55	▲ 0.03
13	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.15	4.11	0.04	2.88	2.71	0.17
14	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.15	4.01	0.14	2.54	2.51	0.03
15	8	文化遺産や史跡の保存	3.96	3.90	0.06	3.55	3.31	0.24
16	15	地域に活力・魅力があること	3.96	3.84	0.12	2.32	2.21	0.11
17	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.92	3.95	▲ 0.02	2.76	2.65	0.11
18	6	個性を尊重する高校教育	3.88	3.72	0.16	2.91	2.73	0.18
19	25	精神的な緊張の軽減	3.87	4.00	▲ 0.13	2.80	2.79	0.01
20	26	地域の景観・町並の美しさ	3.86	3.85	0.01	3.10	3.01	0.08
21	28	ゴミのリサイクルの促進	3.81	4.04	▲ 0.23	3.04	3.07	▲ 0.02
22	30	県内で購入可能な商品の充実	3.78	3.84	▲ 0.06	2.86	2.69	0.17
23	2	公共交通の利便性	3.76	4.03	▲ 0.27	1.95	1.95	▲ 0.00
24	1	品揃えの豊富な店	3.75	3.80	▲ 0.06	2.23	2.32	▲ 0.09
24	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.75	3.92	▲ 0.17	2.81	2.65	0.16
26	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.68	3.68	0.00	2.79	2.53	0.26
27	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.68	3.73	▲ 0.06	2.88	2.61	0.27
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.44	3.35	0.09	2.83	2.77	0.06
29	3	休日の渋滞解消	3.28	2.93	0.35	3.08	3.00	0.08
30	4	平日の渋滞解消	3.25	3.01	0.24	3.08	3.17	▲ 0.10
31	16	ボランティア・NPOへの参加	3.11	3.20	▲ 0.09	2.52	2.68	▲ 0.16
項目全体の平均			3.98	3.94		2.68	2.61	

(注) 網かけは、重要度では平成23年度の点数が22年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成23年度の点数が平成22年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「急病時に診てもらえる医療機関」、「失業の不安がない社会づくり」、「自主防災対策の充実」、「多様な就業環境の整備」、「障害者支援サービスの充実」、「平日の渋滞解消」の6項目となっています。

2-4 県全体と属性別の重要度・満足度の傾向の比較

(1) 地域別の重要度・満足度の比較

① 「県全体」の重要度上位10項目及び地域別での比較

図表 「県全体」の重要度上位10項目及び地域別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	地域1 (北部)	地域2 (西部)	地域3 (中部)	地域4 (東部)	地域5 (南東部)	地域6 (南西部)
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	4.61	4.56	4.64	4.63	4.55	4.66
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.53	4.54	4.52	4.56	4.50	4.32	4.53
3	11	防災対策の充実	4.46	4.47	4.45	4.47	4.47	4.40	4.48
4	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.43	4.42	4.40	4.48	4.41	4.27	4.46
5	20	安心できる周産期医療体制	4.38	4.35	4.38	4.42	4.45	4.34	4.47
6	22	適切な介護サービスの充実	4.35	4.35	4.33	4.35	4.46	4.29	4.37
7	29	失業の不安がない社会づくり	4.34	4.34	4.27	4.34	4.44	4.30	4.32
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.30	4.31	4.27	4.34	4.29	4.17	4.34
9	13	自主防災対策の充実	4.23	4.22	4.20	4.23	4.34	4.17	4.27
10	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.20	4.20	4.20	4.23	4.30	4.09	4.15

(注) 網かけは、地域での重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」と地域との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位10項目を地域別にみると、「地域1(北部)」、「地域3(中部)」、「地域4(東部)」、「地域6(南西部)」では「県全体」よりも重要度が高い項目が多く、その他の地域では少なくなっています。

②地域別の重要度上位5項目の傾向

図表 地域別の重要度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.53	防災対策の充実 4.46	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.43	安心できる 周産期医療体制 4.38
地域1 (北部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.54	防災対策の充実 4.47	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.42	適切な介護 サービスの充実 4.35
地域2 (西部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.56	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.52	防災対策の充実 4.45	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.40	安心できる 周産期医療体制 4.38
地域3 (中部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.64	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.56	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.48	防災対策の充実 4.47	安心できる 周産期医療体制 4.42
地域4 (東部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.63	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.50	防災対策の充実 4.47	適切な介護 サービスの充実 4.46	安心できる 周産期医療体制 4.45
地域5 (南東部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.55	防災対策の充実 4.40	安心できる 周産期医療体制 4.34	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.32	失業の不安が ない社会づくり 4.30
地域6 (南西部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.66	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.53	防災対策の充実 4.48	安心できる 周産期医療体制 4.47	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.46

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の決定には小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「適切な介護サービスの充実」（「地域1（北部）」の第5位、「地域4（東部）」の第4位）と、「失業の不安がない社会づくり」（「地域5（南東部）」の第5位）となっています。

③「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び地域別での比較

図表 「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び地域別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	地域1 (北部)	地域2 (西部)	地域3 (中部)	地域4 (東部)	地域5 (南東部)	地域6 (南西部)
1	8	文化遺産や史跡の保存	3.55	3.60	3.49	3.56	3.43	3.39	3.55
2	12	食品・薬品等の安全性の確保	3.25	3.25	3.29	3.38	3.15	3.01	2.99
3	26	地域の景観・町並の美しさ	3.13	3.15	3.08	3.05	3.23	3.22	3.10
4	28	ゴミのリサイクルの促進	3.08	3.03	3.04	3.12	3.10	3.28	3.04
5	4	平日の渋滞解消	3.07	3.05	3.02	3.07	3.20	3.10	3.08
6	14	犯罪にあう不安のない暮らし	3.05	3.04	2.96	3.03	3.08	3.31	3.07
7	1	品揃えの豊富な店	3.00	3.10	3.10	3.27	2.58	2.11	2.23
8	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.00	3.04	3.00	3.00	2.87	2.90	2.88
9	30	県内で購入可能な商品の充実	2.98	2.96	2.97	3.11	2.86	2.96	2.86
10	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	2.94	2.93	2.83	2.95	2.94	3.10	2.93
⋮	⋮	⋮							
22	21	障害者支援サービスの充実	2.77	2.79	2.90	2.81	2.70	2.49	2.53
23	19	急病時に診てもらえる医療機関	2.67	2.71	2.82	2.75	2.48	2.34	2.29
24	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	2.67	2.71	2.74	2.70	2.56	2.46	2.54
25	11	防災対策の充実	2.65	2.68	2.62	2.68	2.59	2.67	2.42
26	13	自主防災対策の充実	2.65	2.67	2.62	2.66	2.64	2.63	2.50
27	15	地域に活力・魅力があること	2.62	2.72	2.68	2.65	2.36	2.23	2.32
28	20	安心できる周産期医療体制	2.54	2.66	2.57	2.61	2.46	1.95	1.83
29	29	失業の不安がない社会づくり	2.53	2.56	2.60	2.58	2.37	2.38	2.31
30	31	多様な就業環境の整備	2.47	2.50	2.52	2.54	2.27	2.25	2.17
31	18	市町村行政に対する住民意向の反映	2.45	2.48	2.42	2.47	2.21	2.58	2.37

(注) 網かけ・白抜きは、地域での満足度が「県全体」よりも低いことを意味する。ただし、「県全体」と地域との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の満足度の上位・下位10項目について地域別にみると、「地域1（北部）」や「地域2（西部）」、「地域3（中部）」では「県全体」を下回る項目が少ないのに比べ、その他の地域では「県全体」を下回る項目が多くなっています。

④地域別の満足度上位5項目の傾向

図表 地域別の満足度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や 史跡の保存 3.55	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.13	ゴミのリサイクル の促進 3.08	平日の渋滞解消 3.07
地域1 (北部)	文化遺産や 史跡の保存 3.60	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.15	公共交通の利便性 3.12	品揃えの豊富な店 3.10
地域2 (西部)	文化遺産や 史跡の保存 3.49	食品・薬品等の 安全性の確保 3.29	品揃えの豊富な店 3.10	地域の景観・ 町並の美しさ 3.08	ゴミのリサイクル の促進 3.04
地域3 (中部)	文化遺産や 史跡の保存 3.56	食品・薬品等の 安全性の確保 3.38	品揃えの豊富な店 3.27	ゴミのリサイクル の促進 3.12	県内で購入可能な 商品の充実 3.11
地域4 (東部)	文化遺産や 史跡の保存 3.43	地域の景観・ 町並の美しさ 3.23	平日の渋滞解消 3.20	食品・薬品等の 安全性の確保 3.15	ゴミのリサイクル の促進 3.10
地域5 (南東部)	文化遺産や 史跡の保存 3.39	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.31	ゴミのリサイクル の促進 3.28	地域の景観・ 町並の美しさ 3.22	子どもの暴力・ いじめの撲滅 3.10
地域6 (南西部)	文化遺産や 史跡の保存 3.55	地域の景観・ 町並の美しさ 3.10	平日の渋滞解消 3.08	休日の渋滞解消 3.08	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.07

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

満足度上位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「公共交通の利便性」（「地域1（北部）」の第4位）、「品揃えの豊富な店」（「地域1（北部）」の第5位、「地域2（西部）」・「地域3（中部）」の第3位）、「県内で購入可能な商品の充実」（「地域3（中部）」の第5位）、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「地域5（南東部）」の第2位、「地域6（南西部）」の第5位）、「子どもの暴力・いじめの撲滅」（「地域5（南東部）」の第5位）、「休日の渋滞解消」（「地域6（南西部）」の第4位）となっています。

⑤地域別の満足度下位5項目の傾向

図表 地域別の満足度下位5項目の傾向

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.45	多様な就業環境 の整備 2.47	失業の不安が ない社会づくり 2.53	安心できる 周産期医療体制 2.54	地域に活力・ 魅力があること 2.62
地域1 (北部)	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.48	多様な就業環境 の整備 2.50	失業の不安が ない社会づくり 2.56	安心できる 周産期医療体制 2.66	自主防災対策の充実 2.67
地域2 (西部)	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.42	多様な就業環境 の整備 2.52	安心できる 周産期医療体制 2.57	失業の不安が ない社会づくり 2.60	自主防災対策の充実 2.62
地域3 (中部)	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.47	多様な就業環境 の整備 2.54	失業の不安が ない社会づくり 2.58	安心できる 周産期医療体制 2.61	地域に活力・ 魅力があること 2.65
地域4 (東部)	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.21	多様な就業環境 の整備 2.27	公共交通の利便性 2.28	地域に活力・ 魅力があること 2.36	失業の不安が ない社会づくり 2.37
地域5 (南東部)	安心できる 周産期医療体制 1.95	公共交通の利便性 2.05	品揃えの豊富な店 2.11	地域に活力・ 魅力があること 2.23	多様な就業環境 の整備 2.25
地域6 (南西部)	安心できる 周産期医療体制 1.83	公共交通の利便性 1.95	多様な就業環境 の整備 2.17	品揃えの豊富な店 2.23	救急医療の充実 2.29

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

満足度下位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「自主防災対策の充実」（「地域1（北部）」・「地域2（西部）」の第27位）、「公共交通の利便性」（「地域4（東部）」の第29位、「地域5（南東部）」・「地域6（南西部）」の第30位）、「品揃えの豊富な店」（「地域5（南東部）」の第29位、「地域6（南西部）」の第28位）、「救急医療の充実」（「地域6（南西部）」の第27位）となっています。

(2) ライフステージ別の重要度・満足度の比較

①「県全体」の重要度上位10項目及びライフステージ別での比較

図表 「県全体」の重要度上位10項目及びライフステージ別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	若者	夫婦	育児期	教育期前期	教育期後期	単身高齢者	高齢者夫婦
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	4.57	4.69	4.78	4.67	4.63	4.41	4.55
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.53	4.60	4.60	4.75	4.59	4.60	4.28	4.40
3	11	防災対策の充実	4.46	4.51	4.49	4.53	4.50	4.56	4.16	4.32
4	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.43	4.47	4.37	4.65	4.66	4.50	4.11	4.30
5	20	安心できる周産期医療体制	4.38	4.51	4.45	4.66	4.36	4.42	4.12	4.24
6	22	適切な介護サービスの充実	4.35	4.25	4.47	4.36	4.21	4.39	4.37	4.39
7	29	失業の不安がない社会づくり	4.34	4.50	4.34	4.50	4.39	4.35	4.19	4.10
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.30	4.35	4.36	4.45	4.38	4.34	4.09	4.21
9	13	自主防災対策の充実	4.23	4.31	4.30	4.32	4.25	4.29	4.02	4.09
10	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.20	4.15	4.19	4.58	4.42	4.23	4.13	4.08

(注) 網かけは、ライフステージでの重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」とライフステージとの比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位10項目をライフステージ別にみると、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「適切な介護サービスの充実」を除く全ての項目が「県全体」の重要度を下回っていますが、その他のライフステージでは多くの項目が「県全体」を上回っています。

②ライフステージ別の重要度上位5項目の傾向

図表 ライフステージ別の重要度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.53	防災対策の充実 4.46	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.43	安心できる 周産期医療体制 4.38
若者	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.60	急病時に診て もらえる医療機関 4.57	防災対策の充実 4.51	安心できる 周産期医療体制 4.51	失業の不安が ない社会づくり 4.50
夫婦	急病時に診て もらえる医療機関 4.69	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.60	防災対策の充実 4.49	適切な介護 サービスの充実 4.47	安心できる 周産期医療体制 4.45
育児期	急病時に診て もらえる医療機関 4.78	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.75	安心できる 周産期医療体制 4.66	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.65	子どもが健全に 育つ環境づくり 4.58
教育期 前期	急病時に診て もらえる医療機関 4.67	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.66	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.59	防災対策の充実 4.50	子どもが健全に 育つ環境づくり 4.42
教育期 後期	急病時に診て もらえる医療機関 4.63	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.60	防災対策の充実 4.56	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.50	安心できる 周産期医療体制 4.42
単身 高齢者	急病時に診て もらえる医療機関 4.41	適切な介護 サービスの充実 4.37	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.28	失業の不安が ない社会づくり 4.19	防災対策の充実 4.16
高齢者 夫婦	急病時に診て もらえる医療機関 4.55	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.40	適切な介護 サービスの充実 4.39	防災対策の充実 4.32	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.30

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
 点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「失業の不安がない社会づくり」（「若者」の第5位、「単身高齢者」の第4位）、「適切な介護サービスの充実」（「夫婦」の第4位、「単身高齢者」の第2位、「高齢者夫婦」の第3位）、「子どもが健全に育つ環境づくり」（「育児期」・「教育期前期」の第5位）となっています。

③「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及びライフステージ別での比較

図表 「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及びライフステージ別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	若者	夫婦	育児期	教育期前期	教育期後期	単身高齢者	高齢者夫婦
1	8	文化遺産や史跡の保存	3.55	3.64	3.47	3.59	3.55	3.58	3.57	3.59
2	12	食品・薬品等の安全性の確保	3.25	3.29	3.20	3.32	3.31	3.30	3.22	3.26
3	26	地域の景観・町並の美しさ	3.13	3.18	3.06	3.07	3.19	3.17	3.27	3.20
4	28	ゴミのリサイクルの促進	3.08	2.91	3.07	2.89	2.98	3.06	3.46	3.40
5	4	平日の渋滞解消	3.07	3.05	3.07	3.03	3.11	3.08	2.88	3.22
6	14	犯罪にあう不安のない暮らし	3.05	3.06	2.99	3.02	3.06	3.07	3.17	3.17
7	1	品揃えの豊富な店	3.00	2.88	3.05	3.17	3.12	3.06	2.83	3.08
8	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.00	2.91	2.96	2.88	2.95	2.90	3.26	3.26
9	30	県内で購入可能な商品の充実	2.98	2.83	2.98	2.94	2.99	3.02	3.10	3.16
10	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	2.94	2.81	2.90	2.87	2.99	3.06	3.04	3.11
⋮	⋮	⋮								
22	21	障害者支援サービスの充実	2.77	2.81	2.70	2.80	2.80	2.80	2.96	2.84
23	19	急病時に診てもらえる医療機関	2.67	2.62	2.68	2.50	2.60	2.63	2.95	2.96
24	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	2.67	2.70	2.68	2.62	2.72	2.69	2.92	2.77
25	11	防災対策の充実	2.65	2.64	2.71	2.65	2.69	2.69	2.79	2.78
26	13	自主防災対策の充実	2.65	2.62	2.58	2.62	2.73	2.70	2.74	2.75
27	15	地域に活力・魅力があること	2.62	2.65	2.59	2.71	2.68	2.67	2.90	2.66
28	20	安心できる周産期医療体制	2.54	2.54	2.51	2.71	2.59	2.53	2.69	2.65
29	29	失業の不安がない社会づくり	2.53	2.46	2.55	2.69	2.59	2.65	2.63	2.65
30	31	多様な就業環境の整備	2.47	2.39	2.43	2.45	2.45	2.55	2.70	2.61
31	18	市町村行政に対する住民意向の反映	2.45	2.47	2.41	2.42	2.45	2.51	2.67	2.60

(注) 網かけ・白抜きは、ライフステージでの満足度が「県全体」よりも低いことを意味する。ただし、「県全体」とライフステージとの比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の満足度の上位・下位10項目についてライフステージ別にみると、「教育期前期」や「教育期後期」、「単身高齢者」では「県全体」を下回る項目が少なく、「高齢者夫婦」では下回る項目がありません。一方で、その他のライフステージでは「県全体」を下回る項目が多くなっています。

④ライフステージ別の満足度上位5項目の傾向

図表 ライフステージ別の満足度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や 史跡の保存 3.55	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.13	ゴミのリサイクル の促進 3.08	平日の渋滞解消 3.07
若者	文化遺産や 史跡の保存 3.64	食品・薬品等の 安全性の確保 3.29	地域の景観・ 町並の美しさ 3.18	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.06	平日の渋滞解消 3.05
夫婦	文化遺産や 史跡の保存 3.47	食品・薬品等の 安全性の確保 3.20	平日の渋滞解消 3.07	ゴミのリサイクル の促進 3.07	地域の景観・ 町並の美しさ 3.06
育児期	文化遺産や 史跡の保存 3.59	食品・薬品等の 安全性の確保 3.32	品揃えの豊富な店 3.17	公共交通の利便性 3.07	地域の景観・ 町並の美しさ 3.07
教育期 前期	文化遺産や 史跡の保存 3.55	食品・薬品等の 安全性の確保 3.31	地域の景観・ 町並の美しさ 3.19	品揃えの豊富な店 3.12	平日の渋滞解消 3.11
教育期 後期	文化遺産や 史跡の保存 3.58	食品・薬品等の 安全性の確保 3.30	地域の景観・ 町並の美しさ 3.17	平日の渋滞解消 3.08	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.07
単身 高齢者	文化遺産や 史跡の保存 3.57	ゴミのリサイクル の促進 3.46	地域の景観・ 町並の美しさ 3.27	生涯を通じた教養 ・趣味の拡大 3.26	精神的な緊張の軽減 3.24
高齢者 夫婦	文化遺産や 史跡の保存 3.59	ゴミのリサイクル の促進 3.40	生涯を通じた教養 ・趣味の拡大 3.26	食品・薬品等の 安全性の確保 3.26	平日の渋滞解消 3.22

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

満足度上位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「若者」の第4位、「教育期後期」の第5位）、「品揃えの豊富な店」（「育児期」の第3位、「教育期前期」の第4位）、「公共交通の利便性」（「育児期」の第4位）、「生涯を通じた教養・趣味の拡大」（「単身高齢者」の第4位、「高齢者夫婦」の第3位）、「精神的な緊張の軽減」（「単身高齢者」の第5位）となっています。

⑤ライフステージ別の満足度下位5項目の傾向

図表 ライフステージ別の満足度下位5項目の傾向

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.45	多様な就業環境 の整備 2.47	失業の不安が ない社会づくり 2.53	安心できる 周産期医療体制 2.54	地域に活力・ 魅力があること 2.62
若者	多様な就業環境 の整備 2.39	失業の不安が ない社会づくり 2.46	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.47	安心できる 周産期医療体制 2.54	急病時に診て もらえる医療機関 2.62
夫婦	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.41	多様な就業環境 の整備 2.43	安心できる 周産期医療体制 2.51	失業の不安が ない社会づくり 2.55	自主防災対策の充実 2.58
育児期	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.42	多様な就業環境 の整備 2.45	急病時に診て もらえる医療機関 2.50	高齢者・障害者が 安心できるまちづくり 2.62	自主防災対策の充実 2.62
教育期 前期	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.45	多様な就業環境 の整備 2.45	失業の不安が ない社会づくり 2.59	安心できる 周産期医療体制 2.59	急病時に診て もらえる医療機関 2.60
教育期 後期	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.51	安心できる 周産期医療体制 2.53	多様な就業環境 の整備 2.55	急病時に診て もらえる医療機関 2.63	失業の不安が ない社会づくり 2.65
単身 高齢者	失業の不安が ない社会づくり 2.63	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.67	安心できる 周産期医療体制 2.69	多様な就業環境 の整備 2.70	自主防災対策の充実 2.74
高齢者 夫婦	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.60	多様な就業環境 の整備 2.61	失業の不安が ない社会づくり 2.65	安心できる 周産期医療体制 2.65	地域に活力・ 魅力があること 2.66

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

満足度下位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「急病時に診てもらえる医療機関」（「若者」・「教育期前期」の第27位、「育児期」の第29位、「教育期後期」の第28位）、「自主防災対策の充実」（「夫婦」・「育児期」・「単身高齢者」の第27位）、「高齢者・障害者が安心できるまちづくり」（「育児期」の第28位）となっています。

(3) 性別の重要度・満足度の比較

①「県全体」の重要度上位10項目及び性別での比較

図表 「県全体」の重要度上位10項目及び性別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	男性	女性
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	4.59	4.63
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.53	4.49	4.56
3	11	防災対策の充実	4.46	4.39	4.52
4	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.43	4.36	4.49
5	20	安心できる周産期医療体制	4.38	4.34	4.41
6	22	適切な介護サービスの充実	4.35	4.28	4.42
7	29	失業の不安がない社会づくり	4.34	4.27	4.40
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.30	4.23	4.36
9	13	自主防災対策の充実	4.23	4.14	4.31
10	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.20	4.15	4.26

(注) 網かけは、性別での重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」と性別との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位10項目を性別にみると、「女性」では、10項目すべての重要度が「県全体」と「男性」に比べて高くなっています。

②性別の重要度上位5項目の傾向

図表 性別の重要度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診てもらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安のない暮らし 4.53	防災対策の充実 4.46	子どもの暴力・いじめの撲滅 4.43	安心できる周産期医療体制 4.38
男性	急病時に診てもらえる医療機関 4.59	犯罪にあう不安のない暮らし 4.49	防災対策の充実 4.39	子どもの暴力・いじめの撲滅 4.36	安心できる周産期医療体制 4.34
女性	急病時に診てもらえる医療機関 4.63	犯罪にあう不安のない暮らし 4.56	防災対策の充実 4.52	子どもの暴力・いじめの撲滅 4.49	適切な介護サービスの充実 4.42

(注) 網かけは、性別にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、性別にはあるが「県全体」にはない項目は、「適切な介護サービスの充実」（「女性」の第5位）となっています。

③「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び性別での比較

図表 「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び性別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	男性	女性
1	8	文化遺産や史跡の保存	3.55	3.54	3.56
2	12	食品・薬品等の安全性の確保	3.25	3.26	3.24
3	26	地域の景観・町並の美しさ	3.13	3.03	3.21
4	28	ゴミのリサイクルの促進	3.08	3.05	3.10
5	4	平日の渋滞解消	3.07	2.95	3.17
6	14	犯罪にあう不安のない暮らし	3.05	3.07	3.03
7	1	品揃えの豊富な店	3.00	3.04	2.98
8	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.00	2.99	3.00
9	30	県内で購入可能な商品の充実	2.98	2.97	2.99
10	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	2.94	2.93	2.94
⋮	⋮	⋮			
22	21	障害者支援サービスの充実	2.77	2.76	2.78
23	19	急病時に診てもらえる医療機関	2.67	2.68	2.67
24	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	2.67	2.68	2.67
25	11	防災対策の充実	2.65	2.66	2.65
26	13	自主防災対策の充実	2.65	2.63	2.67
27	15	地域に活力・魅力があること	2.62	2.56	2.68
28	20	安心できる周産期医療体制	2.54	2.56	2.53
29	29	失業の不安がない社会づくり	2.53	2.50	2.56
30	31	多様な就業環境の整備	2.47	2.45	2.48
31	18	市町村行政に対する住民意向の反映	2.45	2.43	2.47

(注) 網かけ・白抜きは、性別での満足度が「県全体」よりも低いことを意味する。ただし、「県全体」と性別との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の満足度の上位・下位10項目について男女別にみると、「男性」では「県全体」と「女性」を下回る項目が13項目あるのに対し、「女性」では「県全体」と「男性」を下回る項目が7項目となっています。

④性別の満足度上位5項目の傾向

図表 性別の満足度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や 史跡の保存 3.55	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.13	ゴミのリサイクル の促進 3.08	平日の渋滞解消 3.07
男性	文化遺産や 史跡の保存 3.54	食品・薬品等の 安全性の確保 3.26	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.07	ゴミのリサイクル の促進 3.05	品揃えの豊富な店 3.04
女性	文化遺産や 史跡の保存 3.56	食品・薬品等の 安全性の確保 3.24	地域の景観・ 町並の美しさ 3.21	平日の渋滞解消 3.17	ゴミのリサイクル の促進 3.10

(注) 網かけは、性別にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

満足度上位5項目で、性別にはあるが「県全体」にはない項目は、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「男性」の第3位）、「品揃えの豊富な店」（「男性」の第5位）となっています。

⑤性別の満足度下位5項目の傾向

図表 性別の満足度下位5項目の傾向

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.45	多様な就業環境 の整備 2.47	失業の不安が ない社会づくり 2.53	安心できる 周産期医療体制 2.54	地域に活力・ 魅力があること 2.62
男性	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.43	多様な就業環境 の整備 2.45	失業の不安が ない社会づくり 2.50	地域に活力・ 魅力があること 2.56	安心できる 周産期医療体制 2.56
女性	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.47	多様な就業環境 の整備 2.48	安心できる 周産期医療体制 2.53	失業の不安が ない社会づくり 2.56	防災対策の充実 2.65

(注) 網かけは、性別にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

満足度下位5項目で、性別にはあるが「県全体」にはない項目は、「防災対策の充実」（「女性」の第27位）となっています。

(4) 年齢別の重要度・満足度の比較

①「県全体」の重要度上位10項目及び年齢別での比較

図表 「県全体」の重要度上位10項目及び年齢別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	4.57	4.68	4.66	4.62	4.59	4.54
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.53	4.59	4.63	4.59	4.54	4.48	4.36
3	11	防災対策の充実	4.46	4.51	4.49	4.53	4.52	4.44	4.28
4	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.43	4.47	4.52	4.51	4.45	4.34	4.29
5	20	安心できる周産期医療体制	4.38	4.52	4.50	4.33	4.39	4.37	4.22
6	22	適切な介護サービスの充実	4.35	4.27	4.29	4.31	4.38	4.42	4.39
7	29	失業の不安がない社会づくり	4.34	4.48	4.44	4.41	4.39	4.24	4.14
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.30	4.35	4.36	4.33	4.31	4.31	4.16
9	13	自主防災対策の充実	4.23	4.30	4.24	4.26	4.27	4.23	4.07
10	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.20	4.16	4.29	4.26	4.20	4.20	4.09

(注) 網かけは、年齢での重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」と年齢との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位10項目を年齢別にみると、「60歳代」以上で「県全体」よりも重要度が高い項目が少なく、その他の年齢層では多くなっています。

②年齢別の重要度上位5項目の傾向

図表 年齢別の重要度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.53	防災対策の充実 4.46	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.43	安心できる 周産期医療体制 4.38
20歳代	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.59	急病時に診て もらえる医療機関 4.57	安心できる 周産期医療体制 4.52	防災対策の充実 4.51	失業の不安が ない社会づくり 4.48
30歳代	急病時に診て もらえる医療機関 4.68	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.63	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.52	安心できる 周産期医療体制 4.50	防災対策の充実 4.49
40歳代	急病時に診て もらえる医療機関 4.66	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.59	防災対策の充実 4.53	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.51	失業の不安が ない社会づくり 4.41
50歳代	急病時に診て もらえる医療機関 4.62	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.54	防災対策の充実 4.52	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.45	安心できる 周産期医療体制 4.39
60歳代	急病時に診て もらえる医療機関 4.59	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.48	防災対策の充実 4.44	適切な介護 サービスの充実 4.42	安心できる 周産期医療体制 4.37
70歳 以上	急病時に診て もらえる医療機関 4.54	適切な介護 サービスの充実 4.39	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.36	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.29	防災対策の充実 4.28

(注) 網かけは、年齢にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、個別の年齢にはあるが「県全体」にはない項目は、「失業の不安がない社会づくり」（「20歳代」・「40歳代」の第5位）、「適切な介護サービスの充実」（「60歳代」の第4位、「70歳以上」の第2位）となっています。

③「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び年齢別での比較

図表 「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び年齢別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1	8	文化遺産や史跡の保存	3.55	3.64	3.59	3.50	3.52	3.53	3.58
2	12	食品・薬品等の安全性の確保	3.25	3.29	3.27	3.29	3.23	3.19	3.28
3	26	地域の景観・町並の美しさ	3.13	3.17	3.17	3.08	3.09	3.09	3.25
4	28	ゴミのリサイクルの促進	3.08	2.91	2.91	2.93	3.00	3.21	3.45
5	4	平日の渋滞解消	3.07	3.05	2.98	3.04	3.06	3.13	3.13
6	14	犯罪にあう不安のない暮らし	3.05	3.05	3.04	3.03	3.05	3.02	3.15
7	1	品揃えの豊富な店	3.00	2.91	3.01	3.02	2.96	3.10	2.94
8	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.00	2.91	2.91	2.89	2.95	3.07	3.24
9	30	県内で購入可能な商品の充実	2.98	2.85	2.85	2.91	2.99	3.07	3.15
10	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	2.94	2.81	2.86	2.99	2.89	2.96	3.08
⋮	⋮	⋮							
22	21	障害者支援サービスの充実	2.77	2.80	2.77	2.78	2.68	2.78	2.87
23	19	急病時に診てもらえる医療機関	2.67	2.64	2.50	2.58	2.63	2.75	2.94
24	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	2.67	2.69	2.68	2.67	2.59	2.66	2.82
25	11	防災対策の充実	2.65	2.63	2.66	2.63	2.63	2.67	2.71
26	13	自主防災対策の充実	2.65	2.62	2.61	2.67	2.59	2.68	2.73
27	15	地域に活力・魅力があること	2.62	2.67	2.66	2.58	2.54	2.62	2.73
28	20	安心できる周産期医療体制	2.54	2.53	2.55	2.53	2.51	2.54	2.62
29	29	失業の不安がない社会づくり	2.53	2.47	2.58	2.50	2.51	2.52	2.62
30	31	多様な就業環境の整備	2.47	2.40	2.44	2.41	2.43	2.49	2.63
31	18	市町村行政に対する住民意向の反映	2.45	2.47	2.40	2.43	2.42	2.44	2.59

(注) 網かけ・白抜きは、年齢での満足度が「県全体」よりも低いことを意味する。ただし、「県全体」と年齢との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位・下位10項目を年齢別にみると、特に「60歳代」以下で「県全体」を下回る項目が多くなっていますが、「70歳以上」では「品揃えの豊富な店」のみとなっています。

④年齢別の満足度上位5項目の傾向

図表 年齢別の満足度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や 史跡の保存 3.55	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.13	ゴミのリサイクル の促進 3.08	平日の渋滞解消 3.07
20歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.64	食品・薬品等の 安全性の確保 3.29	地域の景観・ 町並の美しさ 3.17	平日の渋滞解消 3.05	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.05
30歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.59	食品・薬品等の 安全性の確保 3.27	地域の景観・ 町並の美しさ 3.17	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.04	品揃えの豊富な店 3.01
40歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.50	食品・薬品等の 安全性の確保 3.29	地域の景観・ 町並の美しさ 3.08	平日の渋滞解消 3.04	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.03
50歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.52	食品・薬品等の 安全性の確保 3.23	地域の景観・ 町並の美しさ 3.09	平日の渋滞解消 3.06	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.05
60歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.53	ゴミのリサイクル の促進 3.21	食品・薬品等の 安全性の確保 3.19	平日の渋滞解消 3.13	品揃えの豊富な店 3.10
70歳 以上	文化遺産や 史跡の保存 3.58	ゴミのリサイクル の促進 3.45	食品・薬品等の 安全性の確保 3.28	地域の景観・ 町並の美しさ 3.25	生涯を通じた教養 ・趣味の拡大 3.24

(注) 網かけは、年齢にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

満足度上位5項目で、個別の年齢にはあるが「県全体」にはない項目は、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「20歳代」・「40歳代」・「50歳代」の第5位、「30歳代」の第4位）、「品揃えの豊富な店」（「30歳代」・「60歳代」の第5位）、「生涯を通じた教養・趣味の拡大」（「70歳以上」の第5位）となっています。

⑤年齢別の満足度下位5項目の傾向

図表 年齢別の満足度下位5項目の傾向

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.45	多様な就業環境 の整備 2.47	失業の不安が ない社会づくり 2.53	安心できる 周産期医療体制 2.54	地域に活力・ 魅力があること 2.62
20歳代	多様な就業環境 の整備 2.40	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.47	失業の不安が ない社会づくり 2.47	安心できる 周産期医療体制 2.53	自主防災対策の充実 2.62
30歳代	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.40	多様な就業環境 の整備 2.44	急病時に診て もらえる医療機関 2.50	安心できる 周産期医療体制 2.55	失業の不安が ない社会づくり 2.58
40歳代	多様な就業環境 の整備 2.41	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.43	失業の不安が ない社会づくり 2.50	安心できる 周産期医療体制 2.53	地域に活力・ 魅力があること 2.58
50歳代	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.42	多様な就業環境 の整備 2.43	失業の不安が ない社会づくり 2.51	安心できる 周産期医療体制 2.51	地域に活力・ 魅力があること 2.54
60歳代	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.44	多様な就業環境 の整備 2.49	失業の不安が ない社会づくり 2.52	安心できる 周産期医療体制 2.54	地域に活力・ 魅力があること 2.62
70歳 以上	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.59	安心できる 周産期医療体制 2.62	失業の不安が ない社会づくり 2.62	多様な就業環境 の整備 2.63	防災対策の充実 2.71

(注) 網かけは、年齢にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

満足度下位5項目で、個別の年齢にはあるが「県全体」にはない項目は、「自主防災対策の充実」(「20歳代」の第27位)、「急病時に診てもらえる医療機関」(「30歳代」の第29位)、「防災対策の充実」(「70歳以上」の第27位)となっています。

3 県民の仕事に関する意識やニーズについて

3-1 職業

図表 職業（単数回答／県全体、性別、性・年齢別、婚姻状況別、性・婚姻状況別、ライフステージ別、地域別）

	正規の職員・従業員	家事専業・家事手伝い	無職	パート・アルバイト（学生を除く）	農工・サービス業の自営業・家族従業員（卸売業・飲食業・製造業など）	契約社員・嘱託	農林漁業の自営業・家族従業員	その他自営業（開業医・弁護士・宗教家・芸術家・茶華道師匠など）	企業などの役員	学生	派遣社員	その他	無回答
県全体	27.5%	17.9%	17.2%	13.5%	6.6%	4.3%	3.3%	2.7%	1.6%	1.3%	0.9%	0.8%	2.3%
性別													
男性	41.1%	0.5%	22.4%	5.0%	9.5%	5.7%	4.6%	4.2%	2.8%	1.2%	0.9%	0.7%	1.5%
女性	16.0%	32.7%	12.8%	20.8%	4.2%	3.1%	2.2%	1.3%	0.6%	1.5%	0.9%	0.9%	2.8%
男性・年齢別													
20歳代	56.4%	0.0%	8.5%	7.4%	3.2%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%	14.9%	0.0%	0.0%	2.1%
30歳代	76.9%	0.6%	5.6%	1.9%	6.3%	2.5%	0.6%	1.3%	2.5%	0.0%	1.3%	0.0%	0.8%
40歳代	68.8%	0.5%	3.4%	2.9%	9.1%	3.8%	1.4%	4.3%	1.9%	0.5%	2.4%	0.5%	0.5%
50歳代	61.7%	0.4%	7.3%	3.6%	9.1%	3.6%	2.9%	6.6%	3.3%	0.0%	0.4%	0.0%	1.1%
60歳代	10.3%	0.0%	36.4%	8.1%	14.6%	13.1%	8.1%	3.7%	3.1%	0.0%	0.9%	0.3%	1.2%
70歳以上	0.5%	1.4%	57.9%	5.1%	7.9%	0.5%	9.8%	5.6%	4.2%	0.0%	0.0%	3.3%	3.7%
女性・年齢別													
20歳代	40.4%	15.6%	5.7%	14.2%	0.7%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	14.2%	1.4%	1.4%	0.7%
30歳代	29.1%	30.5%	2.7%	21.1%	1.8%	7.6%	0.9%	0.4%	0.0%	0.4%	3.1%	0.9%	1.3%
40歳代	23.4%	27.5%	2.6%	34.6%	4.1%	3.0%	0.7%	1.1%	0.7%	0.4%	0.7%	0.4%	0.7%
50歳代	14.5%	29.8%	3.9%	34.8%	6.0%	2.1%	4.3%	1.8%	0.4%	0.0%	0.4%	0.7%	1.4%
60歳代	2.2%	47.2%	16.3%	14.4%	7.5%	2.2%	3.1%	1.6%	1.6%	0.0%	0.6%	0.6%	2.8%
70歳以上	1.6%	35.1%	43.1%	2.4%	2.4%	0.0%	2.4%	2.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.6%	8.9%
婚姻状況別													
未婚	47.1%	1.4%	12.2%	11.1%	4.5%	8.2%	1.2%	1.4%	0.7%	7.5%	2.4%	1.9%	0.5%
既婚	25.2%	22.3%	15.6%	14.1%	7.1%	3.6%	4.0%	2.9%	1.9%	0.2%	0.6%	0.5%	2.0%
離婚・死別	17.2%	12.2%	34.5%	12.8%	6.1%	3.7%	2.4%	3.0%	1.0%	0.3%	0.7%	1.0%	5.1%
男性・婚姻別													
未婚	47.8%	1.0%	15.8%	8.6%	5.7%	6.7%	1.4%	1.4%	1.4%	6.2%	1.9%	1.0%	1.0%
既婚	41.6%	0.2%	22.6%	4.1%	9.9%	5.6%	5.4%	4.6%	3.4%	0.2%	0.5%	0.6%	1.2%
離婚・死別	21.3%	2.5%	36.3%	5.0%	12.5%	3.8%	3.8%	6.3%	0.0%	0.0%	2.5%	1.3%	5.0%
女性・婚姻別													
未婚	46.0%	1.9%	8.8%	13.5%	3.3%	9.8%	0.9%	1.4%	0.0%	8.8%	2.8%	2.8%	0.0%
既婚	10.0%	42.9%	9.2%	23.3%	4.6%	1.6%	2.6%	1.2%	0.6%	0.2%	0.7%	0.5%	2.6%
離婚・死別	15.9%	15.4%	34.1%	15.9%	3.7%	3.7%	1.9%	1.9%	1.4%	0.5%	0.0%	0.9%	4.7%
ライフステージ別													
若者	47.1%	9.3%	7.0%	11.0%	1.8%	6.2%	0.0%	0.0%	0.0%	15.0%	0.9%	0.9%	0.9%
夫婦	21.6%	27.2%	10.2%	17.0%	9.2%	6.2%	1.0%	2.3%	2.0%	0.0%	1.0%	0.0%	2.3%
育児期	49.5%	34.3%	2.2%	5.2%	3.0%	1.5%	0.0%	1.5%	0.7%	0.7%	0.7%	0.0%	1.5%
教育期前期	44.6%	21.1%	1.6%	18.2%	6.1%	2.6%	0.8%	1.8%	1.1%	0.5%	0.8%	0.0%	0.8%
教育期後期	39.0%	15.3%	3.0%	20.7%	6.3%	4.0%	3.0%	5.7%	1.7%	0.3%	0.0%	0.0%	1.0%
単身高齢者	2.4%	13.3%	60.2%	3.6%	3.6%	1.2%	2.4%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	9.6%
高齢者夫婦	1.2%	23.1%	48.1%	5.9%	6.2%	1.9%	5.9%	2.5%	2.2%	0.0%	0.0%	1.6%	3.4%
地域別													
地域1(北部)	30.1%	17.6%	15.9%	12.7%	6.6%	4.3%	3.1%	3.1%	1.9%	1.2%	1.0%	0.5%	1.9%
地域2(西部)	26.3%	22.1%	17.9%	11.1%	7.6%	3.8%	0.8%	2.3%	1.5%	2.3%	0.8%	1.1%	2.3%
地域3(中部)	27.4%	19.4%	16.3%	14.7%	7.1%	5.3%	1.6%	2.1%	1.0%	1.6%	1.2%	0.9%	1.3%
地域4(東部)	24.5%	15.0%	16.8%	18.2%	5.5%	3.6%	7.3%	1.4%	2.7%	0.0%	0.9%	1.8%	2.3%
地域5(南東部)	16.2%	13.7%	31.4%	12.3%	4.4%	2.0%	5.4%	2.5%	1.5%	1.5%	0.0%	1.0%	8.3%
地域6(南西部)	27.0%	14.0%	11.0%	14.0%	9.0%	4.0%	11.0%	5.0%	0.0%	2.0%	0.0%	1.0%	2.0%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「その他」及び「無回答」を除く）に並べている。

太字は「その他」及び「無回答」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

職業については、「正規の職員・従業員」(27.5%)が最も多く、次いで「家事専業・家事手伝い」(17.9%)、「無職」(17.2%)、「パート・アルバイト(学生を除く)」(13.5%)となっています。

「パート・アルバイト(学生を除く)」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」を合計した「非正規社員等」は18.7%となっています。

■性・年齢別

「男性」については、「20歳代」から「50歳代」では「正規の職員・従業員」が最も多く、「60歳代」以上では「無職」が最も多くなっています。

「女性」については、「20歳代」では「正規の職員・従業員」、「30歳代」と「60歳代」では「家事専業・家事手伝い」、「40歳代」と「50歳代」では「パート・アルバイト(学生を除く)」、「70歳以上」では「無職」が最も多くなっています。

■性・婚姻状況別

「未婚」と「既婚」では「正規の職員・従業員」、「離婚・死別」では「無職」が最も多くなっています。

これを性別にみると、「男性」では「未婚」、「既婚」とともに「正規の職員・従業員」が最も多くなっていますが、「女性」では「未婚」でのみ「正規の職員・従業員」が最も多く、「既婚」では「家事専業・家事手伝い」が最も多くなっています。「離婚・死別」では男女ともに「無職」が最も多くなっています。

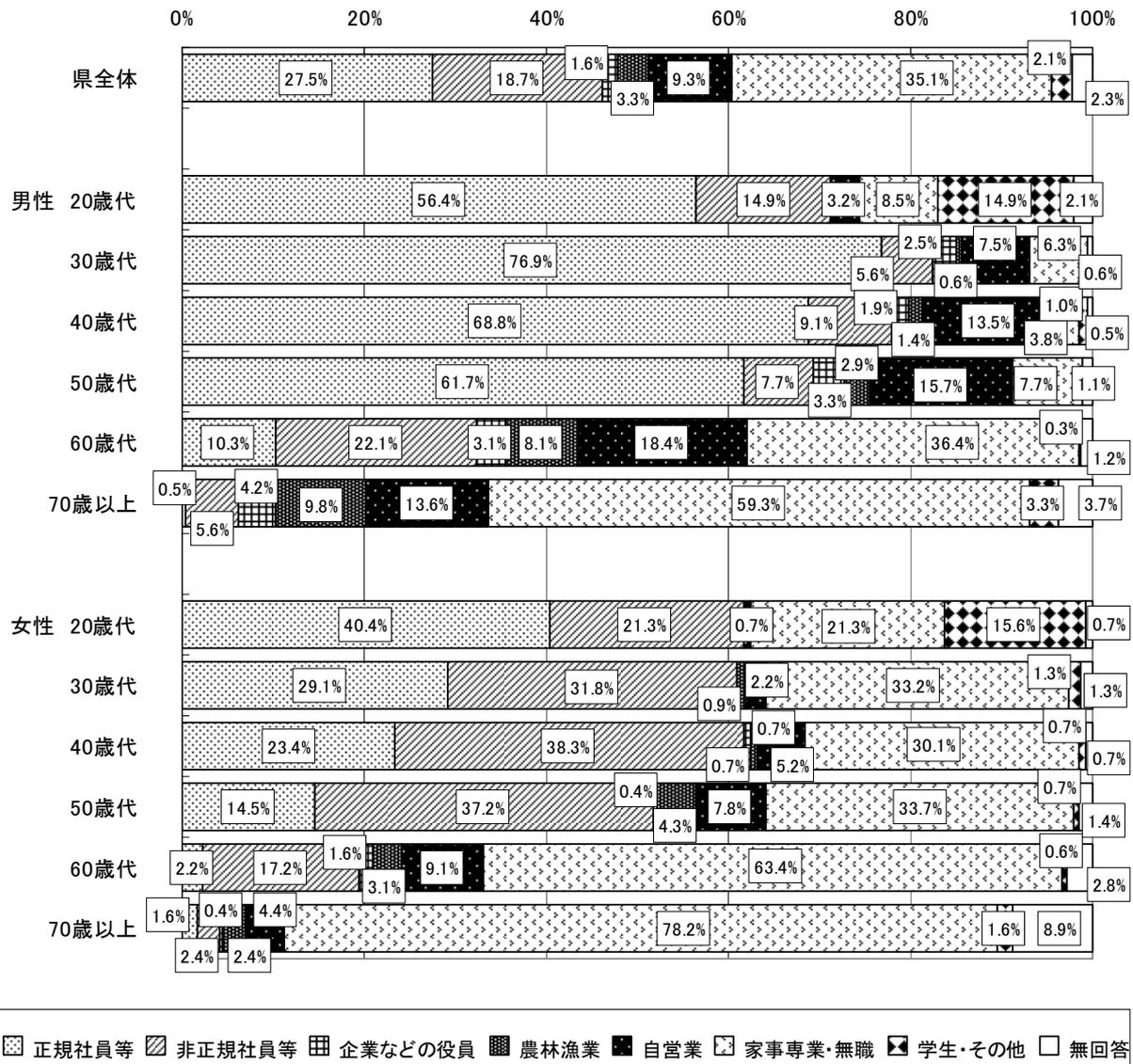
■ライフステージ別

「夫婦」では「家事専業・家事手伝い」、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「無職」が最も多く、その他のライフステージでは「正規の職員・従業員」が最も多くなっています。

■地域別

「地域5(南東部)」では「無職」が最も多くなっていますが、その他の地域では「正規の職員・従業員」が最も多くなっています。

(参考) 図表 職業 (就労形態別再区分: 単数回答/県全体、性・年齢別)



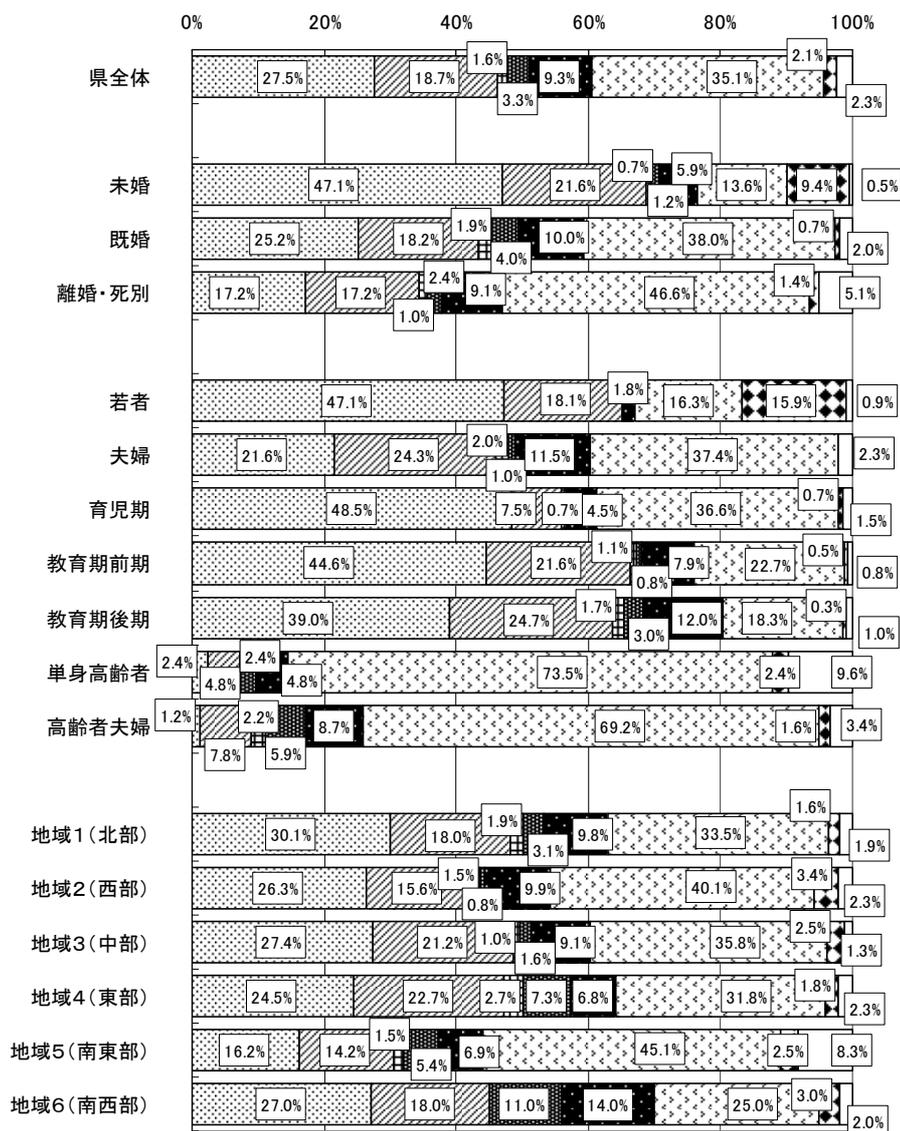
(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■性・年齢別 (就労形態別再区分)

「男性」については、「20歳代」から「50歳代」では「正規社員等」、「60歳代」以上では「家事専業・無職」が最も多くなっています。

「女性」については、「20歳代」では「正規社員等」、「30歳代」、「60歳代」及び「70歳以上」では「家事専業・無職」、「40歳代」と「50歳代」では「非正規社員等」が最も多くなっています。

(参考) 図表 職業 (就労形態別再区分: 単数回答/県全体、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別)



正規社員等
 非正規社員等
 企業などの役員
 農林漁業
 自営業
 家事専業・無職
 学生・その他
 無回答

(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■婚姻状況別

「未婚」では「正規社員等」、「既婚」と「離婚・死別」では「家事専業・無職」が最も多くなっています。

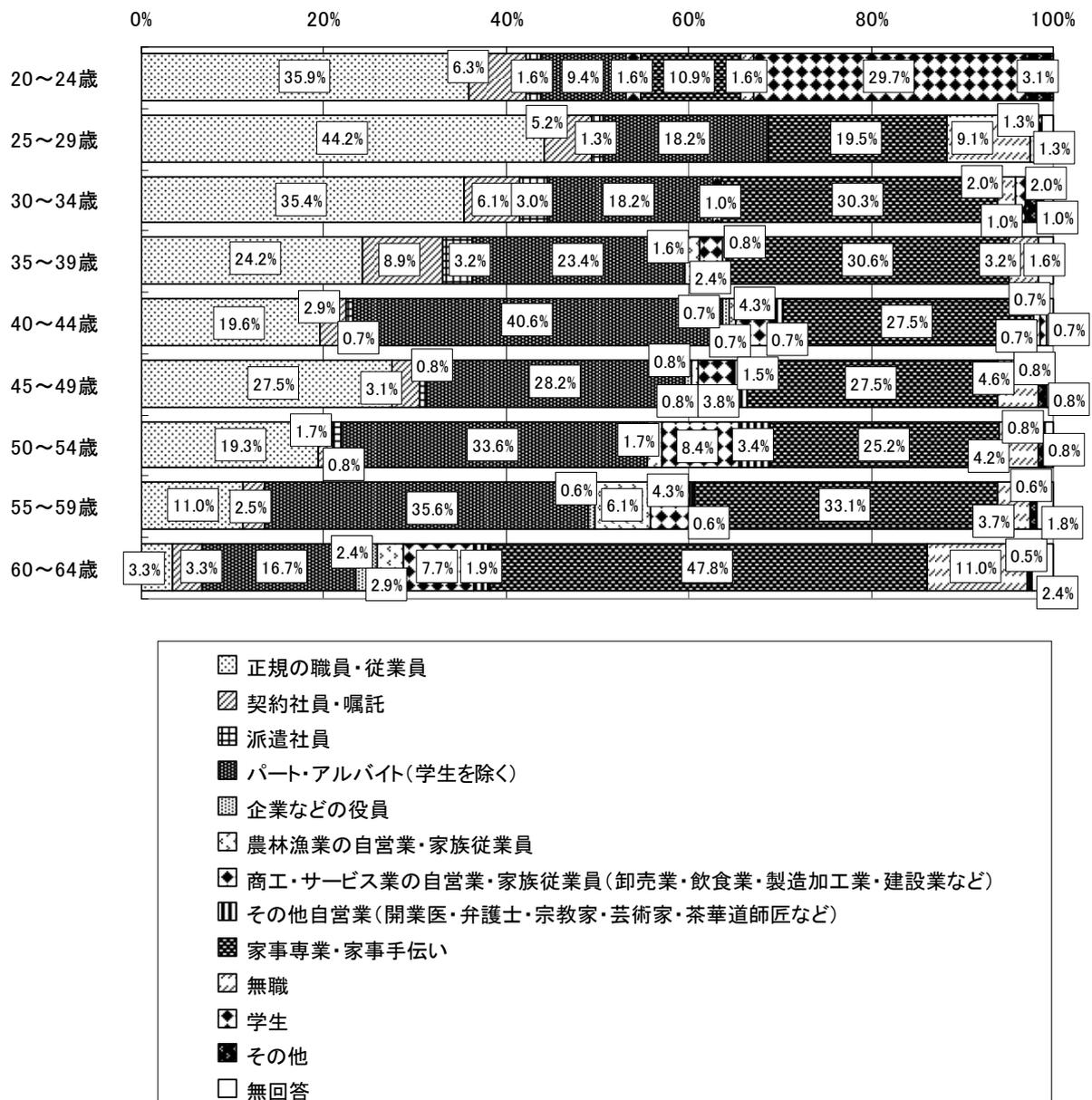
■ライフステージ別

「夫婦」、「単身高齢者」及び「高齢者夫婦」では「家事専業・無職」、その他のライフステージでは「正規社員等」が最も多くなっています。

■地域別

「地域6(南西部)」では「正規社員等」、その他の地域では「家事専業・無職」が最も多くなっています。

(参考) 図表 職業 (単数回答/女性、年齢5歳階級別)



(注) 上記図表には、生産年齢人口である64歳以下のみを示している。母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■女性・年齢5歳階級別

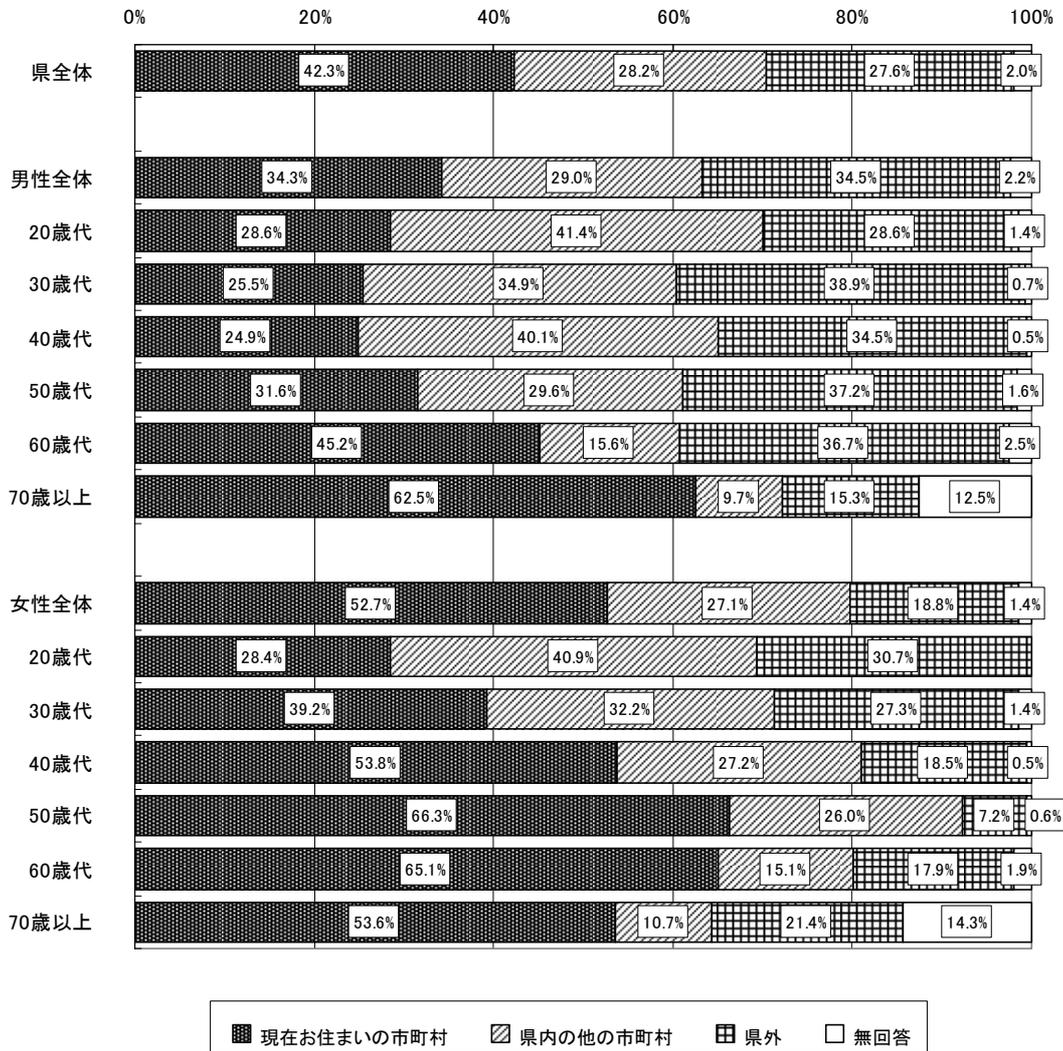
「女性」の職業(就業状況)について、年齢階級を細かく区切ってしてみると、34歳以下では「正規の職員・従業員」が最も多くなっていますが、「35～39歳」と「60～64歳」では「家事専業・家事手伝い」、40～59歳では「パート・アルバイト(学生を除く)」が最も多くなっています。

60歳未満の自営業以外の就労形態をみると、「企業などの役員」、「契約社員・嘱託」及び「派遣社員」は10%未満のごく少数となっています。また、「パート・アルバイト(学生を除く)」は、「正規の職員・従業員」が最も多い34歳以下では20%未満に留まっている一方で、35歳以上では20%以上を占め、特に「40～44歳」では40.6%と多くなっています。

3-2 働いている人

(1) 勤め先の所在地

図表 勤め先の所在地（単数回答／県全体、性・年齢別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

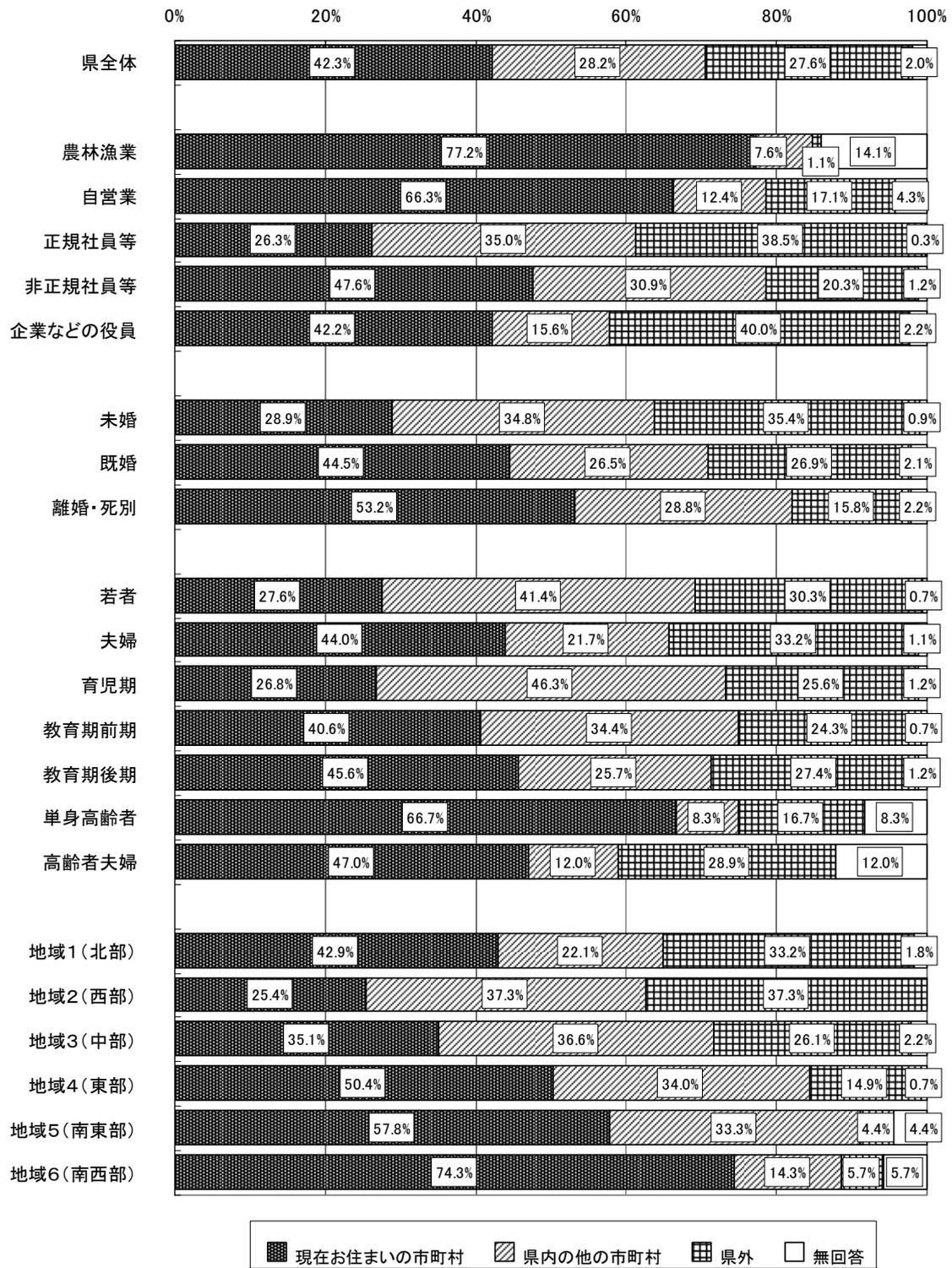
就労者（「家事専業・家事手伝い」、「無職」、「学生」、「その他」以外）に対して、勤め先の所在地をたずねたところ、「現在お住まいの市町村」（42.3%）が最も多く、次いで「県内の他の市町村」（28.2%）、「県外」（27.6%）となっています。

■性・年齢別

「男性」については、「30歳代」と「50歳代」では「県外」、「20歳代」と「40歳代」では「県内の他の市町村」、「60歳代」以上では「現在お住まいの市町村」で勤めている人が最も多くなっています。

「女性」については、「20歳代」と「30歳代」では「県内の他の市町村」や「県外」へ通勤している人が比較的多くなっていますが、「40歳代」以上では「現在お住まいの市町村」で勤めている人が50%を超えています。

図表 勤め先の所在地（単数回答／県全体、職業別、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

「正規社員等」では「県外」(38.5%)が最も多く、「県内の他の市町村」を含めて、「現在お住まいの市町村」以外へ通勤している人は73.5%を占めています。

「非正規社員等」では、「県内」(「現在お住まいの市町村」+「県内の他の市町村」)で勤めている人が78.5%を占めています。

■婚姻状況別

「未婚」では「県外」へ通勤している人、「既婚」と「離婚・死別」では「現在お住まいの市町村」で勤めている人が最も多くなっています。

■ライフステージ別

「若者」と「育児期」では「県内の他の市町村」へ通勤している人、その他のライフステージでは「現在お住まいの市町村」で勤めている人が最も多くなっています。

■地域別

「地域1(北部)」、「地域2(西部)」及び「地域3(中部)」では「現在お住まいの市町村」以外へ通勤している人が50%を越えており、特に「地域2(西部)」(74.6%)で多くなっています。

その他の地域では「現在お住まいの市町村」で勤めている人が50%を越えており、特に「地域6(南西部)」(74.3%)で多くなっています。

(2) 勤め先までの交通手段

図表 勤め先までの交通手段（複数回答／県全体、性別、性・年齢別、職業別、地域別）

		自家用車	鉄道・電車	自転車	徒歩のみ（他の交通手段の利用なし）	乗合バス	等） 交通手段を利用しない（自宅勤務等）	オートバイ	勤め先のバス	その他
県全体		49.6%	29.8%	12.9%	8.5%	8.3%	7.6%	6.0%	0.7%	0.8%
性別	男性	50.8%	32.9%	10.4%	7.0%	7.4%	8.6%	5.8%	0.9%	0.5%
	女性	48.2%	26.1%	16.1%	10.4%	9.5%	6.3%	6.4%	0.4%	1.1%
男性・年齢別	20歳代	52.9%	32.9%	20.0%	5.7%	4.3%	2.9%	10.0%	1.4%	1.4%
	30歳代	53.7%	36.9%	17.4%	6.0%	5.4%	2.7%	8.7%	0.7%	1.3%
	40歳代	53.3%	37.6%	9.1%	8.1%	7.1%	4.6%	7.1%	2.0%	0.0%
	50歳代	53.2%	35.2%	9.2%	5.6%	8.8%	6.8%	2.4%	0.4%	0.4%
	60歳代	47.7%	29.6%	5.5%	5.0%	6.5%	16.6%	4.5%	0.5%	0.5%
	70歳以上	36.1%	12.5%	6.9%	18.1%	12.5%	22.2%	6.9%	0.0%	0.0%
	女性・年齢別	20歳代	46.6%	52.3%	18.2%	8.0%	17.0%	0.0%	5.7%	2.3%
30歳代	49.7%	32.9%	16.8%	8.4%	7.0%	1.4%	5.6%	0.7%	1.4%	
40歳代	49.5%	25.0%	18.5%	8.2%	9.2%	6.5%	6.0%	0.0%	2.2%	
50歳代	53.0%	16.0%	16.6%	13.8%	7.7%	6.1%	5.0%	0.0%	0.6%	
60歳代	43.4%	16.0%	10.4%	11.3%	11.3%	14.2%	9.4%	0.0%	0.0%	
70歳以上	17.9%	21.4%	7.1%	17.9%	7.1%	21.4%	14.3%	0.0%	3.6%	
職業別	農林漁業	38.0%	1.1%	6.5%	19.6%	1.1%	33.7%	6.5%	0.0%	0.0%
	自営業	41.1%	14.0%	1.6%	12.4%	4.3%	32.9%	3.5%	0.4%	0.8%
	正規社員等	51.9%	42.2%	14.6%	6.7%	9.7%	0.5%	6.6%	0.9%	0.9%
	非正規社員等	52.2%	25.9%	17.8%	6.8%	9.9%	0.2%	7.0%	0.6%	0.8%
	企業などの役員	53.3%	15.6%	4.4%	13.3%	4.4%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
地域別	地域1(北部)	44.4%	36.2%	12.4%	7.9%	13.2%	7.4%	5.4%	0.9%	1.1%
	地域2(西部)	38.7%	35.9%	14.8%	7.7%	6.3%	6.3%	12.7%	0.0%	0.7%
	地域3(中部)	48.8%	29.5%	17.1%	7.6%	4.6%	7.1%	4.9%	0.5%	0.5%
	地域4(東部)	70.9%	18.4%	8.5%	8.5%	1.4%	9.9%	7.8%	0.7%	0.0%
	地域5(南東部)	71.1%	3.3%	5.6%	12.2%	0.0%	7.8%	3.3%	0.0%	0.0%
	地域6(南西部)	67.1%	1.4%	7.1%	17.1%	1.4%	10.0%	7.1%	1.4%	1.4%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「その他」を除く）に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

「自家用車」(49.6%)が最も多く、次いで「鉄道・電車」(29.8%)、「自転車」(12.9%)、「徒歩のみ(他の交通手段の利用なし)」(8.5%)、「乗合バス」(8.3%)などとなっています。

■性・年齢別

「男性」については、全ての年齢層で「自家用車」が最も多く、「20歳代」から「50歳代」では50%を超えています。第2位は、「20歳代」から「60歳代」では「鉄道・電車」、「70歳以上」では「交通手段を利用しない(自宅勤務等)」となっています。

「女性」については、「30歳代」から「60歳代」で「自家用車」が最も多くなっていますが、「20歳代」では「鉄道・電車」、「70歳以上」では「鉄道・電車」と「交通手段を利用しない(自宅勤務等)」が同率で最も多くなっています。

■職業別

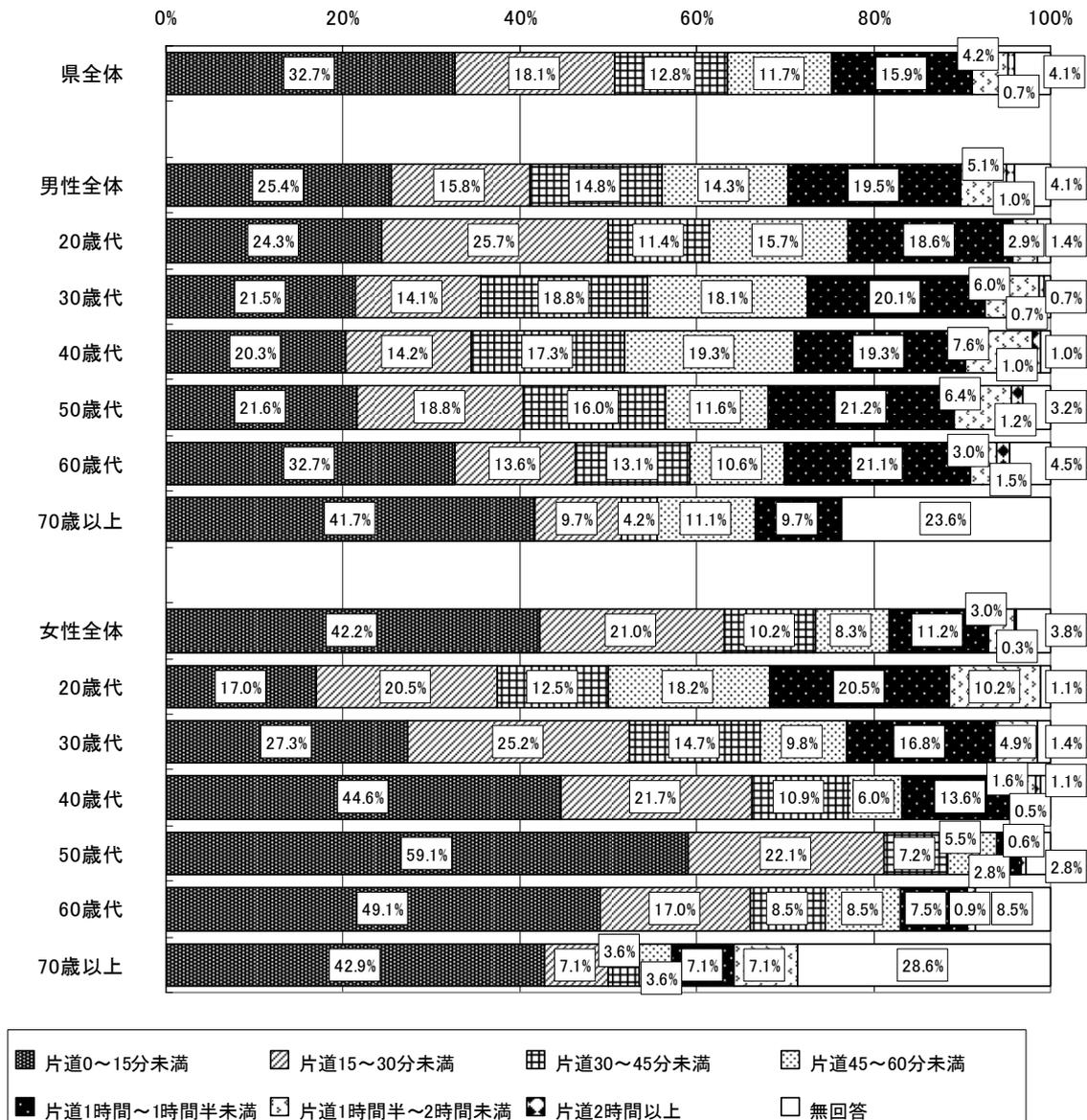
全ての職業で「自家用車」が最も多くなっています。第2位は、「正規社員等」、「非正規社員等」及び「企業などの役員」では「鉄道・電車」となっており、特に、「正規社員等」では他の職業に比べて「鉄道・電車」を利用する人(42.2%)が多くなっています。また、「農林漁業」や「自営業」では、「交通手段を利用しない(自宅勤務等)」人が多くなっています。

■地域別

全ての地域で「自家用車」が最も多くなっています。第2位は、「地域1(北部)」から「地域4(東部)」では「鉄道・電車」、「地域5(南東部)」と「地域6(南西部)」では「徒歩のみ(他の交通手段の利用なし)」となっています。

(3) 勤め先までの通勤時間

図表 勤め先までの通勤時間（単数回答／県全体、性・年齢別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 県全体

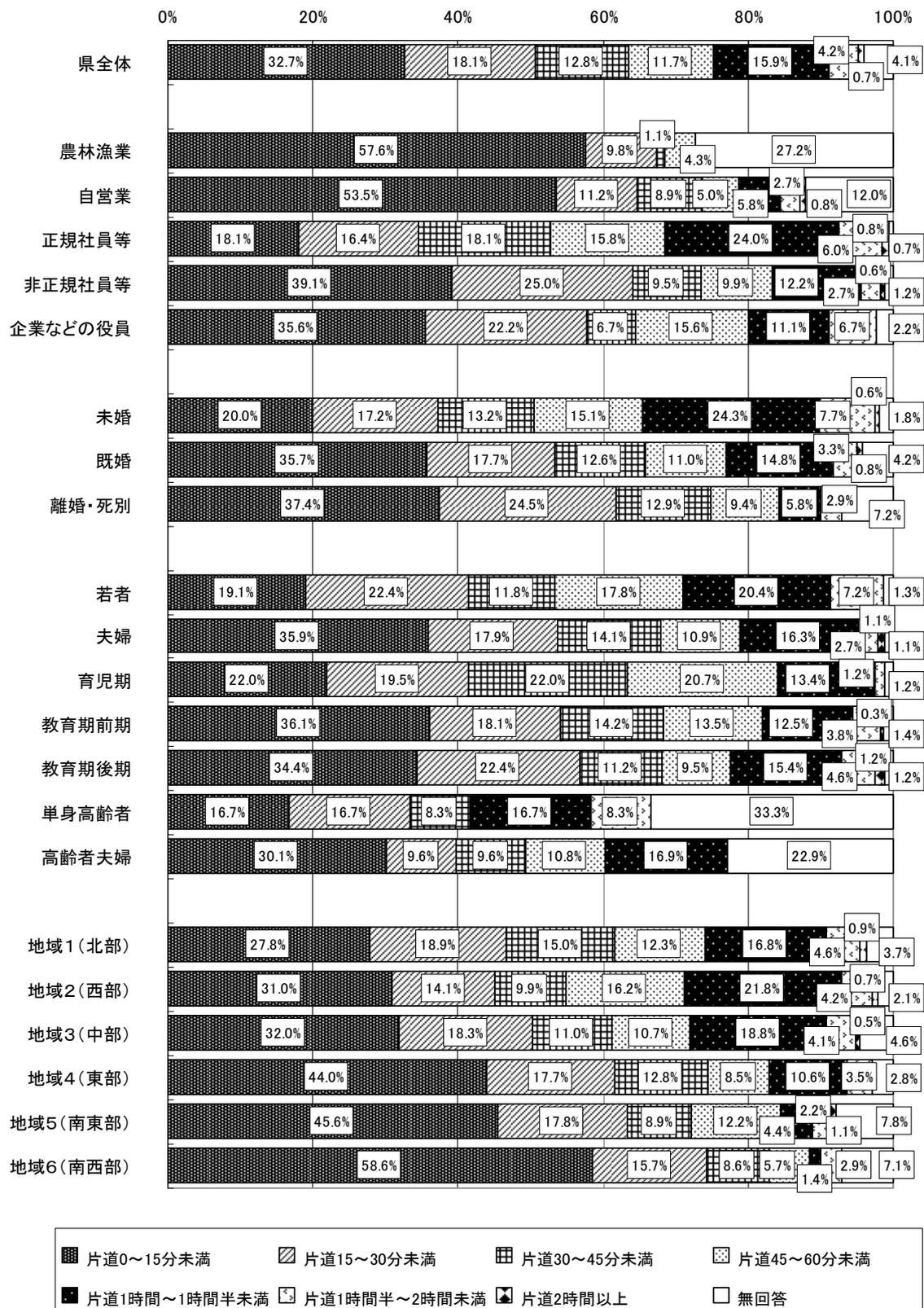
県全体では「片道0～15分未満」(32.7%)が最も多く、次いで「片道15～30分未満」(18.1%)、「片道1時間～1時間半未満」(15.9%)、「片道30～45分未満」(12.8%)、「片道45～60分未満」(11.7%)などとなっており、「1時間半」以上は4.9%となっています。

■ 性・年齢別

「男性」については、「30歳代」以上で「片道0～15分未満」が最も多くなっています。また「20歳代」から「60歳代」では「片道1時間～1時間半未満」も多くなっています。

「女性」については、「30歳代」以上で「片道0～15分未満」が最も多くなっており、年齢層が高くなるにしたがって通勤時間が短くなる傾向が見られます。

図表 勤め先までの通勤時間（単数回答／県全体、職業別、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

「正規社員等」では「片道1時間～1時間半未満」(24.0%)、その他の職業では「片道0～15分未満」が最も多くなっています。

■婚姻状況別

「未婚」では「片道1時間～1時間半未満」(24.3%)が最も多くなっていますが、「既婚」と「離婚・死別」では「片道0～15分未満」が最も多くなっています。

■ライフステージ別

「夫婦」、「教育期前期」及び「教育期後期」で「片道0～15分未満」が多くなるとともに、通勤時間が30分未満の人が50%を超えています。このことから、「若者」から「夫婦」、「育児期」から「教育期前期」・「教育期後期」へとライフステージが進むにつれ、通勤時間が短くなる傾向があるといえます。

■地域別

「地域1(北部)」、「地域2(西部)」及び「地域3(中部)」で「片道1時間～1時間半未満」が多くなっています。また、県北部から県南部に向かうにつれて通勤時間が短くなる傾向があります。

(4) 県外で働いている理由

図表 県外で働いている理由（単数回答／県全体、性別、性・年齢別、職業別、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別）

	対象者数	希望した会社が県外にあったから	もともと県外で働いていて、県内に転居したから	会社から命じられた配属地だから	県内では、希望する職種（業務）が少ないから	県内には、求人が少ないから	県外の会社のほうが賃金などの雇用の条件がよいから	県外の大都市などで働きたいから	交通の便がよく、通勤に便利だから	その他	無回答	
県全体	461	26.7%	26.2%	14.8%	7.4%	6.9%	5.4%	1.3%	1.1%	3.7%	6.5%	
性別	男性	323	24.1%	30.7%	16.1%	7.7%	7.1%	4.0%	0.3%	1.2%	3.1%	5.6%
	女性	138	32.6%	15.9%	11.6%	6.5%	6.5%	8.7%	3.6%	0.7%	5.1%	8.7%
男性・年齢別	20歳代	20	40.0%	5.0%	25.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	58	32.8%	12.1%	15.5%	10.3%	12.1%	8.6%	0.0%	1.7%	3.4%	3.4%
	40歳代	68	22.1%	30.9%	16.2%	8.8%	8.8%	2.9%	0.0%	1.5%	1.5%	7.4%
	50歳代	93	22.6%	34.4%	19.4%	4.3%	6.5%	3.2%	0.0%	2.2%	2.2%	5.4%
	60歳代	73	17.8%	45.2%	12.3%	8.2%	2.7%	1.4%	1.4%	0.0%	4.1%	6.8%
	70歳以上	11	18.2%	45.5%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	9.1%
	女性・年齢別	27	51.9%	0.0%	11.1%	3.7%	11.1%	7.4%	7.4%	3.7%	0.0%	3.7%
30歳代	39	41.0%	12.8%	7.7%	12.8%	5.1%	10.3%	5.1%	0.0%	0.0%	5.1%	
40歳代	34	20.6%	20.6%	20.6%	8.8%	2.9%	11.8%	2.9%	0.0%	8.8%	2.9%	
50歳代	13	30.8%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	15.4%	15.4%	
60歳代	19	15.8%	26.3%	5.3%	0.0%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%	26.3%	
70歳以上	6	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	
職業別	農林漁業	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	自営業	44	11.4%	36.4%	2.3%	15.9%	0.0%	0.0%	2.3%	2.3%	15.9%	13.6%
	正規社員等	293	30.4%	25.3%	18.1%	5.1%	6.5%	5.1%	1.4%	1.0%	1.4%	5.8%
	非正規社員等	105	23.8%	21.9%	12.4%	10.5%	12.4%	9.5%	0.0%	1.0%	2.9%	5.7%
	企業などの役員	18	22.2%	44.4%	5.6%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	16.7%	0.0%
婚姻状況別	未婚	115	40.0%	6.1%	11.3%	11.3%	13.0%	8.7%	4.3%	0.9%	1.7%	2.6%
	既婚	323	23.2%	33.7%	15.8%	6.2%	4.6%	4.0%	0.3%	0.6%	4.0%	7.4%
	離婚・死別	22	9.1%	22.7%	18.2%	4.5%	9.1%	4.5%	0.0%	9.1%	9.1%	13.6%
ライフステージ別	若者	46	45.7%	2.2%	17.4%	6.5%	10.9%	8.7%	4.3%	2.2%	0.0%	2.2%
	夫婦	61	23.0%	45.9%	9.8%	3.3%	6.6%	1.6%	0.0%	0.0%	3.3%	6.6%
	育児期	21	47.6%	0.0%	23.8%	9.5%	0.0%	9.5%	0.0%	4.8%	0.0%	4.8%
	教育期前期	70	14.3%	34.3%	21.4%	7.1%	5.7%	5.7%	0.0%	1.4%	4.3%	5.7%
	教育期後期	66	22.7%	27.3%	19.7%	3.0%	4.5%	4.5%	0.0%	3.0%	4.5%	10.6%
	単身高齢者	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高齢者夫婦	24	16.7%	37.5%	8.3%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	16.7%
地域別	地域1(北部)	272	25.7%	25.7%	15.8%	8.5%	5.1%	5.1%	1.8%	1.1%	4.4%	6.6%
	地域2(西部)	53	26.4%	24.5%	17.0%	9.4%	7.5%	5.7%	0.0%	0.0%	5.7%	3.8%
	地域3(中部)	107	29.9%	29.9%	12.1%	3.7%	5.6%	5.6%	0.9%	0.9%	1.9%	9.3%
	地域4(東部)	21	23.8%	14.3%	9.5%	9.5%	33.3%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	地域5(南東部)	4	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	地域6(南西部)	4	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「その他」及び「無回答」を除く）に並べている。

太字は「その他」及び「無回答」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

■県全体

就労者に対して、県外で働いている理由をたずねたところ、「希望した会社が県外にあったから」(26.7%)が第1位、「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」(26.2%)が僅差で第2位となっています。第3位は「会社から命じられた配属地だから」(14.8%)で、それ以外の理由は10%以下となっています。

■性・年齢別

「男性」については、「20歳代」と「30歳代」で「希望した会社が県外にあったから」、「40歳代」以上では「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」が最も多くなっています。第2位は、「20歳代」と「30歳代」では「会社から命じられた配属地だから」であるのに対して、「40歳代」以上では「希望した会社が県外にあったから」となっています。

「女性」については、「20歳代」から「50歳代」(「40歳代」は同率)で「希望した会社が県外にあったから」、「60歳代」以上で「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」が最も多くなっています。第1位と第2位は各年齢層で概ね同じ項目となっていますが、「40歳代」では第1位の同率に「会社から命じられた配属地だから」、それ以外の年齢層で第3位に「県内では、希望する職種(業務)が少ないから」、「県内には、求人が少ないから」、「県外の会社のほうが賃金などの雇用の条件がよいから」など、多様な理由が挙げられています。

■職業別

「正規社員等」と「非正規社員等」では「希望した会社が県外にあったから」、「自営業」と「企業などの役員」では「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」が最も多くなっています。

■婚姻状況別

「未婚」では「希望した会社が県外にあったから」、「既婚」と「離婚・死別」では「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」が最も多くなっています。

■ライフステージ別

「若者」と「育児期」、では「希望した会社が県外にあったから」、「夫婦」、「教育期前期」、「教育期後期」及び「高齢者夫婦」では「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」、「単身高齢者」では「希望した会社が県外にあったから」と「県内には、求人が少ないから」が同率で最も多くなっています。

■地域別

「地域1(北部)」と「地域3(中部)」では「希望した会社が県外にあったから」と「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」が同率で、「地域2(西部)」と「地域5(南東部)」では「希望した会社が県外にあったから」、「地域4(東部)」では「県内には、求人が少ないから」、「地域6(南西部)」では「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」が最も多くなっています。

(5) 今の仕事を選んだ理由

図表 今の仕事を選んだ理由（複数回答／県全体、性別、性・年齢別、職業別、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別）

	専門的な資格や技術、経験が活かせるから	やりがいのある仕事だから	経営が安定しているから	通勤時間が短いから	自分都合の都合のよい時間に働けるから	親族などから家業（農林漁業・工業・会社役員など）を引き継いでいるから	家庭の事情（家事・育児・介護）と両立しやすいから	正社員として働ける会社が見つからなかったから	社会保険・住まいなどの福利厚生が充実しているから	収入がよいから	自ら起業したから	勤務する時間や日数が短いから	簡単な仕事で責任も少ないから	組織に縛られるのは嫌だから	扶養認定などのために、就業調整（収入や労働時間の調整）をしたから	身体的に正社員として働けないから	その他	
県全体	30.5%	28.8%	14.8%	12.9%	10.6%	9.8%	8.8%	6.7%	6.3%	4.9%	4.7%	4.2%	2.3%	2.0%	1.4%	0.8%	6.0%	
性別	男性	32.8%	30.6%	20.1%	8.6%	12.2%	4.5%	2.9%	8.0%	6.7%	5.2%	6.4%	2.2%	2.2%	3.2%	0.3%	0.7%	5.9%
	女性	27.8%	26.6%	8.0%	18.4%	8.7%	16.6%	16.5%	5.0%	5.9%	4.5%	2.5%	6.7%	2.3%	0.5%	2.7%	1.0%	6.0%
性・年齢別	20歳代	25.7%	35.7%	18.6%	10.0%	1.4%	4.3%	2.9%	21.4%	12.9%	7.1%	0.0%	1.4%	4.3%	1.4%	0.0%	0.0%	5.7%
	30歳代	33.6%	38.9%	22.1%	13.4%	8.7%	2.7%	3.4%	6.7%	8.1%	4.7%	1.3%	0.7%	0.7%	1.3%	0.0%	0.7%	7.4%
	40歳代	33.5%	35.5%	27.9%	9.6%	6.6%	1.5%	3.6%	8.6%	7.1%	8.6%	2.5%	1.0%	2.5%	2.5%	0.0%	1.5%	5.6%
	50歳代	36.8%	32.8%	24.4%	7.6%	9.2%	3.2%	2.0%	7.2%	7.6%	6.0%	7.6%	0.8%	1.2%	3.2%	0.4%	0.0%	5.2%
	60歳代	34.7%	19.8%	11.6%	7.0%	21.1%	9.0%	3.0%	6.5%	4.5%	2.5%	11.1%	5.5%	4.0%	5.5%	1.0%	1.5%	4.5%
	70歳以上	16.7%	18.1%	4.2%	2.8%	30.6%	8.3%	2.8%	2.8%	0.0%	16.7%	5.6%	1.4%	4.2%	0.0%	0.0%	9.7%	
女性・年齢別	20歳代	43.2%	39.8%	12.5%	10.2%	1.1%	10.2%	4.5%	10.2%	10.2%	9.1%	0.0%	2.3%	1.1%	1.1%	1.1%	0.0%	4.5%
	30歳代	37.8%	35.7%	11.9%	18.2%	2.1%	11.2%	14.0%	8.4%	9.8%	4.2%	0.0%	2.8%	1.4%	1.4%	2.1%	0.0%	4.9%
	40歳代	28.3%	22.3%	8.2%	20.7%	6.5%	22.8%	24.5%	3.8%	4.3%	4.9%	1.6%	3.8%	1.6%	0.0%	4.3%	1.6%	7.6%
	50歳代	23.2%	24.3%	7.2%	23.2%	9.4%	19.9%	19.3%	3.3%	5.5%	2.2%	2.2%	13.3%	2.2%	0.0%	3.9%	1.7%	3.3%
	60歳代	10.4%	17.9%	2.8%	17.0%	20.8%	13.2%	14.2%	2.8%	1.9%	5.7%	6.6%	10.4%	4.7%	0.9%	0.9%	0.9%	10.4%
	70歳以上	21.4%	17.9%	0.0%	7.1%	25.0%	17.9%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	3.6%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
職業別	農林漁業	4.3%	10.9%	0.0%	1.1%	84.1%	14.1%	4.3%	0.0%	0.0%	2.2%	8.7%	1.1%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%
	自営業	28.7%	24.0%	2.3%	1.9%	31.4%	8.1%	6.2%	3.1%	0.4%	0.8%	20.9%	0.4%	1.6%	7.0%	0.0%	0.0%	6.6%
	正規社員等	39.4%	40.7%	27.3%	12.2%	2.1%	1.8%	3.3%	5.5%	10.6%	7.5%	0.3%	0.7%	0.5%	0.8%	0.1%	0.0%	6.8%
	非正規社員等	23.6%	16.8%	6.0%	22.4%	0.8%	22.4%	19.5%	12.0%	4.6%	3.9%	0.0%	12.0%	5.8%	1.4%	4.3%	2.7%	5.0%
	企業などの役員	24.4%	28.9%	4.4%	2.2%	40.0%	0.0%	4.4%	0.0%	0.0%	2.2%	31.1%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%
婚姻状況別	未婚	32.6%	34.5%	17.2%	13.2%	3.4%	5.2%	3.4%	14.8%	8.0%	5.2%	1.2%	2.2%	3.7%	1.5%	0.0%	0.6%	6.8%
	既婚	31.4%	27.9%	14.6%	12.6%	12.3%	10.8%	10.3%	4.2%	5.5%	4.5%	5.7%	4.8%	1.8%	2.0%	1.8%	0.6%	5.7%
	離婚・死別	19.4%	24.5%	10.8%	14.4%	12.9%	12.2%	9.4%	9.4%	10.1%	7.9%	4.3%	3.6%	2.9%	2.2%	1.4%	3.6%	7.2%
ライフステージ別	若者	33.6%	37.5%	15.8%	10.5%	1.3%	7.2%	3.3%	15.1%	11.2%	8.6%	0.0%	2.0%	2.0%	1.3%	0.7%	0.0%	5.9%
	夫婦	33.7%	29.9%	10.9%	14.1%	6.5%	10.9%	6.5%	6.5%	6.0%	4.3%	7.6%	7.6%	3.3%	2.7%	3.8%	1.1%	6.0%
	育児期	40.2%	37.8%	14.6%	17.1%	6.1%	8.5%	8.5%	3.7%	9.8%	8.5%	1.2%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	7.3%
	教育期前期	32.3%	30.6%	19.8%	11.5%	8.3%	11.1%	13.9%	4.2%	7.3%	6.9%	2.4%	1.7%	0.0%	0.7%	1.7%	0.7%	4.9%
	教育期後期	32.8%	31.1%	19.1%	14.5%	10.8%	13.3%	11.2%	4.6%	5.8%	2.9%	4.1%	2.5%	1.2%	1.7%	2.9%	0.0%	6.6%
	単身高齢者	8.3%	16.7%	0.0%	8.3%	25.0%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%
	高齢者夫婦	19.3%	14.5%	3.6%	6.0%	19.3%	12.0%	4.8%	4.8%	1.2%	1.2%	16.9%	7.2%	2.4%	4.8%	0.0%	0.0%	12.0%
地域別	地域1(北部)	33.5%	27.6%	15.6%	12.9%	10.7%	9.3%	8.3%	6.8%	6.5%	5.2%	4.8%	4.3%	1.6%	1.1%	2.0%	0.9%	5.6%
	地域2(西部)	33.1%	32.4%	14.8%	12.7%	7.0%	12.0%	9.9%	6.3%	4.2%	4.9%	5.6%	2.8%	1.4%	2.1%	0.0%	0.7%	7.0%
	地域3(中部)	29.5%	30.7%	15.4%	13.4%	7.6%	8.8%	9.3%	6.3%	7.8%	3.9%	4.6%	3.7%	4.1%	3.4%	1.5%	1.5%	5.6%
	地域4(東部)	22.7%	28.4%	11.3%	17.0%	14.2%	14.9%	13.5%	8.5%	4.3%	5.0%	5.0%	5.0%	1.4%	2.1%	0.0%	0.0%	3.5%
	地域5(南東部)	24.4%	24.4%	12.2%	7.8%	18.9%	11.1%	5.6%	4.4%	7.8%	6.7%	3.3%	5.6%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	10.0%
	地域6(南西部)	20.0%	31.4%	11.4%	8.6%	17.1%	5.7%	5.7%	7.1%	2.9%	4.3%	2.9%	5.7%	2.9%	4.3%	1.4%	0.0%	10.0%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「その他」を除く）に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

就労者に、今の仕事を選んだ理由をたずねたところ、「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」(30.5%)が最も多く、次いで「やりがいのある仕事だから」(28.8%)、「経営が安定しているから」(14.8%)、「通勤時間が短いから」(12.9%)、「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」(10.6%)などとなっています。

■性・年齢別

「男性」については、「20歳代」から「40歳代」では「やりがいのある仕事だから」、「50歳代」と「60歳代」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」、「70歳以上」では「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」が最も多くなっています。

「女性」については、「20歳代」から「40歳代」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」、「50歳代」では「やりがいのある仕事だから」、「60歳代」以上では「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」が最も多くなっています。

上位3項目について性別で比較すると、「男性」では「経営が安定しているから」(「30歳代」から「50歳代」の第3位)、「女性」では「通勤時間が短いから」(「50歳代」の第2位)、「家庭の事情(家事・育児・介護等)と両立しやすいから」(「40歳代」の第2位)・「自分の都合のよい時間に働けるから」(「40歳代」・「50歳代」・「70歳以上」の第3位)のように、性別で異なった理由がうかがえます。

■職業別

「農林漁業」、「自営業」及び「企業などの役員」では「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」、「正規社員等」では「やりがいのある仕事だから」、「非正規社員等」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」が最も多くなっています。

■婚姻状況別

「未婚」と「離婚・死別」では「やりがいのある仕事だから」、「既婚」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」が最も多くなっています。

■ライフステージ別

「若者」では「やりがいのある仕事だから」、「夫婦」、「育児期」、「教育期前期」及び「教育期後期」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」、「単身高齢者」では「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」、「高齢者夫婦」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」と「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」が同率で最も多くなっています。

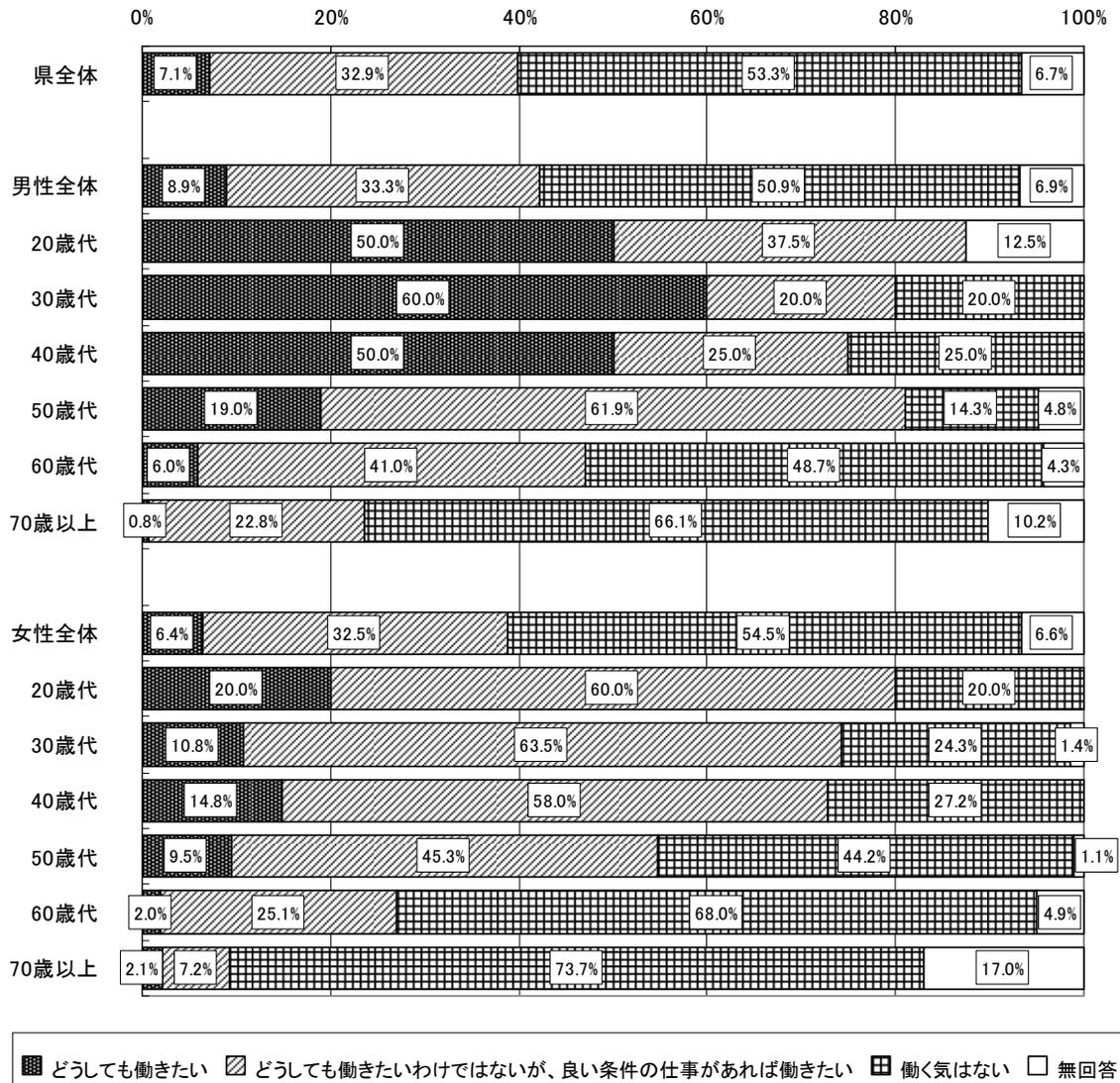
■地域別

「地域1(北部)」と「地域2(西部)」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」、「地域3(中部)」、「地域4(東部)」及び「地域6(南西部)」では「やりがいのある仕事だから」、「地域5(南東部)」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」と「やりがいのある仕事だから」が同率で最も多くなっています。

3-3 働いていない人

(1) 求職に対する意向

図表 求職に対する意向（単数回答／県全体、性・年齢別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

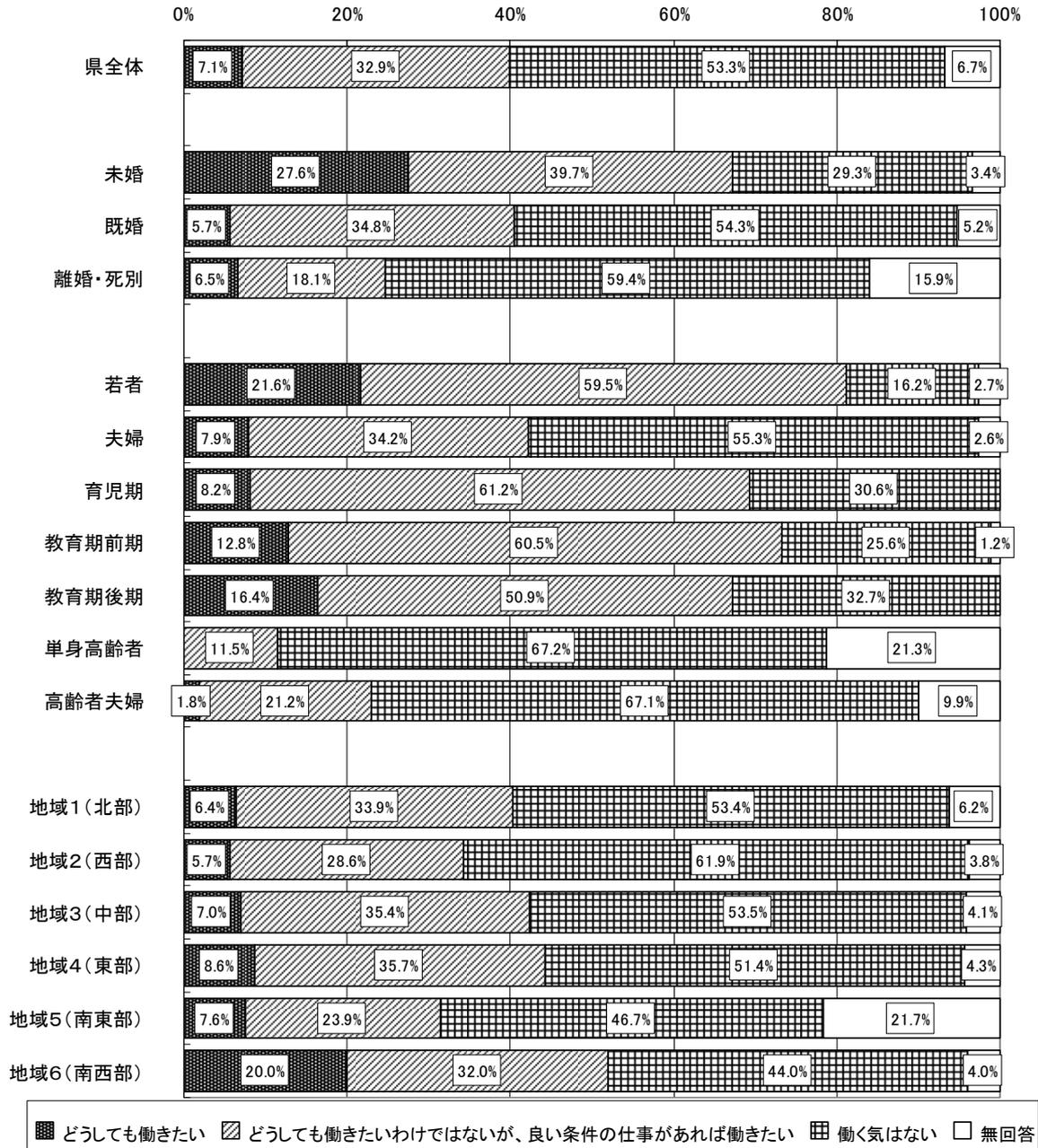
現在、「家事専業・家事手伝い」または「無職」の人に対して、現在働きたいかをたずねたところ、「働く気はない」と回答した人が53.3%であるのに対し、「働く意思がある」（「どうしても働きたい」＋「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」）人は40.0%となっています。

■性・年齢別

「男性」については、「20歳代」から「40歳代」で50%以上の人が「どうしても働きたい」と回答しており、「50歳代」以下では75%以上の人「働く意思がある」と回答しています。

一方、「女性」については、「どうしても働きたい」と回答した人が最も多い「20歳代」でも20.0%に留まっていますが、「50歳代」以下では「働く意思がある」人は50%を超えています。

図表 求職に対する意向（単数回答／県全体、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■婚姻状況別

「未婚」では「働く意思がある」人が67.3%と多くなっていますが、「既婚」(40.5%)と「離婚・死別」(24.6%)で少なくなっています。

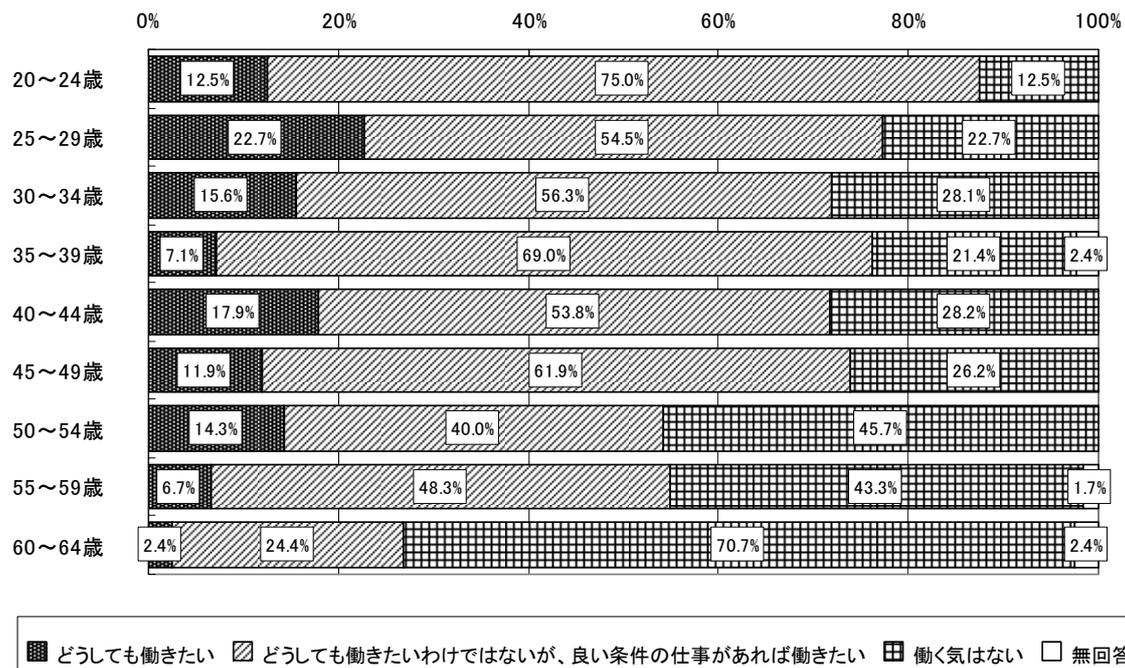
■ライフステージ別

「若者」、「育児期」、「教育期前期」及び「教育期後期」では「働く意思がある」人が60%を超えています。その他のライフステージでは50%以下となっています。

■地域別

「地域6(南西部)」では「働く意思がある」人が50%を超えています。その他の地域では50%以下となっています。

(参考) 図表 求職に対する意向 (単数回答/女性・年齢5歳階級別)



(注) 上記図表には、生産年齢人口である64歳以下のみを示している。母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■女性・年齢5歳階級別

「女性」の求職意向について、年齢階級を細かく区切ってしてみると、「働く意思がある」人（「どうしても働きたい」+「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」）は、49歳以下では70%を超えています。50歳代（「50～54歳」：54.3%、「55～59歳」：55.0%）に大きく減少し、「60～64歳」では70%以上の方が「働く気はない」と回答しています。

(2) 求職者*

1) 求職者の状況

① 県全体

	有効回答数	構成比
求職者	388	40.0%
働く気がない人	518	53.3%
無回答	65	6.7%
	971	100.0%

② 属性別

■ 性別

	求職者	
	有効回答数	構成比
男性	123	31.7%
女性	263	67.8%
無回答	2	0.5%
対象者数	388	100.0%

■ 性・年齢別

・ 10歳区分

	求職者			
	男性		女性	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
20歳代	7	5.7%	24	9.1%
30歳代	8	6.5%	55	20.9%
40歳代	6	4.9%	59	22.4%
50歳代	17	13.8%	52	19.8%
60歳代	55	44.7%	55	20.9%
70歳以上	30	24.4%	18	6.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
対象者数	123	100.0%	263	100.0%

・ 5歳区分

	求職者			
	男性		女性	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
20～24歳	2	1.6%	7	2.7%
25～29歳	5	4.1%	17	6.5%
30～34歳	5	4.1%	23	8.7%
35～39歳	3	2.4%	32	12.2%
40～44歳	3	2.4%	28	10.6%
45～49歳	3	2.4%	31	11.8%
50～54歳	6	4.9%	19	7.2%
55～59歳	11	8.9%	33	12.5%
60～64歳	21	17.1%	33	12.5%
65～69歳	34	27.6%	22	8.4%
70歳以上	30	24.4%	18	6.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
対象者数	123	100.0%	263	100.0%

*求職者とは、問16で「どうしても働きたい」もしくは「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」と答えた回答者の合計（388人）である。

■婚姻状況別

	求職者	
	有効回答数	構成比
未婚	39	10.1%
既婚	311	80.2%
離婚・死別	34	8.8%
無回答	4	1.0%
対象者数	388	100.0%

■ライフステージ別

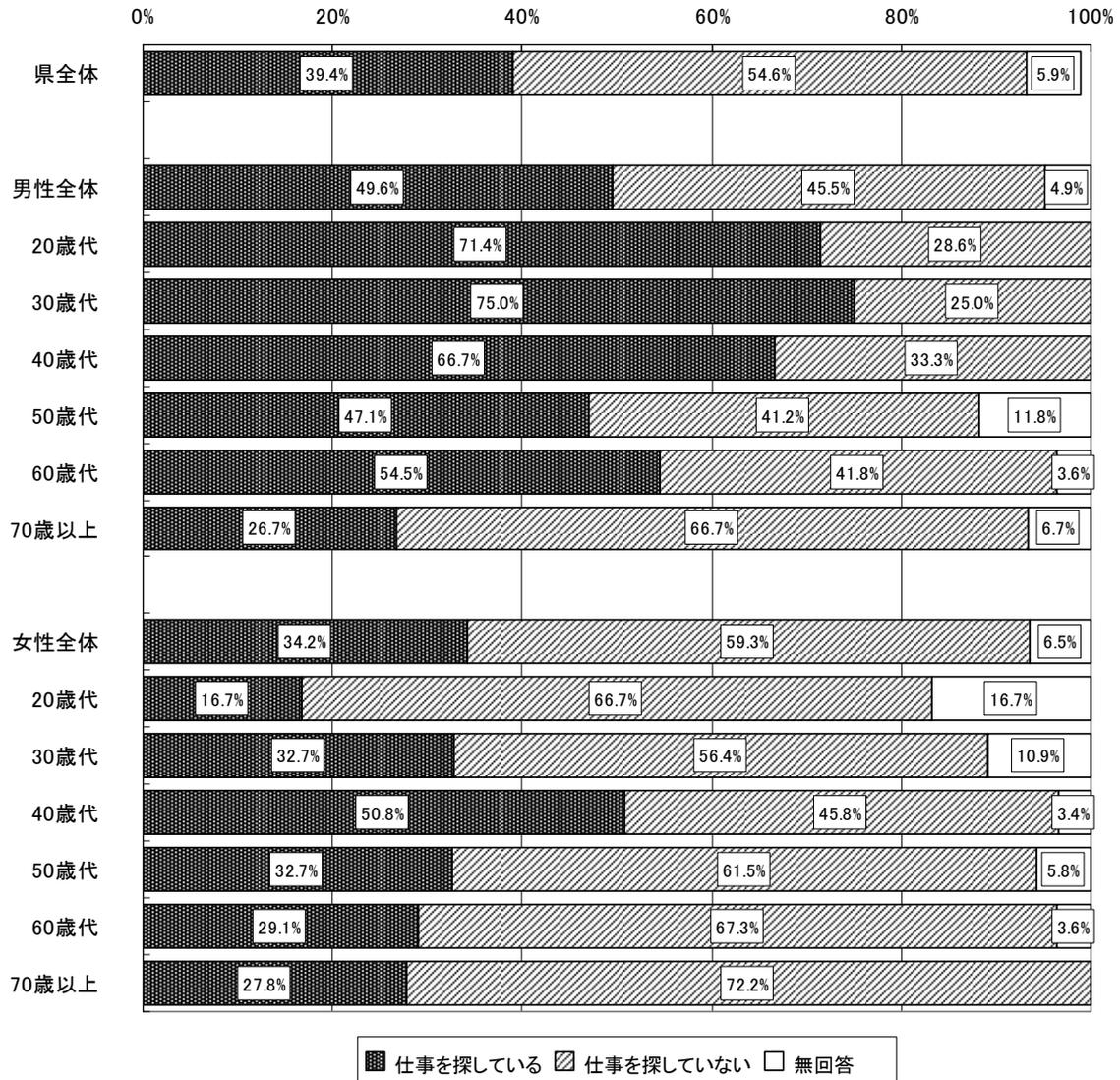
	求職者	
	有効回答数	構成比
若者	30	7.7%
夫婦	48	12.4%
育児期	34	8.8%
教育期前期	63	16.2%
教育期後期	37	9.5%
単身高齢者	7	1.8%
高齢者夫婦	54	13.9%
対象者数	388	100.0%

■地域別

	求職者	
	有効回答数	構成比
地域1(北部)	176	45.4%
地域2(西部)	36	9.3%
地域3(中部)	103	26.5%
地域4(東部)	31	8.0%
地域5(南東部)	29	7.5%
地域6(南西部)	13	3.4%
対象者数	388	100.0%

2) 現在の求職活動の状況

図表 現在の求職活動の状況（単数回答／県全体、性・年齢別）



(注) 母数については99～100ページの「1) 求職者の状況」参照。

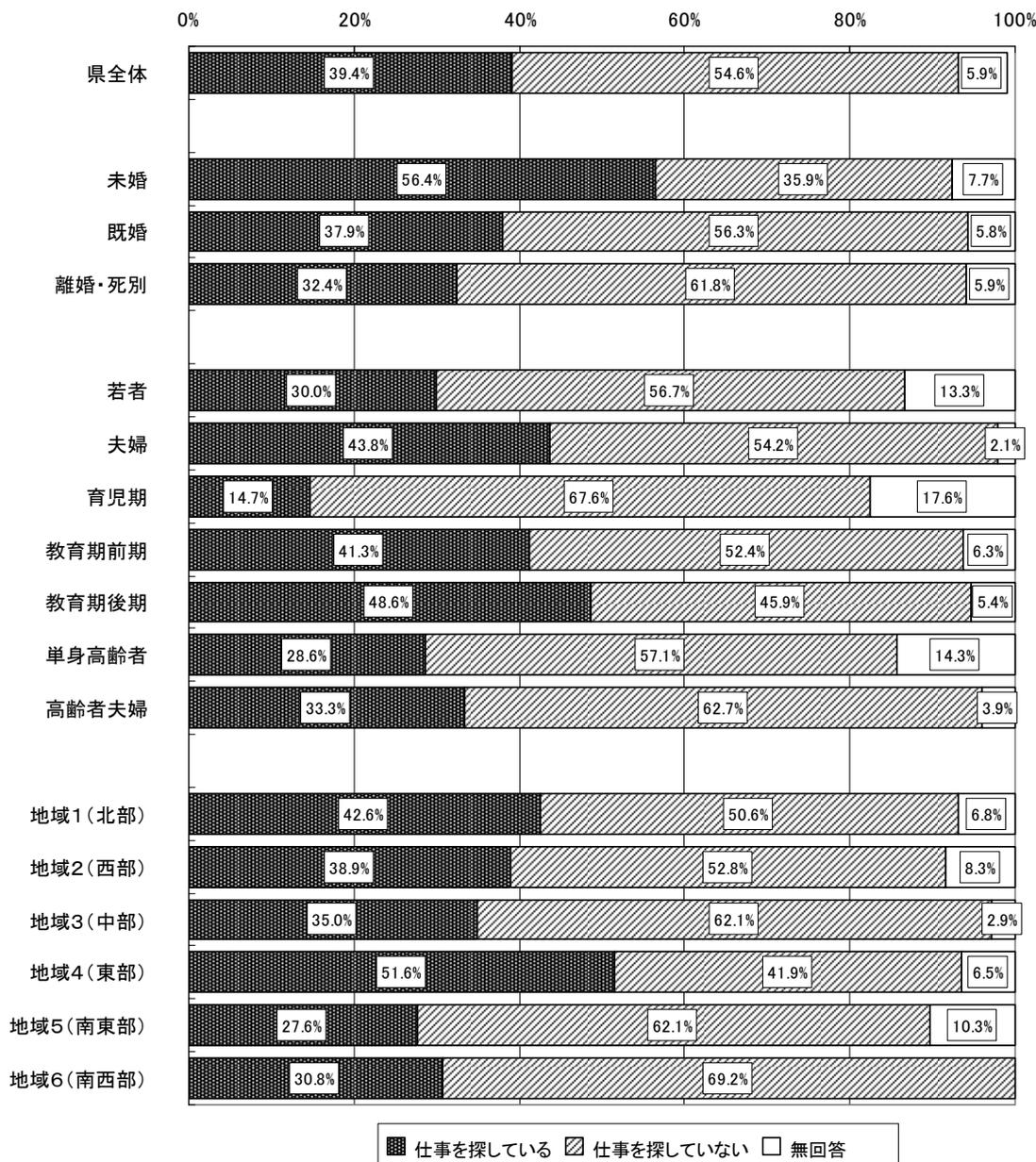
■ 県全体

現在、「家事専業・家事手伝い」または「無職」の人のうち、「どうしても働きたい」もしくは「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」と回答した人に対して、現在の求職活動の状況をたずねたところ、54.6%が「仕事を探していない」と回答しているのに対して、「仕事を探している」と回答した人は39.4%となっています。

■ 性・年齢別

「男性」では、「20歳代」から「40歳代」の約70%、「50歳代」と「60歳代」の約50%が「仕事を探している」と回答しているのに対して、「女性」では「仕事を探している」と回答している人は「40歳代」の50.8%が最も多く、その他の年齢層では30%前後となっています。

図表 現在の求職活動の状況（単数回答／県全体、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別）



(注) 母数については99～100ページの「1）求職者の状況」参照。

■婚姻状況別

「仕事を探している」と回答した人は、「未婚」（56.4%）では50%を超えていますが、「既婚」と「離婚・死別」では50%以下となっています。

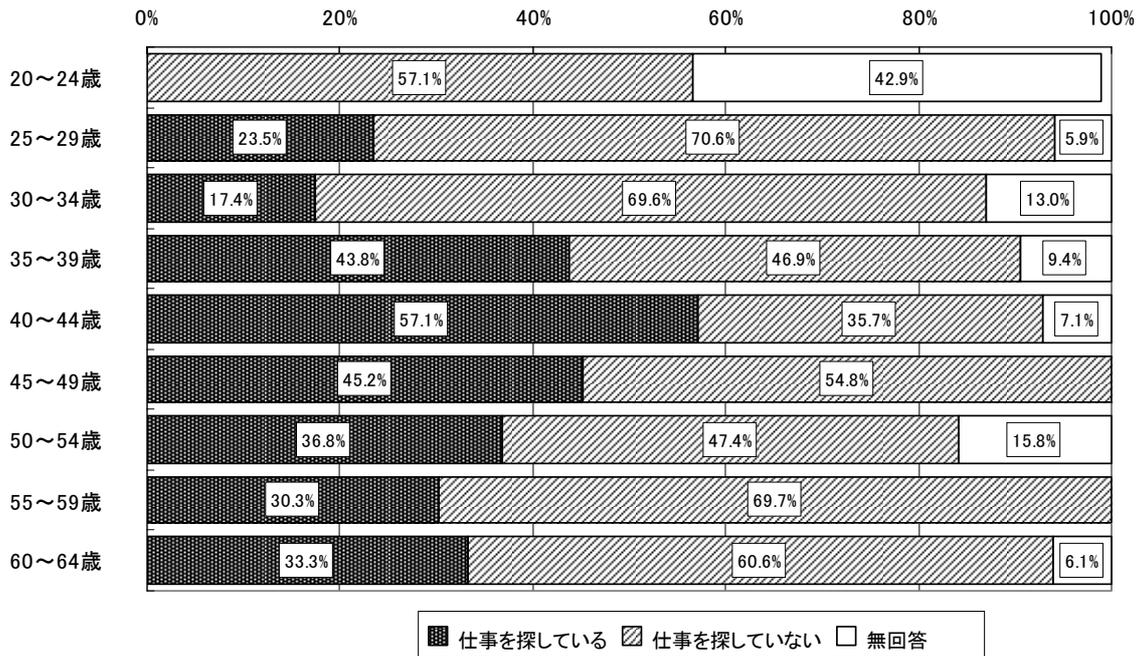
■ライフステージ別

「夫婦」、「教育期前期」及び「教育期後期」ではその他のライフステージに比べて「仕事を探している」人が40%以上と多くなっています。その他のライフステージでは、「仕事を探していない人」が多く、特に「育児期」（67.6%）で多くなっています。

■地域別

「仕事を探している」と回答した人は、「地域4（東部）」（51.6%）が最も多くなっています。その他の地域では、特に「地域5（南東部）」、「地域6（南西部）」で少なくなっています。

(参考) 図表 現在の求職活動の状況 (単数回答/女性・年齢5歳階級別)



(注) 上記図表には、生産年齢人口である64歳以下のみを示している。母数については99～100ページの「1) 求職者の状況」参照。

■女性・年齢5歳階級別

「女性」の現在の求職活動の状況について、年齢階級を細かく区切ってしてみると、「仕事を探している」人は35歳から49歳で他の年齢層よりも多くなっています。その一方で、34歳以下では「仕事を探している」人が少なく、「20～24歳」では0%となっています。

3) 求職者が仕事を選ぶ際に重視する条件

図表 求職者が仕事を選ぶ際に重視する条件

(複数回答/県全体、性別、性・年齢別、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別)

(上段：平成23年度調査結果、下段：平成21年度からの増減値)

	働く時間の融通がききやすい	通勤時間が短い	希望の収入額が得られる	専門的な資格や技術、経験が活かせる	正規職員・従業員として働ける	整った育児などへの支援制度がある	育児・介護などの社会的サポート(保育所や福祉施設など)がある	整った介護などへの支援制度がある	その他
県全体	63.9% ▲5.8	37.4% ▲0.8	17.3% ▲9.1	15.5% ▲0.9	9.0% ▲3.1	6.2% ▲3.1	2.8% ▲5.5	2.1% ▲1.0	4.6% ▲0.1
性別									
男性	49.6% ▲9.5	24.4% ▲0.9	17.1% ▲25.4	23.6% ▲4.5	17.1% ▲20.2	0.0% ▲0.0	0.0% ▲1.6	0.8% ▲1.6	8.9% ▲3.7
女性	70.3% ▲8.3	43.3% ▲2.1	17.5% ▲4.3	11.4% ▲4.4	5.3% ▲0.8	9.1% ▲3.3	4.2% ▲6.5	2.7% ▲0.5	2.7% ▲1.4
性・年齢別									
20歳代	42.9% ▲24.4	14.3% ▲6.8	14.3% ▲30.5	28.6% ▲23.3	57.1% ▲11.3	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	0.0% ▲5.3	14.3% ▲14.3
30歳代	72.5% ▲12.5	37.5% ▲26.4	72.5% ▲76.4	0.0% ▲0.0	62.5% ▲37.5	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	25.0% ▲25.0
40歳代	33.3% ▲1.2	0.0% ▲0.0	50.0% ▲14.3	0.0% ▲14.3	50.0% ▲17.9	0.0% ▲0.0	0.0% ▲14.3	0.0% ▲0.0	0.0% ▲7.1
50歳代	52.9% ▲12.3	17.6% ▲1.1	11.8% ▲41.4	17.6% ▲17.6	11.8% ▲28.9	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	0.0% ▲12.5	11.8% ▲8.6
60歳代	56.4% ▲6.3	32.7% ▲0.2	18.2% ▲19.2	23.6% ▲2.7	9.1% ▲12.9	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	1.8% ▲1.8	1.8% ▲1.8
70歳以上	50.0% ▲25.5	16.7% ▲9.9	13.3% ▲23.4	36.7% ▲2.0	6.7% ▲3.5	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	16.7% ▲1.7
女性・年齢別									
20歳代	62.5% ▲0.4	8.3% ▲33.4	25.0% ▲3.6	4.2% ▲19.1	0.0% ▲15.5	37.5% ▲33.6	4.2% ▲13.3	4.2% ▲4.2	4.2% ▲2.2
30歳代	76.4% ▲3.1	38.2% ▲7.3	7.3% ▲14.5	10.9% ▲4.3	3.6% ▲0.1	23.6% ▲6.8	10.9% ▲6.8	0.0% ▲0.0	1.8% ▲0.2
40歳代	81.4% ▲3.0	50.8% ▲4.5	22.0% ▲4.8	8.5% ▲4.2	1.7% ▲0.7	1.7% ▲7.6	3.4% ▲1.0	6.8% ▲0.4	1.7% ▲1.2
50歳代	63.5% ▲13.1	57.7% ▲8.5	17.3% ▲0.1	13.5% ▲10.8	9.6% ▲4.1	1.9% ▲1.9	1.9% ▲11.4	0.0% ▲4.7	1.9% ▲3.5
60歳代	72.7% ▲16.0	50.9% ▲6.8	16.4% ▲1.9	10.9% ▲9.5	5.3% ▲5.5	0.0% ▲0.0	1.8% ▲1.8	3.6% ▲3.6	5.5% ▲3.0
70歳以上	38.9% ▲36.1	16.7% ▲1.2	27.8% ▲6.3	27.8% ▲9.9	16.7% ▲16.7	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	0.0% ▲21.4	0.0% ▲25.0
婚姻状況別									
未婚	43.6% ▲12.4	23.1% ▲8.1	23.1% ▲19.8	20.5% ▲0.4	25.6% ▲19.2	0.0% ▲1.3	0.0% ▲2.6	7.7% ▲6.4	7.7% ▲0.5
既婚	68.8% ▲7.2	39.2% ▲0.4	15.1% ▲8.9	14.5% ▲1.8	6.1% ▲0.1	7.1% ▲4.7	3.5% ▲5.8	1.6% ▲0.1	3.9% ▲0.3
離婚・死別	44.1% ▲31.7	41.2% ▲12.1	29.4% ▲6.8	14.7% ▲6.6	14.7% ▲3.4	5.9% ▲5.9	0.0% ▲14.5	0.0% ▲21.0	5.9% ▲12.1
ライフステージ別									
若者	63.3% ▲25.3	13.3% ▲18.5	23.3% ▲9.4	10.0% ▲9.5	13.3% ▲24.7	26.7% ▲23.1	0.0% ▲12.4	3.3% ▲1.6	6.7% ▲4.9
夫婦	62.5% ▲13.2	50.0% ▲11.0	18.8% ▲11.4	10.4% ▲16.8	14.6% ▲13.1	4.2% ▲0.5	4.2% ▲3.9	2.1% ▲2.1	4.2% ▲4.2
育児期	58.8% ▲24.7	17.6% ▲15.7	11.8% ▲2.2	8.8% ▲1.1	5.9% ▲3.4	29.4% ▲3.9	8.8% ▲13.0	0.0% ▲0.0	2.9% ▲2.1
教育期前期	87.3% ▲7.4	44.4% ▲5.6	11.1% ▲16.8	7.9% ▲5.8	1.6% ▲5.1	15.9% ▲2.5	7.9% ▲0.9	1.6% ▲1.6	0.0% ▲0.7
教育期後期	73.0% ▲15.3	48.6% ▲7.5	27.0% ▲16.4	16.2% ▲4.5	2.7% ▲3.2	0.0% ▲1.2	0.0% ▲5.9	2.7% ▲17.3	5.4% ▲4.2
単身高齢者	0.0% ▲80.0	42.9% ▲42.9	42.9% ▲22.9	28.6% ▲28.6	14.3% ▲14.3	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	0.0% ▲20.0
高齢者夫婦	60.8% ▲1.0	23.5% ▲11.5	11.8% ▲11.6	19.6% ▲1.2	0.0% ▲6.5	0.0% ▲0.0	0.0% ▲0.0	2.0% ▲2.0	11.8% ▲0.1
地域別									
地域1(北部)	65.9% ▲4.1	36.9% ▲2.4	17.6% ▲14.2	14.8% ▲1.6	10.2% ▲1.6	8.5% ▲3.1	4.0% ▲3.3	1.7% ▲1.0	4.5% ▲0.9
地域2(西部)	61.1% ▲13.9	47.2% ▲1.8	22.2% ▲6.3	16.7% ▲3.0	8.3% ▲5.3	2.8% ▲13.1	0.0% ▲4.5	2.8% ▲1.8	5.6% ▲1.0
地域3(中部)	69.9% ▲0.7	34.0% ▲0.6	17.5% ▲5.6	18.4% ▲0.8	8.7% ▲1.5	4.9% ▲9.2	3.9% ▲8.9	1.9% ▲1.9	3.9% ▲0.0
地域4(東部)	54.8% ▲10.8	45.2% ▲8.0	16.1% ▲5.7	9.7% ▲0.3	0.0% ▲18.8	0.0% ▲9.4	0.0% ▲3.1	0.0% ▲0.0	3.2% ▲6.1
地域5(南東部)	44.8% ▲15.8	41.4% ▲14.1	13.8% ▲10.4	10.3% ▲1.8	13.8% ▲4.4	3.4% ▲2.6	0.0% ▲6.1	3.4% ▲0.4	6.9% ▲14.3
地域6(南西部)	61.5% ▲13.5	15.4% ▲44.6	7.7% ▲7.3	23.1% ▲8.1	7.7% ▲2.3	15.4% ▲10.4	0.0% ▲10.0	7.7% ▲7.7	7.7% ▲7.7

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を、斜体は同率であることを示している。また、網掛けは平成21年度より5ポイント以上増えた項目を示している。

母数については99~100ページの「1) 求職者の状況」参照。なお、「男性」の「50歳代」以下では就業者が多いため、各年齢層の集計母数に著しい偏りが生じている。

■県全体

現在、「家事専業・家事手伝い」または「無職」の人のうち、「どうしても働きたい」もしくは「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」と回答した人に対して、働くための条件として重視することをたずねたところ、「働く時間の融通がききやすい」（63.9%）が特に多く、次いで「通勤時間が短い」（37.4%）、「希望の収入額が得られる」（17.3%）、「専門的な資格や技術、経験が活かせる」（15.5%）などとなっています。

■性・年齢別

「男性」については、「20歳代」と「30歳代」では「正規職員・従業員として働ける」、「40歳代」では「正規職員・従業員として働ける」と「希望の収入額が得られる」が同率、「50歳代」以上では「働く時間の融通がききやすい」が最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「20歳代」と「50歳代」では「働く時間の融通がききやすい」・「専門的な資格や技術、経験が活かせる」、「30歳代」では「働く時間の融通がききやすい」・「通勤時間が短い」、「40歳代」では「希望の収入額が得られる」、「70歳以上」では「働く時間の融通がききやすい」で5ポイント以上増加しています。

「女性」については、全ての年齢層で「働く時間の融通がききやすい」が最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「20歳代」では「仕事先の育児などへの支援制度が整っている」、「30歳代」と「50歳代」では「通勤時間が短い」、「60歳代」では「専門的な資格や技術、経験が活かせる」・「正規職員・従業員として働ける」、「70歳以上」では「希望の収入額が得られる」・「専門的な資格や技術、経験が活かせる」・「正規職員・従業員として働ける」で5ポイント以上増加しています。

上位3項目を性別で比較すると、「男性」では「正規職員・従業員として働ける」（「20歳代」から「40歳代」（同率）の第1位など）、「女性」では「仕事先の育児などへの支援制度が整っている」（「20歳代」の第2位、「30歳代」の第3位）といったように性別で重視する条件が異なることがうかがえます。

■婚姻状況別

婚姻状況にかかわらず「働く時間の融通がききやすい」が最も多くなっています。第2位は、「未婚」では「正規職員・従業員として働ける」であるのに対して、「既婚」と「離婚・死別」では「通勤時間が短い」となっています。

平成21年度と比較すると、「未婚」では「働く時間の融通がききやすい」・「仕事先の介護などへの支援制度が整っている」、「離婚・死別」では「通勤時間が短い」・「希望の収入額が得られる」・「専門的な資格や技術、経験が活かせる」・「仕事先の育児などへの支援制度が整っている」で5ポイント以上増加しています。

■ライフステージ別

「単身高齢者」では「通勤時間が短い」と「希望の収入額が得られる」が同率で最も多くなっていますが、その他のライフステージでは「働く時間の融通がききやすい」が最も多くなっています。

上位3項目についてライフステージで比較すると、「若者」、「育児期」及び「教育期前期」といった比較的若い世代では「仕事先の育児などへの支援制度が整っている」、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」といった高齢世代では「専門的な資格や技術、経験が活かせる」の項目が挙げられていることから、ライフステージ別で重視する条件が異なることがうかがえます。

平成21年度と比較すると、「若者」では「働く時間の融通がききやすい」・「仕事先の育児などへの支援制度が整っている」、「夫婦」では「通勤時間が短い」・「正規職員・従業員として働ける」、「教育期前期」では「働く時間の融通がききやすい」・「通勤時間が短い」、「教育期後期」では「通勤時

間が短い」・「希望の収入額が得られる」、「単身高齢者」では「通勤時間が短い」・「希望の収入額が得られる」・「専門的な資格や技術、経験が活かせる」・「正規職員・従業員として働ける」で5ポイント以上増加しています。

■地域別

地域に関係なく「働く時間の融通がききやすい」が最も多くなっています。また、「地域6(南西部)」では、「専門的な資格や技術、経験が活かせる」が第2位となっています。

平成21年度と比較すると、「地域2(西部)」では「希望の収入額が得られる」、「地域5(南東部)」では「通勤時間が短い」、「地域6(南西部)」では「専門的な資格や技術、経験が活かせる」・「仕事先の育児などへの支援制度が整っている」・「仕事先の介護などへの支援制度が整っている」で5ポイント以上増加しています。

(参考) 図表 求職者が仕事を選ぶ際に重視する条件 (複数回答/女性・年齢5歳階級別)

	正規職員・従業員として働ける	希望の収入額が得られる	働く時間の融通がききやすい	通勤時間が短い	専門的な資格や技術、経験が活かせる	仕事先の育児などへの支援制度が整っている	仕事先の介護などへの支援制度が整っている	育児・介護などへの社会的サポート(保育所や社会福祉施設など)が整っている	その他
20～24歳	0.0%	14.3%	57.1%	14.3%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
25～29歳	0.0%	29.4%	64.7%	5.9%	5.9%	41.2%	5.9%	5.9%	5.9%
30～34歳	4.3%	8.7%	60.9%	43.5%	8.7%	17.4%	0.0%	13.0%	4.3%
35～39歳	3.1%	6.3%	87.5%	34.4%	12.5%	28.1%	0.0%	9.4%	0.0%
40～44歳	3.6%	25.0%	78.6%	46.4%	14.3%	3.6%	0.0%	7.1%	3.6%
45～49歳	0.0%	19.4%	93.9%	54.8%	3.2%	0.0%	12.9%	0.0%	0.0%
50～54歳	10.5%	26.3%	52.6%	52.6%	15.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
55～59歳	9.1%	12.1%	69.7%	60.6%	12.1%	3.0%	0.0%	3.0%	3.0%
60～64歳	9.1%	15.2%	72.7%	57.6%	9.1%	0.0%	6.1%	3.0%	3.0%

(注) 上記図表には、生産年齢人口である64歳以下のみを示している。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については99～100ページの「1) 求職者の状況」参照。

■女性・年齢5歳階級別

「女性」が働くための条件として重視することについて、年齢階級を細かく区切ってみると、全ての年齢層で「働く時間の融通がききやすい」が最も多くなっています。

また、多くの年齢層で「通勤時間が短い」が第2位となっていますが、29歳以下では「仕事先の育児などへの支援制度が整っている」が、「50～54歳」では「希望の収入額が得られる」が第2位となっています。

(参考) 図表 求職者が仕事を選ぶ際に重視する条件 求職意向別 (設問間クロス/性別)

(上段：対象者数、下段：比率)

		対象者数	正規職員・従業員として働ける	希望の収入額が得られる	働く時間の融通がききやすい	通勤時間が短い	専門的な資格や技術、経験が活かせる	仕事先の育児などへの支援制度が整っている	仕事先の介護などへの支援制度が整っている	育児・介護などへの社会的施設(保育園や福祉施設)が整っている	その他
男性	どうしても働きたい	26 100.0%	15 57.7%	7 26.9%	6 23.1%	4 15.4%	3 11.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 11.5%
	どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい	97 100.0%	6 6.2%	14 14.4%	55 56.7%	26 26.8%	26 26.8%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	8 8.2%
女性	どうしても働きたい	43 100.0%	4 9.3%	12 27.9%	26 60.5%	20 46.5%	6 14.0%	3 7.0%	1 2.3%	1 2.3%	1 2.3%
	どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい	220 100.0%	10 4.5%	34 15.5%	159 72.3%	94 42.7%	24 10.9%	21 9.5%	6 2.7%	10 4.5%	6 2.7%

(注) 太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

上記図表は、求職意向による重視する条件の違いを性別に把握するため、問16、問18、問32のクロス集計を行った結果である。対象者数は、問16で「どうしても働きたい」または「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」と回答した人の人数である。

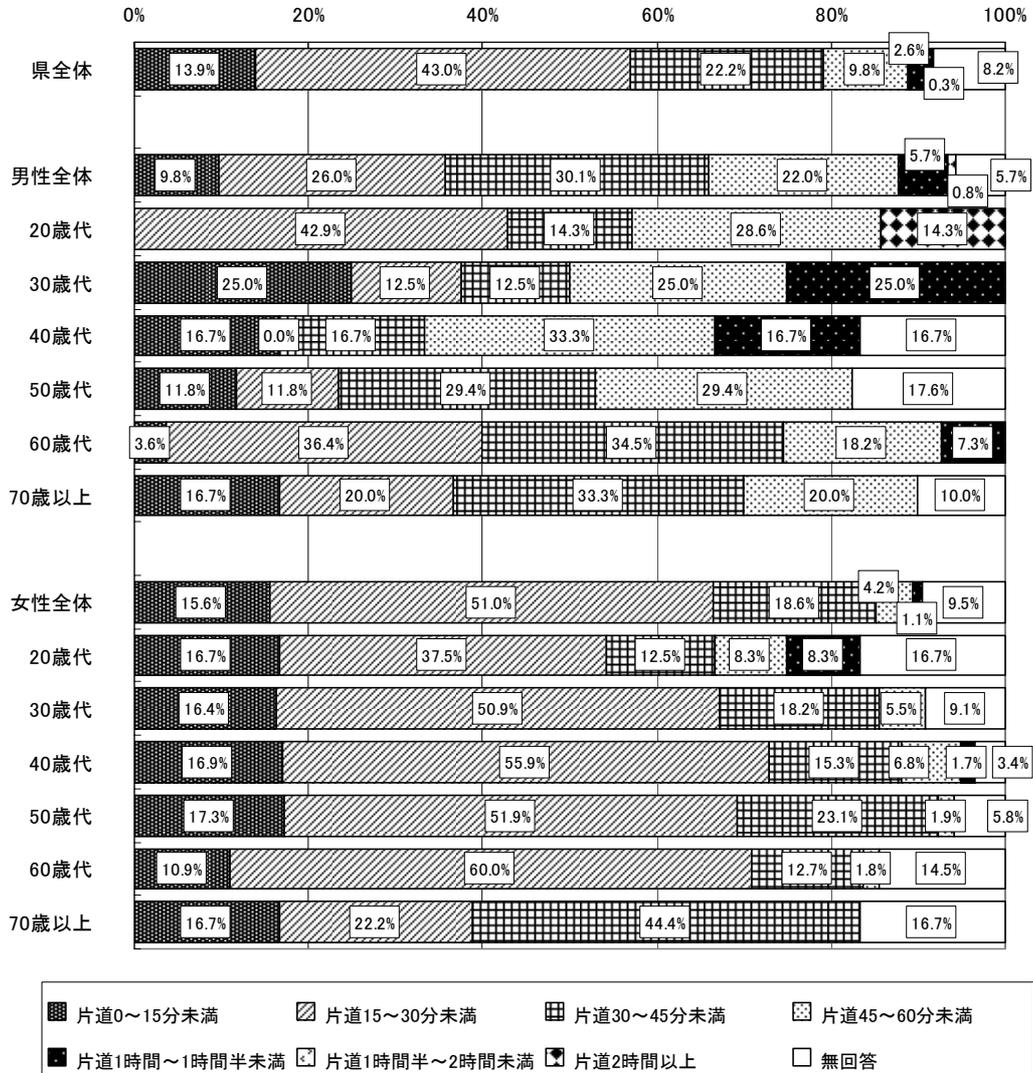
「どうしても働きたい」と考えている「家事専業・家事手伝い」または「無職」の「男性」では、「正規職員・従業員として働ける」こと(57.7%)を重視する人が特に多くなっています。

その一方で、「女性」では、「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」人は、「働く時間の融通がききやすい」こと(72.3%)を重視する人が特に多くなっています。

4) 希望する通勤時間

①今年度調査の結果

図表 希望する通勤時間（単数回答／県全体、性・年齢別）



(注) 母数については99～100ページの「1) 求職者の状況」参照。

■県全体

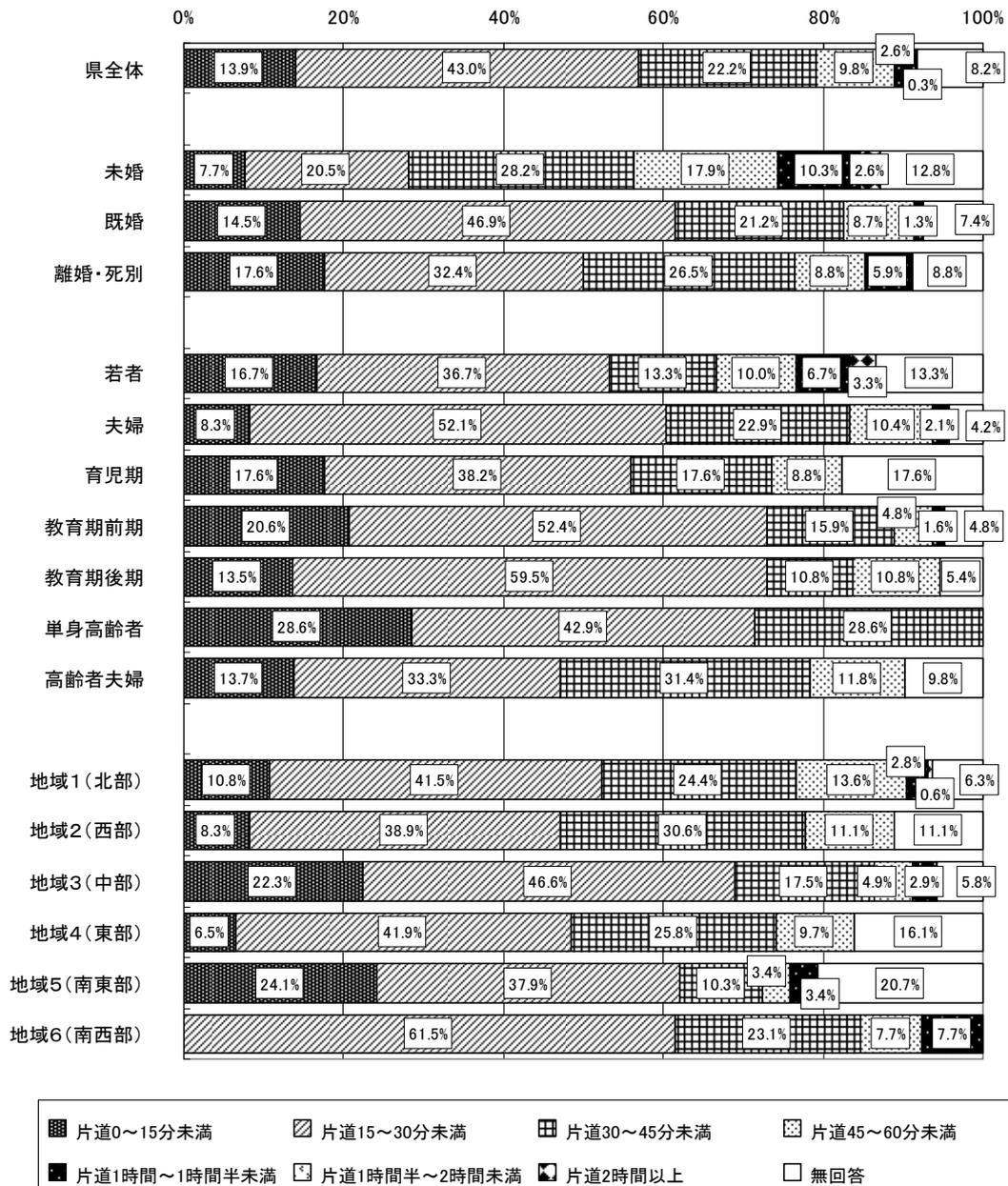
現在、「家事専業・家事手伝い」または「無職」の人のうち、「どうしても働きたい」もしくは「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」と回答した人に対して、希望する通勤時間をたずねたところ、「片道15～30分未満」（43.0%）が最も多く、次いで「片道30～45分未満」（22.2%）、「片道0～15分未満」（13.9%）などとなっています。

■性・年齢別

「男性」については「30歳代」、「40歳代」では「片道1時間～1時間半未満」以上と回答した人が、他の年齢層に比べて多くなっており、通勤時間が長くても構わないと考えている人が多いことが分かります。

一方、「女性」については、「20歳代」で長い通勤時間でも構わないと考えている人が多少はいるものの、多くの方が「片道15～30分未満」と回答しており、「男性」に比べ短い通勤時間を希望しています。

図表 希望する通勤時間（単数回答／県全体、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別）



(注) 母数については99~100ページの「1」求職者の状況」参照。

■婚姻状況別

「既婚」に比べて「未婚」の方がより長い通勤時間でも構わないと考える人が多くなっています。

■ライフステージ別

「教育期前期」と「教育期後期」のように子どもの年齢が高くなるほど、短い通勤時間を希望する人が多くなっています。

■地域別

「片道15~30分未満」以下を希望する人は「地域3（中部）」、「地域5（南東部）」及び「地域6（南西部）」で県全体に比べて多くなっています。

②求職意向による希望する通勤時間の違い

図表 求職意向による希望する通勤時間の違い（設問間クロス／性別）

（上段：対象者数、下段：比率）

		対象者数	片道0～15分未満	片道15～30分未満	片道30～45分未満	片道45～60分未満	片道1時間～1時間半未満	片道1時間半～2時間未満	片道2時間以上
男性	どうしても働きたい	26 100.0%	2 7.7%	6 23.1%	5 19.2%	9 34.6%	3 11.5%	0 0.0%	0 0.0%
	どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい	97 100.0%	10 10.3%	26 26.8%	32 33.0%	18 18.6%	4 4.1%	0 0.0%	1 1.0%
女性	どうしても働きたい	43 100.0%	6 14.0%	13 30.2%	15 34.9%	5 11.6%	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%
	どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい	220 100.0%	35 15.9%	121 55.0%	34 15.5%	6 2.7%	2 0.9%	0 0.0%	0 0.0%

（注）太字は各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を示している。

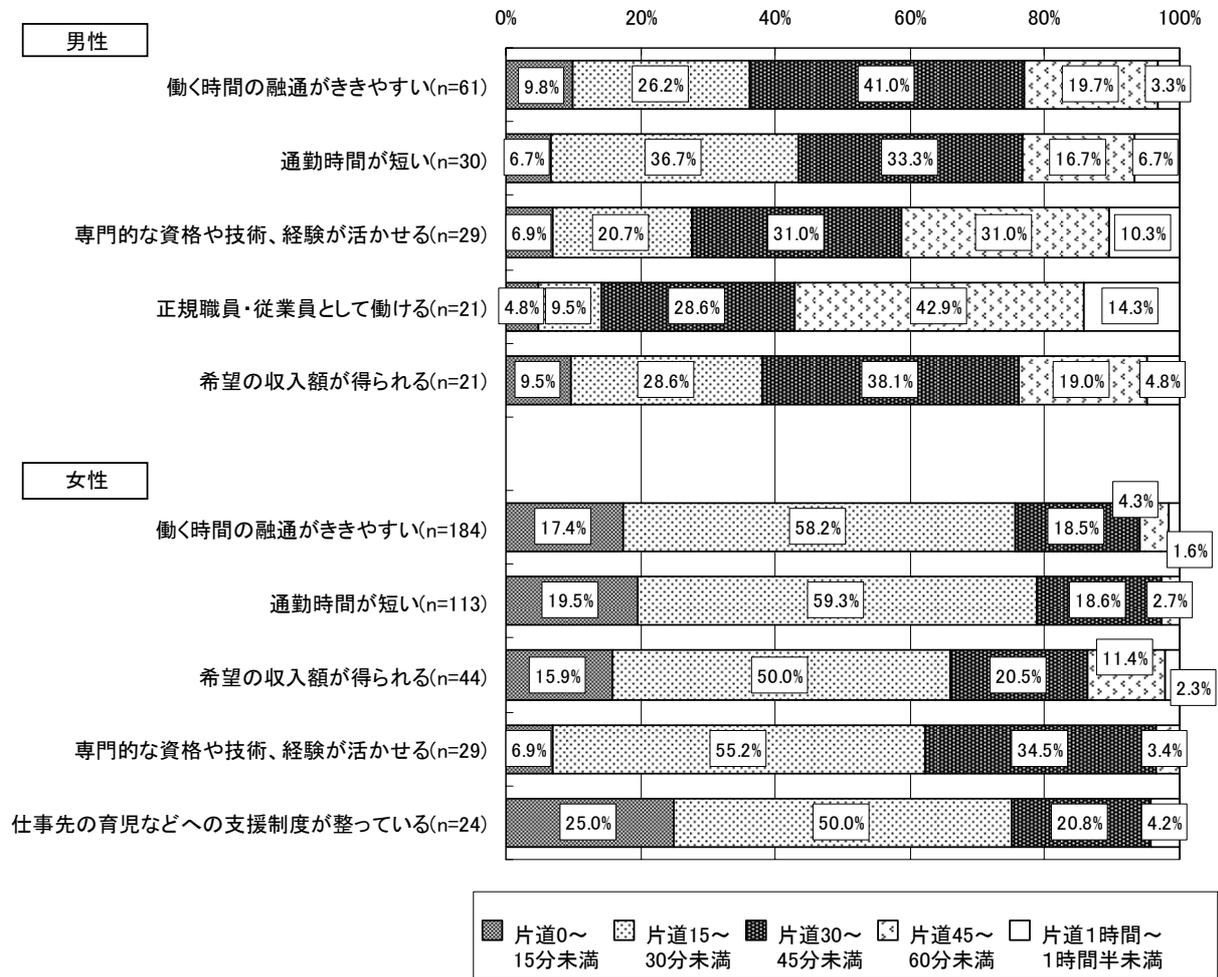
上記図表は、求職意向による希望する通勤時間の違いを性別に把握するため、問16、問19、問32のクロス集計を行った結果である。対象者数は、問16で「どうしても働きたい」または「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」と回答した人の人数である。

「どうしても働きたい」人の方が「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」人よりも長い通勤時間でも構わないと考える傾向があり、この傾向は「女性」よりも「男性」の方が強くなっています。

その一方で、求職意向を持つ「女性」（「どうしても働きたい」+「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」）は、特に「片道15～30分未満」の通勤時間を希望する人が多くなっています。

③求職者が仕事を選ぶ際に重視する条件上位5項目と希望する通勤時間

図表 求職者が仕事を選ぶ際に重視する条件上位5項目と希望する通勤時間（設問間クロス／性別）

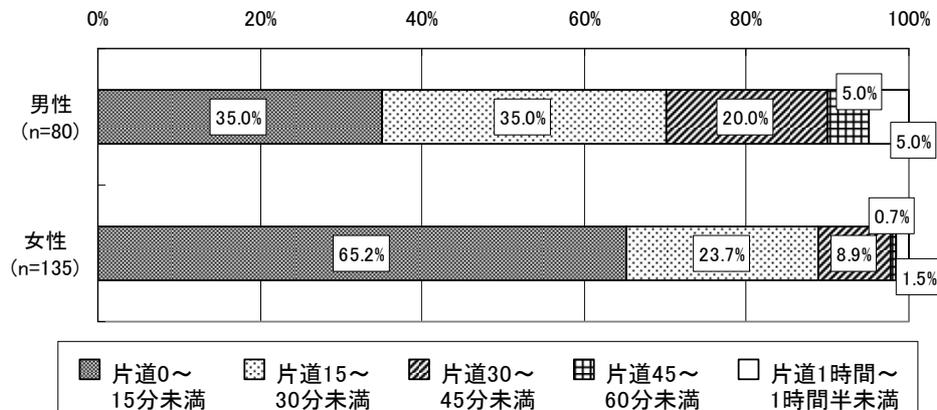


(注) 上記図表は、求職者が仕事を選ぶ際に重視する条件上位5項目と希望する通勤時間の関係を性別に把握するため、問18、問19、問32のクロス集計を行った結果である。
母数は求職者のうち、問18、問19、問32に回答した人数である。
問18で上記条件を選び、なおかつ問19で片道1時間半以上の通勤時間を希望した求職者は男女ともいない。

求職者は、男女ともに仕事を選ぶ際に重視する条件として、第1位に「働く時間の融通がききやすい」、第2位に「通勤時間が短い」を選んでおり拘束時間に対する関心が高いことがうかがえます。これを踏まえ、希望する通勤時間の関係を性別に比較すると、「男性」では「専門的な資格や技術、経験が活かせる」や「正規職員・従業員として働ける」という条件を重視する場合、片道45分以上を選んだ人が40%を超えており、それ以外の条件に比べて通勤時間が長くなってもかまわないと考える傾向がうかがえます。一方、「女性」は上位5項目全ての条件で片道30分未満の通勤時間を希望する求職者が60%を超えていることから、条件に関わらず通勤時間が短いことを優先していることがうかがえます。

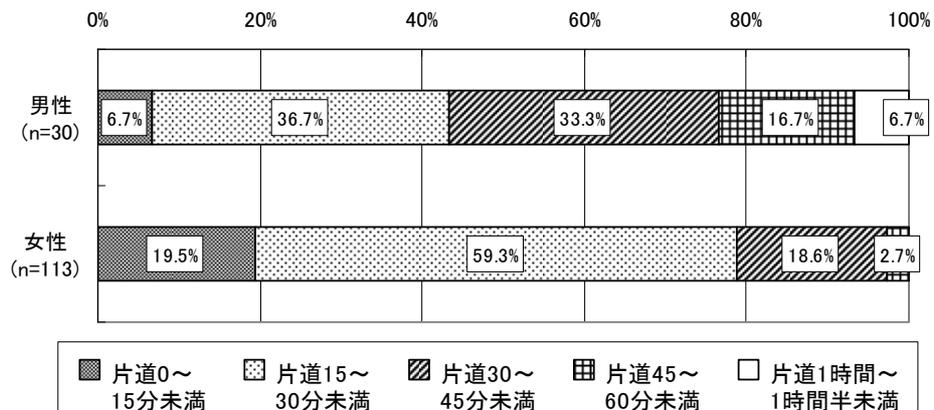
④就労者及び求職者が短いと考える通勤時間

図表 就労者が短いと考える通勤時間（設問間クロス／性別）



(注) 上記図表は、就労者が短いと考える通勤時間を性別に把握するため、問13、問15、問32のクロス集計を行った結果である。対象者数は、問13に回答し、なおかつ問15で「通勤時間が短いから」を選んだ人の人数である。

図表 求職者が短いと考える通勤時間（設問間クロス／性別）



(注) 上記図表は、求職者が短いと考える通勤時間を性別に把握するため、問18、問19、問32のクロス集計を行った結果である。対象者数は、問18で「通勤時間が短い」を選び、なおかつ問19に回答した人数である。

「就労者」が短いと考える通勤時間は、「男性」では「片道0～30分未満」（70.0%）、「女性」では「片道0～15分未満」（65.2%）が多くなっています。

一方、「求職者」が短いと考える通勤時間は、「男性」では「片道30～45分未満」以下、「女性」では「片道15～30分未満」以下となっており、男女ともに「就労者」が短いと考える通勤時間よりも長くなっています。

(3) 働く気がない理由

図表 働く気がない理由（単数回答／県全体、性別、性・年齢別、婚姻状況別、ライフステージ別、地域別）

	対象者数	自分や家族に年金による収入があるから	健康上の理由から	自分の年齢にあう仕事がないから	家事に専念すべきだと思うから	家族が働いていて収入があるから	介護のため仕事が続けられないから	育児のため仕事が続けられないから	自分や家族に生活できる財産があるから	自分の知識・能力にあう仕事がないから	勤務時間、賃金など希望にあう仕事がないから	特に理由はない	その他	無回答
県全体	518	26.3%	16.6%	10.4%	7.1%	5.4%	5.0%	3.3%	2.3%	0.8%	0.6%	4.4%	8.5%	9.3%
性別														
男性	148	38.5%	20.9%	12.2%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	2.7%	0.7%	1.4%	4.1%	7.4%	10.8%
女性	369	21.4%	14.9%	9.8%	9.8%	7.6%	6.5%	4.6%	2.2%	0.8%	0.3%	4.6%	8.9%	8.7%
男性・年齢別														
20歳代	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	2	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40歳代	2	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
50歳代	3	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
60歳代	57	50.9%	14.0%	7.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	3.5%	1.8%	1.8%	0.0%	10.5%	8.8%
70歳以上	84	32.1%	23.8%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	6.0%	6.0%	13.1%
女性・年齢別														
20歳代	6	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	18	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	16.7%	0.0%	66.7%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%
40歳代	22	0.0%	22.7%	0.0%	13.8%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	4.5%	4.5%	4.5%	0.0%	22.7%
50歳代	42	4.8%	11.9%	9.5%	7.1%	16.7%	19.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	9.5%	9.5%	9.5%
60歳代	138	26.8%	12.3%	13.0%	12.3%	6.5%	9.4%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	5.8%	5.8%	6.5%
70歳以上	143	27.3%	18.9%	9.8%	8.4%	2.8%	2.1%	0.0%	3.5%	0.7%	0.0%	2.8%	14.7%	9.1%
婚姻状況別														
未婚	17	23.5%	29.4%	5.9%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	5.9%	11.8%	0.0%
既婚	417	25.9%	15.6%	10.6%	8.2%	6.0%	5.5%	4.1%	2.4%	0.2%	0.7%	5.0%	6.5%	9.4%
離婚・死別	82	28.0%	19.5%	11.0%	3.7%	2.4%	2.4%	0.0%	1.2%	2.4%	0.0%	1.2%	17.1%	11.0%
ライフステージ別														
若者	6	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
夫婦	63	33.3%	9.5%	9.5%	6.3%	12.7%	7.9%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	6.3%	6.3%	6.3%
育児期	15	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	13.3%	0.0%	66.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%
教育期前期	22	0.0%	9.1%	0.0%	13.6%	13.6%	0.0%	31.8%	0.0%	0.0%	9.1%	4.5%	0.0%	18.2%
教育期後期	18	11.1%	16.7%	16.7%	0.0%	27.8%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	11.1%	5.6%
単身高齢者	41	29.3%	17.1%	19.5%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	2.4%	17.1%	4.9%
高齢者夫婦	149	34.9%	17.4%	12.1%	4.7%	0.0%	2.7%	0.0%	3.4%	0.0%	0.7%	6.0%	7.4%	10.7%
地域別														
地域1(北部)	233	30.5%	13.3%	13.3%	6.4%	4.7%	4.7%	2.6%	2.1%	1.7%	0.4%	3.9%	7.3%	9.0%
地域2(西部)	65	32.3%	9.2%	10.8%	9.2%	4.6%	6.2%	4.6%	3.1%	0.0%	1.5%	3.1%	10.8%	4.6%
地域3(中部)	130	22.3%	17.7%	5.4%	7.7%	9.2%	3.8%	5.4%	3.1%	0.0%	0.8%	5.4%	6.2%	13.1%
地域4(東部)	36	25.0%	19.4%	11.1%	8.3%	0.0%	2.8%	2.8%	2.8%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	5.6%
地域5(南東部)	43	9.3%	30.2%	9.3%	7.0%	2.3%	9.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	18.6%	11.6%
地域6(南西部)	11	18.2%	54.5%	9.1%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「特に理由はない」、「その他」及び「無回答」を除く）に並べている。太字は「特に理由はない」、「その他」及び「無回答」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

「若者」で「育児のため仕事が続けられないから」の選択肢を選ばれた回答者がいるのは、「若者」には単身世代以外に、「3世代家族（親子孫家庭）」など子どもがいる回答者が含まれるためである。

■県全体

現在、「家事専業・家事手伝い」または「無職」の人のうち、「働く気はない」と回答した人に対して、その理由をたずねたところ、「自分や家族に年金による収入があるから」(26.3%)が最も多く、次いで「健康上の理由から」(16.6%)、「自分の年齢にあう仕事がないから」(10.4%)などとなっています。

■性・年齢別

「男性」については、「30歳代」では「健康上の理由から」・「勤務時間、賃金など希望にあう仕事がないから」、「40歳代」では「健康上の理由から」、「50歳代」では「自分や家族に年金による収入があるから」・「健康上の理由から」・「介護のため仕事が続けられないから」、「60歳代」以上では「自分や家族に年金による収入があるから」が多くなっています。

「女性」については、「20歳代」と「30歳代」では「育児のため仕事が続けられないから」、「40歳代」では「健康上の理由から」、「50歳代」では「介護のため仕事が続けられないから」、「60歳代」以上では「自分や家族に年金による収入があるから」が最も多くなっています。

■婚姻状況別

「未婚」では「健康上の理由から」、「既婚」と「離婚・死別」では「自分や家族に年金による収入があるから」が最も多くなっています。

■ライフステージ別

「若者」、「育児期」及び「教育期前期」では「育児のため仕事が続けられないから」、「夫婦」、「単身高齢者」及び「高齢者夫婦」では「自分や家族に年金による収入があるから」、「教育期後期」では「家族が働いていて収入があるから」が最も多くなっています。

■地域別

「地域1（北部）」から「地域4（東部）」では「自分や家族に年金による収入があるから」、その他の地域では「健康上の理由から」が最も多くなっています。

3-4 行政が取り組むべき雇用・就労支援対策

(1) 県全体の重要度の順位

図表 県全体の重要度の順位

順位	項目番号	項目	項目の略称	重要度
1	1	県内企業を活性化し、雇用の維持や拡大を図る	県内企業の活性化	4.37
2	5	介護についての社会的なサポート(社会福祉施設など)を充実させる	介護サポートの充実	4.27
3	2	企業を誘致し、新しい雇用の場を創る	企業誘致	4.21
4	6	育児や介護などと仕事が両立できる職場づくりを企業に働きかける	育児・介護と仕事を両立できる職場づくり	4.16
5	4	育児についての社会的なサポート(保育所など)を充実させる	育児サポートの充実	4.16
6	3	農林漁業や医療、福祉などの分野で不足している人材を確保する	農林漁業・医療・福祉などの人材確保	4.14
7	7	仕事に関する相談支援を充実させる	仕事に関する相談支援の充実	3.81
8	9	インターンシップ制度(生徒や学生が仕事の体験をすること)などで、若者の職業観を育てる	若者の職業観の育成	3.80
9	8	能力の向上・資格取得のための支援を充実する	能力向上・資格取得の支援の充実	3.77
項目全体の平均				4.08

(注) 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

最も重要度が高いのは「県内企業を活性化し、雇用の維持や拡大を図る」で、次いで「介護についての社会的なサポート(社会福祉施設など)を充実させる」、「企業を誘致し、新しい雇用の場を創る」となっています。

一方、最も重要度が低いのは「能力の向上・資格取得のための支援を充実する」で、次いで「インターンシップ制度(生徒や学生が仕事の体験をすること)などで、若者の職業観を育てる」、「仕事に関する相談支援を充実させる」となっています。

(2) 地域別の評価の比較

① 県全体と地域別の評価の比較

図表 県全体と地域別の評価の比較

順位	項目番号	項目の略称	県全体	地域1 (北部)	地域2 (西部)	地域3 (中部)	地域4 (東部)	地域5 (南東部)	地域6 (南西部)
1	1	県内企業の活性化	4.37	4.37	4.33	4.29	4.50	4.46	4.52
2	5	介護サポートの充実	4.27	4.29	4.32	4.23	4.30	4.19	4.16
3	2	企業誘致	4.21	4.20	4.14	4.14	4.39	4.27	4.39
4	6	育児・介護と仕事を両立できる職場づくり	4.16	4.21	4.11	4.13	4.14	4.10	4.07
5	4	育児サポートの充実	4.16	4.19	4.22	4.11	4.14	4.06	4.05
6	3	農林漁業・医療・福祉などの人材確保	4.14	4.16	4.17	4.08	4.14	4.22	4.18
7	7	仕事に関する相談支援の充実	3.81	3.84	3.73	3.76	3.86	3.90	3.78
8	9	若者の職業観の育成	3.80	3.78	3.86	3.79	3.86	3.77	3.89
9	8	能力向上・資格取得の支援の充実	3.77	3.76	3.78	3.77	3.80	3.84	3.72

(注) 網かけは、地域での重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」と地域との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」と比べると、「地域1（北部）」、「地域2（西部）」、「地域4（東部）」及び「地域5（南東部）」で「県全体」よりも重要度が高い項目が多くなっています。

②地域別の重要度上位5項目の傾向

図表 地域別の重要度上位5項目の傾向（重要度の高い順）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	県内企業の活性化 4.37	介護サポートの充実 4.27	企業誘致 4.21	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.16	育児サポートの充実 4.16
地域1 (北部)	県内企業の活性化 4.37	介護サポートの充実 4.29	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.21	企業誘致 4.20	育児サポートの充実 4.19
地域2 (西部)	県内企業の活性化 4.33	介護サポートの充実 4.32	育児サポートの充実 4.22	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.17	企業誘致 4.14
地域3 (中部)	県内企業の活性化 4.29	介護サポートの充実 4.23	企業誘致 4.14	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.13	育児サポートの充実 4.11
地域4 (東部)	県内企業の活性化 4.50	企業誘致 4.39	介護サポートの充実 4.30	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.14	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.14
地域5 (南東部)	県内企業の活性化 4.46	企業誘致 4.27	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.22	介護サポートの充実 4.19	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.10
地域6 (南西部)	県内企業の活性化 4.52	企業誘致 4.39	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.18	介護サポートの充実 4.16	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.07

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位決定には小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、各地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「農林漁業・医療・福祉などの人材確保」（「地域2（西部）」・「地域4（東部）」の第4位、「地域5（南東部）」・「地域6（南西部）」の第3位）となっています。

(3) 性別の評価の比較

① 県全体と性別の評価の比較

図表 県全体と性別の評価の比較

順位	項目番号	項目	県全体	男性	女性
1	1	県内企業の活性化	4.37	4.39	4.35
2	5	介護サポートの充実	4.27	4.17	4.36
3	2	企業誘致	4.21	4.28	4.14
4	6	育児・介護と仕事を両立できる職場づくり	4.16	4.04	4.27
5	4	育児サポートの充実	4.16	4.08	4.23
6	3	農林漁業・医療・福祉などの人材確保	4.14	4.08	4.20
7	7	仕事に関する相談支援の充実	3.81	3.74	3.87
8	9	若者の職業観の育成	3.80	3.74	3.86
9	8	能力向上・資格取得の支援の充実	3.77	3.72	3.82

(注) 網かけは、性別での重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」と性別との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」と比べると、「男性」よりも「女性」で「県全体」よりも重要度が高い項目が多くなっています。

② 性別の重要度上位5項目の傾向

図表 性別の重要度上位5項目の傾向（重要度の高い順）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	県内企業の活性化 4.37	介護サポートの充実 4.27	企業誘致 4.21	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.16	育児サポートの充実 4.16
男性	県内企業の活性化 4.39	企業誘致 4.28	介護サポートの充実 4.17	育児サポートの充実 4.08	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.08
女性	介護サポートの充実 4.36	県内企業の活性化 4.35	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.27	育児サポートの充実 4.23	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.20

(注) 網かけは、性別にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定には小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、性別にはあるが「県全体」にはない項目は、「農林漁業・医療・福祉などの人材確保」（「男性」・「女性」の第5位）となっています。

(4) 年齢別の評価の比較

① 県全体と年齢別の評価の比較

図表 県全体と年齢別の評価の比較

順位	項目番号	項目	県全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1	1	県内企業の活性化	4.37	4.31	4.28	4.34	4.42	4.43	4.35
2	5	介護サポートの充実	4.27	4.23	4.27	4.22	4.29	4.27	4.30
3	2	企業誘致	4.21	4.13	4.13	4.12	4.27	4.29	4.23
4	6	育児・介護と仕事を両立できる職場づくり	4.16	4.42	4.35	4.14	4.12	4.06	4.06
5	4	育児サポートの充実	4.16	4.34	4.31	4.11	4.10	4.12	4.07
6	3	農林漁業・医療・福祉などの人材確保	4.14	4.22	4.11	4.13	4.20	4.11	4.12
7	7	仕事に関する相談支援の充実	3.81	3.81	3.77	3.75	3.84	3.81	3.89
8	9	若者の職業観の育成	3.80	3.92	3.69	3.71	3.80	3.84	3.91
9	8	能力向上・資格取得の支援の充実	3.77	3.91	3.77	3.71	3.75	3.76	3.83

(注) 網かけは、年齢での重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」と年齢との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」と比べると、「20歳代」と「50歳代」以上で「県全体」よりも重要度が高い項目が多くなっています。

②年齢別の重要度上位5項目の傾向

図表 年齢別の重要度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	県内企業の活性化 4.37	介護サポートの充実 4.27	企業誘致 4.21	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.16	育児サポートの充実 4.16
20歳代	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.42	育児サポートの充実 4.34	県内企業の活性化 4.31	介護サポートの充実 4.23	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.22
30歳代	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.35	育児サポートの充実 4.31	県内企業の活性化 4.28	介護サポートの充実 4.27	企業誘致 4.13
40歳代	県内企業の活性化 4.34	介護サポートの充実 4.22	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.14	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.13	企業誘致 4.12
50歳代	県内企業の活性化 4.42	介護サポートの充実 4.29	企業誘致 4.27	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.20	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.12
60歳代	県内企業の活性化 4.43	企業誘致 4.29	介護サポートの充実 4.27	育児サポートの充実 4.12	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.11
70歳 以上	県内企業の活性化 4.35	介護サポートの充実 4.30	企業誘致 4.23	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.12	育児サポートの充実 4.07

(注) 網かけは、年齢にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位決定には小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、個別の年齢にはあるが「県全体」にはない項目は、「農林漁業・医療・福祉などの人材確保」（「20歳代」・「60歳代」の第5位、「40歳代」・「50歳代」・「70歳以上」の第4位）となっています。

4 県民のまちづくりに関する意識やニーズについて

4-1 地域のまちづくりの評価

(1) 県全体の評価の経年変化

図表 県全体の評価の順位

順位	項目番号	項目	項目の略称	評価		
				H23	H21	H23-H21
1	13	自然環境が豊かである	自然環境が豊か	3.66	3.64	0.02
2	1	日用品の買物が便利である	日用品の買物の便利さ	3.60	3.52	0.08
3	2	ショッピングセンターで買い物を楽しむことができる	ショッピングセンターの充実	3.41	3.29	0.12
4	11	ごみや下水が適正に処理されている	ごみや下水の適正な処理	3.40	3.25	0.15
5	4	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所などの医療施設が整っている	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.14	3.04	0.10
6	10	生活道路が整備されている	生活道路の整備	3.13	3.05	0.08
7	7	公園や緑地が整備されている	公園・緑地の整備	3.06	3.05	0.01
8	5	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設が整っている	救急対応が可能な医療施設の充実	2.96	2.82	0.14
9	8	競技場やグラウンド、プールなどの運動施設が整っている	運動施設の整備	2.81	2.81	▲ 0.00
10	6	子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設が整っている	福祉施設の充実	2.80	2.76	0.04
11	3	飲食店や娯楽施設が充実している	飲食店・娯楽施設の充実	2.70	2.58	0.12
12	12	親しみやすい水辺がある	親しみやすい水辺の存在	2.57	2.31	0.26
13	9	映画館や図書館、美術館などの文化施設が整っている	文化施設の整備	2.56	2.59	▲ 0.03
項目全体の平均				3.06	2.98	0.08

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

平成23年度調査では、平成21年度から選択肢を一部変更した。経年比較を行うにあたり、平成23年度選択肢「子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設が整っている」は、平成21年度選択肢「子どもを安心して育てるための施設が整っている」と「高齢者や障害者に対するサービス施設が整っている」の平均値と比較した。

県全体の評価を高い順に並べると、肯定的評価(3.01以上)は7項目で、「自然環境が豊かである」の評価が最も高く、次いで「日用品の買物が便利である」、「ショッピングセンターで買い物を楽しむことができる」となっています。

一方、否定的評価(2.99以下)は6項目で、最も評価が低いのは「映画館や図書館、美術館などの文化施設が整っている」で、次いで「親しみやすい水辺がある」、「飲食店や娯楽施設が充実している」となっています。

また、平成21年度結果に比べて評価が低下した項目は、「競技場やグラウンド、プールなどの運動施設が整っている」、「映画館や図書館、美術館などの文化施設が整っている」となっています。

(2) 地域別の評価の経年変化

①地域1(北部)

図表 地域1(北部)の評価の順位

順位	項目番号	項目の略称	評価		
			H23	H21	H23-H21
1	1	日用品の買物の便利さ	3.74	3.53	0.22
2	13	自然環境が豊か	3.62	3.61	0.01
3	2	ショッピングセンターの充実	3.57	3.32	0.24
4	11	ごみや下水の適正な処理	3.56	3.41	0.15
5	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.22	3.02	0.20
6	10	生活道路の整備	3.19	3.09	0.09
7	7	公園・緑地の整備	3.10	3.05	0.05
8	5	救急対応が可能な医療施設の充実	3.06	2.82	0.24
9	6	福祉施設の充実	2.85	2.76	0.08
10	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.81	2.60	0.21
11	8	運動施設の整備	2.75	2.71	0.05
12	9	文化施設の整備	2.66	2.67	▲ 0.01
13	12	親しみやすい水辺の存在	2.50	2.24	0.26
項目全体の平均			3.12	2.99	0.14

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

平成23年度調査では、平成21年度から選択肢を一部変更した。経年比較を行うにあたり、平成23年度選択肢「福祉施設の充実」は、平成21年度選択肢「子どもを安心して育てるための施設が整っている」と「高齢者や障害者に対するサービス施設が整っている」の平均値と比較した。

「地域1(北部)」の評価を高い順で並べると、肯定的評価(3.01以上)は8項目で、最も評価が高いのは「日用品の買物の便利さ」で、次いで「自然環境が豊か」、「ショッピングセンターの充実」となっています。

一方、否定的評価(2.99以下)は5項目で、最も評価が低いのは「親しみやすい水辺の存在」で、次いで「文化施設の整備」、「運動施設の整備」となっています。

また、平成21年度結果に比べて評価が低下した項目は、「文化施設の整備」となっています。

②地域2（西部）

図表 地域2（西部）の評価の順位

順位	項目番号	項目の略称	評価		
			H23	H21	H23-H21
1	1	日用品の買物の便利さ	3.76	3.57	0.19
2	13	自然環境が豊か	3.60	3.62	▲ 0.02
3	11	ごみや下水の適正な処理	3.34	3.10	0.25
4	2	ショッピングセンターの充実	3.34	3.13	0.21
5	7	公園・緑地の整備	3.30	3.15	0.15
6	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.20	3.08	0.12
7	10	生活道路の整備	3.14	2.95	0.20
8	8	運動施設の整備	3.11	3.02	0.08
9	5	救急対応が可能な医療施設の充実	3.07	3.00	0.07
10	6	福祉施設の充実	2.88	2.85	0.03
11	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.75	2.38	0.37
12	9	文化施設の整備	2.73	2.69	0.05
13	12	親しみやすい水辺の存在	2.51	2.45	0.07
項目全体の平均			3.13	3.00	0.13

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。
 平成23年度調査では、平成21年度から選択肢を一部変更した。経年比較を行うにあたり、平成23年度選択肢「福祉施設の充実」は、平成21年度選択肢「子どもを安心して育てるための施設が整っている」と「高齢者や障害者に対するサービス施設が整っている」の平均値と比較した。

「地域2（西部）」の評価を高い順で並べると、肯定的評価（3.01以上）は9項目で、最も評価が高いのは「日用品の買物の便利さ」で、次いで「自然環境が豊か」、「ごみや下水の適正な処理」となっています。

一方、否定的評価（2.99以下）は4項目で、最も評価が低いのは「親しみやすい水辺の存在」で、次いで「文化施設の整備」、「飲食店・娯楽施設の充実」となっています。

また、平成21年度結果に比べて評価が低下した項目は、「自然環境が豊か」となっています。

③地域3（中部）

図表 地域3（中部）の評価の順位

順位	項目番号	項目の略称	評価		
			H23	H21	H23-H21
1	1	日用品の買物の便利さ	3.88	3.87	0.00
2	2	ショッピングセンターの充実	3.73	3.66	0.07
3	13	自然環境が豊か	3.44	3.50	▲ 0.06
4	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.28	3.27	0.01
5	11	ごみや下水の適正な処理	3.26	3.15	0.11
6	7	公園・緑地の整備	3.17	3.15	0.02
7	10	生活道路の整備	3.13	3.09	0.04
8	5	救急対応が可能な医療施設の充実	3.11	2.99	0.13
9	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.99	3.00	▲ 0.01
10	8	運動施設の整備	2.99	3.02	▲ 0.03
11	6	福祉施設の充実	2.88	2.81	0.07
12	9	文化施設の整備	2.79	2.80	▲ 0.01
13	12	親しみやすい水辺の存在	2.43	2.17	0.26
項目全体の平均			3.16	3.11	0.05

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。
 平成23年度調査では、平成21年度から選択肢を一部変更した。経年比較を行うにあたり、平成23年度選択肢「福祉施設の充実」は、平成21年度選択肢「子どもを安心して育てるための施設が整っている」と「高齢者や障害者に対するサービス施設が整っている」の平均値と比較した。

「地域3（中部）」の評価を高い順で並べると、肯定的評価（3.01以上）は8項目で、最も評価が高いのは「日用品の買物の便利さ」で、次いで「ショッピングセンターの充実」、「自然環境が豊か」となっています。

一方、否定的評価（2.99以下）は5項目で、最も評価が低いのは「親しみやすい水辺の存在」で、次いで「文化施設の整備」、「福祉施設の充実」となっています。

また、平成21年度結果に比べて評価が低下した項目は、「自然環境が豊か」、「飲食店・娯楽施設の充実」、「運動施設の整備」、「文化施設の整備」となっています。

④地域4（東部）

図表 地域4（東部）の評価の順位

順位	項目番号	項目の略称	評価		
			H23	H21	H23-H21
1	13	自然環境が豊か	3.87	3.93	▲ 0.06
2	10	生活道路の整備	3.17	3.01	0.16
3	11	ごみや下水の適正な処理	3.15	3.01	0.13
4	1	日用品の買物の便利さ	3.07	2.97	0.10
5	2	ショッピングセンターの充実	2.95	2.78	0.17
6	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	2.88	2.73	0.15
7	6	福祉施設の充実	2.77	2.65	0.12
7	7	公園・緑地の整備	2.77	2.79	▲ 0.02
9	5	救急対応が可能な医療施設の充実	2.77	2.58	0.18
10	8	運動施設の整備	2.58	2.68	▲ 0.11
11	12	親しみやすい水辺の存在	2.43	2.35	0.08
12	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.27	2.07	0.20
13	9	文化施設の整備	2.12	2.01	0.12
項目全体の平均			2.83	2.73	0.09

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。
 平成23年度調査では、平成21年度から選択肢を一部変更した。経年比較を行うにあたり、平成23年度選択肢「福祉施設の充実」は、平成21年度選択肢「子どもを安心して育てるための施設が整っている」と「高齢者や障害者に対するサービス施設が整っている」の平均値と比較した。

「地域4（東部）」の評価を高い順で並べると、肯定的評価（3.01以上）は4項目で、最も評価が高いのは「自然環境が豊か」で、次いで「生活道路の整備」、「ごみや下水の適正な処理」となっています。

一方、否定的評価（2.99以下）は9項目で、最も評価が低いのは「文化施設の整備」で、次いで「飲食店・娯楽施設の充実」、「親しみやすい水辺の存在」となっています。

また、平成21年度結果に比べて評価が低下した項目は、「自然環境が豊か」、「公園・緑地の整備」、「運動施設の整備」となっています。

⑤地域5（南東部）

図表 地域5（南東部）の評価の順位

順位	項目番号	項目の略称	評価		
			H23	H21	H23-H21
1	13	自然環境が豊か	4.31	4.36	▲ 0.05
2	12	親しみやすい水辺の存在	3.54	3.38	0.16
3	11	ごみや下水の適正な処理	3.26	3.11	0.15
4	10	生活道路の整備	2.91	2.81	0.10
5	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	2.73	2.54	0.19
6	7	公園・緑地の整備	2.60	2.59	0.01
7	8	運動施設の整備	2.52	2.47	0.05
8	6	福祉施設の充実	2.39	2.47	▲ 0.09
9	1	日用品の買物の便利さ	2.35	2.45	▲ 0.10
10	2	ショッピングセンターの充実	2.18	2.18	▲ 0.00
11	5	救急対応が可能な医療施設の充実	2.13	2.07	0.06
12	3	飲食店・娯楽施設の充実	1.74	1.56	0.17
13	9	文化施設の整備	1.64	1.68	▲ 0.04
項目全体の平均			2.64	2.59	0.05

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。
 平成23年度調査では、平成21年度から選択肢を一部変更した。経年比較を行うにあたり、平成23年度選択肢「福祉施設の充実」は、平成21年度選択肢「子どもを安心して育てるための施設が整っている」と「高齢者や障害者に対するサービス施設が整っている」の平均値と比較した。

「地域5（南東部）」の評価を高い順で並べると、肯定的評価（3.01以上）は3項目で、最も評価が高いのは「自然環境が豊か」で、次いで「親しみやすい水辺の存在」、「ごみや下水の適正な処理」となっています。

一方、否定的評価（2.99以下）は10項目で、最も評価が低いのは「文化施設の整備」で、次いで「飲食店・娯楽施設の充実」、「救急対応が可能な医療施設の充実」となっています。

また、平成21年度結果に比べて評価が低下した項目は「自然環境が豊か」、「福祉施設の充実」、「日用品の買物の便利さ」、「ショッピングセンターの充実」、「文化施設の整備」となっています。

⑥地域6（南西部）

図表 地域6（南西部）の評価の順位

順位	項目番号	項目の略称	評価		
			H23	H21	H23-H21
1	13	自然環境が豊か	4.19	3.99	0.19
2	12	親しみやすい水辺の存在	3.16	2.92	0.24
3	11	ごみや下水の適正な処理	3.09	2.69	0.40
4	10	生活道路の整備	2.75	2.62	0.12
5	1	日用品の買物の便利さ	2.71	2.74	▲ 0.03
6	7	公園・緑地の整備	2.63	2.93	▲ 0.30
7	2	ショッピングセンターの充実	2.52	2.46	0.06
8	8	運動施設の整備	2.44	2.65	▲ 0.22
9	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	2.38	2.41	▲ 0.03
10	6	福祉施設の充実	2.37	2.38	▲ 0.02
11	5	救急対応が可能な医療施設の充実	2.26	2.18	0.08
12	3	飲食店・娯楽施設の充実	1.90	1.83	0.07
13	9	文化施設の整備	1.73	1.72	0.01
項目全体の平均			2.62	2.58	0.04

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。
 平成23年度調査では、平成21年度から選択肢を一部変更した。経年比較を行うにあたり、平成23年度選択肢「福祉施設の充実」は、平成21年度選択肢「子どもを安心して育てるための施設が整っている」と「高齢者や障害者に対するサービス施設が整っている」の平均値と比較した。

「地域6（南西部）」の評価を高い順で並べると、肯定的評価（3.01以上）は3項目で、最も評価が高いのは「自然環境が豊か」で、次いで「親しみやすい水辺の存在」、「ごみや下水の適正な処理」となっています。

一方、否定的評価（2.99以下）は10項目で、最も評価が低いのは「文化施設の整備」で、次いで「飲食店・娯楽施設の充実」、「救急対応が可能な医療施設の充実」となっています。

また、平成21年度結果に比べて評価が低下した項目は「日用品の買物の便利さ」、「公園・緑地の整備」、「運動施設の整備」、「気軽に相談・受診できる医療施設の充実」、「福祉施設の充実」となっています。

(3) 地域別の評価の比較

① 県全体と地域別の評価の比較

図表 県全体と地域別の評価の比較

順位	項目番号	項目の略称	県全体	地域1 (北部)	地域2 (西部)	地域3 (中部)	地域4 (東部)	地域5 (南東部)	地域6 (南西部)
1	13	自然環境が豊か	3.66	3.62	3.60	3.44	3.87	4.31	4.19
2	1	日用品の買物の便利さ	3.60	3.74	3.76	3.88	3.07	2.35	2.71
3	2	ショッピングセンターの充実	3.41	3.57	3.34	3.73	2.95	2.18	2.52
4	11	ごみや下水の適正な処理	3.40	3.56	3.34	3.26	3.15	3.26	3.09
5	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.14	3.22	3.20	3.28	2.88	2.73	2.38
6	10	生活道路の整備	3.13	3.19	3.14	3.13	3.17	2.91	2.75
7	7	公園・緑地の整備	3.06	3.10	3.30	3.17	2.77	2.60	2.63
8	5	救急対応が可能な医療施設の充実	2.96	3.06	3.07	3.11	2.77	2.13	2.26
9	8	運動施設の整備	2.81	2.75	3.11	2.99	2.58	2.52	2.44
10	6	福祉施設の充実	2.80	2.85	2.88	2.88	2.77	2.39	2.37
11	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.70	2.81	2.75	2.99	2.27	1.74	1.90
12	12	親しみやすい水辺の存在	2.57	2.50	2.51	2.43	2.43	3.54	3.16
13	9	文化施設の整備	2.56	2.66	2.73	2.79	2.12	1.64	1.73

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

「県全体」の評価を下回っている項目が多い地域は、「地域4（東部）」、「地域5（南東部）」及び「地域6（南西部）」です。

一方、「県全体」の評価を下回っている項目が少ない地域は、「地域1（北部）」、「地域2（西部）」及び「地域3（中部）」となっています。

②地域別の評価上位5項目の傾向

図表 地域別の評価上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	自然環境が豊か 3.66	日用品の 買物の便利さ 3.60	ショッピングセンター の充実 3.41	ごみや下水の 適正な処理 3.40	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.14
地域1 (北部)	日用品の 買物の便利さ 3.74	自然環境が豊か 3.62	ショッピングセンター の充実 3.57	ごみや下水の 適正な処理 3.56	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.22
地域2 (西部)	日用品の 買物の便利さ 3.76	自然環境が豊か 3.60	ごみや下水の 適正な処理 3.34	ショッピングセンター の充実 3.34	公園・緑地の整備 3.30
地域3 (中部)	日用品の 買物の便利さ 3.88	ショッピングセンター の充実 3.73	自然環境が豊か 3.44	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.28	ごみや下水の 適正な処理 3.26
地域4 (東部)	自然環境が豊か 3.87	生活道路の整備 3.17	ごみや下水の 適正な処理 3.15	日用品の 買物の便利さ 3.07	ショッピングセンター の充実 2.95
地域5 (南東部)	自然環境が豊か 4.31	親しみやすい 水辺の存在 3.54	ごみや下水の 適正な処理 3.26	生活道路の整備 2.91	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 2.73
地域6 (南西部)	自然環境が豊か 4.19	親しみやすい 水辺の存在 3.16	ごみや下水の 適正な処理 3.09	生活道路の整備 2.75	日用品の 買物の便利さ 2.71

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

上位5項目で、各地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「公園・緑地の整備」（「地域2（西部）」の第5位）、「生活道路の整備」（「地域4（東部）」の第2位、「地域5（南東部）」・「地域6（南西部）」の第4位）、「親しみやすい水辺の存在」（「地域5（南東部）」・「地域6（南西部）」の第2位）となっています。

③地域別の評価下位5項目の傾向

図表 地域別の評価下位5項目の傾向

	第13位	第12位	第11位	第10位	第9位
県全体	文化施設の整備 2.56	親しみやすい水辺の存在 2.57	飲食店・娯楽施設の充実 2.70	福祉施設の充実 2.80	運動施設の整備 2.81
地域1 (北部)	親しみやすい水辺の存在 2.50	文化施設の整備 2.66	運動施設の整備 2.75	飲食店・娯楽施設の充実 2.81	福祉施設の充実 2.85
地域2 (西部)	親しみやすい水辺の存在 2.51	文化施設の整備 2.73	飲食店・娯楽施設の充実 2.75	福祉施設の充実 2.88	救急対応が可能な医療施設の充実 3.07
地域3 (中部)	親しみやすい水辺の存在 2.43	文化施設の整備 2.79	福祉施設の充実 2.88	運動施設の整備 2.99	飲食店・娯楽施設の充実 2.99
地域4 (東部)	文化施設の整備 2.12	飲食店・娯楽施設の充実 2.27	親しみやすい水辺の存在 2.43	運動施設の整備 2.58	救急対応が可能な医療施設の充実 2.77
地域5 (南東部)	文化施設の整備 1.64	飲食店・娯楽施設の充実 1.74	救急対応が可能な医療施設の充実 2.13	ショッピングセンターの充実 2.18	日用品の買物の便利さ 2.35
地域6 (南西部)	文化施設の整備 1.73	飲食店・娯楽施設の充実 1.90	救急対応が可能な医療施設の充実 2.26	福祉施設の充実 2.37	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 2.38

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

下位5項目で、各地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「救急対応が可能な医療施設の充実」(「地域2 (西部)」・「地域4 (東部)」の第9位、「地域5 (南東部)」・「地域6 (南西部)」の第11位)、「ショッピングセンターの充実」(「地域5 (南東部)」の第10位)、「日用品の買物の便利さ」(「地域5 (南東部)」の第9位)、「気軽に相談・受診できる医療施設の充実」(「地域6 (南西部)」の第9位)となっています。

(4) 住みやすさ別の評価の比較

① 県全体と住みやすさ別の評価の比較

図表 県全体と住みやすさ別の評価の比較

順位	項目番号	項目の略称	県全体	住みやすい	どちらともいえない	住みにくい	住みにくい- 県全体
1	13	自然環境が豊か	3.66	3.76	3.42	3.59	▲ 0.07
2	1	日用品の買物の便利さ	3.60	3.77	3.39	3.01	▲ 0.58
3	2	ショッピングセンターの充実	3.41	3.58	3.21	2.78	▲ 0.63
4	11	ごみや下水の適正な処理	3.40	3.48	3.24	3.14	▲ 0.26
5	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.14	3.27	2.99	2.59	▲ 0.55
6	10	生活道路の整備	3.13	3.26	2.93	2.73	▲ 0.40
7	7	公園・緑地の整備	3.06	3.18	2.84	2.77	▲ 0.29
8	5	救急対応が可能な医療施設の充実	2.96	3.09	2.82	2.46	▲ 0.50
9	8	運動施設の整備	2.81	2.91	2.65	2.50	▲ 0.31
10	6	福祉施設の充実	2.80	2.90	2.67	2.49	▲ 0.32
11	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.70	2.82	2.56	2.29	▲ 0.41
12	12	親しみやすい水辺の存在	2.57	2.65	2.41	2.44	▲ 0.13
13	9	文化施設の整備	2.56	2.69	2.40	2.14	▲ 0.41

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

「住みやすい」と評価している人は、「県全体」、「どちらともいえない」及び「住みにくい」と評価している人を上回っていることから、奈良県では「住みやすい」と評価している人とそうでない人のまちづくりに対する評価がはっきりと分かれていることがうかがえます。

「住みにくい」と評価している人と「県全体」の評価との差が特に大きい項目は、「ショッピングセンターの充実」(0.63ポイント)、「日用品の買物の便利さ」(0.58ポイント)となっています。

②住みやすさ別の評価上位5項目の傾向

図表 住みやすさ別の評価上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	自然環境が豊か 3.66	日用品の買物の便利さ 3.60	ショッピングセンターの充実 3.41	ごみや下水の適正な処理 3.40	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 3.14
住みやすい	日用品の買物の便利さ 3.77	自然環境が豊か 3.76	ショッピングセンターの充実 3.58	ごみや下水の適正な処理 3.48	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 3.27
どちらともいえない	自然環境が豊か 3.42	日用品の買物の便利さ 3.39	ごみや下水の適正な処理 3.24	ショッピングセンターの充実 3.21	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 2.99
住みにくい	自然環境が豊か 3.59	ごみや下水の適正な処理 3.14	日用品の買物の便利さ 3.01	ショッピングセンターの充実 2.78	公園・緑地の整備 2.77

(注) 網かけは、住みやすさの評価にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

上位5項目で、各住みやすさの評価にはあるが「県全体」にはない項目は、「公園・緑地の整備」（「住みにくい」の第5位）となっています。

③住みやすさ別の評価下位5項目の傾向

図表 住みやすさ別の評価下位5項目の傾向

	第13位	第12位	第11位	第10位	第9位
県全体	文化施設の整備 2.56	親しみやすい水辺の存在 2.57	飲食店・娯楽施設の充実 2.70	福祉施設の充実 2.80	運動施設の整備 2.81
住みやすい	親しみやすい水辺の存在 2.65	文化施設の整備 2.69	飲食店・娯楽施設の充実 2.82	福祉施設の充実 2.90	運動施設の整備 2.91
どちらともいえない	文化施設の整備 2.40	親しみやすい水辺の存在 2.41	飲食店・娯楽施設の充実 2.56	運動施設の整備 2.65	福祉施設の充実 2.67
住みにくい	文化施設の整備 2.14	飲食店・娯楽施設の充実 2.29	親しみやすい水辺の存在 2.44	救急対応が可能な医療施設の充実 2.46	福祉施設の充実 2.49

(注) 網かけは、住みやすさの評価にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

下位5項目で、各住みやすさの評価にはあるが「県全体」にはない項目は、「救急対応が可能な医療施設の充実」（「住みにくい」の第10位）となっています。

(5) ライフステージ別の評価の比較

① 県全体とライフステージ別の評価の比較

図表 県全体とライフステージ別の評価の比較

順位	項目番号	項目の略称	県全体	若者	夫婦	育児期	教育期前期	教育期後期	単身高齢者	高齢者夫婦
1	13	自然環境が豊か	3.66	3.72	3.63	3.57	3.59	3.70	3.73	3.71
2	1	日用品の買物の便利さ	3.60	3.48	3.75	3.81	3.75	3.70	3.26	3.65
3	2	ショッピングセンターの充実	3.41	3.39	3.55	3.76	3.60	3.57	3.32	3.42
4	11	ごみや下水の適正な処理	3.40	3.35	3.40	3.29	3.39	3.45	3.48	3.66
5	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.14	3.08	3.16	3.09	3.12	3.19	3.36	3.41
6	10	生活道路の整備	3.13	3.20	3.16	3.10	3.16	3.10	3.19	3.32
7	7	公園・緑地の整備	3.06	3.08	3.17	2.99	3.04	3.12	2.91	3.20
8	5	救急対応が可能な医療施設の充実	2.96	2.88	3.14	2.99	2.85	3.01	3.12	3.19
9	8	運動施設の整備	2.81	2.82	2.89	2.63	2.89	2.93	2.78	2.85
10	6	福祉施設の充実	2.80	2.83	2.85	2.79	2.73	2.88	2.80	2.88
11	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.70	2.65	2.77	3.06	2.84	2.83	2.62	2.69
12	12	親しみやすい水辺の存在	2.57	2.48	2.63	2.44	2.56	2.70	2.81	2.70
13	9	文化施設の整備	2.56	2.73	2.60	2.71	2.71	2.69	2.53	2.59

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

「県全体」の評価を下回っている項目が多いのは、「若者」、「育児期」、「教育期前期」及び「単身高齢者」となっています。

②ライフステージ別の評価上位5項目の傾向

図表 ライフステージ別の評価上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	自然環境が豊か 3.66	日用品の 買物の 便利さ 3.60	ショッピングセンター の充実 3.41	ごみや下水の 適正な処理 3.40	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.14
若者	自然環境が豊か 3.72	日用品の 買物の 便利さ 3.48	ショッピングセンター の充実 3.39	ごみや下水の 適正な処理 3.35	生活道路の整備 3.20
夫婦	日用品の 買物の 便利さ 3.75	自然環境が豊か 3.63	ショッピングセンター の充実 3.55	ごみや下水の 適正な処理 3.40	公園・緑地の整備 3.17
育児期	日用品の 買物の 便利さ 3.81	ショッピングセンター の充実 3.76	自然環境が豊か 3.57	ごみや下水の 適正な処理 3.29	生活道路の整備 3.10
教育期 前期	日用品の 買物の 便利さ 3.75	ショッピングセンター の充実 3.60	自然環境が豊か 3.59	ごみや下水の 適正な処理 3.39	生活道路の整備 3.16
教育期 後期	日用品の 買物の 便利さ 3.70	自然環境が豊か 3.70	ショッピングセンター の充実 3.57	ごみや下水の 適正な処理 3.45	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.19
単身 高齢者	自然環境が豊か 3.73	ごみや下水の 適正な処理 3.48	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.36	ショッピングセンター の充実 3.32	日用品の 買物の 便利さ 3.26
高齢者 夫婦	自然環境が豊か 3.71	ごみや下水の 適正な処理 3.66	日用品の 買物の 便利さ 3.65	ショッピングセンター の充実 3.42	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.41

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

上位5項目で、各ライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「生活道路の整備」（「若者」・「育児期」・「教育期前期」の第5位）、「公園・緑地の整備」（「夫婦」の第5位）となっています。

③ライフステージ別の評価下位5項目の傾向

図表 ライフステージ別の評価下位5項目の傾向

	第13位	第12位	第11位	第10位	第9位
県全体	文化施設の整備 2.56	親しみやすい水辺の存在 2.57	飲食店・娯楽施設の充実 2.70	福祉施設の充実 2.80	運動施設の整備 2.81
若者	親しみやすい水辺の存在 2.48	飲食店・娯楽施設の充実 2.65	文化施設の整備 2.73	運動施設の整備 2.82	福祉施設の充実 2.83
夫婦	文化施設の整備 2.60	親しみやすい水辺の存在 2.63	飲食店・娯楽施設の充実 2.77	福祉施設の充実 2.85	運動施設の整備 2.89
育児期	親しみやすい水辺の存在 2.44	運動施設の整備 2.63	文化施設の整備 2.71	福祉施設の充実 2.79	救急対応が可能な医療施設の充実 2.99
教育期前期	親しみやすい水辺の存在 2.56	文化施設の整備 2.71	福祉施設の充実 2.73	飲食店・娯楽施設の充実 2.84	救急対応が可能な医療施設の充実 2.85
教育期後期	文化施設の整備 2.69	親しみやすい水辺の存在 2.70	飲食店・娯楽施設の充実 2.83	福祉施設の充実 2.88	運動施設の整備 2.93
単身高齢者	文化施設の整備 2.53	飲食店・娯楽施設の充実 2.62	運動施設の整備 2.78	福祉施設の充実 2.80	親しみやすい水辺の存在 2.81
高齢者夫婦	文化施設の整備 2.59	飲食店・娯楽施設の充実 2.69	親しみやすい水辺の存在 2.70	運動施設の整備 2.85	福祉施設の充実 2.88

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
 点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

下位5項目で、各ライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「救急対応が可能な医療施設の充実」（「育児期」・「教育期前期」の第9位）となっています。

(6) 居住地域の状況別の評価の比較

① 県全体と居住地域の状況別の評価の比較

図表 県全体と居住地域の状況別の評価の比較

順位	項目番号	項目の略称	県全体	商業地域	住宅地域	郊外の住宅地域	農村地域	山間地域	その他
1	13	自然環境が豊か	3.66	3.34	3.46	3.55	3.80	4.33	3.47
2	1	日用品の買物の便利さ	3.60	4.14	4.10	3.67	3.41	2.26	3.63
3	2	ショッピングセンターの充実	3.41	3.61	3.80	3.59	3.31	2.18	3.42
4	11	ごみや下水の適正な処理	3.40	3.56	3.50	3.46	3.23	3.13	3.58
5	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.14	3.31	3.35	3.13	3.13	2.63	3.16
6	10	生活道路の整備	3.13	3.23	3.18	3.16	3.12	2.95	3.00
7	7	公園・緑地の整備	3.06	3.13	3.20	3.20	2.91	2.59	3.11
8	5	救急対応が可能な医療施設の充実	2.96	3.14	3.24	2.96	2.96	2.22	3.21
9	8	運動施設の整備	2.81	2.73	2.95	2.85	2.79	2.42	3.05
10	6	福祉施設の充実	2.80	2.90	2.94	2.78	2.86	2.43	2.95
11	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.70	3.02	3.00	2.80	2.60	1.77	2.84
12	12	親しみやすい水辺の存在	2.57	2.54	2.55	2.35	2.51	3.12	2.32
13	9	文化施設の整備	2.56	2.79	2.88	2.63	2.39	1.76	2.42

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

「県全体」の評価を下回っている項目は、「農村地域」と「山間地域」に集中しています。

②居住地域の状況別の評価上位5項目の傾向

図表 居住地域の状況別の評価上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	自然環境が豊か 3.66	日用品の買物の便利さ 3.60	ショッピングセンターの充実 3.41	ごみや下水の適正な処理 3.40	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 3.14
商業地域	日用品の買物の便利さ 4.14	ショッピングセンターの充実 3.61	ごみや下水の適正な処理 3.56	自然環境が豊か 3.34	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 3.31
住宅地域	日用品の買物の便利さ 4.10	ショッピングセンターの充実 3.80	ごみや下水の適正な処理 3.50	自然環境が豊か 3.46	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 3.35
郊外の住宅地域	日用品の買物の便利さ 3.67	ショッピングセンターの充実 3.59	自然環境が豊か 3.55	ごみや下水の適正な処理 3.46	公園・緑地の整備 3.20
農村地域	自然環境が豊か 3.80	日用品の買物の便利さ 3.41	ショッピングセンターの充実 3.31	ごみや下水の適正な処理 3.23	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 3.13
山間地域	自然環境が豊か 4.33	ごみや下水の適正な処理 3.13	親しみやすい水辺の存在 3.12	生活道路の整備 2.95	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 2.63
その他	日用品の買物の便利さ 3.63	ごみや下水の適正な処理 3.58	自然環境が豊か 3.47	ショッピングセンターの充実 3.42	救急対応が可能な医療施設の充実 3.21

(注) 網かけは、居住地域の状況にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

上位5項目で、各居住地域の状況にはあるが「県全体」にはない項目は、「公園・緑地の整備」（「郊外の住宅地域」の第5位）、「親しみやすい水辺の存在」（「山間地域」の第3位）、「生活道路の整備」（「山間地域」の第4位）、「救急対応が可能な医療施設の充実」（「その他」の第5位）となっています。

③居住地域の状況別の評価下位5項目の傾向

図表 居住地域の状況別の評価下位5項目の傾向

	第13位	第12位	第11位	第10位	第9位
県全体	文化施設の整備 2.56	親しみやすい水辺の存在 2.57	飲食店・娯楽施設の充実 2.70	福祉施設の充実 2.80	運動施設の整備 2.81
商業地域	親しみやすい水辺の存在 2.54	運動施設の整備 2.73	文化施設の整備 2.79	福祉施設の充実 2.90	飲食店・娯楽施設の充実 3.02
住宅地域	親しみやすい水辺の存在 2.55	文化施設の整備 2.88	福祉施設の充実 2.94	運動施設の整備 2.95	飲食店・娯楽施設の充実 3.00
郊外の住宅地域	親しみやすい水辺の存在 2.35	文化施設の整備 2.63	福祉施設の充実 2.78	飲食店・娯楽施設の充実 2.80	運動施設の整備 2.85
農村地域	文化施設の整備 2.39	親しみやすい水辺の存在 2.51	飲食店・娯楽施設の充実 2.60	運動施設の整備 2.79	福祉施設の充実 2.86
山間地域	文化施設の整備 1.76	飲食店・娯楽施設の充実 1.77	ショッピングセンターの充実 2.18	救急対応が可能な医療施設の充実 2.22	日用品の買物の便利さ 2.26
その他	親しみやすい水辺の存在 2.32	文化施設の整備 2.42	飲食店・娯楽施設の充実 2.84	福祉施設の充実 2.95	生活道路の整備 3.00

(注) 網かけは、居住地域の状況にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

下位5項目で、各居住地域の状況にはあるが「県全体」にはない項目は、「ショッピングセンターの充実」（「山間地域」の第11位）、「救急対応が可能な医療施設の充実」（「山間地域」の第10位）、「日用品の買物の便利さ」（「山間地域」の第9位）、「生活道路の整備」（「その他」の第9位）となっています。

(7) 性別の評価の比較

① 県全体と性別の評価の比較

図表 県全体と性別の評価の比較

順位	項目番号	項目の略称	県全体	男性	女性
1	13	自然環境が豊か	3.66	3.62	3.70
2	1	日用品の買物の便利さ	3.60	3.58	3.61
3	2	ショッピングセンターの充実	3.41	3.39	3.42
4	11	ごみや下水の適正な処理	3.40	3.41	3.39
5	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.14	3.18	3.11
6	10	生活道路の整備	3.13	3.10	3.16
7	7	公園・緑地の整備	3.06	3.05	3.07
8	5	救急対応が可能な医療施設の充実	2.96	3.04	2.89
9	8	運動施設の整備	2.81	2.81	2.80
10	6	福祉施設の充実	2.80	2.85	2.76
11	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.70	2.72	2.68
12	12	親しみやすい水辺の存在	2.57	2.56	2.58
13	9	文化施設の整備	2.56	2.56	2.55

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

「県全体」の評価を下回っている項目は、「女性」は「男性」に比べて多くなっています。

「男性」は買物や自然環境にかかわる項目で、「女性」は普段の生活や医療・福祉などに関する項目で評価が低い傾向が見られます。

②性別の評価上位5項目の傾向

図表 性別の評価上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	自然環境が豊か 3.66	日用品の買物の便利さ 3.60	ショッピングセンターの充実 3.41	ごみや下水の適正な処理 3.40	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 3.14
男性	自然環境が豊か 3.62	日用品の買物の便利さ 3.58	ごみや下水の適正な処理 3.41	ショッピングセンターの充実 3.39	気軽に相談・受診できる医療施設の充実 3.18
女性	自然環境が豊か 3.70	日用品の買物の便利さ 3.61	ショッピングセンターの充実 3.42	ごみや下水の適正な処理 3.39	生活道路の整備 3.16

(注) 網かけは、性別にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

上位5項目で、性別にはあるが「県全体」にはない項目は、「生活道路の整備」（「女性」の第5位）となっています。

③性別の評価下位5項目の傾向

図表 性別の評価下位5項目の傾向

	第13位	第12位	第11位	第10位	第9位
県全体	文化施設の整備 2.56	親しみやすい水辺の存在 2.57	飲食店・娯楽施設の充実 2.70	福祉施設の充実 2.80	運動施設の整備 2.81
男性	文化施設の整備 2.56	親しみやすい水辺の存在 2.56	飲食店・娯楽施設の充実 2.72	運動施設の整備 2.81	福祉施設の充実 2.85
女性	文化施設の整備 2.55	親しみやすい水辺の存在 2.58	飲食店・娯楽施設の充実 2.68	福祉施設の充実 2.76	運動施設の整備 2.80

(注) 点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

下位5項目で、性別にはあるが「県全体」にはない項目はありません。

(8) 年齢別の評価の比較

① 県全体と年齢別の評価の比較

図表 県全体と年齢別の評価の比較

順位	項目番号	項目の略称	県全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1	13	自然環境が豊か	3.66	3.72	3.66	3.58	3.67	3.65	3.75
2	1	日用品の買物の便利さ	3.60	3.50	3.66	3.62	3.58	3.66	3.50
3	2	ショッピングセンターの充実	3.41	3.40	3.55	3.47	3.40	3.34	3.30
4	11	ごみや下水の適正な処理	3.40	3.33	3.33	3.27	3.35	3.47	3.61
5	4	気軽に相談・受診できる医療施設の充実	3.14	3.05	3.01	3.09	3.08	3.21	3.39
6	10	生活道路の整備	3.13	3.18	3.14	3.01	3.11	3.18	3.20
7	7	公園・緑地の整備	3.06	3.09	3.11	2.99	3.04	3.06	3.13
8	5	救急対応が可能な医療施設の充実	2.96	2.86	2.88	2.84	2.93	3.05	3.15
9	8	運動施設の整備	2.81	2.83	2.77	2.82	2.83	2.80	2.77
10	6	福祉施設の充実	2.80	2.82	2.85	2.69	2.81	2.78	2.90
11	3	飲食店・娯楽施設の充実	2.70	2.65	2.79	2.81	2.65	2.70	2.57
12	12	親しみやすい水辺の存在	2.57	2.49	2.47	2.56	2.64	2.53	2.71
13	9	文化施設の整備	2.56	2.72	2.59	2.62	2.47	2.53	2.50

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

全ての年齢層において「県全体」の評価を下回っている項目が5項目以上あります。特に、「50歳代」では、「県全体」に比べ評価が下回っている項目が最も多く、9項目あります。

②年齢別の評価上位5項目の傾向

図表 年齢別の評価上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	自然環境が豊か 3.66	日用品の 買物の便利さ 3.60	ショッピングセンター の充実 3.41	ごみや下水の 適正な処理 3.40	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.14
20歳代	自然環境が豊か 3.72	日用品の 買物の便利さ 3.50	ショッピングセンター の充実 3.40	ごみや下水の 適正な処理 3.33	生活道路の整備 3.18
30歳代	日用品の 買物の便利さ 3.66	自然環境が豊か 3.66	ショッピングセンター の充実 3.55	ごみや下水の 適正な処理 3.33	生活道路の整備 3.14
40歳代	日用品の 買物の便利さ 3.62	自然環境が豊か 3.58	ショッピングセンター の充実 3.47	ごみや下水の 適正な処理 3.27	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.09
50歳代	自然環境が豊か 3.67	日用品の 買物の便利さ 3.58	ショッピングセンター の充実 3.40	ごみや下水の 適正な処理 3.35	生活道路の整備 3.11
60歳代	日用品の 買物の便利さ 3.66	自然環境が豊か 3.65	ごみや下水の 適正な処理 3.47	ショッピングセンター の充実 3.34	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.21
70歳 以上	自然環境が豊か 3.75	ごみや下水の 適正な処理 3.61	日用品の 買物の便利さ 3.50	気軽に相談・受診できる 医療施設の充実 3.39	ショッピングセンター の充実 3.30

(注) 網かけは、年齢にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

上位5項目で、各年齢にはあるが「県全体」にはない項目は、「生活道路の整備」（「20歳代」・「30歳代」・「50歳代」の第5位）となっています。

③年齢別の評価下位5項目の傾向

図表 年齢別の評価下位5項目の傾向

	第13位	第12位	第11位	第10位	第9位
県全体	文化施設の整備 2.56	親しみやすい水辺の存在 2.57	飲食店・娯楽施設の充実 2.70	福祉施設の充実 2.80	運動施設の整備 2.81
20歳代	親しみやすい水辺の存在 2.49	飲食店・娯楽施設の充実 2.65	文化施設の整備 2.72	福祉施設の充実 2.82	運動施設の整備 2.83
30歳代	親しみやすい水辺の存在 2.47	文化施設の整備 2.59	運動施設の整備 2.77	飲食店・娯楽施設の充実 2.79	福祉施設の充実 2.85
40歳代	親しみやすい水辺の存在 2.56	文化施設の整備 2.62	福祉施設の充実 2.69	飲食店・娯楽施設の充実 2.81	運動施設の整備 2.82
50歳代	文化施設の整備 2.47	親しみやすい水辺の存在 2.64	飲食店・娯楽施設の充実 2.65	福祉施設の充実 2.81	運動施設の整備 2.83
60歳代	文化施設の整備 2.53	親しみやすい水辺の存在 2.53	飲食店・娯楽施設の充実 2.70	福祉施設の充実 2.78	運動施設の整備 2.80
70歳以上	文化施設の整備 2.50	飲食店・娯楽施設の充実 2.57	親しみやすい水辺の存在 2.71	運動施設の整備 2.77	福祉施設の充実 2.90

(注) 点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

下位5項目で、各年齢にはあるが「県全体」にはない項目はありません。

■県全体

地域で充実してほしい施設については、「総合病院など救急時の対応も可能な医療施設」(46.1%)が最も多く、次いで「日常の買い物に便利な店舗や商店街」(25.0%)、「社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設)」(21.0%)、「気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所」(19.6%)などとなっています。

「その他」の意見では、主に「公共交通機関の整備・充実」、「図書館」、「下水道等、下水処理施設の整備」、「子どもがのびのびと遊べる場所」などの意見が挙げられました。

■地域別

全ての地域で「総合病院など救急時の対応も可能な医療施設」が最も多くなっています。第2位は多くの地域で「県全体」と同じとなっていますが、「地域2(西部)」では「買い物を楽しめるショッピングセンター」、「地域3(中部)」では、「社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設)」となっています。

■住みやすさの評価別

住みやすさの評価に関係なく、第2位までが「県全体」と同じとなっています。

■ライフステージ別

全てのライフステージで「総合病院など救急時の対応も可能な医療施設」が最も多くなっていますが、「若者」では「買い物を楽しめるショッピングセンター」も同率で第1位となっています。

また、第2位は多くの地域で「県全体」と同様の項目となっていますが、「育児期」では「緑地や公園、広場などの憩いの場」、「単身高齢者」では「社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設)」が挙げられるなど、ライフステージ別で異なる意向がうかがえます。

■居住地域の状況別

「県全体」の上位3項目と大きな違いはありませんが、「住宅地域」で「緑地や公園、広場などの憩いの場」、「農村地域」で「気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所」(同率)が第2位となっています。

■性別

「県全体」の上位3項目と大きな違いはありませんが、「男性」では「気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所」が第3位となっています。

■年齢別

全ての年齢層で「総合病院など救急時の対応も可能な医療施設」が最も多くなっています。第2位以下も概ね「県全体」と同様の傾向が見られますが、「20歳代」では「買い物を楽しめるショッピングセンター」、「30歳代」では「緑地や公園、広場などの憩いの場」が第2位に挙げられているとともに、「60歳代」では「気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所」が第3位となるなど、年齢層によって異なる意向がうかがえます。

(2) 地域別の経年比較

図表 地域別の経年比較（複数回答／地域別）

（平成23年度 上段：結果 下段：同項目における平成21年度からの増減値）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
県全体	H23	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 46.1% 2.3	日常の買い物に便利な店舗や商店街 25.0% 3.9	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 21.0% ▲3.2	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 19.6% ▲1.6	買い物を楽しめるショッピングセンター 15.6% ▲2.0	
	H21	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 43.8%	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 24.2%	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 21.2%	日常の買い物に便利な店舗や商店街 21.1%	買い物を楽しめるショッピングセンター 17.6%	
地域別	地域1(北部)	H23	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 44.9% 0.5	日常の買い物に便利な店舗や商店街 25.3% 4.4	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 20.3% ▲3.6	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 19.5% ▲0.8	映画館、美術館など文化・芸術に親しめる施設 16.9% 4.9
		H21	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 44.4%	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 23.9%	日常の買い物に便利な店舗や商店街 20.9%	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 20.3%	買い物を楽しめるショッピングセンター 18.0%
	地域2(西部)	H23	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 42.4% 3.3	買い物を楽しめるショッピングセンター 23.7% 0.6	日常の買い物に便利な店舗や商店街 23.3% 0.2	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 18.3% ▲2.8	映画館、美術館など文化・芸術に親しめる施設 15.3% 4.1
		H21	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 39.1%	日常の買い物に便利な店舗や商店街 23.7%	買い物を楽しめるショッピングセンター 23.7%	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 21.4%	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 21.1%
	地域3(中部)	H23	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 48.5% 2.8	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 22.5% ▲4.9	日常の買い物に便利な店舗や商店街 20.0% 0.7	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 19.9% ▲2.1	緑地や公園、広場などの憩いの場 18.9% ▲1.2
		H21	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 45.7%	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 27.4%	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 22.0%	緑地や公園、広場などの憩いの場 20.1%	日常の買い物に便利な店舗や商店街 19.3%
	地域4(東部)	H23	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 47.7% 11.7	日常の買い物に便利な店舗や商店街 31.8% 8.3	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 22.3% ▲0.4	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 19.1% ▲3.0	買い物を楽しめるショッピングセンター 14.5% ▲2.5
		H21	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 36.0%	日常の買い物に便利な店舗や商店街 23.5%	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 22.7%	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 22.1%	買い物を楽しめるショッピングセンター 17.0%
	地域5(南東部)	H23	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 44.6% ▲1.5	日常の買い物に便利な店舗や商店街 33.3% 3.9	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 25.5% 5.3	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 22.1% ▲0.2	買い物を楽しめるショッピングセンター 12.7% ▲4.0
		H21	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 46.1%	日常の買い物に便利な店舗や商店街 29.4%	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 22.3%	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 20.2%	買い物を楽しめるショッピングセンター 16.7%
	地域6(南西部)	H23	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 55.0% 5.0	日常の買い物に便利な店舗や商店街 28.0% 10.7	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 23.0% 2.9	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 22.0% ▲2.8	買い物を楽しめるショッピングセンター 12.0% ▲9.6
		H21	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設 50.0%	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所 24.8%	買い物を楽しめるショッピングセンター 21.6%	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設) 20.1%	日常の買い物に便利な店舗や商店街 17.3%

(注) 網掛けは、平成23年度にはあるが平成21年度の上位5項目にない項目。

太字は、平成23年度上位5項目のうち、平成21年度から5ポイント以上増えた項目を示している。また、斜体は同率の項目を示しており、その場合は選択肢の番号が若いものを先に記載している。

平成23年度と平成21年度の上位5項目を比較すると、概ね同様の項目が挙げられていますが、平成23年度にはあるが平成21年度にはない項目として、「映画館、美術館など文化・芸術に親しめる施設」(「地域1(北部)」・「地域2(西部)」の第5位)が挙げられています。

また、「総合病院など救急時の対応も可能な医療施設」(「地域4(東部)」・「地域6(南西部)」の第1位)、「日常の買い物に便利な店舗や商店街」(「地域4(東部)」・「地域6(南西部)」の第2位)及び「社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設)」(「地域5(南東部)」の第3位)は、特に充実してほしいと思う施設として平成21年度より5ポイント以上増加しています。

4-3 不安を感じる犯罪

(1) 今年度調査結果

図表 不安を感じる犯罪（複数回答／県全体、地域別、ライフステージ別、性別、年齢別）

	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪	殺人、強盗、放火等の凶悪事件	携帯電話やインターネットを利用した犯罪	子どもに対する声かけやつきまと	少年による犯罪	オレオレ詐欺等のいわゆる「振り込め詐欺」	路上でのすりやひったくり	女性に対する痴漢行為やストーカー	その他	
県全体	57.8%	40.4%	24.3%	16.9%	14.5%	11.6%	10.0%	8.6%	1.9%	
地域別	地域1(北部)	60.2%	41.8%	23.6%	18.2%	14.7%	9.4%	10.1%	9.1%	1.7%
	地域2(西部)	64.9%	42.4%	23.3%	16.8%	10.3%	7.3%	11.8%	9.2%	0.8%
	地域3(中部)	53.8%	38.6%	24.4%	19.9%	17.5%	9.9%	12.8%	9.4%	1.3%
	地域4(東部)	50.9%	45.9%	27.3%	12.3%	15.0%	18.6%	6.4%	8.6%	2.7%
	地域5(南東部)	54.9%	30.4%	25.5%	5.9%	9.3%	26.0%	5.4%	2.9%	5.9%
	地域6(南西部)	55.0%	37.0%	25.0%	12.0%	13.0%	18.0%	3.0%	8.0%	1.0%
ライフステージ別	若者	45.4%	49.8%	23.3%	19.8%	11.9%	4.4%	9.7%	20.7%	1.8%
	夫婦	67.5%	44.6%	23.3%	8.2%	16.1%	10.5%	14.8%	3.9%	1.6%
	育児期	39.6%	39.6%	11.2%	67.2%	18.7%	4.5%	4.5%	6.0%	3.0%
	教育期前期	46.2%	38.0%	26.6%	52.2%	14.5%	2.6%	4.7%	7.1%	1.3%
	教育期後期	56.3%	43.0%	30.7%	14.7%	14.0%	6.3%	6.0%	18.3%	1.0%
	単身高齢者	59.0%	36.1%	12.0%	4.8%	6.0%	22.9%	18.1%	4.8%	4.8%
	高齢者夫婦	67.0%	31.5%	22.1%	3.1%	11.8%	24.9%	14.6%	2.5%	1.9%
性別	男性	58.5%	42.5%	26.6%	14.2%	19.4%	11.9%	6.1%	5.4%	2.0%
	女性	57.4%	38.7%	22.3%	19.2%	10.5%	11.4%	13.3%	11.4%	1.7%
年齢別	20歳代	46.8%	50.6%	23.2%	19.0%	11.8%	4.2%	9.3%	20.3%	1.7%
	30歳代	50.7%	38.1%	20.1%	40.7%	15.7%	5.2%	9.4%	9.1%	1.6%
	40歳代	51.2%	41.7%	28.3%	28.9%	17.0%	4.4%	7.3%	11.7%	1.5%
	50歳代	61.9%	44.5%	26.6%	10.1%	15.8%	8.8%	9.0%	9.5%	2.2%
	60歳代	63.5%	39.3%	26.2%	8.7%	15.1%	17.2%	9.4%	3.9%	1.2%
	70歳以上	63.7%	32.6%	18.9%	3.2%	10.3%	23.2%	15.9%	4.5%	3.2%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「その他」を除く）に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

不安に感じる犯罪については、「空き巣、忍び込み等の侵入犯罪」(57.8%)が最も多く、次いで「殺人、強盗、放火等の凶悪事件」(40.4%)、「携帯電話やインターネットを利用した犯罪」(24.3%)などとなっています。

「その他」では、主に「車上荒らし」、「高齢者を狙った犯罪や訪問販売」などが挙げられました。

■地域別

「地域5(南東部)」で「オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』」が第3位となっている以外は「県全体」の傾向と同じとなっています。

■ライフステージ別

上位3項目は「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「育児期」と「教育期前期」で「子どもに対する声かけやつきまとい」が第1位、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」で「オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』」が第3位となるなど、ライフステージによって特徴的な意見が見られます。

■性別

男女とも上位3項目までが「県全体」と同じとなっています。

■年齢別

県全体と概ね同様の結果となっていますが、「子どもに対する声かけやつきまとい」が「30歳代」の第2位と「40歳代」の第3位、「オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』」が「70歳以上」の第3位に挙げられるなど、年齢層によって異なる意向がうかがえます。

(2) 地域別の経年比較

図表 地域別の経年比較（複数回答／地域別）

(平成23年度 上段：結果 下段：同項目における平成21年度からの増減値)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
県全体	H23	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 57.8% 8.7	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 40.4% ▲3.2	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 24.3% 0.5	子どもに対する声かけやつきまとい 16.9% ▲2.6	少年による犯罪 14.5% ▲4.4	
	H21	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 49.1%	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 43.6%	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 23.8%	子どもに対する声かけやつきまとい 19.5%	少年による犯罪 18.9%	
地域別	地域1 (北部)	H23	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 60.2% 9.6	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 41.8% ▲2.4	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 23.6% 0.9	子どもに対する声かけやつきまとい 18.2% ▲1.2	少年による犯罪 14.7% ▲2.6
		H21	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 50.6%	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 44.2%	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 22.7%	子どもに対する声かけやつきまとい 19.4%	少年による犯罪 17.3%
	地域2 (西部)	H23	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 64.9% 10.4	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 42.4% 1.4	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 23.3% 3.9	子どもに対する声かけやつきまとい 16.8% ▲2.4	路上でのすりやひったくり 11.8% ▲0.9
		H21	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 54.5%	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 41.0%	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 19.4%	子どもに対する声かけやつきまとい 19.2%	少年による犯罪 17.2%
	地域3 (中部)	H23	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 53.8% 6.5	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 38.6% ▲6.3	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 24.4% ▲0.4	子どもに対する声かけやつきまとい 19.9% 0.0	少年による犯罪 17.5% ▲4.8
		H21	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 47.3%	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 44.9%	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 24.8%	少年による犯罪 22.3%	子どもに対する声かけやつきまとい 19.9%
	地域4 (東部)	H23	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 50.9% 6.7	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 45.9% 0.9	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 27.3% 1.8	オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』 18.6% 9.0	少年による犯罪 15.0% ▲7.1
		H21	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 45.0%	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 44.2%	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 25.5%	少年による犯罪 22.1%	子どもに対する声かけやつきまとい 17.8%
	地域5 (南東部)	H23	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 54.9% 13.4	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 30.4% ▲7.2	オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』 26.0% 8.3	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 25.5% ▲8.9	少年による犯罪 9.3% ▲7.7
		H21	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 41.5%	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 37.6%	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 34.4%	オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』 17.7%	子どもに対する声かけやつきまとい 17.0%
	地域6 (南西部)	H23	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 55.0% 11.1	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 37.0% 0.7	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 25.0% ▲7.4	オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』 18.0% 2.9	少年による犯罪 13.0% ▲3.5
		H21	空き巣、忍び込み等の侵入犯罪 43.9%	殺人、強盗、放火等の凶悪事件 36.3%	携帯電話やインターネットを利用した犯罪 32.4%	子どもに対する声かけやつきまとい 25.2%	少年による犯罪 16.5%

(注) 網掛けは、平成23年度にはあるが平成21年度の上位5項目にない項目。

太字は、平成23年度上位5項目のうち、平成21年度から5ポイント以上増えた項目を示している。

平成23年度と平成21年度の上位5項目を比較すると、概ね同様の項目が挙げられていますが、平成23年度にあり平成21年度にない項目は「路上でのすりやひったくり」（「地域2（西部）」の第5位）、「少年による犯罪」（「地域5（南東部）」の第5位）、「オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』」（「地域4（東部）」・「地域6（南西部）」の第4位）となっています。

また、「空き巣、忍び込み等の侵入犯罪」（全ての地域の第1位）、「オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』」（「地域5（南東部）」の第3位、「地域4（東部）」の第4位）は、特に不安を感じる犯罪として平成21年度より5ポイント以上増加しています。

4-4 地域で重要だと思う防犯対策

(1) 今年度調査結果

図表 地域で重要だと思う防犯対策（複数回答／県全体、地域別、ライフステージ別、性別、年齢別）

	防犯灯や街路灯を増設する	自治体、警察、学校の連携強化	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する	地域においての声かけ、あいさつ運動	個人の防犯意識の高揚	児童・生徒への安全教育	住民によるパトロールなどの自主防犯活動	「こども110番の家」等の活動	その他	
県全体	45.6%	41.8%	32.4%	24.0%	19.3%	11.0%	9.8%	1.7%	1.6%	
地域別	地域1(北部)	47.3%	41.3%	35.6%	23.0%	16.5%	11.1%	10.5%	1.6%	1.7%
	地域2(西部)	51.1%	44.3%	28.2%	22.9%	21.4%	10.3%	7.6%	1.1%	1.1%
	地域3(中部)	44.9%	43.9%	35.5%	21.6%	18.4%	11.8%	9.0%	1.6%	1.9%
	地域4(東部)	45.5%	41.4%	28.6%	26.4%	22.7%	7.7%	11.8%	3.2%	2.3%
	地域5(南東部)	32.8%	38.2%	16.2%	31.9%	32.8%	9.8%	8.8%	2.0%	0.0%
	地域6(南西部)	41.0%	36.0%	22.0%	33.0%	21.0%	14.0%	8.0%	1.0%	1.0%
ライフステージ別	若者	48.9%	44.1%	29.5%	19.8%	19.4%	12.3%	9.7%	3.5%	0.9%
	夫婦	51.8%	39.3%	34.4%	25.2%	20.3%	8.9%	6.9%	1.3%	0.7%
	育児期	36.6%	54.5%	25.4%	23.9%	9.0%	23.1%	11.2%	8.2%	4.5%
	教育期前期	49.3%	46.4%	30.9%	20.8%	11.9%	18.7%	10.6%	1.6%	1.6%
	教育期後期	49.7%	47.3%	37.0%	20.0%	18.3%	9.7%	6.3%	1.0%	2.0%
	単身高齢者	39.8%	26.5%	31.3%	33.7%	22.9%	6.0%	9.6%	0.0%	3.6%
	高齢者夫婦	36.4%	36.8%	35.8%	31.2%	20.9%	8.7%	9.3%	0.3%	0.6%
性別	男性	42.6%	44.1%	32.8%	23.1%	19.4%	10.9%	10.5%	1.4%	2.3%
	女性	48.3%	39.9%	32.1%	24.7%	19.2%	10.9%	9.2%	2.0%	1.0%
年齢別	20歳代	48.9%	44.7%	29.1%	19.0%	19.0%	12.2%	10.1%	3.8%	0.8%
	30歳代	44.1%	50.4%	28.2%	16.7%	17.5%	19.1%	11.2%	2.6%	2.1%
	40歳代	51.2%	46.5%	33.1%	19.9%	17.8%	11.7%	7.8%	1.5%	1.7%
	50歳代	48.5%	43.6%	35.7%	23.0%	17.4%	7.7%	10.8%	1.4%	2.3%
	60歳代	44.5%	37.9%	31.0%	28.5%	22.8%	9.7%	10.1%	1.2%	0.8%
	70歳以上	38.4%	32.0%	34.8%	31.3%	20.0%	8.4%	8.8%	1.1%	1.7%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「その他」を除く）に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

地域で重要だと思ふ防犯対策については、「防犯灯や街路灯を増設する」が45.6%と最も多く、次いで「自治体、警察、学校の連携強化」(41.8%)、「犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する」(32.4%)、「地域における声かけ、あいさつ運動」(24.0%)などとなっています。

なお、「地域における声かけ、あいさつ運動」は、平成23年度から新たに設定された選択肢です。

「その他」では、主に「警察によるパトロール強化」、「青少年への犯罪防止（倫理）教育」などが挙げられました。

■地域別

「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「地域5（南東部）」では「自治体、警察、学校の連携強化」が第1位、「地域5（南東部）」、「地域6（南西部）」では「地域における声かけ、あいさつ運動」が第3位となっています。

■ライフステージ別

「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「単身高齢者」では「地域における声かけ、あいさつ運動」が第2位となっています。

■性別

「男性」では「自治体、警察、学校の連携強化」、「女性」では「防犯灯や街路灯を増設する」が最も多くなっています。

■年齢別

「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「30歳代」では「自治体、警察、学校の連携強化」が第1位となっています。

(2) 地域別の経年比較

図表 地域別の経年比較（複数回答／地域別）

(平成23年度 上段：結果 下段：同項目における平成21年度からの増減値)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
県全体	H23	防犯灯や街路灯を増設する 45.6% ▲3.0	自治体、警察、学校の連携強化 41.8% ▲2.7	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 32.4% 1.5	地域における声かけ、あいさつ運動 24.0% -	個人の防犯意識の高揚 19.3% ▲2.5	
	H21	防犯灯や街路灯を増設する 48.6%	自治体、警察、学校の連携強化 44.5%	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 30.9%	個人の防犯意識の高揚 21.8%	児童・生徒への安全教育 15.5%	
地域別	地域1 (北部)	H23	防犯灯や街路灯を増設する 47.3% ▲2.4	自治体、警察、学校の連携強化 41.3% ▲3.1	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 35.6% 4.7	地域における声かけ、あいさつ運動 23.0% -	個人の防犯意識の高揚 16.5% ▲3.8
		H21	防犯灯や街路灯を増設する 49.7%	自治体、警察、学校の連携強化 44.4%	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 30.9%	個人の防犯意識の高揚 20.3%	児童・生徒への安全教育 15.9%
	地域2 (西部)	H23	防犯灯や街路灯を増設する 51.1% 1.1	自治体、警察、学校の連携強化 44.3% 0.0	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 28.2% ▲2.4	地域における声かけ、あいさつ運動 22.9% -	個人の防犯意識の高揚 21.4% 0.5
		H21	防犯灯や街路灯を増設する 50.0%	自治体、警察、学校の連携強化 44.3%	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 30.6%	個人の防犯意識の高揚 20.9%	地域住民による防犯活動を行う 16.7%
	地域3 (中部)	H23	防犯灯や街路灯を増設する 44.9% ▲3.2	自治体、警察、学校の連携強化 43.9% ▲1.8	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 35.5% 0.9	地域における声かけ、あいさつ運動 21.6% -	個人の防犯意識の高揚 18.4% ▲3.9
		H21	防犯灯や街路灯を増設する 48.1%	自治体、警察、学校の連携強化 45.7%	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 34.6%	個人の防犯意識の高揚 22.3%	児童・生徒への安全教育 14.5%
	地域4 (東部)	H23	防犯灯や街路灯を増設する 45.5% ▲0.4	自治体、警察、学校の連携強化 41.4% ▲1.7	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 28.6% 3.4	地域における声かけ、あいさつ運動 26.4% -	個人の防犯意識の高揚 22.7% ▲1.9
		H21	防犯灯や街路灯を増設する 45.9%	自治体、警察、学校の連携強化 43.1%	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 25.2%	個人の防犯意識の高揚 24.6%	児童・生徒への安全教育 15.9%
	地域5 (南東部)	H23	自治体、警察、学校の連携強化 38.2% 2.0	防犯灯や街路灯を増設する 32.8% ▲10.5	個人の防犯意識の高揚 32.8% 1.2	地域における声かけ、あいさつ運動 31.9% -	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 16.2% ▲6.1
		H21	防犯灯や街路灯を増設する 43.3%	自治体、警察、学校の連携強化 36.2%	個人の防犯意識の高揚 31.6%	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 22.3%	児童・生徒への安全教育 17.7%
	地域6 (南西部)	H23	防犯灯や街路灯を増設する 41.0% 0.4	自治体、警察、学校の連携強化 36.0% ▲12.2	地域における声かけ、あいさつ運動 33.0% -	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 22.0% ▲2.8	個人の防犯意識の高揚 21.0% ▲5.3
		H21	自治体、警察、学校の連携強化 48.2%	防犯灯や街路灯を増設する 40.6%	個人の防犯意識の高揚 26.3%	犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する 24.8%	児童・生徒への安全教育 20.1%

(注) 平成23年度の選択項目は平成21年度から一部追加・変更が行われている。

網掛けは、平成23年度にはあるが平成21年度の上位5項目にない項目。

太字は、平成23年度上位5項目のうち、平成21年度から5ポイント以上増えた項目を示している。また、斜体は同率の項目を示しており、その場合は選択肢の番号が若いものを先に記載している。

上位5項目のうち、平成23年度にあり平成21年度にない項目は、「地域における声かけ、あいさつ運動」（「県全体」及び「地域1（北部）」から「地域5（南東部）」の第4位、「地域6（南西部）」の第3位）となっています。

なお、「地域における声かけ、あいさつ運動」は、平成23年度から新たに設定された選択肢です。

地域の安全を確保し、安心して生活できるようにするために必要な取り組みとして平成21年度より5ポイント以上増加した項目はありません。

4-5 警察による充実・強化が必要だと思う防犯対策

(1) 今年度調査結果

図表 警察による充実・強化が必要だと思う防犯対策（複数回答／県全体、地域別、ライフステージ別、性別、年齢別）

	動 警 察 官 に よ る パ ト ロ ー ル や 検 挙 活 動	供 犯 罪 発 生 情 報 や 防 犯 対 策 情 報 の 提 供	少 年 の 非 行 防 止 活 動	交 番 や 警 察 署 に お け る 相 談 活 動	交 通 違 反 の 取 締 活 動	
県全体	72.3%	35.9%	31.7%	26.8%	10.4%	
地域別	地域1(北部)	75.4%	35.8%	31.3%	26.5%	10.3%
	地域2(西部)	69.1%	39.7%	32.1%	26.7%	9.5%
	地域3(中部)	74.1%	33.4%	37.3%	24.4%	10.3%
	地域4(東部)	67.7%	40.0%	29.1%	31.4%	11.8%
	地域5(南東部)	57.4%	34.3%	21.6%	30.4%	14.2%
	地域6(南西部)	68.0%	37.0%	25.0%	30.0%	5.0%
ライフステージ別	若者	67.0%	42.7%	35.2%	26.4%	5.7%
	夫婦	75.4%	36.1%	32.8%	23.3%	9.5%
	育児期	79.9%	39.6%	35.1%	25.4%	6.7%
	教育期前期	78.6%	35.4%	35.9%	26.4%	6.9%
	教育期後期	78.7%	38.0%	34.0%	24.3%	6.7%
	単身高齢者	61.4%	28.9%	19.3%	24.1%	16.9%
	高齢者夫婦	67.9%	31.2%	29.6%	24.9%	15.6%
性別	男性	72.9%	33.1%	35.0%	28.4%	10.0%
	女性	72.0%	38.3%	28.9%	25.4%	10.8%
年齢別	20歳代	66.7%	42.2%	35.4%	25.3%	7.2%
	30歳代	76.5%	37.6%	32.1%	26.6%	9.4%
	40歳代	75.7%	39.2%	32.5%	27.0%	8.2%
	50歳代	76.5%	36.4%	32.7%	27.5%	7.5%
	60歳代	71.6%	32.4%	34.2%	27.6%	10.5%
	70歳以上	64.6%	32.0%	24.0%	26.0%	18.9%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を示している。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

警察による充実・強化が必要だと思う防犯対策については、「警察官によるパトロールや検挙活動」(72.3%)が最も多く、次いで「犯罪発生情報や防犯対策情報の提供」(35.9%)、「少年の非行防止活動」(31.7%)などとなっています。

■地域別

「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「地域3(中部)」では「少年の非行防止活動」が第2位となっています。また、「地域1(北部)」と「地域2(西部)」では「少年の非行防止活動」、「地域3(中部)」では「犯罪発生情報や防犯対策情報の提供」、「地域4(東部)」、「地域5(南東部)」及び「地域6(南西部)」では「交番や警察署における相談活動」が第3位となっています。

■ライフステージ別

「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「単身高齢者」では「交番や警察署における相談活動」が第3位となっています。

■性別

「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「男性」では「少年の非行防止活動」が第2位となっています。

■年齢別

「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「60歳代」では「少年の非行防止活動」が第2位、「70歳以上」では「交番や警察署における相談活動」が第3位となっています。

(2) 地域別の経年比較

図表 地域別の経年比較（複数回答／地域別）

(平成23年度 上段：結果 下段：同項目における平成21年度からの増減値)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
県全体	H23	警察官によるパトロールや検挙活動 72.3% 5.2	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 35.9% 5.5	少年の非行防止活動 31.7% ▲4.7	交番や警察署における相談活動 26.8% 3.9	交通違反の取締活動 10.4% ▲1.2	
	H21	警察官によるパトロールや検挙活動 67.1%	少年の非行防止活動 36.4%	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 30.4%	交番や警察署における相談活動 22.9%	交通違反の取締活動 11.6%	
地域別	地域1 (北部)	H23	警察官によるパトロールや検挙活動 75.4% 7.3	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 35.8% 5.1	少年の非行防止活動 31.3% ▲3.7	交番や警察署における相談活動 26.5% 3.9	交通違反の取締活動 10.3% ▲0.5
		H21	警察官によるパトロールや検挙活動 68.1%	少年の非行防止活動 35.0%	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 30.7%	交番や警察署における相談活動 22.6%	交通違反の取締活動 10.8%
	地域2 (西部)	H23	警察官によるパトロールや検挙活動 69.1% ▲1.0	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 39.7% 10.8	少年の非行防止活動 32.1% ▲4.7	交番や警察署における相談活動 28.7% 6.6	交通違反の取締活動 9.5% ▲3.9
		H21	警察官によるパトロールや検挙活動 70.1%	少年の非行防止活動 36.8%	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 28.9%	交番や警察署における相談活動 20.1%	交通違反の取締活動 13.4%
	地域3 (中部)	H23	警察官によるパトロールや検挙活動 74.1% 5.3	少年の非行防止活動 37.3% ▲3.1	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 33.4% 2.7	交番や警察署における相談活動 24.4% 1.5	交通違反の取締活動 10.3% ▲2.4
		H21	警察官によるパトロールや検挙活動 68.8%	少年の非行防止活動 40.4%	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 30.7%	交番や警察署における相談活動 22.9%	交通違反の取締活動 12.7%
	地域4 (東部)	H23	警察官によるパトロールや検挙活動 67.7% 8.2	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 40.0% 11.4	交番や警察署における相談活動 31.4% 9.0	少年の非行防止活動 29.1% ▲7.4	交通違反の取締活動 11.8% ▲0.1
		H21	警察官によるパトロールや検挙活動 59.5%	少年の非行防止活動 36.5%	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 28.6%	交番や警察署における相談活動 22.4%	交通違反の取締活動 11.9%
	地域5 (南東部)	H23	警察官によるパトロールや検挙活動 57.4% 4.6	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 34.3% 3.1	交番や警察署における相談活動 30.4% ▲3.3	少年の非行防止活動 21.6% ▲3.2	交通違反の取締活動 14.2% 1.8
		H21	警察官によるパトロールや検挙活動 52.8%	交番や警察署における相談活動 33.7%	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 31.2%	少年の非行防止活動 24.8%	交通違反の取締活動 12.4%
	地域6 (南西部)	H23	警察官によるパトロールや検挙活動 68.0% 7.9	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 37.0% 5.7	交番や警察署における相談活動 30.0% 3.0	少年の非行防止活動 25.0% ▲11.0	交通違反の取締活動 5.0% ▲0.8
		H21	警察官によるパトロールや検挙活動 60.1%	少年の非行防止活動 36.0%	犯罪発生情報や防犯対策情報の提供 31.3%	交番や警察署における相談活動 27.0%	交通違反の取締活動 5.8%

(注) 太字は、平成23年度上位5項目のうち、平成21年度から5ポイント以上増えた項目を示している。

平成23年度と平成21年度の結果を比較すると、第2位から第4位で順位の変動はありますが、第1位「警察官によるパトロールや検挙活動」と第5位「交通違反の取締活動」の変動はありません。また、「警察官によるパトロールや検挙活動」（「地域1（北部）」・「地域3（中部）」・「地域4（東部）」・「地域6（南西部）」の第1位）、「犯罪発生情報や防犯対策情報の提供」（「地域1（北部）」・「地域2（西部）」・「地域4（東部）」・「地域6（南西部）」の第2位）、「交番や警察署における相談活動」（「地域4（東部）」の第3位、「地域2（西部）」の第4位）は、特に充実・強化してほしい警察による防犯対策として平成21年度より5ポイント以上増加しています。

4-6 日頃から行っている災害等への備え

(1) 今年度調査結果

図表 日頃から行っている災害等への備え（複数回答／県全体、ライフステージ別、年齢別）

（上段：平成23年度結果 下段：平成21年度からの増減値）

	消火器などの用意	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄	災害時における家族との連絡方法の確認	家具などの転倒防止	避難経路の確認	地域や学校・職場などで実施される防災訓練などへの参加	特に備えはしていない	耐火金庫に貴重品などを保管	け崩れ（土砂災害）の危険箇所を確認	地域での浸水の危険性などの確認	住宅の耐震診断や耐震補強工事	ブロック塀や門柱などの安全性の点検	ガラスの飛散防止	その他
県全体	45.0%	37.6%	28.9%	23.3%	21.9%	16.8%	16.5%	10.7%	9.0%	8.7%	8.4%	5.3%	4.5%	1.0%
若者	35.2%	31.3%	23.8%	16.7%	22.0%	13.2%	26.9%	7.5%	6.6%	5.7%	7.9%	5.3%	4.4%	0.9%
夫婦	40.7%	37.7%	31.1%	23.3%	22.6%	14.1%	16.1%	14.4%	7.5%	8.5%	9.2%	4.3%	4.6%	1.3%
育児期	26.9%	35.1%	22.4%	20.9%	22.4%	14.2%	21.6%	4.5%	5.2%	9.7%	11.9%	0.7%	5.2%	0.7%
教育期前期	34.6%	42.5%	28.2%	25.6%	20.3%	16.6%	15.0%	5.0%	6.3%	5.8%	10.6%	2.6%	4.0%	0.3%
教育期後期	46.3%	39.0%	28.7%	29.3%	20.7%	21.3%	16.7%	9.3%	5.7%	6.3%	8.3%	5.3%	6.7%	0.3%
単身高齢者	44.6%	30.1%	19.3%	14.5%	24.1%	8.4%	19.3%	6.0%	10.8%	10.8%	7.2%	6.0%	6.0%	2.4%
高齢者夫婦	57.6%	38.0%	33.0%	27.4%	24.0%	16.2%	9.7%	17.4%	11.5%	11.2%	9.3%	6.9%	5.0%	2.5%
20歳代	35.4%	31.2%	24.5%	17.3%	22.4%	13.1%	26.2%	7.2%	6.3%	5.5%	7.6%	5.1%	4.2%	0.8%
30歳代	29.0%	37.3%	22.2%	24.5%	19.8%	16.2%	23.0%	4.2%	7.6%	7.8%	10.7%	2.1%	5.5%	0.8%
40歳代	41.9%	39.0%	27.5%	23.1%	21.8%	15.7%	16.1%	8.0%	6.3%	6.5%	7.8%	2.7%	4.0%	0.4%
50歳代	48.3%	37.7%	28.4%	22.6%	19.6%	21.4%	16.9%	11.0%	8.6%	7.2%	6.6%	4.8%	4.1%	0.5%
60歳代	49.5%	37.8%	33.7%	23.2%	23.7%	15.6%	13.7%	15.0%	11.5%	10.1%	8.4%	5.9%	4.1%	1.2%
70歳以上	55.8%	39.5%	32.6%	26.4%	23.6%	16.5%	10.3%	14.4%	11.6%	13.1%	9.7%	10.1%	5.4%	1.9%

（注）集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「その他」を除く）に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を、斜体は同率であることを示している。また、網掛けは平成21年度より5ポイント以上増えた項目を示している。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

日頃から行っている災害等への備えについては、「消火器などの用意」（45.0%）が最も多く、次いで「水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄」（37.6%）、「災害時における家族との連絡方法の確認」（28.9%）、「家具などの転倒防止」（23.3%）などとなっています。

「その他」では、主に「火災報知機の設置」、「非常時に持ち出すものの用意」などが挙げられました。

■ライフステージ別

「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「若者」では「特に備えはしていない」が26.9%で第3位となっており、他のライフステージに比べて多くなっています。

■年齢別

「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「20歳代」では「特に備えはしていない」が26.2%で第3位となっており、「30歳代」も含め「特に備えをしていない」人は低い年齢層で多くなっています。

(2) 年齢別の経年比較

図表 年齢別の経年比較（複数回答／年齢別）

（平成23年度 上段：結果 下段：同項目における平成21年度からの増減値）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
県全体	H23	消火器などの用意 45.0% 7.2	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 37.6% 4.0	災害時における家族との連絡方法の確認 28.9% 7.9	家具などの転倒防止 23.3% ▲ 1.0	避難経路の確認 21.9% 5.0	
	H21	消火器などの用意 37.8%	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 33.6%	家具などの転倒防止 24.3%	特に備えてはしていない 23.5%	災害時における家族との連絡方法の確認 21.0%	
年齢別	20歳代	H23	消火器などの用意 35.4% 9.2	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 31.2% 7.5	特に備えてはしていない 26.2% ▲ 14.6	災害時における家族との連絡方法の確認 24.5% 9.6	避難経路の確認 22.4% 10.3
		H21	特に備えてはしていない 40.8%	消火器などの用意 26.2%	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 23.7%	家具などの転倒防止 18.4%	災害時における家族との連絡方法の確認 14.9%
	30歳代	H23	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 37.3% 8.2	消火器などの用意 29.0% 4.5	家具などの転倒防止 24.5% 1.6	特に備えてはしていない 23.0% ▲ 9.7	災害時における家族との連絡方法の確認 22.2% 8.1
		H21	特に備えてはしていない 32.7%	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 29.1%	消火器などの用意 24.5%	家具などの転倒防止 22.9%	災害時における家族との連絡方法の確認 14.1%
	40歳代	H23	消火器などの用意 41.9% 6.0	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 39.0% 7.8	災害時における家族との連絡方法の確認 27.5% 3.5	家具などの転倒防止 23.1% ▲ 2.2	避難経路の確認 21.8% 8.0
		H21	消火器などの用意 35.9%	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 31.2%	家具などの転倒防止 25.3%	特に備えてはしていない 24.9%	災害時における家族との連絡方法の確認 24.0%
	50歳代	H23	消火器などの用意 48.3% 12.3	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 37.7% 3.5	災害時における家族との連絡方法の確認 28.4% 11.2	家具などの転倒防止 22.6% ▲ 3.7	地域や学校・職場などで実施される防災訓練などへの参加 21.4% 8.1
		H21	消火器などの用意 36.0%	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 34.2%	家具などの転倒防止 26.3%	特に備えてはしていない 23.0%	災害時における家族との連絡方法の確認 17.2%
	60歳代	H23	消火器などの用意 49.5% 3.0	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 37.8% ▲ 3.0	災害時における家族との連絡方法の確認 33.7% 10.2	避難経路の確認 23.7% 3.4	家具などの転倒防止 23.2% ▲ 6.0
		H21	消火器などの用意 46.5%	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 40.8%	家具などの転倒防止 29.2%	災害時における家族との連絡方法の確認 23.5%	避難経路の確認 20.3%
	70歳以上	H23	消火器などの用意 55.8% 8.8	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 39.5% 2.5	災害時における家族との連絡方法の確認 32.6% 5.9	家具などの転倒防止 26.4% 2.7	避難経路の確認 23.6% 1.7
		H21	消火器などの用意 47.0%	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄 37.0%	災害時における家族との連絡方法の確認 26.7%	家具などの転倒防止 23.7%	避難経路の確認 21.9%

（注）網掛けは、平成23年度にはあるが平成21年度の上位5項目にない項目。

太字は、平成23年度上位5項目のうち、平成21年度から5ポイント以上増えた項目を示している。

平成23年度と平成21年度の上位5項目を比較すると、概ね同様の項目が挙げられていますが、上位5項目のうち、平成23年度にあり平成21年度にない項目は「避難経路の確認」（「県全体」・「20歳代」・「40歳代」の第5位）、「地域や学校・職場などで実施される防災訓練などへの参加」（「50歳代」の第5位）となっています。

また、「消火器などの用意」（「20歳代」・「40歳代」・「50歳代」・「70歳以上」の第1位）、「水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄」（「30歳代」の第1位、「20歳代」・「40歳代」の第2位）、「災害時における家族との連絡方法の確認」（「50歳代」・「60歳代」・「70歳以上」の第3位、「20歳代」の第4位、「30歳代」の第5位）、「避難経路の確認」（「20歳代」・「40歳代」の第5位）、「地域や学校・職場などで実施される防災訓練などへの参加」（「50歳代」の第5位）は、災害に対する日頃からの備えとして平成21年度より5ポイント以上増加しています。

4-7 地域の生活環境の変化に対する評価

(1) 県全体の評価の経年変化

図表 県全体の評価の経年変化

順位	項目番号	項目	評価		
			H23	H21	H23-H21
1	4	緑の豊かさ	3.03	3.00	0.03
2	1	空気のきれいさ	2.98	2.93	0.05
3	5	景観の美しさ	2.96	2.95	0.01
4	2	川や池のきれいさ	2.88	2.89	▲ 0.00
5	3	周辺の静けさ	2.82	2.75	0.07
項目全体の平均			2.93	2.90	0.03

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

「県全体」の評価が高い順に並べると、改善したと評価(3.01以上)された項目は1項目で、「緑の豊かさ」となっています。一方、悪化したと評価(2.99以下)された項目は4項目あり、「周辺の静けさ」の評価が最も低く、次いで「川や池のきれいさ」、「景観の美しさ」などとなっています。

また、平成21年度と比べると「川や池のきれいさ」に対する評価が僅かに下がりましたが、その他の項目では向上しています。

(2) 県全体と地域別の評価の比較

図表 県全体と地域別の評価の比較

順位	項目番号	項目	県全体	地域1 (北部)	地域2 (西部)	地域3 (中部)	地域4 (東部)	地域5 (南東部)	地域6 (南西部)
1	4	緑の豊かさ	3.03	2.94	3.02	2.97	3.20	3.46	3.34
2	1	空気のきれいさ	2.98	2.94	2.96	2.92	3.06	3.34	3.24
3	5	景観の美しさ	2.96	2.91	2.98	2.90	3.05	3.31	3.18
4	2	川や池のきれいさ	2.88	2.91	2.97	2.89	2.69	2.79	2.92
5	3	周辺の静けさ	2.82	2.79	2.90	2.68	2.88	3.20	3.13
項目全体の平均			2.93	2.90	2.97	2.87	2.98	3.22	3.16

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

「県全体」の評価を下回っている項目が多いのは、「地域1(北部)」と「地域3(中部)」となっています。

また、「地域1(北部)」から「地域3(中部)」では、5項目中4項目が悪化したと評価(2.99以下)されているのに対し、「地域4(東部)」から「地域6(南西部)」では改善したと評価(3.01以上)された項目が多くなっています。

(3) 県全体と居住地域の状況別の評価の比較

図表 県全体と居住地域の状況別の評価の比較

順位	項目番号	項目	県全体	商業地域	住宅地域	郊外の住宅地域	農村地域	山間地域	その他
1	4	緑の豊かさ	3.03	2.81	2.92	2.96	3.16	3.35	2.63
2	1	空気のきれいさ	2.98	2.81	2.95	2.90	3.07	3.19	2.72
3	5	景観の美しさ	2.96	2.89	2.89	2.92	3.03	3.18	2.84
4	2	川や池のきれいさ	2.88	2.96	2.95	2.89	2.87	2.71	2.90
5	3	周辺の静けさ	2.82	2.64	2.75	2.78	2.84	3.08	2.58

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

「県全体」の評価を下回っている項目が多いのは、「商業地域」、「住宅地域」、「郊外の住宅地」及び「その他」となっています。

また、「商業地域」、「住宅地域」、「郊外の住宅地」及び「その他」では、全ての項目が悪化したと評価(2.99以下)されているのに対し、「農村地域」と「山間地域」では改善したと評価(3.01以上)された項目が多くなっています。

(4) 県全体と年齢別の評価の比較

図表 県全体と年齢別の評価の比較

順位	項目番号	項目	県全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1	4	緑の豊かさ	3.03	2.92	2.89	2.87	2.97	3.08	3.43
2	1	空気のきれいさ	2.98	2.96	2.87	2.86	2.94	2.99	3.31
3	5	景観の美しさ	2.96	2.84	2.90	2.85	2.93	2.99	3.25
4	2	川や池のきれいさ	2.88	2.79	2.72	2.83	2.83	2.95	3.15
5	3	周辺の静けさ	2.82	2.74	2.72	2.68	2.76	2.82	3.21

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。
 点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。
 網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

「県全体」の評価を下回っている項目が多いのは、「20歳代」から「50歳代」となっています。

また、「20歳代」から「60歳代」では、「60歳代」の「緑の豊かさ」(3.08)以外、全ての項目が悪化したと評価(2.99以下)されています。その一方で、「70歳以上」では全ての項目が改善したと評価(3.01以上)されています。

4-8 日頃から心がけている環境への配慮

(1) 今年度調査結果

図表 日頃から心がけている環境への配慮（複数回答／県全体、地域別、年齢別）

	水を流しっぱなしにしない	不要な照明・テレビなどの電源を切る	ゴミの分別を徹底する	食用油などを下水や川に流さない	冷暖房の設定温度を控える	買い物袋を持参する	心に、アイドリングストップ（車の停車中に、エンジンを止めること）を心がける	車、バスや自転車を利用せず、電	太陽エネルギー、温水器など（ソーラーシステム）	リサイクル商品を優先的に購入する	その他	
県全体	75.9%	68.6%	67.7%	59.3%	49.9%	42.1%	15.0%	9.9%	6.3%	6.0%	0.9%	
地域別	地域1(北部)	76.6%	68.4%	67.4%	58.4%	50.5%	44.5%	13.0%	12.1%	5.5%	6.4%	0.8%
	地域2(西部)	74.4%	69.1%	61.5%	56.1%	51.5%	48.9%	11.8%	9.2%	6.1%	3.4%	0.4%
	地域3(中部)	79.7%	70.1%	67.6%	61.1%	56.0%	37.8%	15.6%	11.0%	5.4%	6.0%	0.6%
	地域4(東部)	73.2%	66.8%	72.3%	59.5%	46.4%	40.0%	17.7%	4.5%	7.3%	5.9%	1.8%
	地域5(南東部)	68.1%	66.2%	74.5%	59.8%	32.8%	31.9%	20.1%	2.5%	10.8%	6.9%	1.5%
	地域6(南西部)	67.0%	68.0%	64.0%	66.0%	41.0%	47.0%	28.0%	4.0%	13.0%	6.0%	3.0%
年齢別	20歳代	76.8%	67.9%	51.5%	42.2%	56.5%	36.7%	15.6%	13.5%	5.9%	4.2%	0.8%
	30歳代	75.2%	68.1%	57.7%	50.9%	54.6%	42.3%	12.5%	7.8%	5.5%	6.3%	1.3%
	40歳代	76.3%	68.3%	61.8%	56.0%	53.7%	44.7%	18.0%	10.5%	6.3%	6.3%	1.3%
	50歳代	75.0%	69.1%	69.7%	61.6%	47.9%	46.0%	11.8%	9.2%	6.5%	6.1%	1.1%
	60歳代	77.8%	70.4%	76.0%	67.4%	46.6%	41.2%	18.4%	10.5%	6.1%	6.7%	0.8%
	70歳以上	74.5%	67.0%	77.0%	65.0%	46.1%	38.8%	12.7%	9.7%	7.5%	5.4%	0.4%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「その他」を除く）に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を示している。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

日頃から心がけている環境への配慮については、「水を流しっぱなしにしない」（75.9%）が最も多く、次いで「不要な照明・テレビなどの電源を切る」（68.6%）、「ゴミの分別を徹底する」（67.7%）、「食用油などを下水や川に流さない」（59.3%）などとなっています。

■地域別

「地域5（南東部）」では「ゴミの分別を徹底する」、「地域6（南西部）」では「不要な照明・テレビなどの電源を切る」、その他の地域では「水を流しっぱなしにしない」が最も多くなっています。

■年齢別

「70歳以上」では「ゴミの分別を徹底する」、その他の地域では「水を流しっぱなしにしない」が最も多くなっています。

(2) 地域別の経年比較

図表 地域別の経年比較（複数回答／地域別）

(平成23年度 上段：結果 下段：同項目における平成21年度からの増減値)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
県全体	H23	水を流しっぱなしにしない 75.9% 5.4	不要な照明・テレビなどの電源を切る 68.6% 1.6	ゴミの分別を徹底する 67.7% ▲1.0	食用油などを下水や川に流さない 59.3% 5.6	冷暖房の設定温度を控える 49.9% ▲2.4	
	H21	水を流しっぱなしにしない 70.5%	ゴミの分別を徹底する 68.7%	不要な照明・テレビなどの電源を切る 67.0%	食用油などを下水や川に流さない 53.7%	冷暖房の設定温度を控える 52.3%	
地域別	地域1 (北部)	H23	水を流しっぱなしにしない 76.6% 6.6	不要な照明・テレビなどの電源を切る 68.4% 0.2	ゴミの分別を徹底する 67.4% ▲1.7	食用油などを下水や川に流さない 58.4% ▲4.7	冷暖房の設定温度を控える 50.5% ▲3.0
		H21	水を流しっぱなしにしない 70.0%	ゴミの分別を徹底する 69.1%	不要な照明・テレビなどの電源を切る 68.2%	食用油などを下水や川に流さない 53.7%	冷暖房の設定温度を控える 53.5%
	地域2 (西部)	H23	水を流しっぱなしにしない 74.4% 2.8	不要な照明・テレビなどの電源を切る 69.1% 5.2	ゴミの分別を徹底する 61.5% ▲9.9	食用油などを下水や川に流さない 56.1% ▲1.9	冷暖房の設定温度を控える 51.5% ▲3.7
		H21	水を流しっぱなしにしない 71.6%	ゴミの分別を徹底する 71.4%	不要な照明・テレビなどの電源を切る 63.9%	食用油などを下水や川に流さない 58.0%	冷暖房の設定温度を控える 55.2%
	地域3 (中部)	H23	水を流しっぱなしにしない 79.7% 8.4	不要な照明・テレビなどの電源を切る 70.1% 5.0	ゴミの分別を徹底する 67.6% 0.9	食用油などを下水や川に流さない 61.1% 8.4	冷暖房の設定温度を控える 56.0% 2.5
		H21	水を流しっぱなしにしない 71.3%	ゴミの分別を徹底する 66.7%	不要な照明・テレビなどの電源を切る 65.1%	冷暖房の設定温度を控える 53.5%	食用油などを下水や川に流さない 52.7%
	地域4 (東部)	H23	水を流しっぱなしにしない 73.2% 1.8	ゴミの分別を徹底する 72.3% 2.0	不要な照明・テレビなどの電源を切る 66.8% ▲4.6	食用油などを下水や川に流さない 59.5% 7.7	冷暖房の設定温度を控える 46.4% 3.3
		H21	水を流しっぱなしにしない 71.4%	不要な照明・テレビなどの電源を切る 71.4%	ゴミの分別を徹底する 70.3%	食用油などを下水や川に流さない 51.8%	冷暖房の設定温度を控える 43.1%
	地域5 (南東部)	H23	ゴミの分別を徹底する 74.5% 7.5	水を流しっぱなしにしない 68.1% 1.4	不要な照明・テレビなどの電源を切る 66.2% 1.3	食用油などを下水や川に流さない 59.8% 0.9	冷暖房の設定温度を控える 32.8% ▲10.8
		H21	ゴミの分別を徹底する 67.0%	水を流しっぱなしにしない 66.7%	不要な照明・テレビなどの電源を切る 64.9%	食用油などを下水や川に流さない 58.9%	冷暖房の設定温度を控える 43.6%
	地域6 (南西部)	H23	不要な照明・テレビなどの電源を切る 68.0% 2.2	水を流しっぱなしにしない 67.0% ▲3.1	食用油などを下水や川に流さない 66.0% 21.0	ゴミの分別を徹底する 64.0% ▲3.6	買い物袋を持参する 47.0% ▲3.7
		H21	水を流しっぱなしにしない 70.1%	ゴミの分別を徹底する 67.6%	不要な照明・テレビなどの電源を切る 65.8%	買い物袋を持参する 50.7%	食用油などを下水や川に流さない 45.0%

(注) 太字は、平成23年度上位5項目のうち、平成21年度から5ポイント以上増えた項目を示している。また、斜体は同率の項目を示しており、その場合は選択肢の番号が若いものを先に記載している。

上位5項目のうち、平成23年度にあり平成21年度にない項目はありません。その一方で、「地域6 (南西部)」で「不要な照明・テレビなどの電源を切る」が第1位になるなど、上位5項目内で順位の変動が見られます。

また、「水を流しっぱなしにしない」(「地域1 (北部)」・「地域3 (中部)」の第1位)、「ゴミの分別を徹底する」(「地域5 (南東部)」の第1位)、「不要な照明・テレビなどの電源を切る」(「地域2 (西部)」・「地域3 (中部)」の第2位)、「食用油などを下水や川に流さない」(「地域6 (南西部)」の第3位)、「地域3 (中部)」・「地域4 (東部)」の第4位)は、日頃から行う環境への配慮として平成21年度より5ポイント以上増加しています。

4-9 地域で景観を損なう要因となっていると思うもの

(1) 今年度調査結果

図表 地域で景観を損なう要因となっていると思うもの（複数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別、年齢別）

	ゴミやタバコのポイ捨て	不法投棄	道路や河川の雑草	ペットや鳥の排泄物	電柱・電線	広告・看板	耕作放棄地	山林の荒廃	建物や工作物の色やデザイン	自動販売機	交通標識や案内標識	その他	
県全体	47.9%	38.1%	37.4%	29.5%	22.8%	17.7%	15.8%	12.8%	6.1%	5.2%	1.7%	4.4%	
地域別	地域1(北部)	47.7%	36.6%	34.5%	30.0%	26.9%	20.7%	14.2%	8.8%	7.3%	7.4%	1.3%	5.1%
	地域2(西部)	45.4%	31.7%	42.0%	34.0%	19.8%	17.2%	12.2%	8.8%	7.6%	3.1%	0.4%	3.1%
	地域3(中部)	53.2%	36.1%	37.0%	34.8%	23.1%	18.7%	13.0%	7.7%	6.5%	3.8%	2.8%	5.3%
	地域4(東部)	45.0%	45.0%	41.4%	25.0%	14.5%	13.6%	27.7%	25.5%	1.4%	5.9%	1.8%	3.2%
	地域5(南東部)	38.7%	49.5%	48.0%	11.3%	13.2%	4.4%	21.6%	37.7%	0.5%	1.0%	1.5%	2.5%
	地域6(南西部)	47.0%	50.0%	35.0%	23.0%	13.0%	9.0%	27.0%	30.0%	5.0%	0.0%	2.0%	1.0%
居住地域の状況別	商業地域	58.5%	21.8%	30.6%	33.3%	31.3%	31.3%	7.5%	4.1%	12.9%	8.2%	1.4%	5.4%
	住宅地域	52.0%	31.6%	34.4%	33.8%	26.6%	20.7%	10.5%	4.0%	7.2%	7.4%	1.9%	3.6%
	郊外の住宅地域	48.5%	33.0%	39.1%	34.3%	26.3%	20.6%	11.3%	8.2%	7.2%	5.2%	1.3%	6.7%
	農村地域	41.3%	48.9%	43.9%	27.6%	17.8%	12.8%	26.1%	16.2%	4.5%	3.8%	2.4%	3.6%
	山間地域	41.2%	57.4%	37.1%	12.4%	11.2%	6.9%	28.6%	39.8%	0.9%	1.4%	1.4%	2.3%
	その他	63.2%	52.6%	42.1%	36.8%	15.8%	21.1%	10.5%	10.5%	10.5%	5.3%	0.0%	10.5%
年齢別	20歳代	57.8%	43.0%	29.5%	30.4%	16.0%	16.5%	8.0%	13.1%	8.9%	2.1%	2.5%	4.6%
	30歳代	61.4%	38.6%	32.1%	26.9%	20.4%	18.8%	12.0%	7.3%	7.6%	4.4%	1.0%	5.7%
	40歳代	56.8%	39.0%	35.6%	28.1%	23.5%	20.3%	10.7%	8.4%	9.6%	4.6%	2.1%	5.0%
	50歳代	46.0%	39.5%	42.4%	28.2%	24.2%	21.9%	18.5%	12.4%	5.2%	5.0%	1.4%	3.9%
	60歳代	37.8%	37.4%	39.5%	32.0%	25.7%	16.4%	19.7%	17.9%	4.8%	7.3%	1.1%	5.3%
	70歳以上	39.7%	34.1%	38.8%	30.9%	22.1%	11.8%	19.5%	15.0%	2.6%	5.6%	2.4%	2.1%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順（「その他」を除く）に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

地域で景観を損なう要因となっていると思うものについては、「ゴミやタバコのポイ捨て」(47.9%)が最も多く、次いで「不法投棄」(38.1%)、「道路や河川の雑草」(37.4%)、「ペットや鳥の排泄物」(29.5%)などとなっています。なお、「道路や河川の雑草」は平成23年度から新たに設定された選択肢です。

■地域別

「地域1(北部)」から「地域3(中部)」では「ゴミやタバコのポイ捨て」、「地域4(東部)」では「ゴミやタバコのポイ捨て」と「不法投棄」が同率で、「地域5(南東部)」と「地域6(南西部)」では「不法投棄」が最も多くなっています。

「地域4(東部)」、「地域5(南東部)」及び「地域6(南西部)」では「耕作放棄地」・「山林の荒廃」、「地域1(北部)」、「地域2(西部)」及び「地域3(中部)」では「ペットや鳥の排泄物」・「電柱・電線」・「広告・看板」が他の地域に比べて多くなっています。

■居住地域の状況別

「農村地域」と「山間地域」では「不法投棄」、他の居住地域の状況では「ゴミやタバコのポイ捨て」が最も多くなっています。

「県全体」の上位3項目以外の項目として、「ペットや鳥の排泄物」(「商業地域」の第2位、「住宅地域」・「郊外の住宅地域」の第3位)、「電柱・電線」(「商業地域」の第3位)、「広告・看板」(「商業地域」の第3位)、「山林の荒廃」(「山間地域」の第3位)が居住地域の状況別の上位3項目に入っています。

■年齢別

「60歳代」では「道路や河川の雑草」、その他の年齢層では「ゴミやタバコのポイ捨て」が最も多くなっています。

第2位以下も「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「20歳代」では「ペットや鳥の排泄物」が第3位となっています。

(2) 地域別の経年比較

図表 地域別の経年比較（複数回答／地域別）

（平成23年度 上段：結果 下段：同項目における平成21年度からの増減値）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
県全体	H23	ゴミやタバコのポイ捨て 47.9% ▲ 6.1	不法投棄 38.1% 1.3	道路や河川の雑草 37.4% -	ペットや鳥の排泄物 29.5% ▲ 8.1	電柱・電線 22.8% ▲ 4.4	
	H21	ゴミやタバコのポイ捨て 54.0%	ペットや鳥の排泄物 37.6%	不法投棄 36.8%	電柱・電線 27.2%	広告・看板 20.2%	
地域別	地域1 (北部)	H23	ゴミやタバコのポイ捨て 47.7% ▲ 4.2	不法投棄 36.6% 3.5	道路や河川の雑草 34.5% -	ペットや鳥の排泄物 30.0% ▲ 8.0	電柱・電線 26.9% ▲ 2.3
		H21	ゴミやタバコのポイ捨て 51.9%	ペットや鳥の排泄物 38.0%	不法投棄 33.1%	電柱・電線 29.2%	広告・看板 21.2%
	地域2 (西部)	H23	ゴミやタバコのポイ捨て 45.4% ▲ 8.1	道路や河川の雑草 42.0% -	ペットや鳥の排泄物 34.0% ▲ 10.0	不法投棄 31.7% 1.6	電柱・電線 19.8% ▲ 9.1
		H21	ゴミやタバコのポイ捨て 53.5%	ペットや鳥の排泄物 44.0%	不法投棄 30.1%	電柱・電線 28.9%	広告・看板 25.6%
	地域3 (中部)	H23	ゴミやタバコのポイ捨て 53.2% ▲ 6.2	道路や河川の雑草 37.0% -	不法投棄 36.1% ▲ 3.9	ペットや鳥の排泄物 34.8% ▲ 5.2	電柱・電線 23.1% ▲ 5.2
		H21	ゴミやタバコのポイ捨て 59.4%	不法投棄 40.0%	ペットや鳥の排泄物 40.0%	電柱・電線 28.3%	広告・看板 19.9%
	地域4 (東部)	H23	不法投棄 45.0% ▲ 0.9	ゴミやタバコのポイ捨て 45.0% ▲ 8.8	道路や河川の雑草 41.4% -	耕作放棄地 27.7% 1.6	山林の荒廃 25.5% 4.8
		H21	ゴミやタバコのポイ捨て 53.8%	不法投棄 45.9%	ペットや鳥の排泄物 29.2%	耕作放棄地 26.1%	山林の荒廃 20.7%
	地域5 (南東部)	H23	不法投棄 49.5% ▲ 4.0	道路や河川の雑草 48.0% -	ゴミやタバコのポイ捨て 38.7% ▲ 6.3	山林の荒廃 37.7% ▲ 1.7	耕作放棄地 21.6% ▲ 10.0
		H21	不法投棄 53.5%	ゴミやタバコのポイ捨て 45.0%	山林の荒廃 39.4%	耕作放棄地 31.6%	ペットや鳥の排泄物 19.1%
	地域6 (南西部)	H23	不法投棄 50.0% ▲ 1.4	ゴミやタバコのポイ捨て 47.0% ▲ 5.2	道路や河川の雑草 35.0% -	山林の荒廃 30.0% 0.5	耕作放棄地 27.0% 1.5
		H21	ゴミやタバコのポイ捨て 52.2%	不法投棄 51.4%	山林の荒廃 29.5%	ペットや鳥の排泄物 29.5%	耕作放棄地 25.5%

(注) 網掛けは、平成23年度にはあるが平成21年度の上位5項目にない項目。

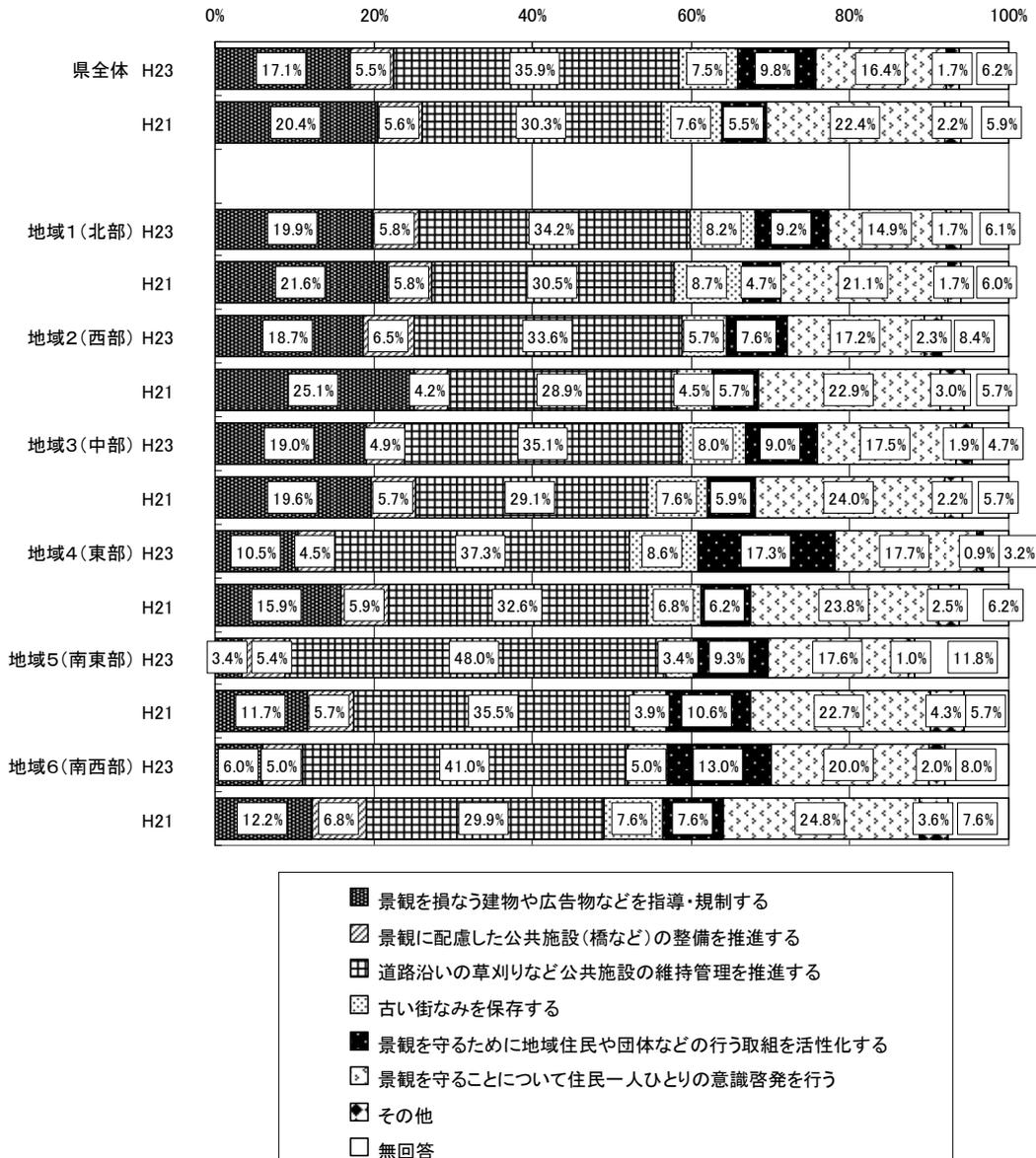
太字は、平成23年度上位5項目のうち、平成21年度から5ポイント以上増えた項目を示している。また、斜体は同率の項目を示しており、その場合は選択肢の番号が若いものを先に記載している。

上位5項目のうち、平成23年度にあり平成21年度にない項目は「道路や河川の雑草」（「地域2（西部）」・「地域3（中部）」・「地域5（南東部）」の第2位、「県全体」・「地域1（北部）」・「地域4（東部）」・「地域6（南西部）」の第3位）となっています。なお、「道路や河川の雑草」は平成23年度から新たに設定された選択肢です。

地域の景観を損ねているものとして平成21年度より5ポイント以上増加した項目はありません。

4-10 行政が取り組むべき景観保全対策

図表 行政が取り組むべき景観保全対策（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■県全体

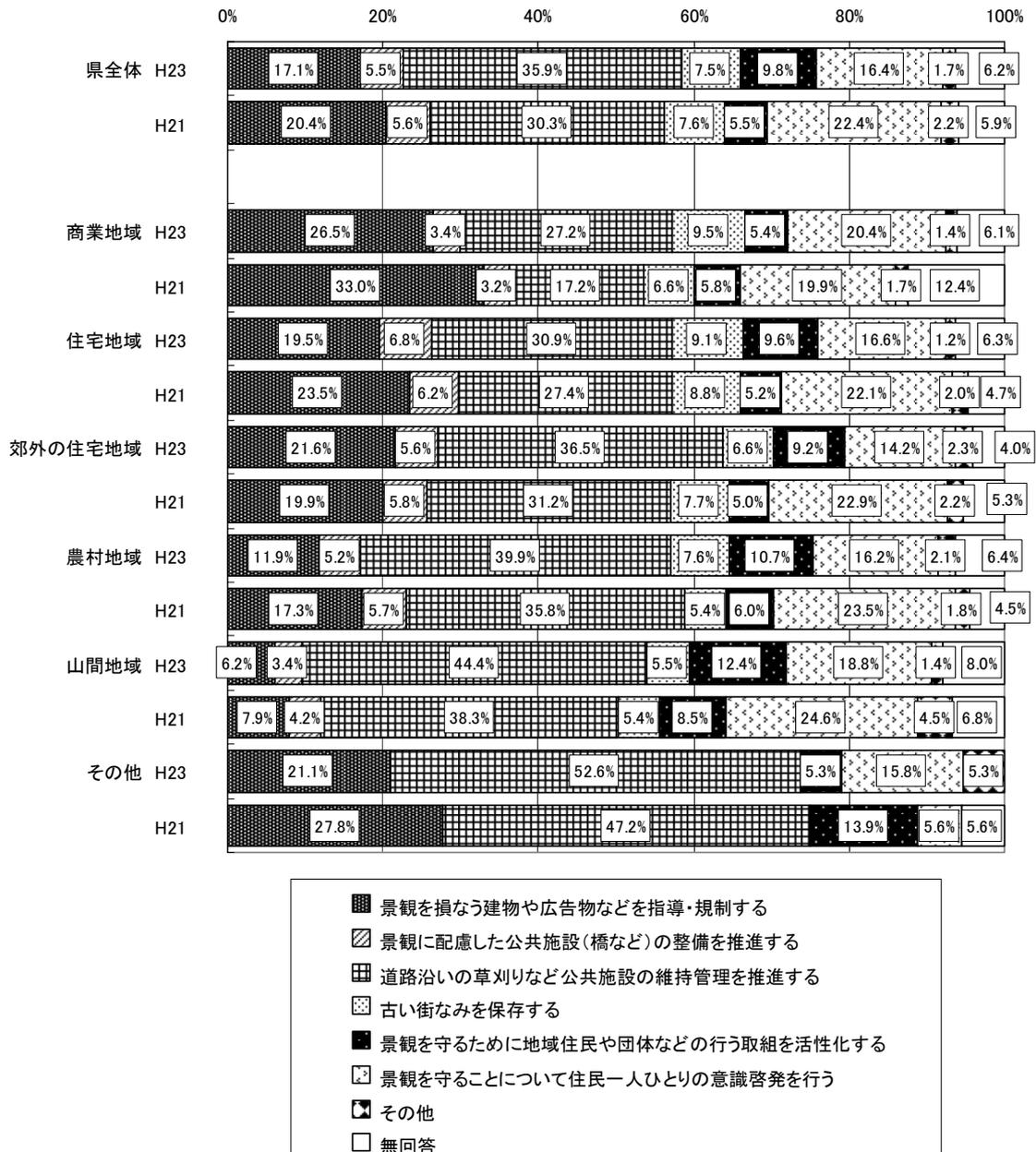
行政が取り組むべき景観保全対策については、「道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する」(35.9%)が最も多く、次いで「景観を損なう建物や広告物などを指導・規制する」(17.1%)、「景観を守ることに住民一人ひとりの意識啓発を行う」(16.4%)などとなっています。

平成21年度と比較すると、第1位は同じ項目ですが、第2位と第3位は入れ替わっています。

■地域別

全ての地域で「道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する」が最も多くなっています。第2位は、「地域1(北部)」から「地域3(中部)」では「景観を損なう建物や広告物などを指導・規制する」となっていますが、その他の地域では「景観を守ることに住民一人ひとりの意識啓発を行う」となっています。

図表 行政が取り組むべき景観保全対策（単数回答／県全体、居住地域の状況別）

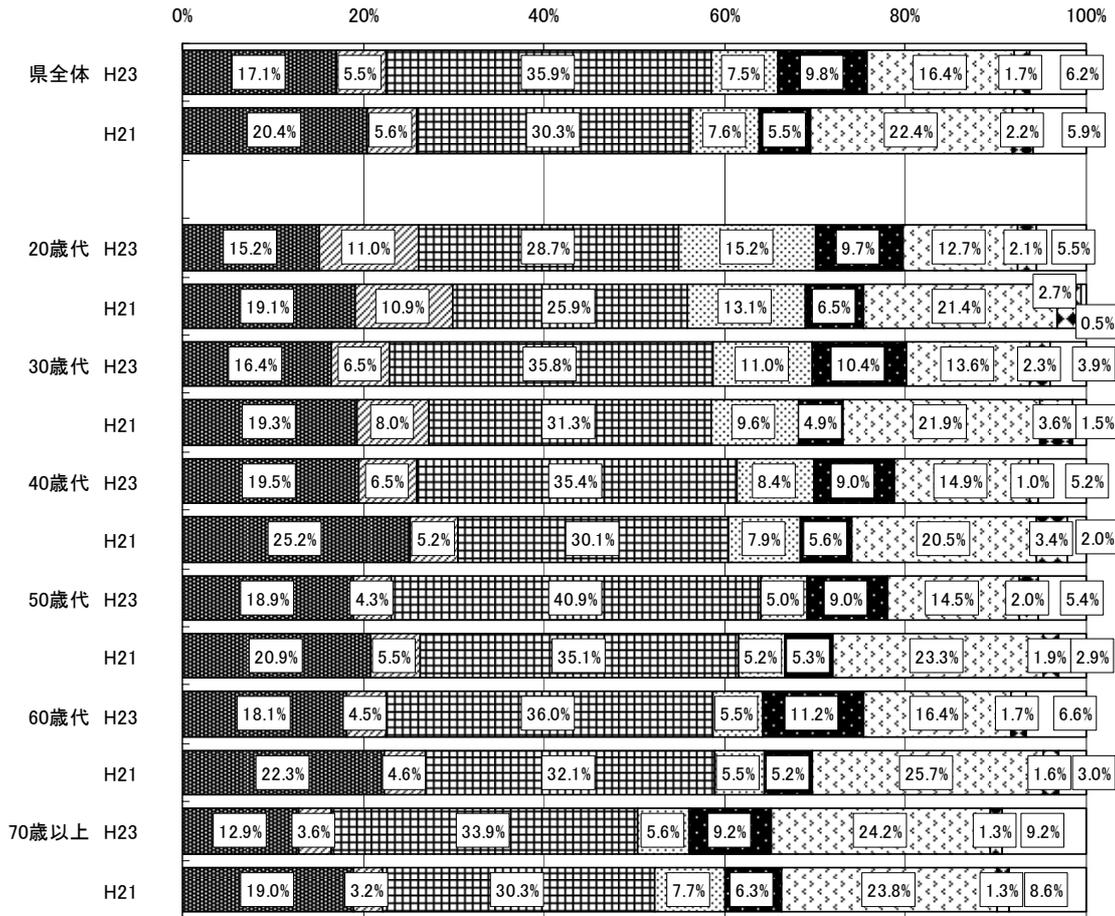


(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■居住地域の状況別

居住地域の状況にかかわらず「道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する」が最も多くなっています。第2位は「商業地域」、「住宅地域」、「郊外の住宅地域」及び「その他」で「景観を損なう建物や広告物などを指導・規制する」となっていますが、「農村地域」と「山間地域」では「景観を守ることに住民一人ひとりの意識啓発を行う」となっています。

図表 行政が取り組むべき景観保全対策（単数回答／県全体、年齢別）



- 景観を損なう建物や広告物などを指導・規制する
- ▨ 景観に配慮した公共施設(橋など)の整備を推進する
- ▩ 道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する
- ▤ 古い街なみを保存する
- 景観を守るために地域住民や団体などの行う取組を活性化させる
- ▨ 景観を守ることにについて住民一人ひとりの意識啓発を行う
- その他
- 無回答

(注) 母数については4～9ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 年齢別

全ての年齢層で「道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する」が最も多くなっています。第2位は、「70歳以上」では「景観を守ることにについて住民一人ひとりの意識啓発を行う」となっていますが、その他の年齢層では「景観を損なう建物や広告物などを指導・規制する」となっています。

資料 使用した調査票

県民アンケート調査 ご協力をお願い

日頃は、県政に対し、格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、奈良県では、県民の皆さまが現在のくらしをどのように感じておられるか、また、「仕事」や「くらしやすいまちづくり」についてどのような意識をお持ちかを把握し、今後の県政を進めていくうえでの大切な基礎資料とするため、アンケート調査を実施することといたしました。

このアンケート調査は、県内全市町村から5,000人の方を無作為に抽出し、実施するものです。

ご回答は無記名でお願いするとともに、ご回答いただいた内容は統計的に処理いたしますので、あなた個人のお名前やご意見が特定されることはありません。また、ご回答いただいた内容は、調査の目的以外には使用いたしません。

お忙しいところ、お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成23年5月

奈良県知事 荒井 正吾



ご回答にあたってのお願い

- 封筒の宛名のご本人がご回答くださいますようお願いいたします。
- それぞれの問で、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
- 「その他」に○印をつけられた場合には、() 内に内容をご記入ください。
- ご記入は、黒や青のボールペンまたは鉛筆ではっきりとわかりやすくお願いいたします。
- ご回答が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に調査票を入れて、平成23年6月8日(水)までにお近くの郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

本調査についてご不明な点などがございましたら、下記へお問い合わせください。

奈良県総務部知事公室統計課 企画分析係
電話 0742-27-8439(直通) 担当：坂本、北森、上辻

I. あなたの生活全般に関することについてお聞きします。

問1 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 満足している | 2. 十分とはいえないが一応満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. やや不満である |
| 5. 不満である | |

問2 あなたの現在の暮らし向きは、昨年の今頃に比べて楽になっていますか。それとも苦しくなっていますか。あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. とても楽になった ----- | → 問4へお進みください |
| 2. 少し楽になった ----- | |
| 3. 変わらない ----- | |
| 4. 少し苦しくなった ----- | → 問3にお答えください |
| 5. とても苦しくなった ----- | |

問3 問2で、「4. 少し苦しくなった」または「5. とても苦しくなった」に○をつけられた方にお聞きします。それはどのような理由からでしょうか。あてはまるものに5つまで○をつけてください。

- | |
|-------------------------------|
| 1. 給料や収益が増えない、または減少したから |
| 2. 失業、退職、病気などで働き手が減ったから |
| 3. 利率の低下などにより預貯金が目減りしたから |
| 4. 家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから |
| 5. 結婚、出産、病気など特別な出費があったから |
| 6. 教育にかかる費用が増えたから |
| 7. 家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから |
| 8. 税金や保険料の支払いが増えたから |
| 9. 家業や商売などにかかる営業経費が増えたから |
| 10. その他 () |

問4 あなたは、日頃の生活の中で悩みや不安を感じていますか。どちらかあてはまるものに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. 悩みや不安を感じている ----- | → 問5にお答えください |
| 2. 悩みや不安を感じていない ----- | → 問6へお進みください |

問5 問4で、「1. 悩みや不安を感じている」に○をつけられた方にお聞きします。それはどのようなことについてですか。あてはまるものに5つまで○をつけてください。

1. 自分の健康について
2. 家族の健康について
3. 自分の生活上（進学、就職、結婚など）の問題について
4. 家族の生活上（進学、就職、結婚など）の問題について
5. 現在の収入や資産について
6. 今後の収入や資産の見通しについて
7. 老後の生活設計について
8. 家族・親族間の人間関係について
9. 近隣・地域との関係について
10. 勤務先での仕事や人間関係について
11. 事業や家業の経営上の問題について
12. その他（)

問6 あなたは、奈良県は全体的に見て住みやすい県だと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. とても住みやすい | 2. どちらかといえば住みやすい |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 5. とても住みにくい | |

問7 あなたは、将来も奈良県に住みたいと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|------------|
| 1. ずっと住みたい -----> | 問9へお進みください |
| 2. 一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい ----- | |
| 3. 住みたくない -----> | 問8にお答えください |
| 4. わからない ----- | |

問8 問7で、「3. 住みたくない」または「4. わからない」に○をつけられた方にお聞きします。
それはどのような理由からでしょうか。あてはまるものに5つまで○をつけてください。

1. 買物など日常の生活環境が整っていないから
2. 奈良県や身近な地域に愛着を感じないから
3. 通勤・通学に不便だから
4. 家賃など住居費が高いから
5. 教育環境が充実していないから
6. 身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから
7. 災害を防ぐための対策が不十分だから
8. 治安を守るための対策が不十分だから
9. 医療が充実していないから
10. 福祉サービスが充実していないから
11. 騒音・振動・大気汚染など周辺環境がよくないから
12. 緑などの自然環境がよくないから
13. その他 ()

II. あなたの生活に関する重要度・満足度についてお聞きします。

問9-① 次の各項目は、あなたの今の、あるいは、これからの生活にとって、どのくらい重要なことですか。以下の1~31のひとつひとつの項目について、

「5 きわめて重要」 「4 かなり重要」 「3 どちらともいえない」

「2 さほど重要ではない」 「1 まったく重要ではない」

の5つの区分の中で、あなたのお気持ちに最も近いものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。

問9-② 次に、各項目について、それぞれがどの程度満たされているかをお答えください。

問9-①と同様に、以下の1~31のひとつひとつの項目について、

「5 十分満たされている」 「4 かなり満たされている」 「3 どちらともいえない」

「2 あまり満たされていない」 「1 ほとんど満たされていない」

の5つの区分の中で、あなたのお気持ちに最も近いものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。

以下に示す項目それぞれについて、
「問9-① 重要度」から1つ、
「問9-② 満足度」から1つ、
あなたのお気持ちに最も近いものを選び、○をつけてください。

	問9-① 重要度					問9-② 満足度				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	きわめて重要	かなり重要	どちらともいえない	さほど重要ではない	まったく重要ではない	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない

【記入例】 ○○について	5	4	3	2	1	5	④	3	2	1
1 品揃えの豊富な店が近くにあること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2 電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3 休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4 平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5 小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6 高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7 子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8 文化遺産や史跡が大事にされること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9 生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
10 公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
11 地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

以下に示す項目それぞれについて、
「問9-① 重要度」から1つ、
「問9-② 満足度」から1つ、
あなたのお気持ちに最も近いものを選び、○をつけてください。

	問9-① 重要度					問9-② 満足度				
	5 きわめて重要	4 かなり重要	3 どちらともいえない	2 さほど重要ではない	1 まったく重要ではない	5 十分満たされている	4 かなり満たされている	3 どちらともいえない	2 あまり満たされていない	1 ほとんど満たされていない
12 食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
13 家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
14 住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15 自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
16 ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
17 男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
18 市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
19 急病時に診てもらえる医療機関があること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
20 安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
21 障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
22 高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
23 高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
24 地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
25 イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
26 自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
27 一人ひとりが普段の生活においてCO ₂ 削減に取り組むこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
28 ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
29 失業の不安がなく働けること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
30 県内で買いたいものが販売されていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
31 いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

Ⅲ. あなたのお仕事についてお聞きします。

問10 あなたのお仕事は何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 正規の職員・従業員	
2. 契約社員・嘱託	
3. 派遣社員	
4. パート・アルバイト（学生を除く）	
5. 企業などの役員	
6. 農林漁業の自営業・家族従業員	
7. 商工・サービス業の自営業・家族従業員（卸売業・飲食業・製造加工業・建設業など）	
8. その他自営業（開業医・弁護士・宗教家・芸術家・茶華道師匠など）	
-----> 問11～問15にお答えください	
9. 家事専業・家事手伝い ----->	問16へお進みください
10. 無職 ----->	
11. 学生 ----->	問21へお進みください
12. その他（ ）----->	

次の問11～問15までは、問10で「1. 正規の職員・従業員」「2. 契約社員・嘱託」「3. 派遣社員」「4. パート・アルバイト」「5. 企業などの役員」「6. 農林漁業の自営業・家族従業員」「7. 商工・サービス業の自営業・家族従業員」「8. その他自営業」のいずれかに○をつけられた方にお聞きします。

問11 あなたのお勤め先の所在地はどこですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 現在お住まいの市町村	2. 県内の他の市町村	3. 県外
---------------	-------------	-------

問12 あなたのお勤め先までの交通手段は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 徒歩のみ（他の交通手段の利用なし）	2. 自転車
3. オートバイ	4. 自家用車
5. 鉄道・電車	6. 乗合バス
7. 勤め先のバス	8. その他（ ）
9. 交通手段を利用しない（自宅勤務等）	

問13 あなたのお勤め先までの通勤時間はどのくらいですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 片道0～15分未満 | 2. 片道15～30分未満 |
| 3. 片道30～45分未満 | 4. 片道45～60分未満 |
| 5. 片道1時間～1時間半未満 | 6. 片道1時間半～2時間未満 |
| 7. 片道2時間以上 | |

問14 問11で、お勤め先の所在地として「3. 県外」に○をつけられた方にお聞きします。あなたが県外で働いている理由は何ですか。最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- | |
|-----------------------------|
| 1. もともと県外で働いていて、県内に転居したから |
| 2. 会社から命じられた配属地だから |
| 3. 希望した会社が県外にあったから |
| 4. 県外の会社のほうが賃金などの雇用の条件がよいから |
| 5. 交通の便がよく、通勤に便利だから |
| 6. 県内には、求人が少ないから |
| 7. 県内では、希望する職種（業務）が少ないから |
| 8. 県外の大都市などで働きたいから |
| 9. その他（) |

問15 あなたが今のお仕事を選ばれた理由は何ですか。最も近いものに2つまで○をつけてください。

- | |
|--------------------------------------|
| 1. やりがいのある仕事だから |
| 2. 専門的な資格や技術、経験が活かせるから |
| 3. 親族などから家業（農林漁業・商工業・会社役員など）を引き継いだから |
| 4. 自ら起業したから |
| 5. 収入がよいから |
| 6. 経営が安定しているから |
| 7. 扶養認定などのために、就業調整（収入や労働時間の調整）をしたいから |
| 8. 自分の都合のよい時間に働けるから |
| 9. 勤務する時間や日数が短いから |
| 10. 通勤時間が短いから |
| 11. 社会保険・住まいなどの福利厚生が充実しているから |
| 12. 家庭の事情（家事・育児・介護等）と両立しやすいから |
| 13. 簡単な仕事で責任も少ないから |
| 14. 組織に縛られるのは嫌だから |
| 15. 正社員として働ける会社が見つからなかったから |
| 16. 体力的に正社員として働けないから |
| 17. その他（) |

次の問16～問20までは、問10で「9. 家事専業・家事手伝い」または「10. 無職」に○をつけられた方にお聞きします。

問16 あなたは、現在働きたいとお考えですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--|-----------------|
| 1. どうしても働きたい -----> | 問17～問19にお答えください |
| 2. どうしても働きたいわけではないが、
良い条件の仕事があれば働きたい -----> | |
| 3. 働く気はない -----> | 問20へお進みください |

問17～問19には、問16で「1. どうしても働きたい」または「2. どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」に○をつけられた方にお聞きします。

問17 あなたは、現在仕事を探していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 仕事を探している | 2. 仕事を探していない |
|-------------|--------------|

問18 あなたは、働くための条件としてどのようなことを重視しますか。あなたのお考えに近いものに2つまで○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 正規職員・従業員として働ける |
| 2. 希望の収入額が得られる |
| 3. 働く時間の融通がききやすい |
| 4. 通勤時間が短い |
| 5. 専門的な資格や技術、経験が活かせる |
| 6. 仕事先の育児などへの支援制度が整っている |
| 7. 仕事先の介護などへの支援制度が整っている |
| 8. 育児・介護などへの社会的サポート（保育所や社会福祉施設など）が整っている |
| 9. その他（) |

問19 あなたは、働くとなれば、通勤にどのくらいの時間をお考えですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 片道0～15分未満 | 2. 片道15～30分未満 |
| 3. 片道30～45分未満 | 4. 片道45～60分未満 |
| 5. 片道1時間～1時間半未満 | 6. 片道1時間半～2時間未満 |
| 7. 片道2時間以上 | |

問20 問16で、「3. 働く気はない」に○をつけられた方にお聞きします。それはどのような理由からでしょうか。あなたのお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

1. 家族が働いていて収入があるから
2. 自分や家族に年金による収入があるから
3. 自分や家族に生活できる財産があるから
4. 自分の知識・能力にあう仕事がないから
5. 勤務時間、賃金など希望にあう仕事がないから
6. 自分の年齢にあう仕事がないから
7. 育児のため仕事が続けられないから
8. 介護のため仕事が続けられないから
9. 家事に専念すべきだと思うから
10. 健康上の理由から
11. 特に理由はない
12. その他 ()

問21からは、すべての方にお聞きします。

問21 あなたは雇用や仕事について、行政が重点的に力を入れることは何だとお考えですか。以下の1～9のひとつひとつの項目について、あなたのお考えに最も近いものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。

	5 きわめて重要	4 かなり重要	3 どちらともいえない	2 さほど重要ではない	1 まったく重要ではない
1 県内企業を活性化し、雇用の維持や拡大を図る	5	4	3	2	1
2 企業を誘致し、新しい雇用の場を創る	5	4	3	2	1
3 農林漁業や医療、福祉などの分野で不足している人材を確保する	5	4	3	2	1
4 育児についての社会的なサポート（保育所など）を充実させる	5	4	3	2	1
5 介護についての社会的なサポート（社会福祉施設など）を充実させる	5	4	3	2	1
6 育児や介護などと仕事が両立できる職場づくりを企業に働きかける	5	4	3	2	1
7 仕事に関する相談支援を充実させる	5	4	3	2	1
8 能力の向上・資格取得のための支援を充実する	5	4	3	2	1
9 インターンシップ制度（生徒や学生が仕事の体験をすること）などで、若者の職業観を育てる	5	4	3	2	1

IV. くらしやすいまちづくりについてお聞きします。

問22 あなたがお住まいの地域の生活環境についてお聞きします。以下の1～13のひとつひとつの項目について、あなたのお考えに最も近いものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。

	5 そう思う	4 ややそう思う	3 どちらでもない	2 あまり思わない	1 思わない
1 日用品の買物が便利である	5	4	3	2	1
2 ショッピングセンターで買い物を楽しむことができる	5	4	3	2	1
3 飲食店や娯楽施設が充実している	5	4	3	2	1
4 気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所などの医療施設が整っている	5	4	3	2	1
5 総合病院など救急時の対応も可能な医療施設が整っている	5	4	3	2	1
6 子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設が整っている	5	4	3	2	1
7 公園や緑地が整備されている	5	4	3	2	1
8 競技場やグラウンド、プールなどの運動施設が整っている	5	4	3	2	1
9 映画館や図書館、美術館などの文化施設が整っている	5	4	3	2	1
10 生活道路が整備されている	5	4	3	2	1
11 ごみや下水が適正に処理されている	5	4	3	2	1
12 親しみやすい水辺がある	5	4	3	2	1
13 自然環境が豊かである	5	4	3	2	1

問23 あなたがお住まいの地域で、特に充実してほしいと思う施設はどれですか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

1. 日常の買い物に便利な店舗や商店街
2. 買い物を楽しめるショッピングセンター
3. 飲食店や娯楽施設
4. 気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所
5. 総合病院など救急時の対応も可能な医療施設
6. 社会福祉施設（子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設）
7. 緑地や公園、広場などの憩いの場
8. スポーツやレクリエーションを楽しめる施設
9. 映画館、美術館など文化・芸術に親しめる施設
10. その他（)

問24 あなたが、特に不安を感じる犯罪は何ですか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

1. 空き巣、忍び込み等の侵入犯罪
2. 殺人、強盗、放火等の凶悪事件
3. 携帯電話やインターネットを利用した犯罪
4. 子どもに対する声かけやつきまとい
5. 少年による犯罪
6. 路上でのすりやひったくり
7. 女性に対する痴漢行為やストーカー
8. オレオレ詐欺等のいわゆる「振り込め詐欺」
9. その他（)

問25 あなたがお住まいの地域の安全を確保し、安心して生活できるようにするためには、どのような取組が必要だと思いますか。特にあてはまるものに2つまで○をつけてください。

1. 防犯灯や街路灯を増設する
2. 自治体、警察、学校の連携強化
3. 犯罪が発生しそうな箇所に防犯カメラを設置する
4. 個人の防犯意識の高揚
5. 住民によるパトロールなどの自主防犯活動
6. 地域においての声かけ、あいさつ運動
7. 「こども110番の家」等の活動
8. 児童・生徒への安全教育
9. その他（)

問26 警察による防犯の取組として、あなたが特に充実・強化してほしいと思うものは何ですか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

1. 交番や警察署における相談活動
2. 警察官によるパトロールや検挙活動
3. 犯罪発生情報や防犯対策情報の提供
4. 少年の非行防止活動
5. 交通違反の取締活動

問27 地震や風水害、火災が起こったときのために、あなたは日頃からどのような備えをしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 消火器などの用意
2. 水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄
3. 家具などの転倒防止
4. ガラスの飛散防止
5. 災害時における家族との連絡方法の確認
6. 避難経路の確認
7. 地域や学校・職場などで実施される防災訓練などへの参加
8. 耐火金庫に貴重品などを保管
9. 住宅の耐震診断や耐震補強工事
10. ブロック塀や門柱などの安全性の点検
11. 地域での浸水の危険性などの確認
12. 土砂災害（土石流、地すべり、がけ崩れ）の危険箇所の確認
13. 特に備えはしていない
14. その他（)

問28 あなたがお住まいの地域の生活環境は、以前に比べてどのようになったと思いますか。以下の1～5のひとつひとつの項目について、あなたのお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

	5 よくなった	4 どちらかといえば よくなった	3 どちらとも いえない	2 どちらかといえば 悪くなった	1 悪くなった
1 空気のきれいさ	5	4	3	2	1
2 川や池のきれいさ	5	4	3	2	1
3 周辺の静けさ	5	4	3	2	1
4 緑の豊かさ	5	4	3	2	1
5 景観の美しさ	5	4	3	2	1

問29 環境への配慮のために、あなたは日頃からどのようなことを心がけていますか。あてはまるものに5つまで○をつけてください。

1. 水を流しっぱなしにしない
2. ゴミの分別を徹底する
3. 不要な照明・テレビなどの電源を切る
4. 食用油などを下水や川に流さない
5. 冷暖房の設定温度を控えめにする
6. 買い物袋を持参する
7. アイドリングストップ（車の停車中に、エンジンを止めること）を心がける
8. 自家用車をできるだけ使わず、電車、バスや自転車を利用する
9. リサイクル商品を優先的に購入する
10. 太陽エネルギーを利用する（ソーラーシステム、温水器など）
11. その他（)

問30 あなたがお住まいの地域で、景観を損ねていると感じるものはどのようなものですか。特にあてはまるものに3つまで○をつけてください。

1. 広告・看板
2. 自動販売機
3. 電柱・電線
4. 交通標識や案内標識
5. 建物や工作物の色やデザイン
6. 不法投棄
7. 耕作放棄地
8. 山林の荒廃
9. ゴミやタバコのポイ捨て
10. ペットや鳥の排泄物
11. 道路や河川の雑草
12. その他（)

問31 美しい景観を引き続き守るために、行政は、今後どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

1. 景観を損なう建物や広告物などを指導・規制する
2. 景観に配慮した公共施設（橋など）の整備を推進する
3. 道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する
4. 古い街なみを保存する
5. 景観を守るために地域住民や団体などの行う取組を活性化する
6. 景観を守ることにについて住民一人ひとりの意識啓発を行う
7. その他（)

V. 最後に、あなたご自身のことやご家族のことについてお聞きします。

これまでお聞きしたこととあわせて、統計としてまとめるために必要な項目ですので、ぜひお答えいただきますようお願いいたします。

問32 あなたの性別に○をつけてください。

1. 男性

2. 女性

問33 あなたは何歳ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 20～24歳

2. 25～29歳

3. 30～34歳

4. 35～39歳

5. 40～44歳

6. 45～49歳

7. 50～54歳

8. 55～59歳

9. 60～64歳

10. 65～69歳

11. 70歳以上

問34 あなたはご結婚されていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 未婚

2. 既婚

3. 離婚・死別

問35 あなたがお住まいの市町村はどこですか。() 内に市町村名をご記入ください。

() 市・町・村

問36 あなたがお住まいの地域を次のように分けるとどれに近いですか。最もあてはまると思うものに1つだけ○をつけてください。

1. 商業地域（商業施設や公共施設等がある街の中心部）

2. 住宅地域（街の中心部や駅に近いところ）

3. 郊外の住宅地域（街の中心部や駅へは、自動車・バス等を利用して行くところ）

4. 農村地域

5. 山間地域

6. その他（)

平成23年度
県民アンケート調査
報告書

平成23年11月

奈良県総務部知事公室統計課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 0742-27-8439
